新潟県埋蔵文化財調査報告書　第134集

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

下　割　遺　跡　Ⅱ

２００４

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

下割（しもわり）遺跡 Ⅱ

２００４

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上越三和道路は、上越市と中頸城郡三和村を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼郡六日町に至る延長約60kmの一般国道253号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この地域高規格道路は、地域の活性化と他地域との交流を促進することを目的として建設される道路です。上越地域においては、高規格幹線道路である北陸自動車道と併せて、信頼性の高い循環型広域ネットワークを形成することを目指し、これによって、沿線地域の産業・経済・文化の交流発展が促進されるものと期待されています。

本書は、この上越三和道路建設に先立ち、平成15年度に実施した下割遺跡の発掘調査報告書です。発掘調査は平成14年度から実施し、14年度分については報告書を刊行済みです。今年度の調査の結果、上層からは中世、下層からは古墳時代の遺構・遺物が発見されました。古墳時代の調査では、河川跡から古墳時代前期の土師器が多数出土し、川岸には掘立柱建物が2棟検出されました。このことから、古墳時代には遺跡の中を川が流れ、その川岸に人々が生活を営んでいたことがわかりました。また、中世の調査では、掘立柱建物や井戸、溝など、昨年度調査した集落から続く遺構が検出されました。遺物としては、中世の北陸地方を代表する焼き物である珠洲焼をはじめ、漆器や曲物などの木製品が出土しました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を賜った上越市教育委員会、並びに地元の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

新潟県教育委員会

教育長　板屋越　麟一

例　　言

1　本報告書は、新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する下割遺跡の発掘調査記録である。

2　本調査は上越三和道路の建設に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したもので、発掘調査は調査主体である県教委が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、平成15年４月７日から11月21日に実施した。

3　出土遺物及び調査・整理作業に係わる各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。

4　遺物の注記は、調査年度と下割遺跡の略記号を合わせ「03下ワリ」とし、出土地点や層位を続けて記した。

5　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。

6　遺物番号は種別に係わりなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

7　引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅵ章木製品の樹種同定については、章末に記載した。

8　調査成果の一部は現地説明会（平成15年８月30日）、遺跡発掘調査報告会（平成16年３月７日）などで公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。

9　本報告書の作成にあたり、航空写真撮影・遺構の図化・自然科学分析は、以下の機関に委託した。

航空写真撮影……国際航業株式会社

遺構の図化……有限会社東北測量設計社

木製品の樹種同定……株式会社パリノ・サーヴェイ

10　遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託して編集をした。遺物写真撮影はデジタルカメラ（ニコンD100）で撮影し、デジタル化した遺構写真と合わせて編集した。なお、図版作成・編集作業に係わり、業者に支給した資料は以下のとおりである。

本文・挿図：テキスト形式・Excel形式のデータ、トレース原図・貼り込み版下

遺構図面図版：原図（修正済）・レイアウト図・文字データ

遺物図面図版：トレース図（個別）・拓影・レイアウト図

写真図版：デジタルデータ（CD）・レイアウト図

11　本報告書の執筆は、山崎忠良（埋文事業団調査課 班長）、金子正宏（同 主任調査員）、椿　一之（同 主任調査員）、継　実（株式会社吉田建設埋蔵文化財事業部 調査員）がこれにあたり、編集は山崎が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章・第Ⅳ章2B2）・第Ⅴ章2A2）・B3）…椿　　第Ⅱ章・第Ⅲ章１・２・第Ⅳ章1A～D…金子

第Ⅲ章３・第Ⅳ章1E・F・2C・第Ⅴ章１・2A1）・B1）・2）・4）・第Ⅶ章２…山崎

第Ⅳ章2A・B1）・第Ⅶ章１…継　　第Ⅵ章…株式会社パリノ・サーヴェイ

12　発掘調査から本報告書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。

相田泰臣　相羽重徳　赤澤徳明　岡本郁栄　金子拓男　上村光二　川上　環

国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所　小島幸雄　笹澤正史　汐見一夫　宗墓富貴子

上越市教育委員会　高野武男　高橋浩二　田村良照　長沼吉嗣　橋本博文　秦　繁治　藤田　剛

宮田　真　森　孝子　湯尾和広　吉川俊久

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 2

A　調査と調査体制 …… 2

B　整理作業と整理体制 …… 6

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 7

1　遺跡周辺の地理的環境 …… 7

2　遺跡の分布と歴史的環境 …… 8

A　周辺遺跡の概要 …… 8

B　周辺の水利環境 …… 11

第Ⅲ章　調 査 の 概 要 …… 12

1　グリッドと調査区の設定 …… 12

2　基　本　層　序 …… 12

3　遺構・遺物の検出状況 …… 14

A　古　墳　時　代 …… 14

B　古　代・中　世 …… 14

第Ⅳ章　古墳時代の調査 …… 16

1　遺　構　各　説 …… 16

A　掘 立 柱 建 物 …… 16

B　井　　戸 …… 17

C　溝 …… 17

D　土　　坑 …… 18

E　性格不明遺構 …… 19

F　旧　河　川 …… 21

2　遺　　物 …… 21

A　時期の設定・器種分類 …… 21

B　遺構出土の遺物 …… 23

C　包含層出土の遺物 …… 31

第Ⅴ章　中 世 の 調 査 …… 33

1　遺　構　各　説 …… 33

A　掘 立 柱 建 物 …… 33

B　井　　戸 …… 34

C　溝 …… 36

D　土　坑・ピット …… 36

2　遺　　物 …… 36
A　遺構出土の遺物 …… 36
B　包含層出土の遺物 …… 38

第Ⅵ章　木製品の樹種同定 …… 39

1　は　じ　め　に …… 39
2　試　　料 …… 39
3　分　析　方　法 …… 39
4　結　　果 …… 39
5　考　　察 …… 41

第Ⅶ章　ま　と　め …… 45

1　古墳時代の土師器 …… 45
2　中 世 の 集 落 …… 52

《要　　約》 …… 55
《引 用 文 献》 …… 56
《遺物観察表》 …… 57

挿 図 目 次

第 1 図　試掘調査トレンチ位置図 …… 3
第 2 図　本発掘調査対象範囲と平成15年度本発掘調査範囲 …… 3
第 3 図　整理作業の経過 …… 6
第 4 図　位置と周辺の遺跡 …… 9
第 5 図　グリッド設定図 …… 13
第 6 図　基本層序柱状図 …… 13
第 7 図　古墳時代土師器片の出土数 …… 15
第 8 図　古墳時代土師器の器種分類図 …… 22
第 9 図　検出樹種の顕微鏡写真（1）…… 43
第10図　検出樹種の顕微鏡写真（2）…… 44
第11図　下割Ⅰ期の土師器 …… 46
第12図　下割Ⅱ期の土師器 …… 48
第13図　下割Ⅲ期の土師器 …… 50
第14図　下割遺跡出土弥生時代の土器 …… 50
第15図　中世の遺構配置図 …… 53

表　目　次

第 1 表　周辺の主要な遺跡 …… 8
第 2 表　下割遺跡の時期区分 …… 50
第 3 表　古墳時代土師器の遺構別組成 …… 51
第 4 表　中世の土器・陶磁器の組成 …… 51

図 版 目 次

［図　面］

図版 1　遺構全体図
図版 2　古墳時代遺構全体図
図版 3　分割図（1）
図版 4　遺構断面図（1）
図版 5　遺構断面図（2）
図版 6　分割図（2）
図版 7　遺構断面図（3）
図版 8　分割図（3）
図版 9　分割図（4）
図版10　遺構断面図（4）
図版11　分割図（5）
図版12　遺構個別図（1）
図版13　遺構個別図（2）
図版14　遺構個別図（3）
図版15　遺構個別図（4）
図版16　遺構個別図（5）
図版17　遺構個別図（6）
図版18　遺構個別図（7）
図版19　遺構個別図（8）
図版20　中世遺構全体図
図版21　分割図（6）
図版22　分割図（7）
図版23　遺構個別図（9）
図版24　遺構個別図（10）
図版25　遺構個別図（11）
図版26　遺構個別図（12）
図版27　遺構個別図（13）
図版28　遺構個別図（14）
図版29　遺構個別図（15）
図版30　遺構個別図（16）
図版31　遺構個別図（17）
図版32　遺構個別図（18）
図版33　遺構個別図（19）
図版34　古墳時代の遺物（1）
図版35　古墳時代の遺物（2）
図版36　古墳時代の遺物（3）
図版37　古墳時代の遺物（4）
図版38　古墳時代の遺物（5）
図版39　弥生時代の遺物（1）・古墳時代の遺物（６）
図版40　古墳時代の遺物（7）
図版41　弥生時代の遺物（2）・古墳時代の遺物（８）
図版42　古墳時代の遺物（9）
図版43　古墳時代の遺物（10）
図版44　古墳時代の遺物（11）
図版45　古墳時代の遺物（12）
図版46　古墳時代の遺物（13）
図版47　古代の遺物・中世の遺物（1）
図版48　中世の遺物（2）

［写　真］

図版49　調査区近景
図版50　Ａ地区・ＢⅠ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区
図版51　Ａ地区
図版52　基本層序・古墳時代 掘立柱建物（1）
図版53　古墳時代 掘立柱建物（2）
図版54　古墳時代 井戸・溝（1）
図版55　古墳時代 溝（2）
図版56　古墳時代 溝（3）・土坑（1）
図版57　古墳時代 土坑（2）
図版58　古墳時代 土坑（3）・性格不明遺構（1）
図版59　古墳時代 性格不明遺構（2）
図版60　古墳時代 性格不明遺構（3）
図版61　古墳時代 性格不明遺構（4）・旧河川
図版62　Ｂ地区
図版63　ＢⅠ・Ⅴ区
図版64　ＢⅠ～Ⅲ区
図版65　中世 掘立柱建物（1）
図版66　中世 掘立柱建物（2）・井戸（1）
図版67　中世 井戸（2）
図版68　中世 井戸（3）
図版69　中世 井戸（4）
図版70　中世 井戸（5）・溝
図版71　中世 土坑など
図版72　古墳時代の遺物（1）
図版73　古墳時代の遺物（2）
図版74　古墳時代の遺物（3）
図版75　古墳時代の遺物（4）
図版76　弥生時代の遺物（1）・古墳時代の遺物（5）
図版77　弥生時代の遺物（2）・古墳時代の遺物（6）
図版78　古墳時代の遺物（7）
図版79　古墳時代の遺物（8）
図版80　古墳時代の遺物（9）
図版81　古墳時代の遺物（10）
図版82　古代の遺物・中世の遺物（1）
図版83　中世の遺物（2）

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）のうち、新潟県上越市から中頸城郡三和村までの7.4km区間を指す。上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）は、上越市から六日町を結ぶ自動車専用の地域高規格道路として計画され、上越地方と首都圏を結ぶ最短経路として広域的な交流を促し、上越地域の活性化に貢献することが期待されている。

国土交通省は上越三和道路の着工に向けて、県教委に計画予定地内における埋蔵文化財の分布調査を委託した。県教委の委託を受けた埋文事業団が平成13（2001）年４月に分布調査を実施したところ、範囲内24か所から古代・中世の遺物が採取された。この結果、ほぼ全域にわたり、試掘調査による遺跡の存在確認が必要である旨を報告した。

国土交通省の委託を受けて、県教委は埋文事業団に調査を委託し、埋文事業団は平成14年３月初旬に14,000m^{2}を対象に試掘調査を実施した。調査の結果、上層が古代・中世の遺物と遺構、下層が古墳時代の遺物を多数包蔵していることを確認し、対象面積14,000m^{2}のうちの6,500m^{2}については古代・中世と古墳時代の上下２面の本発掘調査が必要で、残り7,500m^{2}についても再調査が必要と国土交通省に通知した。通知を受け、国土交通省と県教委と埋文事業団の三者で調査工程について協議し、平成14年４月より上層6,500m^{2}の本発掘調査を行うことを決定した。

その後県教委は、国土交通省の委託を受けて、埋文事業団に平成13年度試掘調査で再調査が必要とされた範囲を含む24,150m^{2}を対象とする調査を委託し、埋文事業団は平成14年４月～５月に試掘調査を実施した。調査の結果、上層が古代の遺物と遺構、中層が古墳時代・古代の遺物、下層が縄文時代の遺物を包蔵していることを確認した。対象面積24,150m^{2}のうち、上層については調査対象範囲全域を、中層については18,900m^2（古墳11,500m^2＋古墳・古代7,400m^2）の本発掘調査が必要であり、下層については上層の本発掘調査終了後に再調査が必要と国土交通省に通知した。通知を受け、国土交通省と県教委と埋文事業団の三者で調査工程について協議し、平成15年４月より、平成14年度調査区の中層6,500m^{2}とその西隣7,500m^{2}の上層の本発掘調査を行うことを決定した。なお平成13・14年度の試掘調査の結果、下割遺跡の本発掘調査必要範囲（平面）は37,500m^{2}となる。

さらに国土交通省の委託を受けて、県教委は、埋文事業団に平成14年度試掘調査で確定した下割遺跡調査範囲以西の167,000m^{2}を対象とする調査を委託し、埋文事業団は平成15年５月～６月・７月に試掘調査を実施した。調査の結果、清水田遺跡・延命寺遺跡・三角田遺跡が新たに発見され、下割遺跡は6,600m^{2}が追加された。追加部分では、上層が古代・中世の遺物、中層が古墳時代の遺物を包蔵していることを確認し、さらに現地表下約3.4mで、平成14年度試掘調査の下層と同一層である可能性が高い灰色土層を確認した。上・中層については6,600m^{2}の本発掘調査の追加が、下層についてはその有無に関して、上・中層の本発掘調査終了後再調査が必要と国土交通省に通知した。平成13～15年度の試掘調査の結果、下割遺跡の本発掘調査必要範囲（平面）は44,100m^{2}となる。

2　調査と整理作業

A　調査と調査体制

1）試 掘 調 査（第1・2図）

平成13年度

平成14（2002）年3月4日～8日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲14,000m^{2}に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、現地表下20～30cmで古代・中世の遺物包含層を確認した。出土した遺物は須恵器・珠洲焼・越中瀬戸が多く、3・4・6～8・11・12トレンチでは溝や井戸の可能性のある遺構が検出された。遺構は調査範囲の東側に位置する米岡集落に向かって、分布が密になる傾向が見られた。また現地表下1～1.5m付近で古墳時代の遺物包含層を確認した。遺物は古墳時代前期末葉～中期初頭の甕形土器・壺形土器（以下、形土器を省略）が主体であるが、遺構は検出されなかった。

平成14年度

平成14（2002）年4月15日～5月8日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲24,150m^{2}に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、現地表下20～30cmで古代の遺物包含層（上層）、同1.5m付近で古墳時代・古代の遺物包含層（中層）、同4m付近で縄文時代後期の遺物包含層（下層）が確認された。そして、上層は平成13年度試掘調査古代・中世の遺物包含層に、中層は同古墳時代の遺物包含層にそれぞれ対応すると判断された。

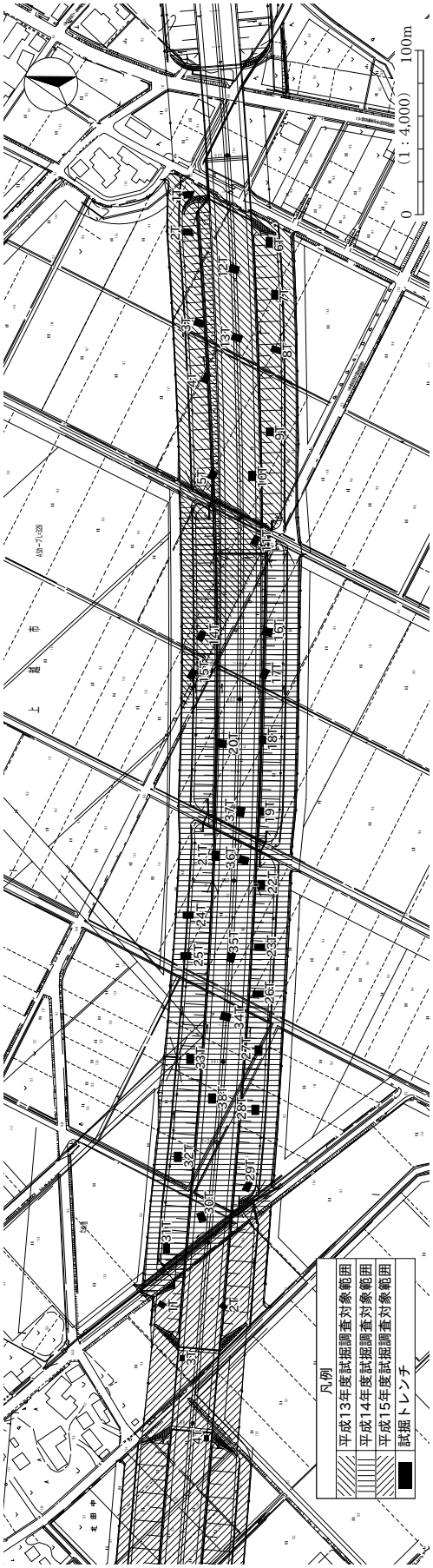
上層では全てのトレンチで遺物が出土したが、特に調査対象範囲内の南側の16～29トレンチにおいて多数の遺物が検出され、濃密な分布を示すことが確認された。出土した遺物は土師器・須恵器が多い。23トレンチでは幅1.3m以上の溝、28トレンチでは幅40cmの溝が検出されるなど、遺構も主として南側から検出される傾向が見られた。

中層はSTA195の周辺の一部でのみ存在している。27・33・35トレンチでは現地表下1.3m付近で黒色土層があり、古代の遺物が出土した。27トレンチでは、中層のさらに下位にあたる暗緑色細砂中から古墳時代の遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。

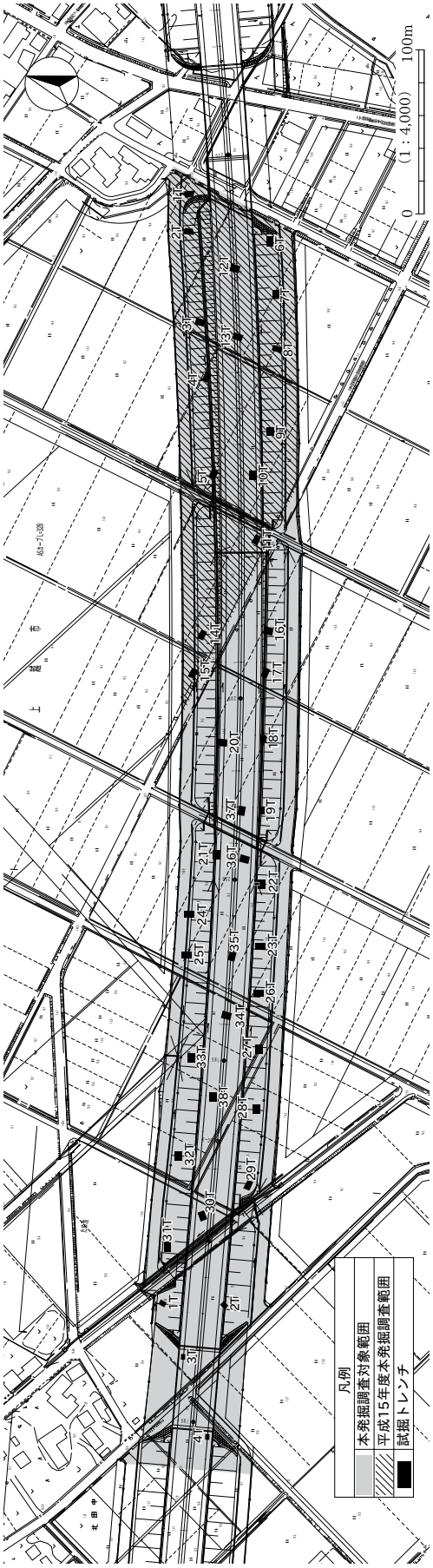
下層に関しては、30・33・34・35トレンチで縄文時代後期の遺物が出土した。遺構は確認できていない。また36・37トレンチでは、下層に相当する黒褐色土層を検出したが遺物は確認されなかった。

平成15年度

平成15（2003）年5月6日～6月17日・7月15日にかけて、埋文事業団が実施した。調査は対象範囲167,000m^{2}に任意にトレンチを設定し、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録する方法が採られた。調査の結果、下割遺跡に関しては、平成14年度試掘調査で確定した調査範囲に隣接する6,600m^{2}が追加された。このほか清水田遺跡・延命寺遺跡・三角田遺跡が新たに発見された。以下では追加された6,600m^{2}について記述する。現地表下20cmで古代・中世の遺物包含層（上層）、同30cmで古墳時代の遺物包含層（中層）が確認された。また3トレンチでは現地表下約3.4mの灰色土層で柱根が検出された。土器などが伴わないため時期の確定はされなかったが、この層は平成14年度試掘調査の下層（縄文時代後期）と同一層である可能性が高いと判断された。



第１図　試掘調査トレンチ位置図



第２図　本発掘調査対象範囲と平成15年度本発掘調査範囲

上層は全てのトレンチで土師器・須恵器・珠洲焼が確認された。出土量的には土師器・須恵器が多く、珠洲焼は２点出土したのみである。遺構は土坑・ピット・溝と考えられる遺構が検出された。また１・３・４トレンチでは、上層の確認面に相当する土層からも古代・古墳時代後期の遺物が出土した。

中層は２・３トレンチで古墳時代後期と思われる土師器が確認された。これらの土器は２トレンチでは現地表下約1mで、３トレンチでは同60cmで出土しており、出土位置に差があることから、河川跡による落ち込みの可能性も指摘された。遺構は検出されなかった。

下層に関しては、その有無を上・中層の本発掘調査終了後に再調査し判断することになった。

2）本発掘調査

平成15年度（以下、今年度）の調査区は、平成14年度（以下、昨年度）調査区の下層にあたり、古墳時代の調査を行う調査区をＡ地区、Ａ地区の西隣中世の調査を行う調査区をＢ地区（第５図）と呼称した。遺構番号は調査年03と遺構略号を合わせた上で、Ａ地区は１～1000、Ｂ地区は1001以降を使用した。また掘立柱建物は03SB001から03SB011の番号を付した。

Ａ　地　区

４月14日から0.7m^{3}の重機を使用し、調査員の指示のもと、Ｖ層掘削を開始した。５月１日から作業員（80人）を投入し、Ⅰ～Ⅲ区（第５図）の包含層掘削を開始した。５月中旬より土坑・溝などの遺構調査を行った。Ⅰ区は遺物の出土量が多く、礎板のある掘立柱建物（03SB001）も検出された。６月上旬からはⅣ～Ⅵ区の調査に入り、Ⅲ～Ⅳ区にかけて飯田川の旧流路と考えられる河川跡（03旧河川１）を、Ⅴ区では総柱建物（03SB002）を検出した。Ⅳ～Ⅵ区の調査と平行して、７月下旬にⅦ・Ⅷ区の包含層掘削を開始し、溝や土坑の調査を行った。９月５日にはＡ地区の航空写真撮影を行った。航空写真撮影後、９月上旬より0.7m^{3}の重機を使用し、03旧河川１の掘削を行った。調査方法は、安全面を考慮し、大グリッドごと、大別層位ごとに掘削し、その土の中から遺物を取り上げる方法を採った。

Ｂ　地　区

５月12日より表土・包含層を0.7m^{3}の重機を使用し掘削した。５月下旬より作業員を投入し、Ⅰ・Ⅴ区（第５図）の遺構精査を開始した。Ⅰ・Ⅴ区では、掘立柱建物・井戸などが検出された。６月下旬から順次Ⅱ～Ⅶ区の調査を行った結果、Ⅰ・Ⅴ区に遺構が集中し、Ⅲ・Ⅶ区以西は遺構分布が希薄になる傾向が確認できた。そこで18列の水路以西については、９月から0.4m^{3}の重機を使用しトレンチ状に掘削した。そして、その範囲を人力で精査し、遺構を記録した。

またＢ地区のうち、Ａ地区に接する600m^{2}について中層（古墳時代）の調査を行うことが決定し、９月上旬より0.7m^{3}の重機を使用しＶ層掘削を開始した。同時に作業員（20人）を投入し、包含層掘削を開始した。この追加部分では土坑・溝などが検出され、畿内系のタタキ甕が多く出土した遺構も確認された。Ｂ地区の航空写真撮影は９月５日と10月21日に行った。

現地説明会は８月30日に行った。遺構の実測は、断面図の実測・遺物出土状況図以外の平面図測量を業者に委託した（例言参照）。なお、覆土が単層で、径30cm、深さ30cmに満たない中世の柱穴については、断面図を作成していない。

3）調 査 体 制

試掘調査（平成14年度）

調査期間　平成14年4月15日～5月8日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括　黒井　幸一（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管　　理　長谷川司郎（　　同　　総務課長）

庶　　務　高野　正司（　　同　　主任）

調査総括　岡本　郁栄（　　同　　調査課長）

調査指導　高橋　　保（　　同　　国土交通省担当課長代理）

調査担当　尾崎　高宏（　　同　　班長）

調査職員　田中　一穂（　　同　　嘱託員）

試掘調査（平成15年度）

調査期間　平成15年5月6日～6月17日・7月15日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括　黒井　幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管　　理　長谷川二三夫（　　同　　総務課長）

庶　　務　高野　正司　（　　同　　主任）

調査総括　藤巻　正信　（　　同　　調査課長）

調査指導　田海　義正　（　　同　　国土交通省担当課長代理）

調査担当　尾崎　高宏　（　　同　　班長）

調査職員　田中　一穂　（　　同　　嘱託員）

本発掘調査（平成15年度）

平成15年度は発掘業務を委託した業者からも調査員を参加させ、調査を行った。

調査期間　平成15年4月7日～11月21日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括　黒井　幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）

管　　理　長谷川二三夫（　　同　　総務課長）

庶　　務　高野　正司　（　　同　　主任）

調査総括　藤巻　正信　（　　同　　調査課長）

調査指導　田海　義正　（　　同　　国土交通省担当課長代理）

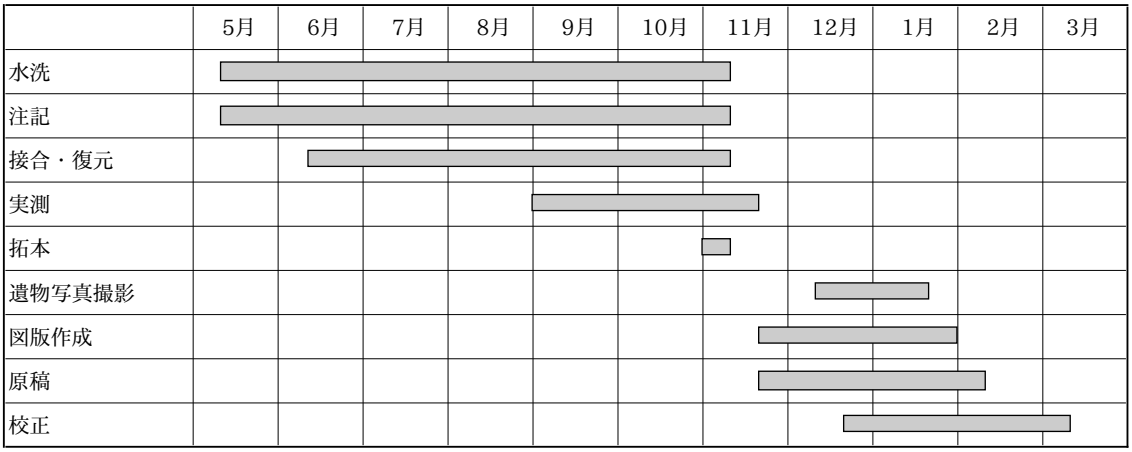
調査担当　山崎　忠良　（　　同　　班長）

調査職員　金子　正宏　（　　同　　主任調査員）
　　椿　　一之　（　　同　　主任調査員）
　　今井　勇雄　（　　同　　主任調査員）6月～8月
　　笹川　　隆　（　　同　　主任調査員）6月～8月
　　田村　良照　（（株）吉田建設埋蔵文化財事業部調査員）5月～10月
　　松井　　智　（（株）吉田建設埋蔵文化財事業部調査員）4月～6月
　　継　　実　（（株）吉田建設埋蔵文化財事業部調査員）11月

B　整理作業と整理体制

1）整 理 作 業

遺構図面の整理及び出土遺物の水洗・注記・接合・復元・実測・拓本作業は、調査現場で本発掘調査と並行して行った。遺物は図化できる最低限の復元を行った。11月下旬から巻町に整理所を設け、報告書掲載遺物の復元、遺物の写真撮影、図版作成、原稿の執筆を行った。



第３図　整理作業の経過

2）整 理 体 制

整理期間　平成15年11月22日～平成16年3月31日
整理主体　新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）
整　　理　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　黒井　幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）
管　　理　長谷川二三夫（　　同　　総務課長）
庶　　務　高野　正司　（　　同　　主任）
整理総括　藤巻　正信　（　　同　　調査課長）
整理指導　田海　義正　（　　同　　国土交通省担当課長代理）
整理担当　山崎　忠良　（　　同　　班長）
整理職員　金子　正宏　（　　同　　主任調査員）
　　椿　　一之　（　　同　　主任調査員）
　　継　　実　（（株）吉田建設埋蔵文化財事業部調査員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡周辺の地理的環境

下割遺跡は、新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在し、高田平野のほぼ中央を南から北に流れる飯田川中流部左岸の自然堤防上に立地している。標高は上層で13.5～13.8m、中層で12.6～13.5mを測る。

下割遺跡の立地する高田平野は、新潟県南西部に位置する堆積平野である。その北側を縁取るように海岸と平行して、長さ約20kmにわたり潟町砂丘が発達し、海岸と平野を区画している。北東部は米山（993m）をはじめとする米山山地が柏崎平野との境をなしている。南東から北東部にかけては東頸城丘陵によって区画され、その東頸城丘陵を挟んで、高田平野の南東方には、信越国境をなす菱ヶ岳（1,129m）、鍋倉山（1,289m）などが連なる関田山脈がそびえている。また、西側から南側にかけては西頸城山地に囲まれる。北から鉢巻山（412m）、南葉山（949m）、重倉山（1,029m）、大毛無山（1,429m）などの山々がそびえ、火打山（2,462m）、妙高山（2,446m）へと続く。高田平野には、これらの三方を囲む山から多くの河川が流入している。平野を形成する最大の河川は、西頸城山地南部に源流をもつ関川である。関川は妙高山東麓をぬけて、片貝川・矢代川・正善寺川など西頸城山地西部から流れ出す河川を合流しながら北流して日本海へそそぐ。東頸城丘陵東部からは保倉川が流れ出し、西流して南東部から流れ出す飯田川と合流して、河口付近で関川にそそぐ。南東部からは櫛池川・大熊川が流れ出し、平野部南西よりの地域で関川と合流する。高田平野の南西部から南東部にかけては、飯田川・櫛池川・大熊川・関川・矢代川などの河川が運搬してきた堆積物によって形成される扇状地が発達している。これらの扇状地と平野北縁の潟町砂丘を除けば、高田平野の大半は氾濫原性低地で占められる。氾濫原性低地は上位の高田面、下位の関川面、関川両岸の関川氾濫原面に区分されており、大半が高田面により占められる。高田面は礫層と砂層・シルト層の互層からなる高田層によって形成される沖積面で、縄文海進期に貫入した海水域が埋積されたものと考えられている。現在においても平野北東部、大潟町の潟町砂丘の背後には、旧大潟をはじめ朝日池・鵜ノ池などが潟湖として、その痕跡を残している。また、高田面上の河川沿いの地域や旧河道に沿った地域には、河川が繰り返し洪水を起こすことによって形成された自然堤防が発達している。特に飯田川や保倉川に沿った地域で顕著である。

下割遺跡に隣接する米岡集落は、飯田川が扇状地から北に屈曲した先の左岸に位置する。大正～昭和初期にかけて県による河川改修工事が行われる以前、飯田川は米岡集落付近で複雑に蛇行していた。米岡付近に限らず飯田川は蛇行と流路の変更を繰り返し、その度に自然堤防が形成・拡大された。そして、その上が集落や畑地として、背後に広がる氾濫原性低地が水田として利用されてきた。米岡も旧河道の自然堤防上に立地する集落で、標高は15mを測り、周囲に畑地と林地を有する。遺跡は集落の西側、標高14.5mの水田から発見された。周辺の現水田は飯田川の流れに沿って下流方向（北）と離岸方向（西）に向かいなだらかに傾斜しており、支流や用水路もこの２方向で流れている。なお、上越市教育委員会の調査では、耕地整理の際に旧自然堤防を削平して水田化した例も報告されており［笹澤ほか1999］、遺跡周辺の環境は、現代の河川改修やほ場整備、道路整備などによりかなり改変されている。

2　遺跡の分布と歴史的環境（第４図）

遺跡の分布と歴史的環境については『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集　下割遺跡Ⅰ』［山崎ほか2003］に詳しいので、「A 周辺遺跡の概要」については一部訂正・加筆し、「B 周辺の水利環境」についてはそのまま引用した。

A　周辺遺跡の概要（第４図・第１表）

下割遺跡に関する古墳時代から中世までの遺跡を中心に以下で概観する。

縄文～弥生時代

縄文時代の遺跡は東頸城丘陵や西頸城山地上に立地するものと、潟町潟湖群周辺に立地するものとに分けられる。沖積地での縄文時代の遺跡はごくわずかであるが、本遺跡の平成14年度試掘調査で現地表下3.5～4mで縄文後期の土器が確認された。沖積層に縄文時代の遺跡が埋没している可能性が考えられる。

弥生時代の遺跡は潟町潟湖群周辺、西頸城山地東縁に立地するが、関川流域の沖積地（高田平野中央部）での分布は薄い。飯田川下流域でも例外ではなく、本遺跡（平成12年上越市教育委員会発掘調査［大居2002］、以下、市教委調査）以外に弥生時代の遺跡は確認できていない。

古 墳 時 代

沖積地に立地する遺跡では、前期で子安遺跡や中島廻り遺跡［小島1991］、中期では月岡遺跡などが見られる。一方、後期に入ると古墳数が飛躍的に増加し、丘陵上や段丘上に立地するものに加えて、山麓の沖積地に立地する群集墳が高田平野の南西部と南東部に多数見られるようになる。飯田川上流でも国史跡水科古墳群・同宮口古墳群・水吉古墳群・北方古墳群が周知されている。他方、集落遺跡の確認例は平野部・丘陵部ともに少ない。古墳の数に対して集落遺跡数が少ないことから、多くの遺跡が沖積層に埋没していると期待されてきたが、近年、ほ場整備事業などに伴う調査が本格化するにつれ、いくつかの遺跡が発見されている。

No.	遺跡名	時代区分	No.	遺跡名	時代区分
1	下割遺跡	古墳～中世	24	灰塚古墳群	古墳
2	中島廻り遺跡	弥生・古墳・平安・中世	25	津倉田遺跡	古墳
3	子安遺跡	弥生・古墳～近世	26	前田遺跡	古墳
4	下新町遺跡	奈良・平安	27	八幡遺跡	古墳・奈良・平安・中世
5	今池遺跡	古墳・奈良・平安・中世	28	杉野袋遺跡	平安
6	本長者原廃寺	平安	29	竜石遺跡	平安
7	月岡遺跡	古墳	30	道珍野遺跡	平安
8	水吉古墳	古墳	31	下馬場古窯跡	古代
9	水科古墳群	古墳	32	向橋窯跡	奈良・平安
10	宮口古墳群	古墳	33	大貫古窯跡	平安
11	北方古墳群	古墳	34	滝寺古窯跡	平安
12	高士古墳群	古墳	35	今熊２号古窯跡	平安
13	菅原古墳31号	古墳	36	神田長峰２号窯跡	平安
14	大塚古墳	古墳	37	神田長峰１号窯跡	平安
15	塚之宮古墳	古墳	38	神田茨山古窯跡	平安
16	谷内林古墳群	古墳	39	末野古窯跡	平安
17	梨ノ木古墳群	古墳	40	本郷古窯跡	奈良～平安
18	天神堂古墳群	古墳	41	横曽根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	中世
19	観音平古墳群	古墳	42	樋田遺跡	中世
20	青田古墳群	古墳	43	中島古屋敷遺跡	中世
21	稲荷山古墳群	古墳	44	水久保遺跡	中世
22	南山古墳群	古墳	45	斐太遺跡	弥生
23	黒田古墳群	古墳	46	吹上遺跡	弥生

第１表　周辺の主要な遺跡（第１表と第４図の番号は対応する）

第４図　位置と周辺の遺跡（1 ： 100,000）
（国土地理院１ ： 50,000「柿崎」平成10.「高田東部」平成11.「高田西部」平成13原図）

本遺跡に近い飯田川下流域でも、津倉田遺跡［笹澤ほか前掲］・前田遺跡・北割遺跡など、前期の遺跡が調査されている。特に津倉田遺跡では、本遺跡でも確認できている畿内系のタタキ甕や布留甕が認められる。また本遺跡の南西約3.5kmの戸野目川流域に位置する中島廻り遺跡［小島前掲］でも、前期の良好な資料が得られている。

古　　代

古代になると高田面上の、特に自然堤防上に遺跡が多く分布するようになる。関川沿いでは今池遺跡群［坂井ほか1984］や本長者原廃寺［小島ほか1984］など、国府や国分寺との関連が考えられる遺跡も調査されている。本遺跡（上層）もそれらの遺跡とほぼ同じ標高（15m弱～18m弱）にあるが、飯田川左岸では本遺跡より上流で古代の遺跡がほとんど見つかっていない。これは、この地域で遺跡を確認する機会が少ないこととも関係しており、今後の調査が待たれるところである。

平安期の遺跡はいずれの流域においても中～下流にかけて多数分布するが、飯田川流域も本遺跡のすぐ下流で杉野袋遺跡・竜石遺跡・道珍野遺跡などの遺跡が発見されている。この時期に平坦な沖積面である高田面に遺跡が多数見つかるようになるのは、高田面の完全な離水が平安時代以降である［高田平野団体研究グループ1980］ことと関連付けられることが多い。しかし、汀線の推移などの詳細な研究はむしろ多くの遺跡の発掘調査を待たなければならないため、本遺跡付近の離水と水田の拡大、遺跡の成立年代の関係は現時点でははっきりしない。

この他、本遺跡と関連するところでは古窯跡が挙げられる。本遺跡の西８～10kmの南西部、丘陵上に上流から下馬場古窯跡・向橋窯跡・大貫古窯跡・滝寺古窯跡などが点在し、本遺跡の北東約5kmには末野古窯跡群が東頸城丘陵の山麓線に集中して見つかっている。これらの窯跡出土の須恵器と集落遺跡出土の須恵器との関連は本遺跡の性格を検討する上でも注目される。

中　　世

中世になると城館跡や塚、墳墓、廃寺跡などが特徴的に見られるようになる。越後府中として栄えたこの地方の変遷を検討する上で、史料研究と併せて、これらの遺跡の発掘調査が行われてきた。しかし、本遺跡に関わるような史料は多くはない。関川と飯田川の間に広がっていた公領が平安後期以降私領地化して郷や保とよばれる国衙領になっていく過程で、本遺跡近くの本道・真砂・津有といった地名が見られる［高橋1999］程度である。しかし、これら郷・保は、その位置・範囲は不明なものの、中世を通して存在しており、集落遺跡との関連は無視できない。遺跡の分布傾向に関しては、城館跡や廃寺跡などは直江津周辺に多く位置する傾向がある。集落遺跡など、これ以外の遺跡は自然堤防上に立地する傾向が強く、城館跡や廃寺跡の分布とは対照的である。

本遺跡の北東約11kmには樋田遺跡が位置する。掘立柱建物や井戸を伴う一辺60～70mの方形の区画がいくつか集まり集落を形成しており、本遺跡と類似する。遺物は13世紀から15世紀のものが出土している。このような集村化の傾向を示す集落は、近年、高田平野東部の頸城村（水久保遺跡など）や吉川町（樋田遺跡・樋詰遺跡など）で調査例が増えつつあり、中世集落を考える上で貴重な成果をもたらしている。また、本遺跡の北西約3.5km重川の自然堤防上には横曽根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が位置する。検出された遺構（幅３～6mの溝が40～50mの規模で巡る）や遺物から、樋田遺跡などに代表される集落とは異なり、居館的な性格が考えられる。

B　周辺の水利環境

本遺跡は東縁を中江用水と接している。中江用水は延宝（1673～1681）年間に高田城主松平光長の藩営事業として、江戸より河村瑞軒を顧問に招き、家老小栗正矩が指揮を執って開発した用水と伝えられている。飯田川左岸末端の水利改善と新田開発を目的とした事業であるが、普請や水利の取り決めの度に米岡の肝煎の名も見える。しかし、この水路は昭和22（1947）年に米軍が撮影した空中写真では確認できない。大正８（1919）～昭和６（1931）年の県による飯田川改修工事の後、昭和19（1944）～28（1953）年にかけて県営中江用水改良工事が行われ、直線化した飯田川に平行する現在の水路が造られた。それを受けて昭和32（1957）年からは団体営による耕地整理事業が随時実施され、一帯は現在の景観になっている。明治29（1896）年の『中頸城郡諏訪村大字米岡更正図』によれば、遺跡周辺の道路・水路は現在よりも多く、現存するものも現在とは若干ずれた位置を通っている。また、字名も「下割」ではなく、遺跡付近が「権現堂」、西隣が「大坪田」である。米岡集落在住の川上環氏によれば、この付近の水利権も県営事業以前は中江用水ではなく重川用水であったという。

重川用水は、中江用水開削以前からある飯田川左岸地域を灌漑する用水であり、古墳群のある東頸城郡牧村宮口と北方の間から分岐する重川に水源を負っている。また、その重川そのものが用水路として開削され、時間の経過とともに侵食が進んで自然流路のようになったという［池田1967］。『慶長二年越後国絵図』では「わうま川」（現、飯田川）から分岐する人工的な重川が見られ、その先に重川用水及び真砂堰（現、上真砂）が掲載されている。

『慶長二年越後国絵図』には米岡を含む周辺集落が現在の大字名のまま掲載されている。また、同絵図の記載によると、米岡の検地高534余石は中江用水域52ヶ村の中で２番目、本納高283余石は３番目の高さを誇っており、隣接する鶴町も高い生産力（検地高874余石は１番目、本納高277余石は４番目）を示していることから、この付近の農業生産力が当時すでに相当高い水準にあったことが窺える。

海岸に向かってなだらかに傾斜していく飯田川左岸は、右岸に比べて水利のよい場所であり、扇状地扇端の水田開発とあまり時期を違えずに水田化が進んだ可能性もある。これら水田の成立時期の違いは水利権の優先順位と関連することが多いが、その関係を示す水争いの史料には未だ十分な考察が加えられていない。それら史料の整理が、遺跡調査の成果とともに飯田川水系の集落展開を検討する上で重要となろう。

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドと調査区の設定（第５図）

グリッドは国家座標を基準として10m方眼を組んで大グリッドとし、大グリッドを2m四方に25等分したものを小グリッドとした。グリッドの呼称は北から南をアルファベットの大文字、東から西を算用数字を用い両者の組み合わせで「5D」などと表した。なお、杭の呼称は、各大グリッドの北東杭にその大グリッドの呼称を付した。小グリッドは各大グリッドの北東隅を1、南西隅を25となるように番号を付し、「5D15」などと表した。今年度の調査区では、昨年度と同様に5D杭の座標値が「世界測地系X=125800.658、Y=－16350.947」を示す。調査区については、昨年度調査区の下層で、古墳時代の調査を行う地区をＡ地区とし、Ａ地区西隣の中世の調査を行う地区をＢ地区（一部、古墳時代の層も調査）とした。また、発掘調査区の南北方向に６本、東西方向に２本の土層観察用のセクションベルトを設定し、それにより区画された調査区を便宜上、Ａ地区ではＩからⅧ区に、Ｂ地区ではＩからⅨ区に分けて、「ＡⅢ区」などと呼称した（第５図）。

2　基 本 層 序（第５・６図）

遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に立地する。標高は、Ａ地区古墳時代の面では地表下およそ1.5～2mの12.6～13.5m、Ｂ地区中世の面では地表下0.5～1mの13.5～13.8mである。調査前の現況は水田で平坦な地形を呈するが、旧来は現在の米岡集落付近を中心に標高が高く、南西側に向かいなだらかに傾斜する地形であったことが、市教委調査で確認された［大居2002］。今年度の調査では、古墳時代には河川が流れ、河川両岸が自然堤防となり標高が高く、その後背地となる北東側と南西側に向かいなだらかに傾斜する地形であったことが確認できた。

以下に基本土層を記すが、今年度はⅣ層、Ⅵ～Ⅷ層は確認できなかった。また調査の過程で、昨年度古墳時代の遺構確認面とした「Ｘ層」からも遺物が出土することが判明した。そこで昨年度の「Ⅸ層」をⅨ１層に、「Ｘ層」をⅨ２層に改め、Ⅸ２層の下の層をＸ層（確認面）とした。

Ⅰ　層……黒褐色土。粘性あり。しまりあり。植物根を含む。耕作土に相当する。

Ⅱ　層……灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を全面に含む。

Ⅲ１層……オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代～近世の遺物包含層。

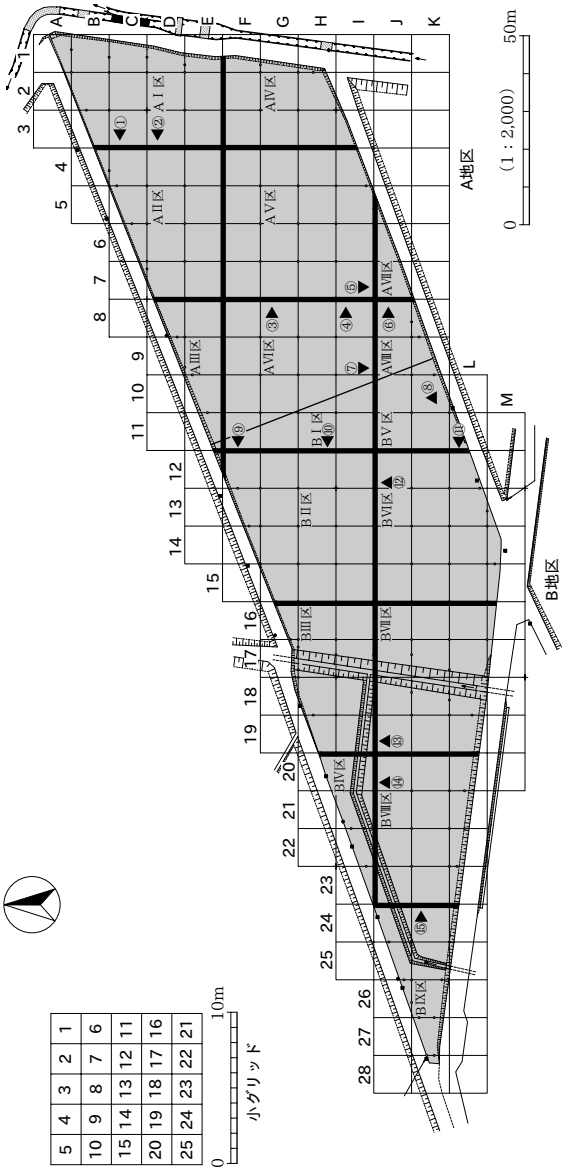
Ⅲ２層……黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。径２㎜程度の礫、炭化物を少量含む。古代～近世の遺物包含層。

Ⅳ　層……黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。基本的には無遺物層である。

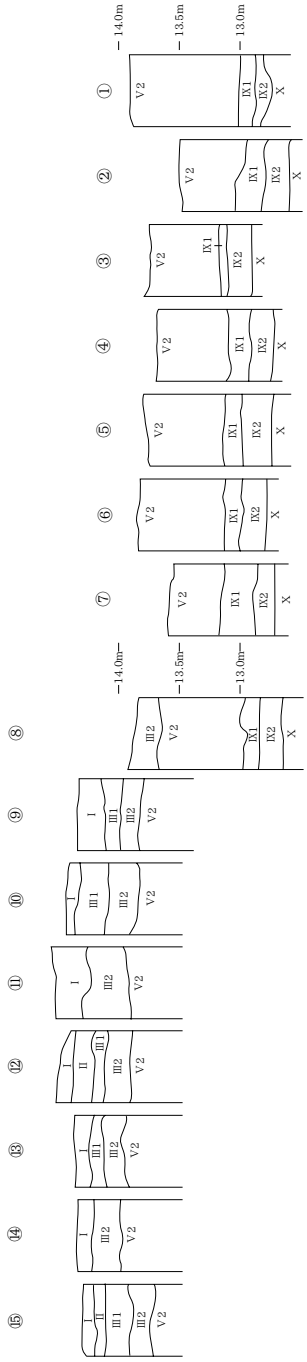
Ⅴ１層……明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。Ⅴ２層に褐鉄鉱を含む。

Ⅴ２層……明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代・中世の遺構確認面。

Ⅵ　層……暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。古墳時代～古代の遺物包含層。



第５図　グリッド設定図



第６図　基本層序柱状図

Ⅶ　層……オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古代の遺物包含層。

Ⅷ　層……灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古代の遺物包含層。

Ⅸ１層……黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。古墳時代の遺物包含層。

Ⅸ２層……青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。古墳時代の遺物包含層。

Ⅹ　層……オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。古墳時代の遺構確認面。

3　遺構・遺物の検出状況

A　古 墳 時 代（第７図・第３表）

古墳時代ではまず、1Gから8Dにかけて旧河川（03旧河川1）が検出された。確認面の微地形は、河川の両岸に自然堤防が形成され標高が高く、その背後はゆるやかに傾斜する。検出された遺構には掘立柱建物・井戸・溝・土坑・旧河川などがあり、多くは自然堤防上、特に標高13m以上の地点に立地する傾向がある。遺構の検出は、覆土の色調とⅩ層の色調が区別しにくいことなどから、困難をともなった。そこで遺物や炭化物の分布、わずかな色調差を手がかりに検出を進めた。また遺構の掘削も、トレンチを入れて断面で掘り形を確認しながら行った。

掘立柱建物は旧河川の両岸に１棟ずつ検出されたが、いずれも自然堤防上の標高約13mの地点に構築されていた。そのうち03SB001は2D・2Eに位置し、周辺には03SK41などの遺構が確認できる。03SB001の北側1Aから3Cにかけての傾斜地からは多くの土器が出土している。自然堤防上で生活をし、不要なものを廃棄した結果と考えられる。一方7H・7Iに位置する03SB002の周辺には、溝以外の遺構はなく、土器の出土量も03SX117があるものの全体としてはあまり多くない。また03SB002南側の傾斜地からの出土も、03SB001北側のように多くはない。明確に竪穴建物と判断される遺構は検出されなかったが、03SX24はその可能性がある。03SX24は4E・5Eに位置し、北東側は昨年度調査した中世の溝に切られる。周辺に位置する03SK27などからは土器が定量出土している。03SX24に近い03旧河川１（特に4F）からは多くの遺物が出土しており、周辺で使用されたものが廃棄されたと理解できる。

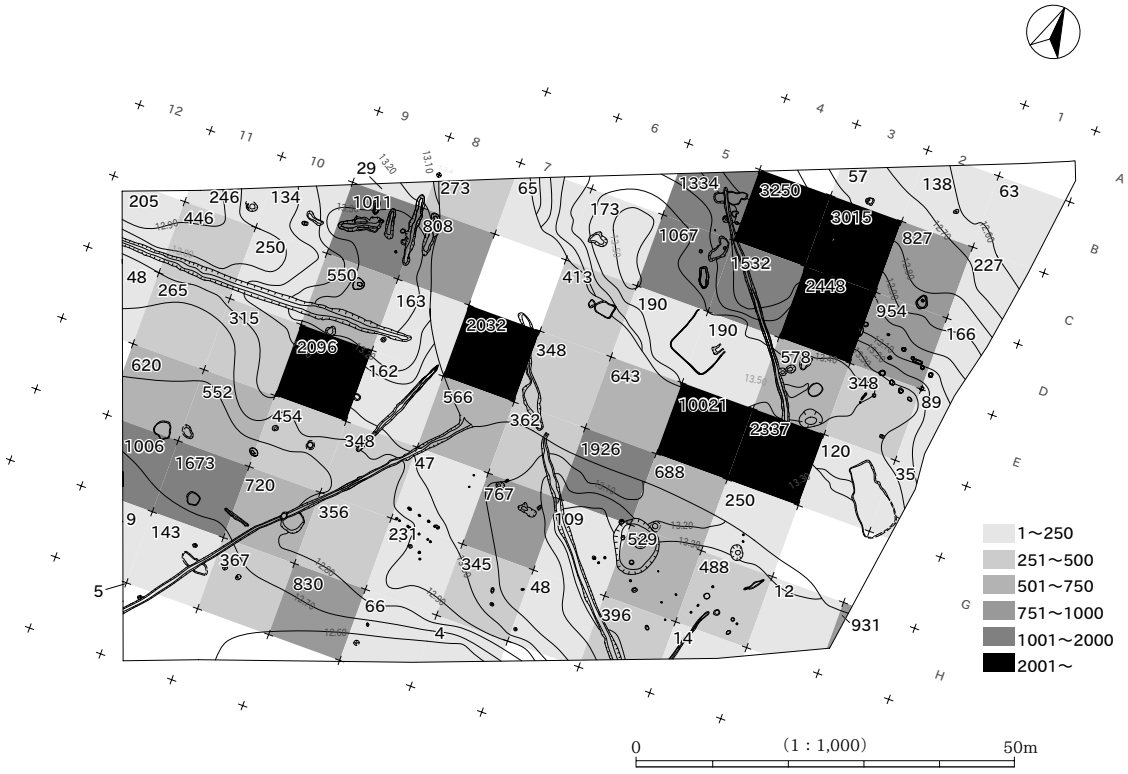
土器の出土状況については、03旧河川１の南側に比べ北側の方が出土量が多い傾向にある。この出土量の差異は、03SB001は側柱構造で、03SB002は総柱構造であるという建物の構造の差異（性格の差異）に起因する可能性も考えられる。出土土器の時期的な傾向は、前期の土器は遺跡内のほぼ全域から出土するが、特に03旧河川１の北側に多く、中期の土器は南側に多い傾向にある。木製品に関しては、礎板・柱根以外はすべて03旧河川１から出土した。このほか石製品がＡ地区西側から出土した。

B　古代・中世（第４表）

古代・中世の遺構は基本的にⅤ２層で検出できるため、ここでまとめて記述する。試掘調査の結果、Ⅴ２層では、遺跡内を通る米岡新屋線以東では中世の遺構が、同以西では古代の遺構が検出される傾向が確認された。Ｂ地区確認面の微地形は、中央部分が高く、西側と北側がゆるやかに傾斜する。覆土の特徴は、古代は炭化物をやや多く含む黒色系粘質土で、中世はやや青みを帯びた黒色系粘質土であり、両者の区別は比較的容易である。遺構の検出も容易であるが、確認面での覆土が地山土の場合は検出が困難である。

古代の遺構は土坑などが確認された。03SX164の覆土上層には青灰色粘質土が堆積するため、Ｖ２層では検出できず、Ｘ層となった。03SX164からは須恵器・灰釉陶器が、03SK1315からは須恵器の横瓶が出土した。また20K・21Kに位置するピットの覆土には、上層に炭化物を含む黒色系粘質土、下層がしまりに欠ける灰色系粘質土が堆積する。両者は遺物を伴わないが、周辺に03SK1315が位置し中世の遺構は少ないこと、さらに試掘調査の結果では、16トレンチ以西で古代の遺物が確認できることなどから、古代の遺構である可能性が高いといえよう。以下では、これらの遺構についての個別説明は省略する。主な出土遺物は須恵器で、遺構や包含層から出土する。遺物の分布はＢ地区の東側に多く、18列以西にはあまり多くはない。遺構の分布とは対照的な傾向にある。

中世の遺構は18列以西にはほとんど分布せず、10・11列に密集する。主な遺構は掘立柱建物・井戸・溝で、溝によって区画された内側に掘立柱建物・井戸が配置される。ただし掘立柱建物・井戸は溝に区画された内側全体に分布するわけではなく、掘立柱建物は11G・11I・10J・11Kに、井戸は10Iに集中する傾向にある。いずれも南側から北側にゆるやかに傾斜する地形に構築されている。掘立柱建物は比較的大型のものと小型のものが確認でき、主軸は区画溝と平行ないし直交する。遺構から出土した遺物量は多くないが、土師質土器は井戸やピットから、珠洲焼は井戸から、木製品は井戸から出土する傾向にあり、銭貨は11Kからの出土が多い。なお18列以西は遺物の出土が極端に少なくなる。



第７図　古墳時代土師器片の出土数

第Ⅳ章　古墳時代の調査

1　遺構各説

Ｂ地区のうちＡ地区よりの600m^{2}については９月から古墳時代の調査（中層）も行った。ここではＡ地区の遺構とＢ地区の古墳時代の遺構を合わせて記述する。土器の分類や時期に関しては第Ⅳ章2Aを参照していただきたい。なお、以下で記す遺構の規模は、確認面での規模である。

Ａ　掘立柱建物（図版12・13・52・53）

今年度の調査で、Ａ地区で２棟の掘立柱建物を検出した。03SB001は03旧河川１右岸、03SB002は03旧河川１左岸のそれぞれ自然堤防上に位置する。主軸は２棟ともおおむね東西方向を指す。

03SB001　1D・2D・2Eに位置する。桁行３間（5.25m）×梁行１間（3.5m）の側柱構造で、棟持柱（03SK43・03P56）をもつ掘立柱建物である。03SK43は柱筋から柱２本分外側に出る程度で、03P56は柱筋にわずかに接する程度である。方向はＮ－66°－Ｗを向き、面積は18.375m^{2}である。柱間寸法は1.75mで、等間隔に配置される。柱穴は径44～80cmの円形や楕円形を呈し、深さは44～110cmとばらつきはあるが、03SK43のみが44cmと浅く、それ以外の柱穴の深さは80～110cmである。03SB001を構成する柱穴10基中、03SK43以外の柱穴の各底面に長さ約27～38cm、幅約17～23cm、厚さ約４～5cmの礎板（246・247）が遺存する。柱の沈下を防ぐために敷かれたものと思われる。柱穴の覆土はおおむね粘性のある黒色系覆土や灰色系覆土で、炭化物を含む。

03SB001の背後の傾斜部周辺には、廃棄されたと考えられる土器の破片がまとまって出土する土坑などが10数か所検出されている。また、掘立柱建物内に03SD44が位置するが、03SK45が03SD44に切られる。所属時期については、03SB001を構成している柱穴（03P48）から出土した土師器（1）の年代から判断して、下割Ⅱ期と考える。03SB001と同様礎版をもつ掘立柱建物は上越市一之口遺跡西地区［坂井ほか1986］にもみられる。

03SB002　7H・7Iに位置する。桁行３間（4.5m）×梁行２間（4.0m）の総柱構造の掘立柱建物で、東側と西側に１本ずつ棟持柱（03P138・133）を有する。いずれの棟持柱も柱筋から柱２本分外側に出る。また、03P140・139・132・131・130は床束柱と考えられることから、高床構造と思われる。方向はＮ－77°－Ｗを向き、面積は18.0m^{2}である。柱間寸法は、桁行が1.5m、梁行が2.0mである。柱穴の規模は03SB001より小さく、平面形は径24～60cmの円形や楕円形を呈し、深さは９～48cmとばらつきがあり、特に03P140は9cmと浅い。03P126には径約12cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土はおおむね粘性のある灰色系覆土で、炭化物や腐植物を少量含む。03P134は03P146を切り、03P135は03P144に、03P136は03P143に切られる。03P137は03P141を切り、03P142に切られる。このように柱穴の新旧関係が確認できることから、03SB002については建て替えの可能性が考えられる。所属時期については、03旧河川１左岸にある03SD105から出土した土師器（11・12）の年代や周辺の出土遺物から判断して、古墳時代中期の可能性が考えられる。ただし前期の可能性も考えられるが、その場合でも03SB001に先行することはないと考える。

B　井　　戸（図版６・７・54）

03SE103　3G18・19・23・24に位置する楕円形の井戸である。断面形は漏斗状で、規模は長径208cm、短径160cmを測る。覆土は５層に分層でき、１・３・５層は灰色系粘質土、２層は緑黒色粘質土、４層はオリーブ黄色粘質土である。このうち２・３・５層は炭化物を含む。覆土にⅨ２層・炭化物を含むことなどから、人為的に埋め戻された可能性がある。出土遺物はハケ調整が施された土師器の甕Ａ類で、古墳時代前期に比定される。所属時期は出土した土器から、前期と考える。

C　溝（図版３・５～11・14・54～56）

Ａ地区・Ｂ地区（古墳時代の層）では16条の溝が検出された。溝は規模と用途から次の２通りに分類することができる。１つは、03SD5や03SD44のように全長が6m以下と規模が小さく、溝と判断したが用途は不明のもので、もう１つは、03SD21や03SD71のように全長が10m以上で、排水や区画の機能を有していたと考えられるものである。

03SD5　9E8・9・13・14・15・19・20に位置する。全長568cm、幅166cm、深さ38cmの規模である。断面形は弧状でゆるやかに立ち上がる。方向はＮ－68°－Ｅを指す。覆土は３層に分層でき、１・２層は黒色系粘質土、３層は青灰色粘質土である。用途は不明である。出土遺物は土師器（2～7）で、覆土２・３層から出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SD21　3F～5Cに位置する。全長39m、幅93cm、深さ42cmの規模である。断面形はＵ字状で立ち上がりは急斜度である。方向はＮ－35°－Ｗを指す。覆土は４層に分層でき、１・２・３層は褐色系砂質土、４層は灰褐色砂質土である。なお、覆土に砂質土が堆積することから、水路としての機能を有していたと考えたい。03SK14に切られ、03旧河川１・03SX29・31・03SK33を切る。したがって、03SD21は03旧河川１がある程度埋没して小さな流れとなった段階もしくは、完全に機能が停止した時期に構築されたと考える。出土遺物は土師器の甕・高坏であるが、細片のため図示していない。所属時期は遺構の切り合いから、下割Ⅲ期以降と考える。

03SD44　2D16・17に位置する。全長136cm、幅52cm、深さ16cmの規模である。断面形は台形状で立ち上がりは急斜度である。方向はＮ－88°－Ｗを指す。覆土は単層で、炭化物を含む黒褐色粘質土である。用途は不明である。出土遺物は土師器（8・9）である。03SB001内に位置し、03SK45を切る。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SD71　7G～10Kに位置する。全長52.8m、幅266cm、深さ90cmの規模である。断面形はＶ字状で立ち上がりは急斜度である。方向はＮ－42°－Ｅを指す。覆土は10層に分層でき、１～３層はオリーブ褐色粘質土、４～10層は灰色系覆土である。03SD71の03旧河川１との合流点の溝底標高と、10K10付近の溝底標高を比較すると、03旧河川１から遠ざかるほど低くなることから、03SD71が水路として機能していたのであれば、03旧河川１から水を引くための水路と考えられる。03SX77・1322・03SK1325を切り、03SK84に切られ、03SD21・105とは直交する。03SD71の幅が03旧河川１に向かって広がる形で合流することから、03旧河川１と03SD71は同時期に機能していた可能性が考えられる。出土遺物は土師器（10）である。所属時期は、遺構の切り合いや出土遺物から判断して下割Ⅱ期以降としておく。

03SD81　8F～12Fに位置する。全長41.2m、幅148cm、深さ32cmの規模である。断面形は弧状ないし台形状で、ゆるやかに立ち上がる。方向はＮ－88°－Ｅを指す。覆土は４層に分層でき、１・２層は

灰色系粘質土、3・4層は褐色系粘質土である。2～4層に炭化物を含む。03SD81の覆土には、流水によって堆積することの多い砂質土が含まれておらず、この点を重視するならば、03SD81が水路であった可能性は低いと考える。03SD81がほぼ東西方向に走っていることを考えれば、区画溝であった可能性も考えられる。出土遺物は土師器の甕などである。所属時期は出土遺物が細片のため明確にはできないが、下割Ⅱ期以降としておく。

03SD105　4I～6Gに位置する。全長31.2m、幅137cm、深さ85cmの規模である。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。方向はN－38°－Wを指す。覆土は12層に分層でき、いずれも灰色系覆土である。覆土中に砂質土の堆積が認められることから、03SD105は水路としての機能を有していたと考えるが、走向は03SD21・158とは一致し、03SD71とは直交する点に注意を要する。また、03SD158とはつながりは認められず、両者の関係は明確にし得ないが、何らかの関連は考慮する必要がある。03旧河川1との関係については、03SD105が03旧河川1を切ることから、03旧河川1が埋没した後に03SD105が構築された可能性が高いと考える。出土遺物は土師器（11・12）である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。

D　土　　坑（図版14・15・56～58）

A地区で土坑と判断した遺構は41基ある。その分布は、大半が03旧河川1両岸の自然堤防上に認められる。規模は、長径が70～150cm、深さは40cm以下のものが主体であるが、長径が200cmを超えるものもわずかではあるが検出されている。平面形は、楕円形と円形で全体の8割を占め、その他不整形もみられる。断面形は、弧状が最も多く、台形状と合わせると全体の9割を占める。また、B地区で古墳時代の土坑と判断した遺構は1基のみである。

03SK8　11E16・17に位置し、北側を暗渠で切られる。平面形は楕円形と思われ、断面形は弧状を呈する。長さ144cm、深さ41cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は3層に分層でき、1層は暗灰色粘質土、2・3層は黒色系粘質土である。3層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器（13～16）で、底面からつぶれた状態で出土した。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK17　3D14・15・19・20に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。長径208cm、短径126cm、深さ18cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は2層に分層でき、1層は炭化物を含む黒褐色粘質土、2層は青灰色粘質土である。出土遺物は土師器（17）である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK22　5D11・12・16・17に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径284cm、短径124cm、深さ33cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は2層に分層でき、いずれも褐灰色粘質土である。2層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器（18～20）である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK23　4C13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径246cm、短径156cm、深さ22cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は4層に分層でき、いずれも褐色系粘質土である。1～3層は炭化物を含む。出土遺物は土師器（21～23）である。03SX29を切る。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK27　5D1・2・6・7に位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状を呈する。長さ364cm、幅152cm、深さ28cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は3層に分層でき、1・3層は褐色系粘質土、

２層は灰褐色粘質土である。１・３層は炭化物をやや多く含む。出土遺物は土師器（24～33）で、覆土３層からまとまった状態で出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK33　5C16・17・21・22に位置し、平面形は楕円形を呈すると思われる。断面は弧状である。長さ94cm、深さ24cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は４層に分層でき、１・２層は褐色系粘質土、３・４層は灰色系粘質土である。１層は多量の炭化物を含む。出土遺物は土師器（34）である。03SD21に切られる。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅲ期としておく。

03SK41　2D15、3D6・7・11・12に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状を呈する。長径360cm、短径228cm、深さ14cmの規模で立ち上がりはやや急である。覆土は３層に分層でき、１層は黒褐色粘質土、２・３層は灰色系粘質土である。２層は赤褐色土を含む。出土遺物は土師器（35～39）で、覆土２層からまとまって出土している。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。

03SK67　6H2に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径72cm、短径48cm、深さ18cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は４層に分層できいずれも灰色系粘質土である。４層は炭化物を多く含む。出土遺物は土師器（40）である。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。

03SK73　9H10・15に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。長径84cm、短径68cm、深さ12cmの規模で、ゆるやかに立ち上がる。覆土は単層で炭化物を含む黒色粘質土である。出土遺物は土師器（41）である。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ～Ⅱ期と考える。

E　性格不明遺構（図版３・５～７・11・16～19・58～61）

ここでは、調査現場で性格不明遺構と判断したものの中で、遺物を図示したものを中心に記述する。性格不明遺構には、確認面で掘り込みが確認できるものとできないものがある。掘り込みが確認できず、遺物が集中する箇所は、性格不明遺構として記録した後トレンチを入れて掘り込みの有無を確認した。そのため、掘り込みのあるものとないものに分かれる結果となった。

03SX24　4E・5Eに位置する。平面形は方形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ625cm、深さ24cmを測る。北東側は昨年度調査したSD52に切られる。覆土は２層に分層でき、いずれも褐灰色粘質土である。調査中は炉や柱穴が検出されないこと、断面の立ち上がりがゆるやかなことなどから性格不明遺構としたが、周辺の遺構や03旧河川１の出土遺物（特に03SX24に近い4Fの出土遺物）などを考えると、竪穴建物の可能性も否定できない。出土遺物は図示した土師器甕Ａ類（42）ほかに、タタキ成形の甕（G類）の細片も確認できる。時期は出土遺物から下割Ⅱ期と考える。

03SX31　5C6・11・12・13に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ224cm、幅117cm、深さ18cmを測る。中央部分を03SD21に切られる。覆土は２層に分層でき、１層は褐灰色粘質土、２層は灰褐色粘質土である。出土遺物は土師器（43～48）で、比較的まとまって出土した。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期と考える。

03SX50　3C23・24、3D3・4・8・9に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。規模は長さ396cm、幅217cm、深さ18cmを測る。覆土は２層に分層できる。１層が黒褐色粘質土、２層が青灰色粘質土で、いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器（49・50）で、所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期と考える。周辺には03SB001、03SD21、03SX24が位置する。

03SX52　3C13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状を呈する。規模は長さ339cm、幅276cm、深さ26cmを測る。覆土は３層に分層できる。１・２層が黒色系粘質土、３層が青

灰色粘質土で、いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器（51・52）で、所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SB001、03SD21、03SX24が位置する。

03SX75　9I5、10H21、10I1に位置し、2.1m×1.7mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（53）で、比較的細片が多い。所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期に位置付けておく。周辺には03SX1317～1319、03SD71が位置する。

03SX77　9I6・7・11・12・21・22に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は弧状を呈する。規模は長さ328cm、深さ26cmを測る。北西側を03SD71、03SK84に切られる。覆土は2層に分層できる。いずれも褐灰色粘質土で、炭化物を含む。出土遺物は土師器（54）で、いずれも破砕した状態で出土した。所属時期は出土遺物から下割Ⅰ期に位置付けておく。周辺には03SB002が位置する。

03SX80　9H5、10H1に位置し、2.4m×2mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（55・56）で、つぶれた状態で出土したものが多い。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。周辺には03SX75が位置する。

03SX87　9G4に位置し、1m×0.5mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（57）である。個体ごとのまとまりはあるものの、摩耗した細片が目立つ。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期に位置付けておく。周辺には03SD81が位置する。

03SX107　4G、4H、5G、5Hに位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。規模は長径745cm、短径616cm、深さ40cmを測る。覆土は5層に分層でき、1層が褐灰色粘質土、2～5層が灰色粘質土である。出土遺物は土師器（58～61）で、覆土5層から一定量出土した。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。周辺には03旧河川1や03SX117が位置する。

03SX117　5G12～20・22・23に位置する。03旧河川1の川岸に沿う形で、9m×4.5mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（62～84）で、高坏が多い傾向にある。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅲ期と考える。周辺には03旧河川1や03SX107が位置する。

03SX165　3E16・17・21・22に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状に近い。規模は長径308cm、短径236cm、深さ35cmを測る。覆土は3層に分層でき、1・2層が明黄褐色粘質土、3層が褐灰色粘質土である。いずれも炭化物を含む。出土遺物は土師器（85～87）で、甕の比率が高い傾向にある。所属時期は出土遺物から下割Ⅱ期に位置付けておく。周辺には03旧河川1や03SD21が位置する。

03SX1317　11H21・22、11I1・2に位置する。平面形は不整形、断面形は台形状を呈する。規模は長さ235cm、幅210cm、深さ10cmを測る。覆土は灰白色粘質土である。出土遺物は土師器（88～111）で、一括廃棄されている。所属時期は、出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SX1318・1322が位置する。

03SX1318　10I10・15、11I6・11・16に位置し、5m×4mの範囲に土器が分布する。掘り込みは確認できない。出土遺物は土師器（112～121）で、細片が多い傾向にある。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅰ期と考える。周辺には03SX1317・1322が位置する。

03SX1322　10J6・7・8・11・12・13に位置する。平面形は楕円形を呈すると思われ、断面形は弧状を呈する。中央部は03SD71に切られ、北西側と南東側は暗渠に切られる。規模は短径164cm、深さ25cmを測る。覆土は2層に分層できる。いずれも灰色系粘質土で、炭化物を含む。出土遺物は土師器（122）で、底面からつぶれた状態で出土した。このほか古墳時代前期の土器が出土している。所属時期は出土遺物から判断して下割Ⅱ期と考える。周辺には03SX1317・1318が位置する。

F　旧　河　川（図版２～４・61）

03旧河川１　1F～8Dに位置する。断面形は弧状で、立ち上がりはおおむね急斜度となる。規模は全長80m、幅12～25m、深さ4.8mで、東側から北側に向かって大きく蛇行する。蛇行部分では川幅が広くなる。覆土は11層に分層できる。おおむね灰色系覆土を主体とするが、土質によりおおまかに上層・中層・下層の３層に分けられる。上層はオリーブ灰色粘質土で、シルト・炭化物を含む。１～５層が相当するが、遺物は包含していない。中層は、上層よりやや黒味を帯びる粘質土で、火山灰・流木・酸化鉄・木実（トチ・クルミなど）・貝類を含む。６～10層が相当し、多くの遺物を包含する。このうち遺物が出土するのは６・８・10層で、特に10層からの出土量が多い。下層は11層が該当し、少量の遺物を包含する砂層である。平面的な土器分布は、破片数比で4Fが60％弱、3Fが13％強、7Fが11％強となり、4Fの多さが目立つ。5Fでは４％弱となることから、3Fから4Fにかけての10層に川岸から遺物が廃棄されたことが想定できる。出土遺物は土師器（123～245）と木製品（249～271）で、4F中層からまとまって出土した。土師器の完形率は高い。所属時期は出土遺物から判断すると、おおむね下割Ⅱ期が下限となる。

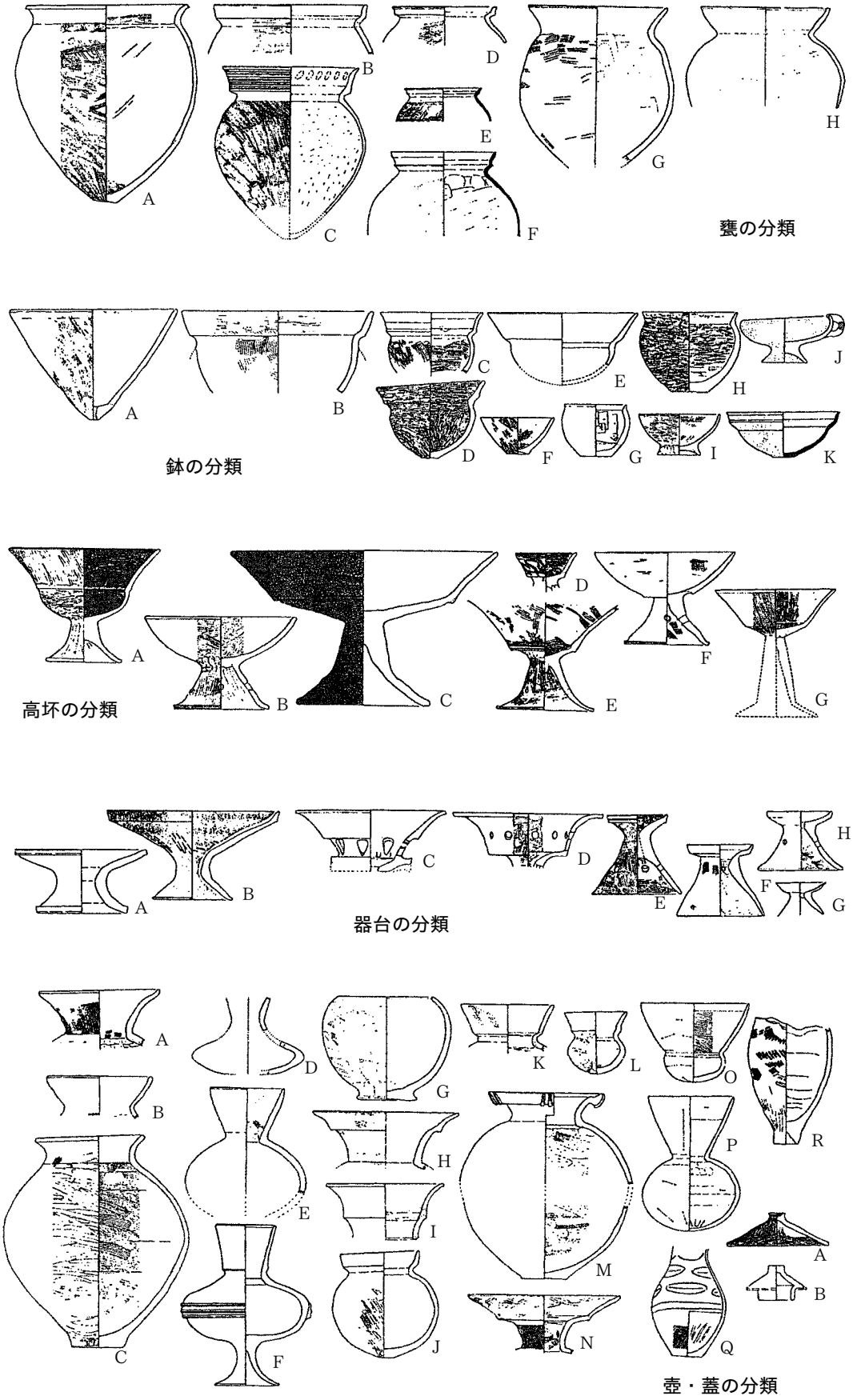
2　遺　　物

A　時期の設定・器種分類

出土遺物の年代観については、川村浩司氏による上越市における土器編年［川村2000］や品田高志氏による柏崎平野における土器編年［品田1992］に加え、新潟の各地域とも大枠での対比が可能である南加賀の漆町遺跡編年［田嶋ほか1986］などとの対比を通して、下割遺跡として３時期を設定した。すなわち、古墳時代前期前半（漆町５～７群併行）、古墳時代前期後半（漆町８～10（11）群併行）、古墳時代中期（漆町12～14群併行）の３時期に分け、下割Ⅰ～Ⅲ期の名称を付した。

古墳時代の土器分類については、川村浩司氏による分類案［川村1993］に準拠し行っている。以下に、器種分類の基準（川村分類）を転載する［川村1993］。本遺跡で出土しなかった類形については説明を除外した。また、出土遺物のうち、古墳時代前期以外のものや小型品などについては類別不可能なものが存在し、それらについては器種名のみを記している。出土遺物の出土量については、口縁部残存率計測法を用い遺構単位で器種組成を求め、破片数は遺構も含め大グリッド単位でカウントし、その結果を第７図・第３表に示しているので参照されたい。なお、甕・壺の破片数については、両者の完全な識別は現実的に困難であり、多少の前後はあるものと思われる。

甕Ａ類：口頸部断面形態が、「く」字状もしくは、逆「コ」字状を呈するもの。
　Ｂ類：口頸部断面形態が、有段で、口縁部外面が無文なもの。
　Ｅ類：東海系の「S」字状口縁で台付のもの。
　Ｆ類：山陰系の有段口縁甕。
　Ｇ類：近畿系のタタキ甕。
　Ｈ類：畿内布留の丸底のもの。
鉢Ａ類：底部有孔の鉢。
　Ｃ類：有段口縁、球胴で、ハケ調整を残すなど、Ｄ類に比べ、「粗製」であるもの。中・小型品。
　Ｅ類：有段口縁で浅い体部を有するもの。



第８図　古墳時代土師器の器種分類図（[川村 1993] より一部改変の上掲載）

Ｇ類：小型短頸鉢で非精製のもの。

Ｈ類：小型短頸鉢で精製のもの。

Ｉ類：椀状にゆるやかに立ち上がる体部で、低台を有するもの。

高坏Ｂ類：坏部が浅い椀状を呈するもの。

Ｃ類：大型で、浅い坏部を有し、坏部外面に稜をもつもの。

Ｆ類：東海系高坏。坏部上半が内彎する。坏部外面には稜を有する。脚部は内彎しながら開くが、在地との折衷品では外反しつつ開くものもある。

Ｇ類：畿内系高坏。

器台Ｃ類：装飾性の高い有透器台。

Ｄ類：深い受け部をもつもので、円形の透かし孔を有するものもある。

Ｆ類：受け部が有段の小型器台で、上段がほぼ直線的にのびるもの。

Ｇ類：受け部が有段で、上段が外反し、端部がすぼまり気味の小型器台。

Ｈ類：受け部が内彎する小型器台。

壺Ａ類：広口で、口縁が外反するもの。

Ｂ類：口縁が内彎し、球胴に近いもの。

Ｈ類：広口で有段口縁のもの。

Ｉ類：細口で有段口縁を呈し、口縁部下段が長いもの。

Ｋ類：細口で有段口縁を呈し、口縁部下段が短いもの。

Ｌ類：Ｋ類の小型品。

Ｍ類：東海系二重口縁壺。

Ｎ類：畿内系有段口縁壺。

Ｏ類：畿内系小型坩。

Ｐ類：畿内系長頸壺。

蓋Ａ類：つまみを有し、下端内側にかえりを持たないもの。

Ｂ　遺構出土の遺物（図版34～45・72～80）

1）土　師　器（図版34～41・72～77）

掘立柱建物（1）

掘立柱建物の各柱穴中より土器片が少量出土したが、図示し得たのは03SB001を構成する03P48覆土１層から出土した高坏Ｆ類１点（1）のみである。坏部が欠損するため類別不能であるが、広く開く脚部形態を呈する。所属時期は不詳だが、下割Ⅱ期に位置付けるのが適当であろうか。

溝（2～12）

03SD2・4・5・6・21・44・71・79・81・105からは覆土中より土器片が出土した。器種別に見た出土比率は甕が全体の73％を占め、以下、高坏12％、壺８％、鉢・椀６％、器台１％となる。また、甕Ｇ類の小片が03SD79から１点出土している。遺物は小片が多く、図示し得たのは03SD5・44・71・105の４条と少ない。なお、03SD5・81ではややまとまった量の土器片が出土しており、03SD5では供献土器の出土比率がやや高い点が特徴として挙げられよう。

03SD5（2～7）　図示し得たのは覆土２・３層から出土した甕Ａ類２点（2・3）・Ｆ類１点（4）、高坏

G類１点（5）、小壺１点（6）、鉢１点（7）である。２・３はいずれも単純口縁である。器壁は肥厚気味で口頸部の屈曲は比較的ゆるやかである。４は有段口縁の甕である。体部は球体状を呈し、底径は6cmと大径である。６は器面のミガキが認められない粗製品である。口縁部が欠損しており形態が不明であるが、壺Ｏ類に近似する平底の小型壺であろうか。７は精製品で外面は赤彩、口縁部には３個一組の穿孔が認められる。出土遺物の時期は各遺物の形態からみて、下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SD44（8・9）　図示し得たのは覆土１層から出土した小型甕（8）、壺Ａ類（9）各１点である。これらのほかには甕の口縁部片なども出土しているが、図示し得るものではない。８は口頸部が急角度で立ち上がる形状を呈し、体部下位には部分的にタール状のススが付着している。９は口縁部がラッパ状に開く器形となる。直接比較できる資料が少なく時期的な詳細は窺い知れないが、恐らく下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SD71（10）　遺物量は僅少で、そのほとんどが甕の破片で占められる。図示し得たのは覆土上層から出土した甕Ａ類１点（10）のみである。壺や高坏の破片もわずかに見られるが、図示し得るものではない。10は「く」字状に口頸部が屈曲し、ほぼ垂直に立ち上がり口縁部は外反する。時期は口頸部形態からみて、下割Ⅱ期以降の所産である可能性が高い。

03SD105（11・12）　遺物量は僅少で、そのほとんどを甕の破片が占めるが、完形の椀が１点（12）、覆土３層中から出土している。器面調整は体部はナデ、底部はヘラケズリが施される。口縁部には２個一組の穿孔が両側対に設けられる。このほかには、甕Ａ類を１点（11）図示し得た。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、単純口縁である。12はその形態からみて、下割Ⅲ期の所産と思われる。

土坑（13～41）

遺物の出土を見たのは、03SK8・17・18・22・23・27・30・33・41・42・59・62・64・65・67・73・75・76・78・83・92・102・124・152・153で、出土遺物はいずれも土器である。出土比率を器種別にみると、甕が全体の84％と圧倒的で、以下、高坏８％、壺６％、器台１％、鉢１％となる。甕Ｇ類が一定量含まれているのが特徴的で、出土量は土坑から出土した甕の1.5％を占めている。図化し得るものは少なく、実測図を掲載し得たのは、03SK8・17・22・23・27・33・41・67・73の９基にとどまる。甕Ｇ類は03SK27・41・76・78などで破片が出土しており、特に03SK76では同一個体と思われる破片約30点が出土している。

03SK8（13～16）　甕破片を主体に、高坏、壺、鉢などの小片が少量出土している。これらのうち、図示し得たのは甕Ａ類３点（13～15）、高坏Ｇ類１点（16）である。甕はいずれも単純口縁で、口頸部は「く」字状に屈曲し、やや直線的に立ち上がる。16は脚部形態が柱状を呈する畿内系高坏で、時期は下割Ⅱ期の所産であろう。坏・脚はそれぞれを接合した後、粘土塊で底部を充填する方法が採られる。

03SK17（17）　覆土中から甕片が多数出土したが、図示し得たのは甕Ａ類１点（17）のみである。口頸部はゆるく外反し、口縁端部にはわずかに面取りの形跡が窺われる。下割Ⅱ期の所産であろうか。甕のほかには器台の小片が１点出土しているのみである。

03SK22（18～20）　甕破片を主体に、壺、高坏、鉢などの破片が少量出土しているが、図示し得たのは壺Ｈ類（18）１点、高坏１点（19）、鉢Ｅ類１点（20）であり、遺存状態はいずれも悪い。18は仕上げの悪い有段口縁壺で、器壁は肥厚しややぽってりする。19は残存部分が少なく分類不可能であるが、少なくとも柱状脚ではない。20は体部の浅い鉢で、底部は平底である。各々の形態から、これらの遺物は下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SK23（21～23）　出土遺物の大半は甕の破片で、他には高坏や器台といった供献土器や壺、鉢の小片がわずかにみられるのみである。甕は検出された破片のほとんどが同一個体と思われるが、復元し得るものではない。21は甕Ａ類である。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、単純口縁である。鉢Ａ類（22）は尖り気味の底部に直径約1cmの円孔が穿たれる。器台脚部（23）は外面が赤彩され、透孔は４個均等に穿たれる。各々の形態から、これらの時期は下割Ⅱ期に位置付けられよう。

03SK27（24～33）　出土した破片点数は多量で、甕、壺、高坏などの遺物が出土している。各器種とも大半は同一個体が破砕したものである。これらのうち、図示し得たのは甕Ａ類２点（24・25）、壺Ｈ類１点（26）、器台Ｈ類２点（27・28）、高坏Ｇ類１点（29）、鉢Ａ類２点（30・31）・Ｅ類１点（32）・Ｇ類１点（33）であり、完形品はない。甕は口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、やや強い外反傾向を示すもの（24）と、口頸部が直線的で、やや上方に引き出されるもの（25）が出土している。口縁はいずれも単純口縁である。器面は内外面とも摩耗が著しく、調整痕は観察し得ない。26は口縁部内面にやや強い稜を有する。鉢Ａ類は30が尖底、31はややゆるく丸底に近い形態を呈する。孔径は、30が直径1cm、31が直径５㎜前後である。Ｅ類（32）は有段口縁で浅い体部を有し、丸底である。器面には丁寧なヘラミガキが施される。Ｇ類（33）は粗製的なつくりである。出土遺物は、各遺物の形態からみて、下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SK33（34）　出土遺物は図示した柱状の高坏Ｇ類脚部１点（34）のみである。脚部の製作技法は古墳時代中期のものにみられるヘラシボリ成形である。胎土は供献土器としては砂質で粗いものが用いられる。下割Ⅲ期の所産であろう。

03SK41（35～39）　非常に多くの土器片が出土したが、その多くは破砕した同一個体とみられる。土器片の主体をなすのはやはり甕であり、ほかに少量の壺や高坏の破片が続く。これらのうち、図示し得たのは甕Ａ類（35）と壺Ｌ類（36）が各１点、高坏Ｃ類１点（37）と脚部１点（38）、鉢Ａ類１点（39）である。35は口頸部が直線的に立ち上がり、口縁部は単純口縁である。36は口縁の段が形骸化しつつある。各々の遺物の形態からみて、これらの遺物は下割Ⅰ期の所産と思われる。

03SK67（40）　覆土中から甕、高坏の破片を主体とする土器片が出土したが、図示し得たのは高坏Ｇ類１点（40）のみである。下割Ⅱ期の所産であろうか。

03SK73（41）　出土遺物は少量で、図示し得たのは高坏Ｆ類の破片１点（41）のみである。口縁部、底部ともに欠損しているため、形態的には不明な点が多い。時期は、下割Ⅰ期頃の所産であろうか。

性格不明遺構（42～122）

遺物の出土を見たのは03SX12・24・25・28・29・31・34・50・52・57・66・75・77・80・87・88・107・117・160・165・1317・1318・1319・1320・1321・1322で、遺物は全て土器である。このうち実測図を掲載し得たのは03SX24・31・50・52・75・77・80・87・107・117・165・1317・1318・1322の14基である。全体的に遺物の出土量は多めで、特に03SX117・1317では顕著である。器種ごとの出土比率ではやはり甕が圧倒的で、全体の84％を占める。また03SX1317をはじめ03SX25・57・75・77・80・88・1318・1319・1320・1321と多くの遺構から甕Ｇ類が出土し、出土量的にもSX出土甕の６％近くを占める。他器種の出土量比は壺6.5％、高坏7.4％、器台１％、鉢もしくは椀1.4％、蓋0.2％となっている。いずれの器種もその大半は図化し得ない小片であり、遺物実測図を掲載し得た遺構は限られる。

03SX24（42）　出土遺物の大半は甕で、ほかに壺や高坏、鉢の破片が数点含まれる。図示し得たのは

甕Ａ類１点（42）のみである。口頸部の屈曲は比較的ゆるやかで、口縁端部の面取りもみられないが、器形は上方に向かって引き出される傾向を維持している。時期は下割Ⅰ期であろう。

03SX31（43～48）　出土遺物の大半は甕であるが、壺や高坏の破片も一定量存在する。遺物は全て覆土中から出土し、そのほとんどが１層に含まれる。図示し得たのは甕Ａ類２点（43・44）、蓋Ａ類１点（45）、器台１点（46）、高坏２点（47・48）である。甕は口頸部が「コ」字状に外反するもの（43）とやや上方に向かって立ち上がるもの（44）があるが、口縁端部の面取りはみられない。高坏、器台に関しては全体形を窺うことができるものが皆無であり類別不能であるが、脚部形態は全て外反するもので占められ、畿内系柱状脚のものはみられない。いずれも器面の摩耗により、調整痕や赤彩の有無などは確認し得なかった。時期判別に有効な遺物が少なく詳述し得ないが、これらの遺物はおおむね下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SX50（49・50）　覆土１・２層中から甕を主体に、少量の壺、器台が出土している。いずれも細片であり、図示し得たのは甕Ｂ類１点（49）、器台１点（50）と少ない。49は弥生時代後期以来の有段口縁甕である。口縁部の屈曲は比較的ゆるやかで形骸化しつつある。50は口縁、底部とも欠損しており全体形は把握し得ない。49の編年的位置付けから、遺物の時期は下割Ⅰ期の所産と思われる。

03SX52（51・52）　出土遺物は壺と器台脚部の破片が少量２層中から出土しており、各々１点を図示した。壺Ａ類（51）は口頸部が「く」字状に屈曲し、口頸部はゆるく外反する。口縁端部はわずかに面取りされる。胎土は砂粒を多く含むものの、きめ細かい比較的精良なものが用いられるが、器面のミガキは施されていない。器台（52）は付け根部分が直線的で、やや段をもつように広がる脚部形態を呈する小型器台で、透孔は３個均等に穿たれる。時期判断に足る遺物が僅少であるが、52の脚部形態は古墳時代前期中葉を降ることはないと思われ、下割Ⅰ期に位置付けるのが適当かと思われる。

03SX75（53）　掘り込みは確認できず、遺物は全てⅨ２層からの出土である。そのうちの90％は甕、ほかに壺、高坏、器台、鉢などの破片が少量みられる。また、甕Ｇ類の出土量が多いのも特徴的で、甕出土量の20％を占める。図示し得たのはその甕Ｇ類１点（53）のみである。口頸部は「く」字状に屈曲し、直線的に立ち上がる。タタキ目はあまり明瞭ではないが、口頸部との境から体部にかけてみられる。内面の調整はヘラナデで当て具の痕跡はない。また、胎土は在地の製品に用いられるものと同じで、砂粒を多く含むが比較的精製されたものである。53の時期は、甕Ｇ類がおおむね漆町５～７群に位置付けられるので、下割Ⅰ期の所産とする。

03SX77（54）　遺物は全て覆土中から出土した。出土量の80％は甕であり、ほかに壺、高坏、器台、鉢、蓋などの破片が少量みられる。甕Ｇ類の出土は少量であるが、遺存状態の良好な破片があり、図示し得たのはその１点（54）のみである。口頸部は直線的に上方を意識したような立ち上がりをみせ、体部から口頸部にかけての屈曲は、特に内面では顕著で、稜をもつ。タタキ目は口頸部との境から体部にかけてみられ、境目から頸部にかけては部分的にハケ調整が加えられる。内面の調整はヘラナデで当て具の痕跡はない。胎土は53と同様で、在地の製品と同様のものが用いられる。54の時期は、53と同じく甕Ｇ類の位置付けから、下割Ⅰ期の所産と思われる。

03SX80（55・56）　出土遺物の70％強は甕であり、ほかに壺、高坏、器台、鉢などの破片が少量みられる。図示し得たのは甕Ｈ類（55）、壺Ｈ類（56）各１点である。甕はＧ類も出土しているが図示し得るものではない。55はＨ類、つまり布留甕である。器壁は薄いが全体の仕上げはやや粗く、胎土も在地の製品にはみられない石英や砂粒の目立つ非精製のものが用いられる。器面の調整は内外面ともに摩耗に

より明瞭ではないが、外面は口頸部ナデ、体部ハケ（ヨコハケ）、内面は口頸部、体部ともにヘラケズリと思われる。56はＨ類に分類される広口の有段口縁壺である。口縁部下端の段は、内面では形骸化しつつある。出土遺物の時期は、甕Ｈ類の口頸部形態からみて、下割Ⅱ期に位置付けられよう。

03SX87（57）　掘り込みは確認できず、遺物は全てⅨ２層から出土した。遺物の80％弱は甕であるが、図示し得る破片がなく、図版に掲載し得たのは壺１点（57）のみである。57はＮ類に分類される畿内系有段口縁壺である。胎土はきめ細かいものが用いられ、外面はヘラミガキの後、赤彩される。下割Ⅱ期の所産と思われる。

03SX107（58～61）　遺物は全て覆土中から出土し、特に５層に集中する。甕が全体の約80％を占め、高坏、壺、器台、鉢が続く。供献土器は高坏・器台あわせて全体の10％強を占め、比率の上ではやや多い傾向を示す。図示し得たのは甕Ａ類２点（58・59）、高坏Ｆ類（60）・Ｇ類（61）各１点で、全て５層から出土した。58は口頸部が上方に向かって立ち上がる傾向にはあるものの、単純口縁で器壁は肥厚気味である。59は全体形を復元し得た数少ないものの一つである。口頸部の屈曲は比較的明瞭で、口縁端部は面取りされる。体部は倒卵形を呈し、底部は直径約2cmと尖底に近い。器面調整は内外面とも口頸部はナデ、体部はハケ・ヘラナデである。61は畿内系高坏で、脚部柱状部は下方に向かってやや膨らむ。器面の摩耗により調整の様子は観察し得なかった。出土遺物は61の形態からみて下割Ⅲ期の所産としておく。

03SX117（62～84）　掘り込みは確認できず、遺物は全てⅨ１層から出土した。遺物量は多い。甕がやはり他を凌駕し、全体の約70％を占める。また、供献土器、特に高坏の出土量が多く、全体の20％弱を占める。残存状態についても良好なものが多く出土し、高坏は完形に近いものが４点出土した（70～73）。以下、器種ごとに掲載したものを中心に説明を記す。甕（62～65）は体部以下を復元し得るものがないため全体形は不詳であるが、基本的には全てＡ類である。口頸部の形態については、単純口縁で、外反、又は直線的に立ち上がるものが大半で、ほかに63のような口頸部の断面形が「コ」字状を呈するものが少量ある。壺（66～69）は体部最大径が10cm前後と小型品が目立つ。67・68は器面のミガキが認められない粗製品である。口縁部が欠損しており形態が不明である。68はＰ類であろうか。69はＰ類に分類されるやや長めの頸部を持つ小型壺で、体部中央が張り出すソロバン玉のような形態を呈する。ほぼ完全に復元された。高坏（70～84）はほとんどがＧ類で占められ、Ｆ類は１点（82）を図示するにとどまる。Ｇ類は中央部がやや膨らむ脚部形態のものが目に付く。この形態のものは、完形品に近いものが４点（70～73）出土したほかにも、脚部破片で３点あり、それらがほぼ同一形態をもつという非常に一括性の高い遺物群である。高坏についてはこのほかに、坏・脚部ともに有段形状を呈する大型高坏（83・84）が出土している。これらの遺物は、高坏の形態からみて下割Ⅲ期の所産と思われる。

03SX165（85～87）　出土遺物は全て覆土中からの出土である。全体の90％を甕が占め、ほかに高坏、鉢、器台などが少量みられる。このうち、甕Ａ類２点（85・86）、高坏１点（87）を図示した。85は口頸部が若干「コ」字状に外反し、口縁部はわずかに面取りされる。87の高坏は形態不明で分類し得ない。脚部形態は底部に向かって外反し、透孔が３個均等に穿たれる。出土遺物の時期は、下割Ⅱ期に位置付けられよう。

03SX1317（88～111）　覆土中から2000点前後と多量の遺物破片が得られ、そのほとんど（98％）が甕破片で占められる。Ｇ類が非常に多い（甕出土量の20％）のが特徴で、破片中に少なくとも底部破片７個体、口縁部破片11個体を確認し、口縁部については全て掲載した。甕のほかには壺、高坏、器台、

鉢などが少量出土し、装飾器台といった特徴的なものもみられる。以下、器種ごとに、掲載したものを中心に説明を記す。

甕は前述のＧ類のほかに、Ａ類に属するものが出土している（88～94）。単純口縁のものが主体をなす一方で、88のような前代の影響を色濃く残す、口縁部が面取りされ口縁端部がわずかに上方に摘み上げられるものも存在する。Ｇ類（95～107）は口頸部が「く」字状に屈曲する器形であるが、口頸部が外反しながら立ち上がるもの（97・98など）と、直線的、あるいは口縁部がわずかに内彎するかたちで立ち上がるもの（96・99・104など）の２種類が認められる。胎土にもやや砂っぽく硬質に焼き上がるものと、粉質できめ細かく砂粒を多く含むものの２種類がみられるが、一見した限り両者とも在地の胎土である。タタキ目は体部に限定され、頸部にかかるものは皆無である。中には体部をタタキ締めた後に口頸部を製作したとみられる個体も認められ（96・97・99など）、製作技法に興味を覚える。107では底部付近にタタキ目が認められる。

器台は、いわゆる装飾器台の範疇に含まれるＤ類１点（110）、Ｈ類１点（111）が出土している。110は器受部に直径５㎜程度の円孔が等間隔で穿たれ、その数は復元すれば８個と推定される。器面の調整は器受部外面のみヘラミガキが施される。脚部はヘラケズリのままであるが、表面の化粧土が剥落している可能性もある。その脚部には透孔が３個均等に穿たれる。

甕Ｇ類や器台Ｄ類といった特徴的な出土遺物の編年的位置付けや、弥生時代後期に系譜を辿れる甕（88）などの存在から、出土遺物の時期は下割Ⅰ期とする。

03SX1318（112～121）　覆土中から甕を主体とする土器が出土している。甕の出土量は全体の80％強、次に高坏が10％と続き、残る10％を壺、鉢、蓋などが占める。以下、器種ごとに図版に掲載したものを中心に説明を記す。

甕はＡ類（112・113）と少量のＧ類（114～116）で占められるが、図示し得たのはＧ類の方が多い。Ａ類は口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、口縁端部の面取りされたものは皆無である。Ｇ類には口縁端部が内側にわずかに肥厚する、布留甕を意識したかのような形態のものがあり（116）、本遺跡ではほかに例をみないものである。体部と口頸部の接合はやや粗雑で、体部のタタキ目が口頸部に潜り込むという03SX1317出土品と同様の製作技法が採られるものである。なお、胎土はやはり在地品と同質のものが用いられている。壺はＨ類を１点図示し得た（117）。口縁部の段は形骸化しておらず、古墳時代前期でも古相を呈するものである。蓋は残存率の良好なＡ類２個体（118・119）が得られた。118は直径約10cm、119は直径約14cmで外面はヘラミガキされる。高坏（120・121）は２点ともＦ類で、脚部には透孔が３個均等に穿たれる。胎土には精製されたきめ細かいものが用いられる。遺物はその形態からみて、下割Ⅰ期の所産と思われる。

03SX1322（122）　出土遺物は少量で、大半は覆土２層中から出土した。全体の90％強は甕（Ａ類）で、基本的には破砕した同一個体である。図示したのはその甕（122）で、口径30cm、器高33cmを測る大型品である。口頸部は「く」字状に屈曲し、口縁端部は面取りされる。体部は中位に最大径を持ち、球体状を呈する。このほかには壺と鉢の小片が若干量出土したが、いずれも図示し得るものではない。122の時期は、下割Ⅱ期に位置付ける。

03旧河川１（123～245）

覆土中から大量の遺物が出土している。覆土は上・中・下層に大別されるが、当該期の遺物は中層以下で出土し、更にその90％以上が中層に集中する。出土地点としては、河道が東西方向に流れている部分

に遺物の出土がみられ、グリッドとしては、4Fを中心に遺物の集中が認められる。器種別では、遺構と同じく甕の出土量が全体の82％と他を凌駕しており、壺（12％）、高坏（4％）がそれに続く。このほかにも、器台、鉢、蓋などが少量出土している。以下、出土層位、器種ごとに説明を記す。

中層出土土器（123～229）　甕はA・B・E・F・G・H類という、形態的にも時期的にも幅広い遺物が出土している。A類が大半を占め、少ないながらもG類が一定量含まれる。このほかE類、F類、H類といった外来系の器種は遺跡全体としても出土が稀少なものである。A類には123・124・146といった前代の影響を色濃く残すものをはじめ、口縁部が面取りされるものが一定量存在する。体部形態が不明なものが多く断定し得ないが、これらのものは体部もあまり球体化の進まないものとみられ、下割Ⅰ期の所産と思われる。同時期のものとしては、ほかにB類（131・132）、E類（129）、G類（139～142）が挙げられる。129は胎土に金雲母が含まれ、器壁は非常に薄い。図示したもののほかにも体部や脚台の破片が中層より出土している。G類は他の遺構で出土したものと同じく、胎土は在地品と同様のものが用いられ、口頸部形態にはいくつかのバリエーションが認められる。タタキ具に関しても、条痕の間隔が広いもの（141）と狭いもの（140）の最低２種類が認められる。タタキ具の痕跡は体部上半に限定され、下半はハケ調整のみとされるようである。一方、A類の大型品（143～147）を中心とするもの、F類（130）、H類（133～138）は下割Ⅱ期に比定されるものである。A類とした146は体部にヘラケズリが施されるという、ほかのA類にはみられない特徴を有する。F類は7Fから１点出土したのみで（130）、口縁部形態から下割Ⅱ期と思われる。H類も03旧河川１のほかには03SX80に１点（55）みられるのみである。135は器壁も薄く、胎土には金雲母が含まれる。体部の調整はタテハケの後、肩部にヨコハケが加えられる。内面はヘラケズリがなされる。こういった特徴から搬入品の可能性が極めて高いと言えよう。このほかのH類に関しては、口縁端部の肥厚がほとんどみられないものの存在（137）、体部のハケ調整に斉一性が認められないなどの点からその出自は不明である。時期的にはH類総体としては下割Ⅱ期段階に併行するものと思われる。

壺は在地の系譜であるA・B・H類に加え、外来系のM・N・P類、類別不可能なものとして山陰系のもの（158）などがみられる。出土量的に主体を占めるのはA類（153～156）である。いずれも口頸部の屈曲は明瞭で、頸部はやや長めのものが目立つ。体部形態はほとんど不明であるが、B類（157）とともにやや下膨れのものが確認されている。H類（148～152）では口縁段部の明確なもの（148・151）とそうでないもの（150・152）、頸部の長いもの（148・152）と短いもの（149～151）など、細部形態のバリエーションが豊富である。149はK類とするのが適当かもしれない。N類（159～163）の出土は少ないが、器面の調整はいずれも丁寧なヘラミガキが施され、160・163は外面及び口頸部内面が赤彩される。体部は球体状を呈する。159は口縁部下端に円形刺突が巡り、赤彩は認められない。M類は遺構からの出土をみなかったものであるが、ここでは複数個体が確認されている（164～167）。164・165・167は縁帯状の口縁部に２個一組の棒状浮文が貼り付けられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。また東海系の壺としては、パレス系統（赤彩なし）の壺が１点出土している（166）。肩部には突帯が貼り付けられ、意匠として刺突や刻みが施される。P類は、良好な残存状況を呈するものが多く出土した結果、図版上ではやや目立つ存在となっている（168～173）。胎土は供献土器に通じる精製されたきめ細かいものが用いられ、焼成は硬質である。171を除き赤彩される。このほか168もP類の可能性がある。時期的には幅広いものが出土している。壺総体として概観すれば、下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期あたりとなろうか。

高坏はＦ類（175～183）を主体に、Ｇ類（185～187）が一定量出土し、Ｂ類が１点（184）みられる。在地の系譜である北陸系の高坏は基本的に存在しないが、弥生時代後期法仏式期のものが１点みられる（174）。174は口縁部が水平に近く外反する器形の高坏で、内面にはＳ字と刺突を組み合わせたスタンプ文が巡らされる。また192は台付甕の脚部である可能性が考えられるが、台付甕自体、本遺跡ではＳ字甕以外には存在しないため高坏として扱った。高坏全般として、胎土は精製されたきめ細かいものが用いられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。赤彩されるものは少なく、３点のみ図示した（184・188・193）。高坏の時期は壺と同じく下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期となる。

器台はＨ類（194～201）を主体として、東海系小型器台Ｇ類（202・203）、在地の系譜であるＦ類（205・206）、装飾器台Ｃ類（207～209）・Ｄ類（204）が一定量含まれる。Ｈ類には、口縁端部が面取りされるものが２点みられるが（195・196）、そのほかは単純口縁である。基本的には装飾器台を除き、小型器台で占められる。胎土は精製されたきめ細かいものが用いられ、器面調整は丁寧なヘラミガキが施される。器台の時期は、他器種と同じく下割Ⅱ期段階のものを中心に、上限は下割Ⅰ期に収まる。

小型品については図示し得る個体が多数出土している（210～229）。鉢Ｅ・Ｇ・Ｈ・Ｉ類、小型丸底坩である壺Ｏ類などがみられるが、分類したものも含め、既存の分類に当てはまらないものが数多く存在する。また、細片としては鉢Ａ類も存在する。鉢の器形として最も多くみられるのは球体あるいは小径の底部をもった短頸のもので、大半がミガキ調整を施される。有段のものは１点とわずかである（218）。212・213は器面のミガキが認められない粗製品で、口縁部が欠損しているため形態が不明であるが、残存部の形態から壺Ｌ類の可能性がある。227・229は平底状の鉢であるが、椀というべきものかも知れない。口縁端部は面取りされ、体部外面はヘラミガキが施される。これらの時期は、他器種と同じく下割Ⅱ期が主体をなしていると考えられる。

下層出土土器（230～238）　図示し得たものは壺５点（230～234）、蓋１点（235）、高坏１点（236）、鉢２点（237・238）と少ない。甕はＡ類とＧ類を中心に破片が多数出土しているが、図示し得るものはない。以下、器種ごとに説明を記す。壺は弥生時代後期に比定されるものが３点（230・232・233）存在する。また、中層のものとは別に東海系パレス壺が１点（231）出土している。肩部には櫛状工具による波状文が巡る。このほかには、Ｐ類１点（234）が出土している。蓋Ａ類（235）はほぼ完形に近いものであるが、器面は摩耗しており調整は不明である。高坏Ｂ類（236）は浅い椀状を呈する坏部に在地の流れを汲むやや幅の広い脚部がつくもので、基本的には東海系高坏の影響を受けたものと考えられる。鉢はＡ類（237）とＨ類（238）各１点を図示したが、下層にはほかに鉢の破片はほとんどみられない。237は器壁がやや厚く外面底部のヘラケズリは雑である。下層の遺物は下割Ⅰ期を下限とする時期のものが確実に存在するものの、総体的に見て、中層出土のものと明確な時間差があるとは断定し得ない。

層位不明土器（239～245）　旧河川で出土したもののうち、層位不明ではあるが図示し得るものを提示した。ここで目を引くのは壺Ｏ類３点（241～243）で、いずれも胎土、仕上げともに精製されたものである。時期は下割Ⅱ期に併行するものであろう。

2）木　製　品（図版42～45・78～80）

木製品は全て遺構から出土し、そのうちのほとんどが03旧河川１からである。03旧河川１出土以外の木製品は、03SB001の礎板（246・247）と03P1323出土の柱根（248）である。

03SB001（246・247）

完形の礎板２点を図示した（246・247）。出土した礎板は全て柱根が当たる部分が加工されて、方形の凹みが作出される。その当たり部分の大きさから、柱は約15cm四方と類推される。礎板は柱穴10基中９基で確認できたが、分析の結果、樹種は全てオニグルミであった（第Ⅵ章）。246には中央縦方向に溝が確認でき、他の部材から転用された可能性がある。時期は03SB001と同じ下割Ⅱ期である。

上越市一之口遺跡西地区でも古墳時代の掘立柱建物から礎板が出土している［坂井ほか前掲］。その礎板は柱根が置かれる面が平坦に成形されており、246・247とは形態が異なる。

03P1323（248）

248は柱根と思われ、下端が尖る。

03旧河川１（249～271）

中層・下層から多くの木製品が出土している。遺跡出土木製品のほとんどが03旧河川１から出土したもので、その大部分が破損して器種・用途を明確にできない。これらの木製品は03旧河川１出土土器の年代から、おおむね下割Ⅰ～Ⅱ期の所産と思われる。以下では、層位ごとに記述する。

中層出土木製品（249～265）　249は中央が円形に凹み、線条痕が認められる。底板の可能性がある。250は横方向に４条の溝が作出される板状の部材である。251は面取りされ、棒状を呈する。断面は円形に近い。252は正裏面に２か所ずつ孔が穿たれる棒状の部材である。253は円周に沿って１条の溝が設けられる。円周の端部は削られ、丸く仕上げられる。254は柄を削り出し、先端が板状に加工されている。先端部には穿孔の痕跡が残る。255には、図示したもののほか破片がいくつか確認できたが、接合はしなかった。復元すると幅約12cm、長さ34cm以上になる。上端には両側から把手状にやや大きめの孔が設けられ、裏面は若干反る。256は杭で、10面の面取りが確認できる。257の上端はＶ字状に加工され、下端は尖る。258は弓か魚取網の柄と思われる。枝状の自然木の先端に加工が施される。259は棒状を呈し、両端に抉りがある。260の上端はほぞ状に加工される。261は槽と呼ばれる容器で、底面に削り出しの脚がある。262・263は箱状木製品の側板である。側板の小口を斜めに削り、穿孔し、紐を通し箱状に接合すると思われる。264は板状を呈し、下端に孔が設けられる。265は下端部が両側面から斜めに切り取られ、線条痕が認められる。

下層出土木製品（266～268）　266は自然木の先端のみが球状に加工される。267には径約1cmの孔が等間隔に穿たれる。268は板材の先端を尖らせ、裏面はゆるく凹む。

層位不明木製品（269～271）　269は254と形態が共通し、先端に穿孔の痕跡が残る。270は262・263と同様の箱状木製品の側板で、下端を欠損する。271は40cm×35cmの板材の四辺に４か所ずつ穿孔が確認できる。田下駄であろうか。

C　包含層出土の遺物（図版46・81）

包含層出土の遺物には土師器と石製品がある。土師器は出土層位に分けたうえで、器種ごとに掲載した。器種は甕・壺・高坏・器台・鉢がある。

1）土　師　器（図版46・81）

Ⅸ１層出土（272～291）　甕はＡ類にほぼ限定できる（272～279）。器面の風化が著しく調整を窺い知るものは少ないが、272の外面には縦方向のハケ調整が施される。そのほかはナデが施されるものが多

い。時期については、下割Ⅱ期のものがほとんどである。壺は282がＫ類に、283がＭ類に分類できるほかはＨ類である。283の口縁にはボタン状貼付文が付され、内外面はナデが施される。Ｈ類の口縁有段部は、稜が不鮮明な傾向にあり、内面の段もほとんど確認できない（280）。282は口縁端部に向かい大きく開く器形になる。高坏はＧ類を１点図示した（284）。坏部外面下位には不鮮明な稜をもち、脚部はほぼ直線的に伸びると思われる。器台はＧ類（286）とＨ類（285・287～289）が確認できる。290は不明である。286は受け部が有段で、脚部には波状文と横位沈線が施される。291は鉢Ａ類で時期は明確にし得ない。Ⅸ１層出土土器は、各器種とも、下割Ⅱ期の所産が多くⅠ期の所産は少ない。

Ⅸ２層出土（292～315）　甕は298がＢ類である以外はＡ類にほぼ限定できる。292の口縁端部は上方につまみ上げられ、面をもつ。298の口縁は有段で、端部は丸くおさめられる。292・298とも下割Ⅰ期の所産である。壺はＭ類（306）とＨ類（299～305）が確認できる。306の口縁には２個一対で、やや幅広の棒状浮文が付される。下割Ⅰ期の所産である。303～305は口縁内面の段が不明瞭で、口縁端部に向かい大きく開く器形になる。おおむね下割Ⅱ期に併行しよう。307は山陰系の有段口縁壺である。外面の稜は比較的明瞭で、口縁部は直立する。蓋は１点図示した（308）。Ａ類と思われる。高坏はＧ類を２点図示した（309・310）。309は坏部外面下位に不鮮明な稜をもち、310の内面には輪積み痕が残る。309・310ともに下割Ⅱ期の所産である。器台はＨ類（311・312）が確認でき、313～315は不明である。311・315は内外面とも赤彩される。Ⅸ２層出土土器は、各器種とも、下割Ⅱ期の所産が主体的ではあるが、Ⅰ期の所産も一定量確認できる。

2）石　製　品（図版46・81）

石製品は２点出土した。316は管玉で、8H15から出土した。周辺には03SB002や03SD71が位置する。法量は長さ2.52cm、幅0.92cm、孔径0.37～0.40cm、重さ2.76gで、石材は凝灰岩である。両端から穿孔される。317は勾玉の未成品と思われるもので、10G6から出土した。周辺には03SD81が位置する。法量は長さ4.46cm、幅1.81cm、厚さ1.18cm、重さ16.95gで、石材は滑石である。裏面に比較的平坦な面を持つことなどから、本来は紡錘車として使用されたものと思われる。使用の結果破損した紡錘車を、勾玉に転用しようとしたものと思われる。表面に稜が残る。下割Ⅲ期所産の可能性がある。

第Ⅴ章　中世の調査

1　遺構各説

ここでは、今年度検出したＡ地区の中世の遺構も合わせて記述する。それらは、03SE72・82・94・104・108・109・110・111・113、03SK84・150、03P85・86・89・95・96・97・98・99・101・112・114・115・116・117・162・163であるが、昨年度調査した遺構と同一遺構と判断されるものがある。すなわち、03SE104はP41、03SE108はSK209、03SE109はSK227、03SE111はP500とそれぞれ同一遺構で、性格は井戸である。以下の説明では昨年度の遺構番号を用いることにする。なおＡ区検出の03SX164は古代の遺構で、20K・21Kに位置する土坑やピットも古代の遺構である可能性がある。

Ａ地区の中世の遺構数は今年度調査分も含め、掘立柱建物14棟、土坑53基、井戸33基、溝26条、ピット423基となる。

A　掘立柱建物（図版23～31・65・66）

掘立柱建物は9棟確認できた。昨年度の調査では、比較的大型の掘立柱建物と小型の掘立柱建物が確認できたが、今年度の調査でもこの傾向が確認できた。03SB003～010が大型の建物で、03SB011が小型の建物である。これらの掘立柱建物はSD51・282・03SD1278・1285に囲まれた11G・11I・10J・11Kに集中しており、建物の主軸はこれらの溝と平行ないし直交する関係にある。また柱根の遺存する柱穴も確認できる。周辺に位置する遺構や昨年度調査した掘立柱建物と形態・規模がほぼ共通することから、中世の掘立柱建物と判断する。

03SB003　10K、11J、11Kに位置する。桁行3間（6.3m）×梁行1間（3.5m）の掘立柱建物である。方向はN－18°－Eを向きSD52と平行する。面積は22.1m^{2}である。柱間寸法は約1.8～2.3mで、柱穴は径約27～72cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20～60cmを測る。03P1139・1167の覆土にはⅤ2層が含まれる。03SB004と重複する。

03SB004　10K、11Kに位置する。桁行3間（6.5m）×梁行1間（3.6m）の掘立柱建物である。方向はN－20°－Eを向きSD52と平行する。面積は23.4m^{2}である。柱間寸法は約2～2.6mで、柱穴は径約28～42cmの円形や楕円形を呈し、深さは約15～53cmを測る。03P1152・1159の覆土にはⅤ2層が含まれる。03SB003と重複する。

03SB005　11G、11Hに位置する。桁行3間（6.1m）×梁行1間（2.4m）の掘立柱建物である。方向はN－68°－Wを向きSD52と直交する。面積は14.6m^{2}である。柱間寸法は約2～2.2mで、柱穴は径約31～47cmの円形や楕円形を呈し、深さは約24～53cmを測る。03P1054・1077には柱根が遺存し、03P1054の覆土にはⅤ2層が含まれる。03SB006と重複する。

03SB006　11G、11Hに位置する。桁行3間（5.9m）×梁行1間（3.0m）の掘立柱建物である。方向はN－19°－Eを向きSD52と平行する。面積は17.7m^{2}である。柱間寸法は約1.8～2.3mで、柱穴は径約30～48cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20～79cmを測る。03P1017・1040・1058・1070

には柱根が遺存し、03P1017・1040の覆土にはⅤ２層が含まれる。03SB005・007と重複する。

03SB007　11Gに位置する。桁行３間（5.3m）×梁行１間（2.4m）の掘立柱建物である。方向はN－69°－Wを向きSD52と直交する。面積は12.7m²である。柱間寸法は約1.6～2.1mで、柱穴は径約25～53cmの円形や楕円形を呈し、深さは約20～69cmを測る。03P1056・1111には柱根が遺存し、03P1001・1004・1009の覆土にはⅤ２層が含まれる。03SB006と重複する。

03SB008　10I、10J、11Jに位置する。桁行３間（8.0m）×梁行１間（3.3m）の掘立柱建物である。方向はN－24°－Eを向きSD52と平行する。面積は26.4m²である。柱間寸法は約2.1～3.5mで、柱穴は径約29～61cmの円形や楕円形を呈し、深さは約26～85cmを測る。03P1163の覆土にはⅤ２層が含まれる。03SB009と重複する。

03SB009　10I、10J、11I、11Jに位置する。北東側の柱穴は暗渠によって壊されていると思われることから、桁行３間（6.0m）×梁行１間（3.3m）の掘立柱建物と判断した。方向はN－25°－Eを向きSD52と平行する。面積は19.8m²である。柱間寸法は約1.7～2.3mで、柱穴は径約33～36cmの円形や楕円形を呈し、深さは約21～37cmを測る。03SB008と重複する。

03SB010　11H、11Iに位置する。北東側の柱穴は暗渠によって壊されていると思われる。また桁行２間×梁行１間の掘立柱建物とするには、本遺跡検出の桁行２間×梁行１間の掘立柱建物よりも規模が大きいことから、桁行３間（復元で7.7m）×梁行１間（3.8m）の掘立柱建物と判断した。方向はN－17°－Eを向きSD52と平行する。面積は復元で29.3m²である。柱間寸法は約2.4～2.8mで、柱穴は径約27～65cmの円形や楕円形を呈し、深さは約23～67cmを測る。03P1086・1185・1240の覆土にはⅤ２層が含まれる。

03SB011　10I、11Iに位置する。桁行２間（2.0m）×梁行１間（1.7m）の掘立柱建物である。方向はN－74°－Wを向きSD52と直交する。面積は3.4m²である。柱間寸法は約0.9～1.2mで、柱穴は径約24～37cmの円形や楕円形を呈し、深さは約25～52cmを測る。03P1181・1222・1223の覆土にはⅤ２層が含まれる。

B　井　　戸（図版31～33・66～70）

井戸は全部で16基あり、全て素掘りである。比較的小型のものが多く、昨年度調査したSE210のように径が150cmを超える井戸は確認できなかった。また井戸の分布は、A地区では4H周辺に、B地区では10I周辺に偏在する傾向にある。昨年度の調査でも、4Hや5Hの周辺に掘立柱建物や井戸が多く分布する傾向が確認された。B地区でも10I・11I周辺には掘立柱建物が多く位置する傾向にある。周辺の遺構や出土遺物から中世の井戸と判断する。

P41　3H14に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径76cm、深さ57cmを測る。覆土は灰色系粘質土である。

SK209　4H14・15に位置する井戸で、平面形は方形に近い。断面形は台形状で、規模は長さ65cm、幅60cm、深さ27cmを測る。覆土は３層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。出土遺物は木製品（327・328・箸）である。327・328は覆土上位から出土した。

SK227　5H1・6に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状にちかく、規模は長径61cm、短径48cm、深さ62cmを測る。覆土は暗オリーブ灰色粘質土である。出土遺物は木製品（曲物の底板）で、底面近くから出土した。

P500　5G21、5H1に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径70cm、深さ74cmを測る。覆土は5層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。昨年度の調査では瀬戸美濃が出土した。

03SE72　9H7・12に位置する円形の井戸である。断面形は袋状に近く、規模は径83cm、深さ71cmを測る。覆土は6層に分層でき、1層は暗褐色粘質土、2～6層は灰色系粘質土である。2～5層は褐色粘質土を多く含む。出土遺物は木製品（329）で、底面から出土した。

03SE82　8F25に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径72cm、短径62cm、深さ63cmを測る。覆土は5層に分層でき、2・3層は黒褐色粘質土、1・4・5層は褐色系粘質土である。

03SE94　4H19・24に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径73cm、短径61cm、深さ69cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも灰色系粘質土である。特に3層は円礫を多く含む。水の濾過を意図したものであろうか。出土遺物は木製品（330）で、覆土下層から出土した。

03SE110　4G24に位置する楕円形の井戸である。断面形は袋状に近く、規模は長径74cm、短径68cm、深さ84cmを測る。覆土は4層に分層でき、1～3層は灰色系粘質土、4層は灰オリーブ粘質土である。出土遺物は木製品（331・332・箸）である。いずれも覆土3層と4層の間くらいから出土した。

03SE113　4H4・5・9・10に位置する楕円形の井戸である。断面形は半円状で、規模は長径176cm、短径173cm、深さ55cmを測る。覆土は5層に分層でき、1～3・5層は灰色系粘質土、4層は褐灰色粘質土である。出土遺物は木製品（333・箸）で、覆土下層から出土した。

03SE1117　10K9に位置する楕円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径70cm、短径66cm、深さ139cmを測る。覆土は6層に分層でき、1・5層は灰色系粘質土、2～4・6層は黒色系粘質土である。2・4層は炭化物を、6層は腐植物（松葉）を多量に含む。出土遺物は土師質土器（318）や珠洲焼（319～321・甕）で、覆土1・2層からの出土が多い。

03SE1176　11I21に位置する楕円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径88cm、短径62cm、深さ76cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系粘質土である。出土遺物は木製品（曲物）で、底面より出土した。

03SE1193　11J2に位置する楕円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径94cm、短径84cm、深さ134cmを測る。覆土は6層に分層でき、4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。2層は炭化物をやや多く含む。出土遺物は珠洲焼（322・323・甕）で、覆土1・2層から出土した。

03SE1227　10I23に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は径96cm、深さ95cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、Ⅴ2層を含む。

03SE1245　10I20に位置する楕円形の井戸である。断面形はフラスコ状で、規模は長径110cm、短径84cm、深さ130cmを測る。覆土は5層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、炭化物を含む。特に5層は炭化物を多量に含む。出土遺物は木製品（334～336）である。

03SE1263　10I25に位置する楕円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径90cm、短径82cm、深さ170cmを測る。覆土は9層に分層でき、いずれも黒色粘質土である。2層は炭化物をやや多く含み、4・5層はⅤ2層をブロック状に含む。出土遺物は木製品（337・338）で、覆土下位から出土した。このほか、研磨具に転用された須恵器甕の破片も出土した。

03SE1272　11I19に位置する楕円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径86cm、短径74cm、深さ156cmを測る。覆土は8層に分層できる。4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。6層は炭化物をやや多く含む。

C　溝（図版22・70）

ここでは掘立柱建物や井戸を囲む区画溝について記述する。なお10Kに位置するSD51と11Fに位置するSD282は、昨年度調査した溝の延長であるため、同一の遺構名を付した。

03SD1278　13L～16Kに位置する。断面形は弧状で、立ち上がりは急斜度である。規模は全長40m、幅126cm、深さ32cmを測る。方向はN－75°－Wを指す。覆土は4層に分層でき、3層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。16Kで幅が広くなり03SD1285に合流する。昨年度調査した溝との位置関係は、SD282とは平行する。SD51とは直交し、南側調査区外で合流すると思われる。出土遺物は須恵器の坏・瓶類・甕（今池Ⅳ期頃）、灰釉陶器の皿（324）であるが、SD51・282や他遺構との関連から、03SD1278は中世の遺構と判断する。

03SD1285　16M～18Hに位置する。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。規模は全長56m、幅52cm、深さ23cmを測る。方向はN－24°－Wを指す。覆土は4層に分層でき、4層が灰色粘質土で、それ以外は黒色粘質土である。17K以北では直線的ではなくなり、幅も一定しない。18Hで03SD1308に切られる。出土遺物は須恵器の坏・甕・壺（今池Ⅳ期頃）などがある。いずれも古代の遺物ではあるが、03SD1278と合流することなどから、中世の遺構と判断する。

D　土坑・ピット（図版33・71）

ここでは遺物を掲載した遺構を扱う。出土遺物から中世の所産と判断するが、用途は明確にし得ない。

03SK150　7J20に位置する円形の土坑である。断面形は台形状で、規模は径74cm、深さ32cmを測る。覆土は3層に分層でき、1層は黒色粘質土で、2・3層は灰色系粘質土である。出土遺物は木製品（339・340）で、ともに覆土1層と2層の間から出土した。

03SK1204　10I18・23に位置する土坑で、平面形は方形ないし楕円形であろう。断面形は台形状で、規模は長さ73cm、深さ14cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色粘質土で、2・3層は炭化物を含む。出土遺物は土器（325・須恵器坏）である。

03P1018　11G15・20に位置する楕円形のピットである。断面形は台形状で、規模は長径45cm、短径41cm、深さ10cmを測る。覆土は黒色粘質土である。出土遺物は土師質土器（326）で、底面から正位で出土した。

2　遺　　物

ここでは中世の遺物を中心に扱い、記載は種別ごとに行う。編年などに関してはそれぞれ以下の各氏の論考に準拠する。土師質土器…品田高志氏［品田1997］、珠洲焼…吉岡康暢氏［吉岡1994］、瀬戸美濃…藤澤良祐氏［藤澤2002］、青磁…上田秀夫氏［上田1982］、中国染付…小野正敏氏［小野1982］、である。

A　遺構出土の遺物（図版47・48・82・83）

1）土器・陶磁器（図版47・82）

03SE1117（318～321）

318は手捏ね成形の土師質土器で、口縁端部が面取りされる。325・326に比べ口径が大きい。13世

紀後半頃の所産である。319～321は珠洲焼である。319は壺Ｒ種に分類でき、内外面に炭化物（スス）が付着する。320・321はⅢ期の片口鉢である。

03SE1193（322・323）

322・323はともに珠洲焼の片口鉢で、322はⅣ期の所産である。323にはやや太めの卸目が確認できる。

03SD1278（324）

324は灰釉陶器で、器種は皿であろうか。内底面には施釉されない。高台は貼り付けで、内端で接地し、断面は長方形を呈する。10世紀中葉頃の所産である。

03SK1204（325）

325は土師質土器の皿で、手捏ねで成形される。口縁端部は面取りされ、体部下半には不鮮明な稜が確認できる。14世紀の所産である。

03P1018（326）

326は手捏ね成形の土師質土器で、器種は皿である。体部下半には不鮮明な稜が確認できる。318・325に比べ身が浅い。14世紀の所産である。

2）木製品（図版47・48・82・83）

SK209（327・328）

匙を２点図示した。327は柄の部分が欠損し、身の部分を４分の３程度残している。328は、大きく曲がった柄が比較的浅く削られた細長い身に着く。柄の部分は折れているが、ほぼ完形である。

03SE72（329）

329は井戸の底から出土した曲物で、底板を欠損する。大きさから判断して、柄杓としての用途が考えられる。

03SE94（330）

330は覆土下層から出土した漆器皿である。外底面に削痕を残す。内外面には黒漆が塗布される。13世紀後半から14世紀前半に位置付ける［春日2001］。

03SE110（331・332）

331・332は覆土３・４層から出土した漆器皿で、外底面に削痕を残す。331は内面には赤漆、外面には黒漆が塗布される。14世紀前半に位置付ける［春日前掲］。332は内外面には黒漆が塗布され、外底面に「×」形の線条痕と刻痕がみられる。13世紀後半から14世紀前半に位置付ける［春日前掲］。

03SE113（333）

333は井戸底に近い覆土下層から出土した曲物で、底板も残る。側板に柄を通す孔があることから、柄杓としての用途が考えられる。

03SE1245（334～336）

334の板材は上面からみると反っており、容器の類であろう。335・336の箸は比較的よく面取りされ、特に335の断面は円形に近い。

03SE1263（337・338）

箸を２点図示した。338は上端の一部を欠損するものの、ほぼ完形である。

03SK150（339・340）

339は箱物の部材であろうか。線条痕が確認できる。340は杭で、下端はやや尖る。

03P1040（341）

341は03SB006の柱根で、下端は削られている。径を一定にするための加工であろう。

03P1077（342）

342は03SB005の柱根で、加工痕はあまり確認できない。

B　包含層出土の遺物（図版48・83）

1）土器・陶磁器（図版48・83）

343・344は珠洲焼の片口鉢で、344にはやや太めの卸目が確認できる。343はⅢ期、344はⅣ期の所産である。345は越前焼の擂鉢で、全体に風化が著しい。16世紀前半に位置付ける。346は被熱しており明確ではないが、瀬戸美濃の稜皿と思われる。16世紀代に位置付けておく。347は瀬戸美濃の卸皿で、口縁部の内外面に施釉される。断面には黒色付着物が認められ、漆継ぎの可能性がある。大窯第1～2段階の所産である。348は青磁の端反碗で、D類に分類できる。14世紀から15世紀前半の所産である。349は中国染付の皿で、体部に唐草文が施文される。B群Ⅶ類に分類できる。15世紀後半から16世紀前半の所産である。

2）石　製　品（図版48・83）

硯を1点図示する。350の外面形態は長方形を呈し、裏面は平坦である。側面は裏面から正面に向かって開くが、上端は残存状況が悪く不明である。内面に墨痕、側面には製作痕が残る。14世紀後半から15世紀後半頃の所産［水野1985］であろうか。

3）木　製　品（図版48・83）

上屋の部材を1点図示した（351）。351は中ほどにほぞ穴が確認できる。下端がⅤ2層（確認面）にわずかに刺さる形で出土した。掘り込みが確認できなかったため、包含層出土としたが、打ち込み式の柱根の可能性がないわけではない。昨年度の調査でも上屋の部材が柱に転用された例があり、その場合は掘り込みが確認できた。

4）金 属 製 品（図版48・83）

銭貨が全部で18枚出土した。このうち17枚の拓本を図示する。内訳は開元通宝1枚（352）、宋通元宝1枚（353）、淳化元宝1枚（354）、咸平元宝1枚（355）、天禧通宝2枚（356・357）、天聖元宝2枚（358・365）、皇宋通宝1枚（359）、嘉祐元宝1枚（360）、元豊通宝2枚（361・368）、元祐通宝2枚（362・366）、紹聖元宝1枚（363）、聖宋元宝1枚（364）、景徳元宝1枚（367）、である。11Kからの出土が多く、352～364が出土した。352の裏面上位には「一」状の記号が鋳出され、「背上月」［永井2002］に相当する。357の孔はずれて鋳込まれる。初鋳年は開元通宝の621年が最も古く、聖宋元宝の1101年が最新となる。352が唐銭のほかは北宋銭である。このほか無文銭が1枚出土した。写真のみ掲載しておくが、判読不能銭や摩滅銭の類ではない。

第Ⅵ章　木製品の樹種同定

1　はじめに

新潟県上越市に所在する下割遺跡は、飯田川左岸の自然堤防上から沖積低地付近に位置する。今回の発掘調査では、古墳時代の掘立柱建物跡や土坑、溝跡、飯田川の旧河川跡などが検出されており、出土した土器などから古墳時代前期と想定されている。これらの遺構のうち、古墳時代前期の掘立柱建物跡の柱穴内からは礎板、旧河川跡等からは当該期の杭や用途不明な木製品等も多数出土している。

本報告では、上記の掘立柱建物跡や旧河川跡より出土した木製品や、中世と考えられる木製品の樹種同定を行い、木材利用について検証する。また、本遺跡では、これまでにも主に中世の木製品等の分析調査を行い、柱材にはクリ、木製品にはスギが多く用いられる傾向を確認している。したがって、本報告ではこれらの調査成果とも比較・検討を行う。

2　試　　料

試料は、古墳時代前期の掘立柱建物跡の礎板や柱材、古墳時代前期の旧河川跡から出土した木製品、さらに、中世の遺構より出土した木製品の計42点である。

これらの樹種同定用試料の採取は、調査担当者と協議・検討を行い、採取部位を設定した。採取方法は以下の通りである。遺物に接合部や破損部がある場合には、年輪や遺存状況を考慮し、最大約５㎜角程度の木片を採取した。また、接合部のない試料については、腐植等による破損部や試料表面に面取りなど加工痕が認められない箇所を選択し、数㎜角の木片を採取した。259・335は、遺存状況が良好であり完形試料であったため、試料採取は各加工面に認められた木材の３断面（木口・柾目・板目）のうち、試料採取不可能な木口を除く柾目面と板目面より現地で剃刀を用いて切片の採取を行った。

3　分析方法

木片については、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製する。各切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

4　結　　果

試料は、針葉樹３種類（スギ・ヒノキ・イヌガヤ）と広葉樹８種類（オニグルミ・ブナ属・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・モクレン属・カエデ属・ニシキギ属・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）*Endlcher*）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１～３個。放射組織は単列、１～15細胞高。

イヌガヤ（*Cephalotaxus harringtonia*（Knight）K. Koch f.）　　イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部及び晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個。放射組織は単列、１～10細胞高。

オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana*（Maxim.）Kitamura）　　クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または２～４個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、１～４細胞幅、１～40細胞高。

ブナ属（*Fagus*）　　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～３個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性～異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１～４列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

モクレン属（*Magnolia*）　　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独及び２～４個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、１～２細胞幅、１～40細胞高。

カエデ属（*Acer*）　　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独及び２～３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

ニシキギ属（*Euonymus*）　　ニシキギ科

散孔材で、道管は小径、単独または２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道

管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

トネリコ属（*Fraxinus*）　　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

5　考　　察

試料は、古墳時代前期と中世の2時期の木製品である。古墳時代前期の掘立柱建物跡の柱穴内より検出された礎板は、全てオニグルミであった。オニグルミの木材は、重硬で強度が高い材質を有する種類であり、河川沿い等によくみられる種類である。試料の遺存状況が不良で、表面観察を十分に行えなかったことから、同一木材の利用についての可能性は判断できないが、礎板の大きさを考慮すると、1本のオニグルミから全ての礎板を製作することも可能である。試料の用途や遺跡近隣で容易に入手できるといった点から選択・利用されたと考えられる。

その他の古墳時代前期の木製品は、主として旧河川跡から出土している。これらは、杭や箱状木製品など多様であるが、木製品の大部分はスギであり、248（オニグルミ）、258・260（イヌガヤ）、255（カエデ属）で異なる樹種が確認されるのみである。したがって、当該期はスギ材を主として利用していた可能性があり、過去に本遺跡で実施した木製品の分析調査例と調和的な傾向と言える。また、木理が通直で割裂性が高く、板材や角材などへの加工が容易であるスギやヒノキ等の針葉樹材の利用は、国内各地で出土した木製品の調査事例にも認められている。木製品で多く認められたスギは、適湿地を好み沖積地や谷筋などによく生育する。また、現在でも北陸地方には天然スギが広く分布しており、一部では低地林を形成している。このことから、当該期には本遺跡周辺の谷筋や沖積地などにスギが生育していた可能性があり、これらを入手・利用していたと考えられる。

一方、柱根（248）にはオニグルミが利用されている。柱根も礎板と同様に頑強な材質を必要とすると考えられ、比較的強度のある木材としてオニグルミが利用された可能性がある。弓か魚取網の柄（258）に確認されたイヌガヤは、丸木弓の素材として最もよく利用される樹種の一つである［島地・伊東1988］。新潟県内では、千種遺跡で弥生時代タモ枠の素材としてハイイヌガヤの利用例が確認されている［亘理・山内1963］。杭（256）に認められたトネリコ属は、重硬で強度があり、建築や器具などの各種の用途に有用とされる種類である。なお、トネリコ属には、低地に生育するヤチダモ等が含まれるが、反貫目遺跡（中条町）では古墳時代前期と考えられるハンノキ亜属やトネリコ属の自然木の根材が確認されている（未公表資料）。これらの結果を考慮すると、本遺跡周辺の沖積低地に生育したトネリコ属等を利用した可能性がある。

中世と考えられる試料は、古墳時代前期の試料に比較してスギの利用は少ない。ただし、古墳時代前期の木製品と用途の異なる製品が多く、一概に比較はできない。加工時の割裂性を利用する板材や箸等にはスギが用いられており、古墳時代前期の木材利用と同様である。一方、スギ以外の樹種をみると、柱根に認められたクリは、強度や耐朽性に優れた材質を有する種類である。新潟県内では同時期の調査事例が少ないが、古墳時代～古代の柱材にはクリの利用が多く、本遺跡で実施した中世の柱材にもクリの利用が認

められている［越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社1992；パリノ・サーヴェイ株式会社1997・2000・2001・2002］。匙（327・328）に認められたモクレン属やニシキギ属は、硬さなど材質が異なるが、緻密で刳物などには適する種類である。漆器皿（330）に認められたコナラ節は、重硬で強度が高い材質を有する種類であり、ケヤキやクリなどの環孔材で漆器に認められる種類と同様の利用例と考えられる。杭（340）に認められたブナ属は、本遺跡周辺の山地にみられる落葉広葉樹林の主構成種であり、ろくろなどの素材としても利用される種類である。前回の分析調査ではブナ属は確認されておらず、本遺跡における利用状況については不明である。

本遺跡では、古墳時代～中世の木製品の分析調査から、当該期における木材利用の検証を行った。その結果、スギやオニグルミを主として利用する傾向が確認された。これらの木材の由来については、樹種や遺跡周辺の地形等から遺跡周辺に生育し、容易に入手可能である種類と推測される。ただし、当時の本遺跡周辺の古植生については、花粉分析等による調査を行っていない。今後は、これらの分析調査による検証や、本遺跡周辺における分析調査事例を蓄積し、当時の古植生と木材利用を総合的に捉えたいと考えている。

引用文献

越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社　1992　『越路町文化財報告書 第19輯 岩田遺跡出土遺物自然科学分析報告書』p33

パリノ・サーヴェイ株式会社　1997　「岩田遺跡第２次調査における自然科学分析調査報告」『越路町文化財報告書 第21輯 岩田遺跡 第２次発掘調査報告書』p18-25　越路町教育委員会

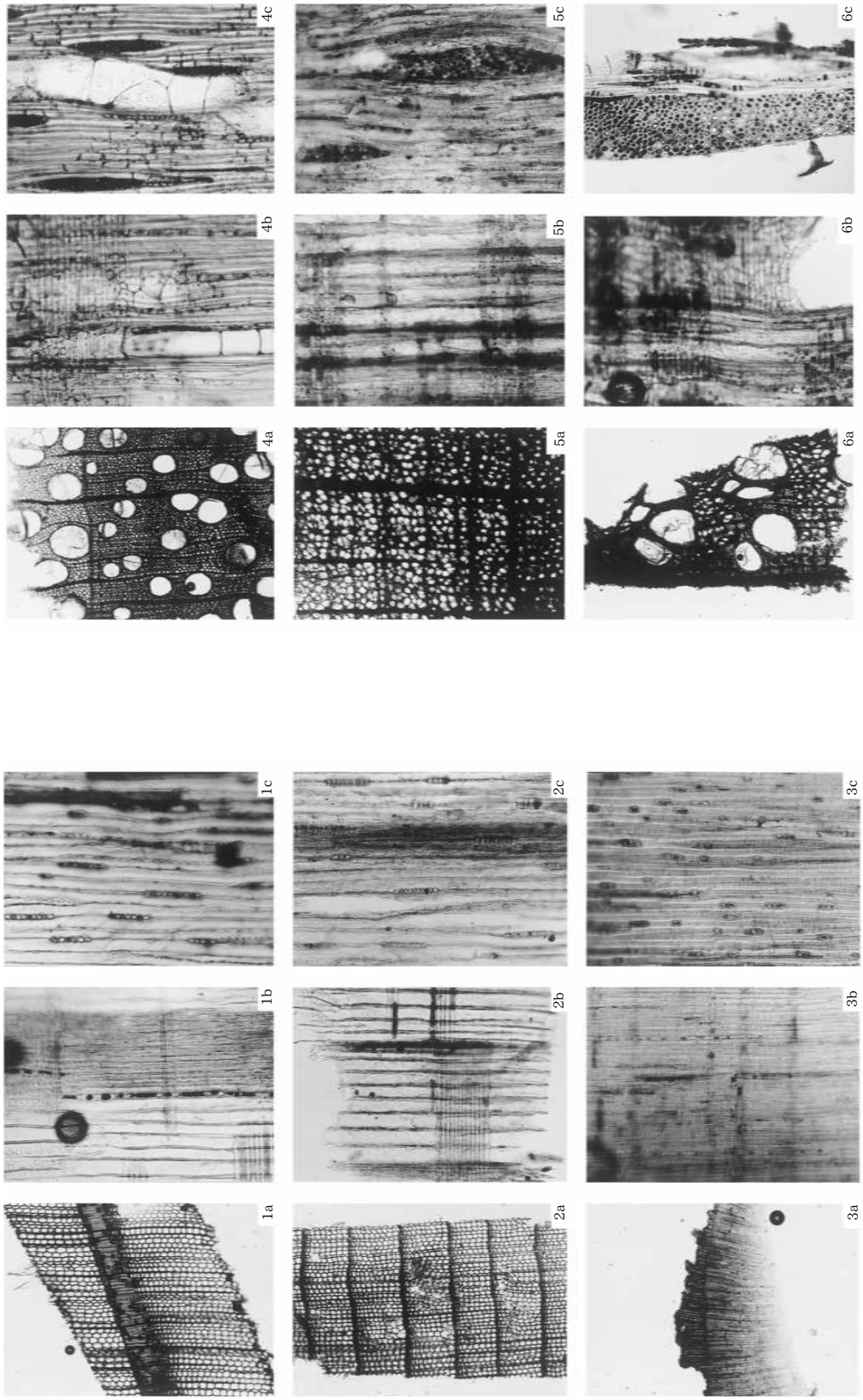
パリノ・サーヴェイ株式会社　2000　「自然科学分析」『吉田町文化財調査報告書 第５集 新潟県西蒲原郡吉田町 江添Ｃ遺跡 －吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』p206-213 吉田町教育委員会・山武考古学研究所

パリノ・サーヴェイ株式会社　2001　「三角田遺跡から出土した木材の樹種」『燕市埋蔵文化財発掘調査報告書 第１集 三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』p45-49　燕市教育委員会・吉田町教育委員会

パリノ・サーヴェイ株式会社　2002　「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 一般国道７号 中条バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』p45-59　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

島地　謙・伊東　隆夫（編）　1988　『日本の遺跡出土木製品総覧』296p　雄山閣

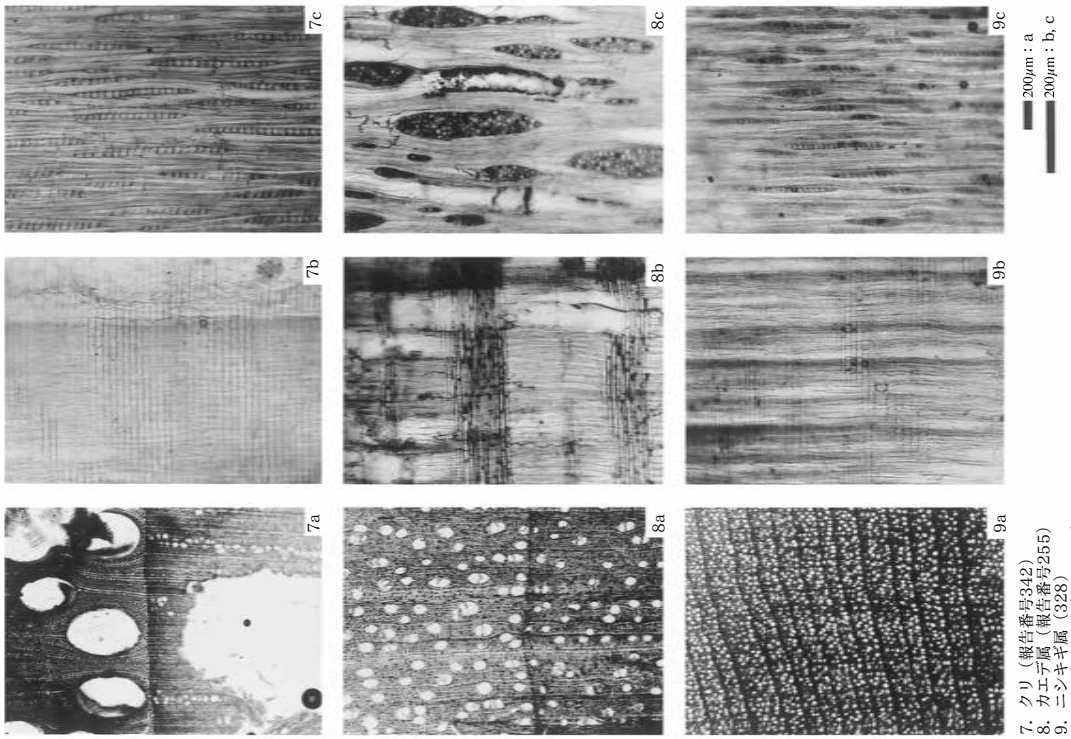
亘理　俊次・山内　文　1963　「千種出土の樹種」『新潟県文化財報告書 第１集 千種』 p77-81　新潟県教育委員会



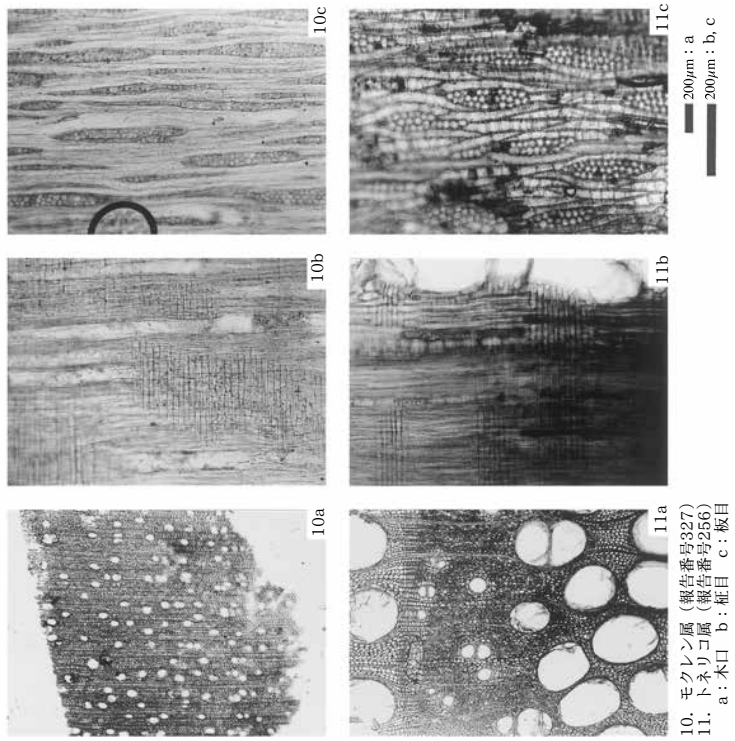
1. スギ（報告番号262）
2. ヒノキ（報告番号334）
3. イヌガヤ（報告番号260）
　a：木口　b：柾目　c：板目

4. オニグルミ（03P55磯板）
5. ブナ属（報告番号340）
6. コナラ属コナラ亜属コナラ節（報告番号330）
　a：木口　b：柾目　c：板目

第９図　検出樹種の顕微鏡写真（1）



7. クリ（報告番号342）
8. カエデ属（報告番号255）
9. ニシキギ属（328）
a：木口　b：柾目　c：板目



10. モクレン属（報告番号327）
11. トネリコ属（報告番号256）
a：木口　b：柾目　c：板目

第10図　検出樹種の顕微鏡写真（2）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　古墳時代の土師器

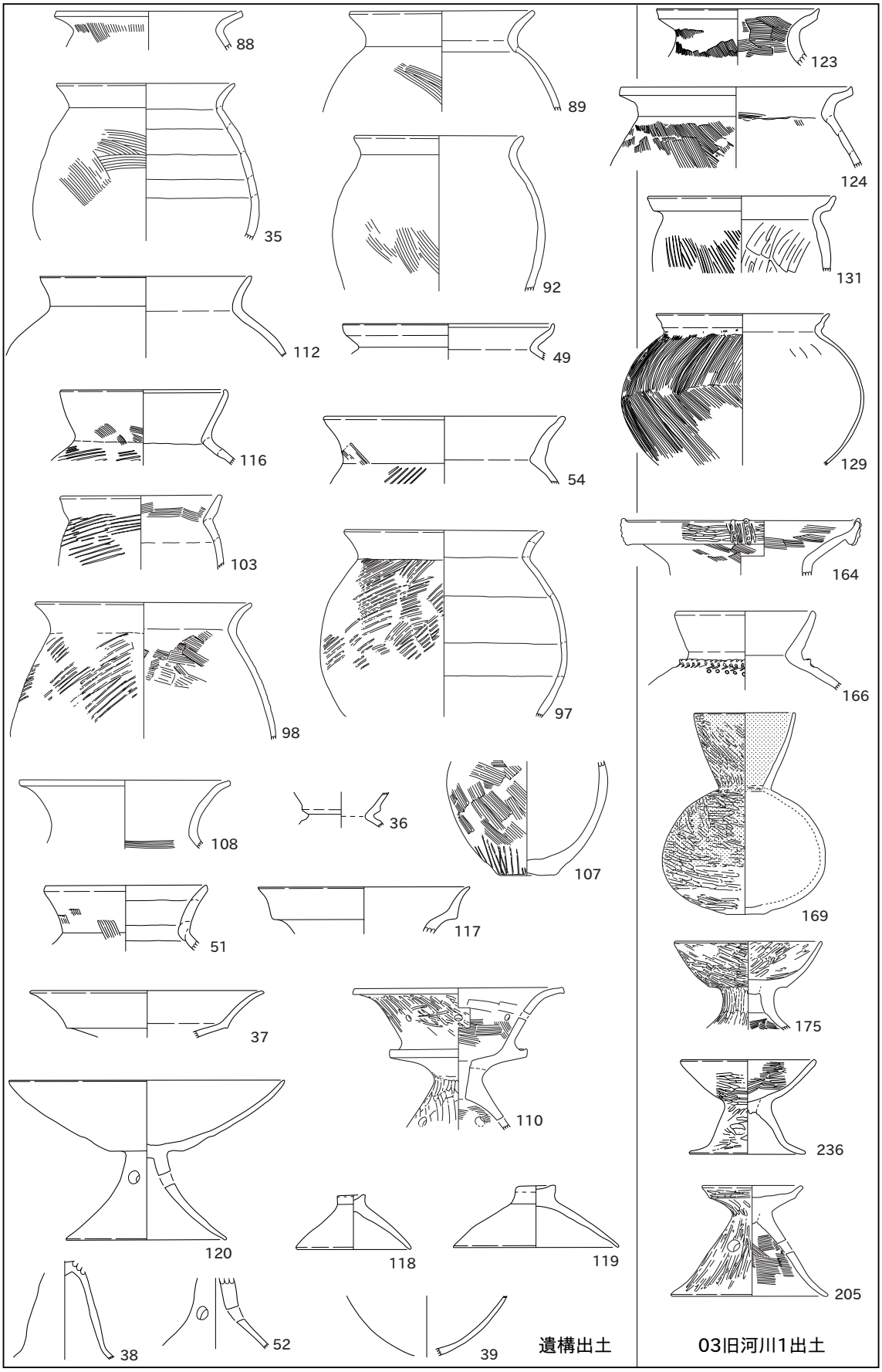
今回の調査では、当該期の土器が遺物収納用コンテナで約170箱分出土した。出土量としては多量の資料が得られたわけであるが、これらのうち03旧河川１出土のものが約83箱、遺構出土のものが約30箱、包含層から出土したものが約57箱と、03旧河川１出土も含め大半が遺構外のもので占められ、時期的に一括性の高い遺物が見込める遺構出土のものは少量であった。しかしながら、各遺構ともできるだけ図示し得る土器の抽出に努めた結果、ある程度、下割遺跡における古墳時代土器群の時間推移に対する器種形態の変遷を提示できたのではないかと考える。

第Ⅳ章で触れたように、出土した古墳時代の土器群は漆町遺跡土器編年との対比から、漆町５～７群併行期、同８～10（11）群併行期、同12～14群併行期と、３時期（Ⅰ～Ⅲ期）に大別されることが判明した。長期にわたって継続するような遺構が存在しないことや、遺構出土の遺物自体が少ないことなどから、本遺跡ではこれ以上の画期設定が必要、あるいは可能な状況にはないと考え、これ以上の細分化は行わなかった。また03旧河川１をはじめとして弥生時代後期の土器がわずかに出土したが、これらについてもかかる時代の遺構が検出されていないため、画期の設定は行っていない。ここでは、器種構成・器形の変化などについて各期ごとに所見を述べ、まとめとしたい。

下割Ⅰ期（漆町５～７群併行期）

03SK41、03SX50・52・75・77・1317・1318出土土器が挙げられる。器種構成は甕がＡ・Ｂ・Ｇ類（＋Ｅ類）、壺がＡ・Ｈ・Ｌ類（＋Ｍ・Ｐ類）、高坏がＣ・Ｆ類（＋Ｂ類）、器台がＤ・Ｈ類（＋Ｃ・Ｆ類）で、このほか蓋Ａ類、鉢などの小型品が伴う（括弧付きの器種は03旧河川1、包含層から出土したもので、それぞれの時期に伴う可能性が高いということで提示する）。

甕Ａ類は単純口縁のものが主体で、器壁は総じて薄手である。端部を面取りするものは03SX75・77・1318で図示し得ない小片が各１点ずつとわずかである。体部から口頸部の屈曲は明瞭で、内面の粘土接合面に沿って稜を形成するものが多い。口頸部の形態は、やや長めの頸部を有し直線的に立ち上がるもの（35・112など）と、頸部が短めで外反しながら立ち上がるもの（89・92など）に大別され、出土比率は前者の方がやや多い。小片も含めた観察では、前者の方が直立気味に立ち上がる印象を受けるが、後者と明確に区別し得るほどの差ではない。体部形態は残存するものが03SK41出土の１点（35）のみでこの時期の全体の様相は不明である。35は体部中位に最大幅をもつものであるが、球体化はそれほど進んではいない。03SX1317出土の88は口縁部が水平に近く開き、面取りされた口縁端部は上方にわずかに摘み上げられるといった、前代の形態的特徴を色濃く残すものである。また、図示し得るものではないが、03SX77の破片資料には口縁外面が縁帯状を呈する、川村氏のいう「付加状」口縁の甕［川村1993］が１点みられる。甕Ｂ類については03SX50出土の１点（49）のみである。弥生時代のものに比べ口縁部の段は形骸化しつつあるものの、形態的特徴は維持している。Ｇ類は新潟での出土例が稀であり、新潟における土器編年［笹澤2003］には長岡市横山遺跡［駒形ほか1987］１号環壕、上越市津倉田遺跡［笹澤ほか前掲］SK24、妙高村大洞原Ｃ遺跡［三ツ井ほか1997］などで各１点が提示されるに過ぎないが、これ



第11図　下割Ⅰ期の土師器

らについても漆町５～７群に併行する時期に位置付けられている。Ｇ類の口縁部形態は単純口縁が主体であるが、03SX1318には布留甕のように口縁端部が内面に肥厚するものが１点（116）、03SX75には面取りされる破片が１点みられる。面取りされるものは03旧河川１でも出土している（139）が、口縁端部の肥厚するものは03SX1318出土の１点のみ（116）で、特異である。また107のような小型品も他には見られない。口頸部の形態はＡ類と同様であるが、外反するものは少ない。体部形態については、球体状のものとやや細身のものがあるが、Ｇ類は総じて個々の形態差が大きく、そのこと自体が特徴とも言える。なお、図示し得る遺物が出土しなかった03SK76、SX80・1320・1321でもＧ類の小片が複数出土している。Ｅ類は03旧河川１中層に１個体分が出土しているのみである。

壺はＡ・Ｈ・Ｌ類のほかに、03旧河川１から出土したＭ・Ｐ類がみられるが、壺の出土量は非常に少ない。特にＬ類は03SK41出土の１点（36）のみである。また、図示し得なかった小片にはＣ類の可能性があるものが数点確認されている。Ｈ類は117や148といった、口縁部が直立気味で内外面とも段部が明瞭な前代の形態的特徴を色濃く残すものがみられる。

高坏は遺構からの出土が少ないため、遺構外出土のもので説明する。当該期の高坏は東海系またはその影響を受けたものが主体をなす。前代からの在地系譜としては、高坏Ｃ類が03SK41（37）で１点みられるほか、03SX52出土の器台脚部（52）にもその可能性がある。また、図示し得るものではないが、03SX77では弥生時代後期の北陸系高坏の小片が１点みられる。脚部形態で主体をなすのは、付け根部分がやや太く、途中で外反度を強めるものであるが、120のような末広がりに外反するものも少数みられる。

器台に関しては遺構からの出土がほとんどみられず、Ｃ・Ｄ・Ｆ・Ｈ類が確実に存在するということ以外はよくわからない。Ｈ類で口縁端部が面取りされるものは高坏と同じく太めの脚部をもつもので占められ、脚部形態から古相を呈する可能性があるが、03旧河川１出土と、一括性に欠ける資料であり想像の域を出るものではない。

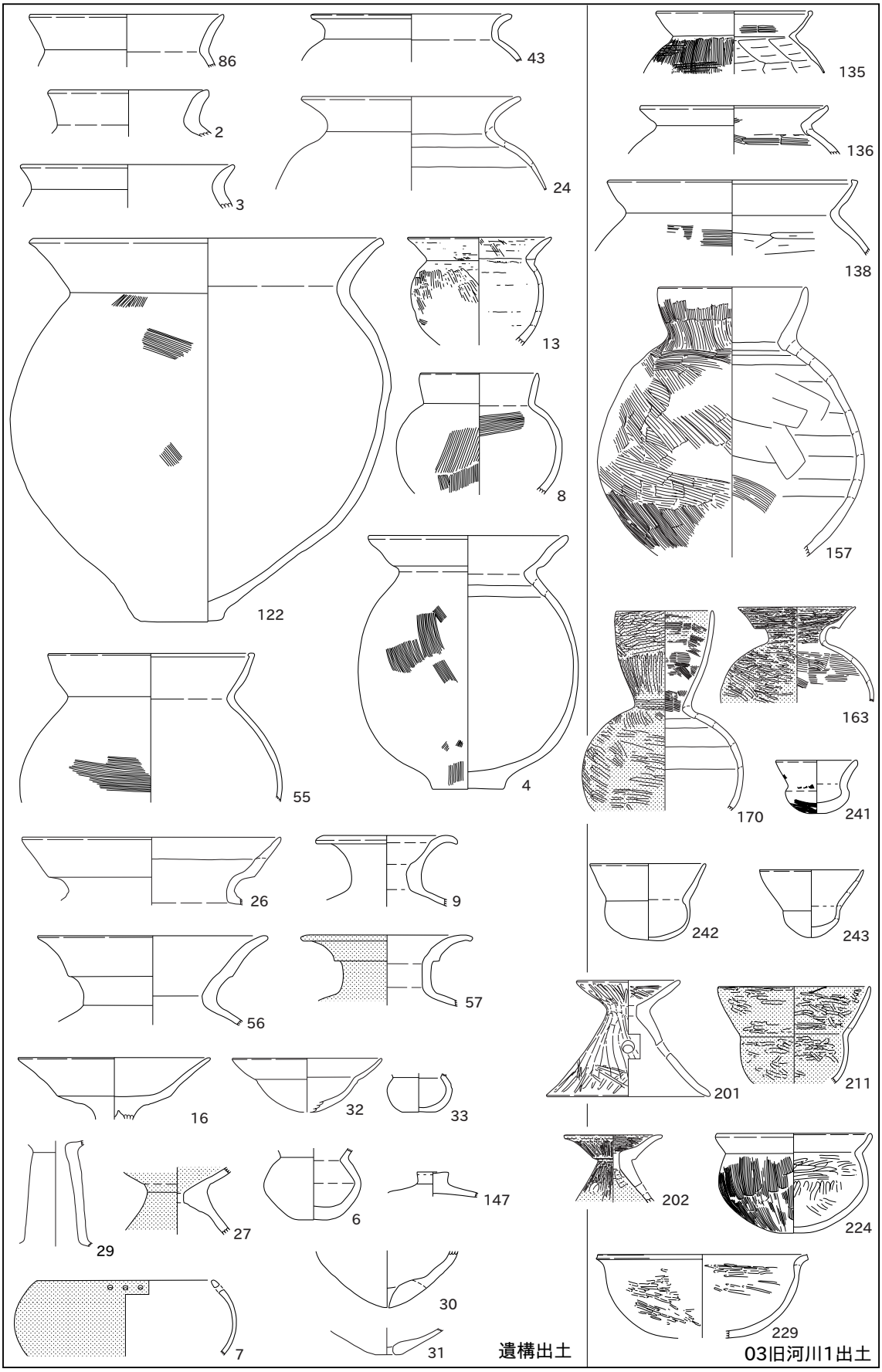
鉢については資料に乏しく様相は不明であるが、少なくともＡ類は伴っているようである。このほか、図示し得るものではないが、SX50では有段口縁鉢の細片がみられる。

以上の所見結果から、03SK41、03SX50・1317・1318についてはⅠ期でも古相を呈する可能性が高い。

下割Ⅱ期（漆町８～10（11）群併行期）

03SB001、03SD5、03SK8・17・22・23・27・67・73、03SX24・31・80・87・165・1322出土土器が挙げられる。遺構数はこの時期が最も多い。器種構成は甕がＡ・Ｆ・Ｈ類、壺がＡ・Ｈ・Ｎ類（＋Ｏ・Ｐ類）、高坏がＦ・Ｇ類、器台がＨ類（＋Ｇ類）、鉢がＡ・Ｅ・Ｇ類となるほか、分類不能の小型品として、小型壺・甕などがある。

甕Ａ類はⅠ期のものから大きな変化はみられない。単純口縁で器壁が薄手のものがやはり主体をなすが、体部から口頸部の屈曲が比較的ゆるやかで、内面に稜を形成しないものがⅠ期より増加する。また、図示し得るものは少ないが、03SD5・105、03SK27、03SX31・80・87・165などでは、口頸部自体が肥厚気味でぽってりとした断面形を呈するものがみられるようになる（2・3など）。口頸部の形態はⅠ期同様、やや長めの頸部を有し直線的に立ち上がるもの（86・122）と、頸部が短めで外反しながら立ち上がるもの（24・43など）に大別されるが、Ⅱ期では出土比率に偏りはみられなくなる。後者の中には頸部が垂直気味に短く立ち上がってから外反する、いわゆる「コ」字状の断面形を呈するもの（43）が見られるようになるが、単に外反するものと識別のつかないものが多数を占める。Ｆ類は03SD5で１点



第12図　下割Ⅱ期の土師器

みられるのみである（4）。形態的特徴から、Ⅱ期でも早い段階のものと思われる。H類は遺構からのものとしては03SX80の１点のみであるが（55）、03旧河川１中層からは数個体が出土している。形態的特徴から漆町遺跡甕形土器Ⅰ$_2$～Ⅰ$_4$類（以下、漆町分類）に該当するものと思われる。

壺は新たにN・O類といった畿内系の器種がみられるようになるが、全体の出土量はやはり少ない。N類は03SX87（57）以外、全て03旧河川１からの出土である。精製されたもので占められ、159以外は赤彩される。その159は口縁下端に円形刺突という装飾されたものである。O類は03旧河川１で出土したのみである（211・241～243）。遺構にもその可能性がある小片がみられるが、O類と断定し得るものは出土していない。241～243は漆町分類E$_1$類と同形態で、漆町８～９群に伴う。次にⅠ期から続くA・H・P類について記述する。A類は特に変化がみられない。H類は従来から指摘されているように、口縁部の立ち上がりが斜め方向に寝るというものと、口縁部と頸部の段差が内面では不明瞭になるという二つの傾向が看取される。P類については時期的な一括性が乏しく、Ⅱ期に確実に伴うということ以外はよくわからない。L類についてはこの時期にはみられなくなる可能性がある。

高坏はB・C類が姿を消し、G類が新たに加わるが、図示し得たものが少なく、実体はよくわからない。29をみる限り、脚部は柱状部が直線的で高さも長めである。16・40はその坏部であろうか。一方、従来の器形では、03SD5にみられる付け根部分がやや太く、途中で外反度を強める形態の脚部（5）もⅡ期の早い段階には存在する。

器台はC・D・F類が姿を消す。G類は03旧河川１中層に数点みられるのみで、ほぼH類のみとなるものと考えている。それは受部形態のわかるものが遺構から出土していないためであり、脚部形態からH類であろうと類推した。

鉢はA・E・G類がみられる。A類はこの時期、尖底気味のもので占められる。形態をみる限り、03旧河川１下層で出土した237（Ⅰ期か）のような無骨な形態のものは存在しないのだろう。これらのほかには小型の甕や壺がわずかに存在する。

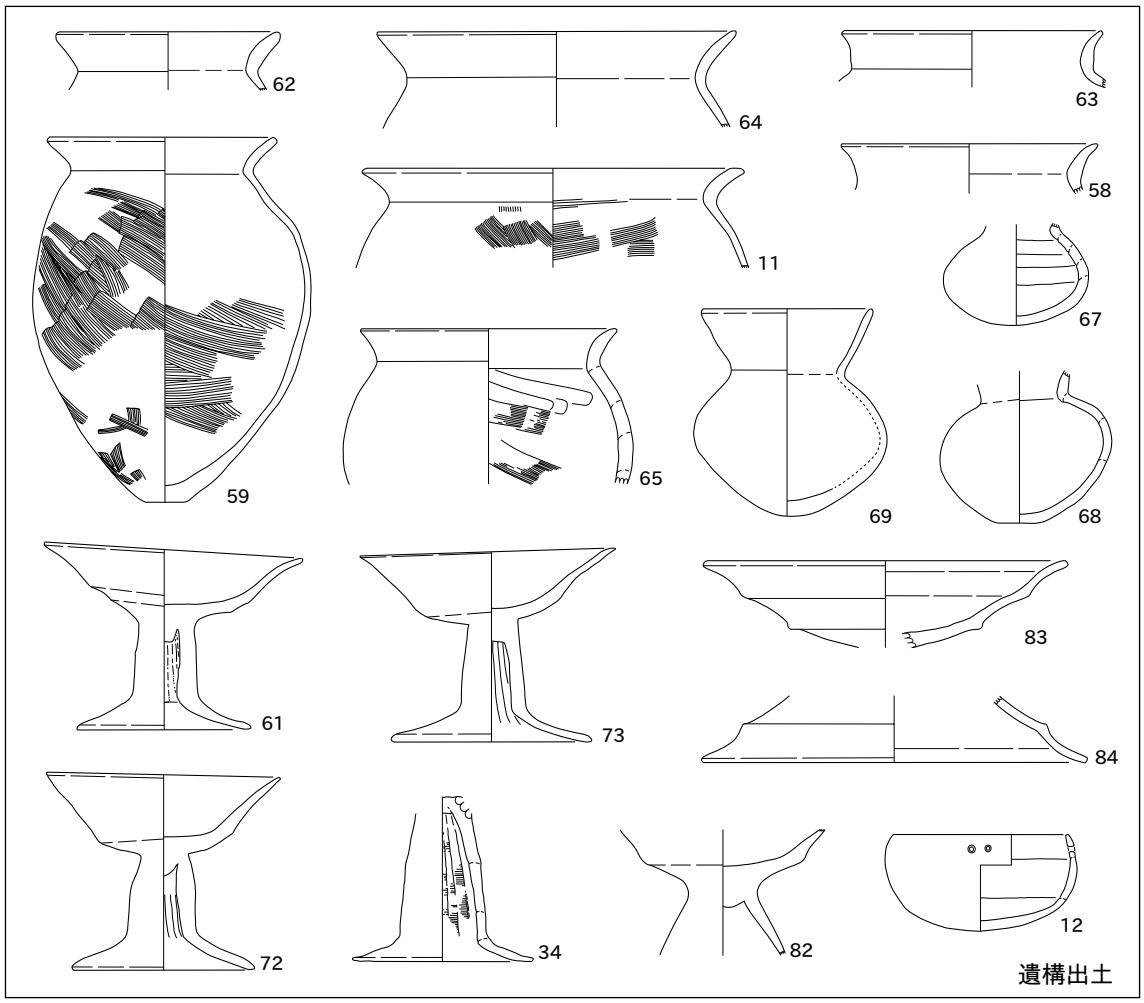
下割Ⅲ期（漆町12～14群併行期）

03SD105、03SK33、03SX107・117出土土器が挙げられる。器種構成は甕がA類、壺がA・P類、高坏がF・G類などのほかに、分類不能の小型品として、椀、小型壺などがある。器台や鉢はみられなくなる。高坏G類の脚部形態と、新出の小型椀（12）が時期決定の目安となる。

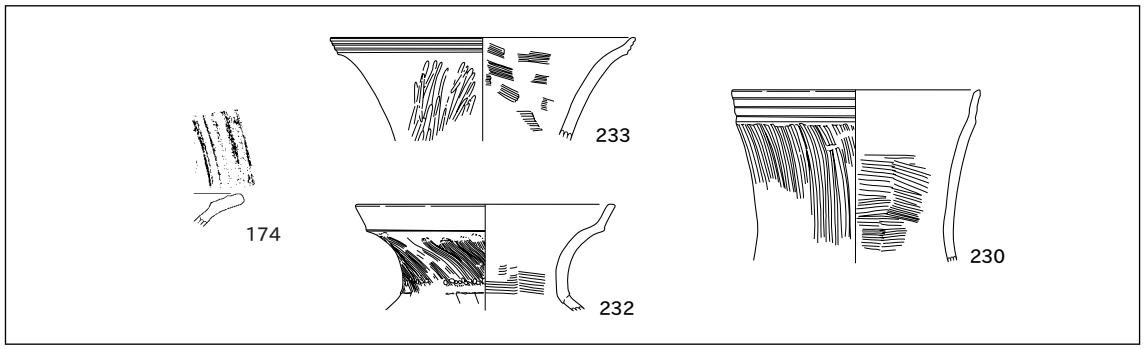
甕A類はⅡ期のものと比べ、口縁や口頸部の形態、器壁の厚さなどに変化はみられない。ただし、「コ」字状の断面形を呈するものに関しては、識別がやや容易になるという印象を受ける（63）。体部形態については球体に近いもの（65）と、体部の張り出しが弱く長細い感じのもの（59）があるが、図示し得るものが各１点のみであり、A類総体としてどのような体部形態をとるのかは不明である。

壺は小型品以外、ほとんどみられなくなる。図示し得たのはSX117出土のP類（69）及び形態不明のもの（66）１点ずつで、A類は小片のみである。69は別の器形として捉える必要があるのかも知れない。

高坏はG類が主体をなし、F類は少ない。03SX107・117出土のG類は脚部中央がやや膨らむ形態を呈するもので占められる。この形態の高坏は、新潟における古墳時代中期の基準資料である柏崎市礼坊遺跡［品田ほか1990、漆町12群併行］SK2aでも出土している（川村氏は漆町11群に併行させる［川村2000］）。資料が少なく一概にはいえないが、Ⅱ期のものと比較すれば、脚部の中膨らみのほかに低脚化の傾向も窺えよう。34はちょうど両者の中間的な脚部形態を呈するもので、03SX107・117出土のものと比較して脚部やや長く、膨らみ加減もわずかである。



第13図　下割Ⅲ期の土師器



第14図　下割遺跡出土弥生時代の土器

時　期	該当する遺構	漆町遺跡土器編年
下割Ⅰ期	03SK41　03SX50・52・75・77・1317・1318	漆5～7群
下割Ⅱ期	03SB001（03P48）　03SD5　03SK8・17・22・23・27・67・73 03SX24・31・80・87・165・1322	漆8～10（11）群
下割Ⅲ期	03SD105　03SK33　03SX107・117	漆12～14群

第2表　下割遺跡の時期区分

遺構	甕		壺		高坏		器台		鉢		椀		蓋	
	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数	口縁部残存率	破片数
03P11	18	30												
03P37	0	34			3	81			9	12				
03P48	4	11			0	2								
03P49	2	26												
03P51					0	1								
03P54	0	11			0	1								
03P60	17	67												
03P61			0	1										
03P125	0	10												
03P128	0	4												
03P146	0	1												
03P149	0	2												
03SE103	0	10												
03SD2	3	5												
03SD4	8	34	9	1	0	4								
03SD5	60	244	8	26	4	50	9	5	69	56				
03SD6	6	26	0	3	0	3								
03SD21	0	1			0	1								
03SD44	6	26	36	2	0	7			21	6				
03SD71	17	34	0	1	4	4			3	2				
03SD79	0	6			0	1								
03SD81	21	143	0	10	4	6	0	1	3	1				
03SD105	17	29	5	1	3	7			3	4	36	4		
03SK8	86	200	0	8	14	17			2	1				
03SK17	7	39					0	1						
03SK18	3	26			0	1			6	1				
03SK22	25	76	8	13	0	3			0	2				
03SK23	18	122	0	2	0	18	13	6	0	3				
03SK27	155	575	30	65	0	13	0	15	44	16				
03SK30	0	21												
03SK33					0	4								
03SK41	41	415	0	22	7	27	0	1						
03SK42	0	5												
03SK59	0	53	0	1										
03SK62	9	15	0	1	0	2	0	1						
03SK64	0	62					3	1						
03SK65	0	1												
03SK67	0	7	0	1	12	35								
03SK73	2	14	0	16	0	2			0	8				
03SK75	0	8	1	1	0	1								
03SK76	14	123	3	5	0	4	0	1	20	2				
03SK78	0	1												
03SK83	0	29			0	1								
03SK92	0	12												
03SK102	0	8	2	1	14	45								
03SK124	0	2												
03SK152	0	2			0	1			6	1				
03SK153	0	1												
03SX12	0	36	0	13	0	1								
03SX24	16	117	0	1	2	7			0	1				
03SX25	0	55												
03SX28	92	356	25	24	0	10	0	1	4	11				
03SX29	23	23	0	5	0	2			0	1				
03SX31	113	304	25	31	0	19	0	1	6	9			0	1
03SX34	9	16												
03SX50	25	95	0	7			12	11						
03SX52			10	79			0	2						
03SX57	27	44	4	74										
03SX66	2	132	0	21										
03SX75	51	192	0	14	5	3	0	4	3	1				
03SX77	48	155	10	10	8	9	0	4	6	9			0	1
03SX80	101	389	42	81	8	34	0	2	0	8				
03SX87	29	162	38	12	0	39								
03SX88	0	6					9	1	0	1				
03SX107	65	392	5	17	16	54	0	11	0	9				
03SX117	159	1180	38	116	255	284	27	31	50	37				
03SX160	0	33												
03SX165	71	381			0	37	0	4	78	10				
03SX1317	659	1632	35	16	0	6	13	8	34	10				
03SX1318	150	673	53	29	16	84			5	1			69	16
03SX1319	19	130	4	1	0	1								
03SX1320	27	171	0	5	2	7	0	1						
03SX1321	26	159	0	3	5	16			4	1				
03SX1322	39	121	0	2					2	4				

第３表　古墳時代土師器の遺構別組成（口縁部残存率は　/36）

種別	器種	口縁部残存率	破片数	種別	器種	口縁部残存率	破片数
土師質土器	皿	50	13	瀬戸美濃	碗	5	6
珠洲焼	甕	4	28		皿	9	3
	壺		2		卸皿	6	1
	片口鉢	9	6	青磁	碗	3	5
越前焼	擂鉢	1	2	中国染付	皿	4	1

第４表　中世の土器・陶磁器の組成（口縁部残存率は　/36）

椀は03SD105の１点のみである（12）。この時期に出現すると思われるもので、口縁部から体部はナデ調整、底部はヘラケズリ調整が施される非精製品である。単純に比較はできないが、漆町遺跡では13群以降にこの類の椀が出現するようであり［田嶋ほか前掲］、03SD105が03SX107・117より若干遅れる可能性が考えられよう。

以上、各期における土器の様相を述べてきた。はじめに記したように、検出された遺構の性格や出土した土器の残存状態、更には執筆者の土器に対する見識不足も手伝って、これ以上の細分化はなし得なかった。しかしながら、各時期における器種構成と各器形の変遷や消長はある程度整理し提示できたものと考える。結果として、先学諸氏が成し遂げた越後における当該期の土器編年に準じるものであり、大きな齟齬を生じるものではない。

2　中世の集落

ここでは昨年度の調査成果も加味し、中世の集落についてまとめておく。下割遺跡では、２年の調査で溝に区画された中に掘立柱建物・井戸が位置する中世の屋敷地が確認された。そこで建物跡などが確認できる屋敷地について、東側から順に屋敷地Ⅰ～Ⅴに分けて記述する。

屋敷地Ⅰ　SD151・SR18に区画される屋敷地で、遺跡の北東端に位置する。主な遺構はSX22で、掘立柱建物・井戸は確認できない。なお1A～1Cに位置するピット列は、比較的新しい時代の所産である。竪穴建物の可能性があるSX22は、SD151とSR18側溝が対向し通路状となる場所に位置する。方向はおおむねSD151に平行する。出土遺物には珠洲焼・瀬戸美濃・越前焼・銭貨（淳祐元宝）がある。珠洲焼で時期が判明するのはⅡ・Ⅲ・Ⅴ期である。屋敷地内での遺構の配置は、北半分が不明のため明確ではないが、ほかの屋敷地と比べ遺構数は少ないと思われる。道路に関しては、溝などの既存の遺構に区分された空間も通行に利用されたことを想定した［山崎ほか2003］。よって屋敷地Ⅰが道路に面するのは2辺となる（SR18とSD52・151間）。SR18とSD52・20間の道路は、現在の元屋敷米岡線の旧道に相当し近世松之山街道にも通じる。それにぶつかるSD52・151間の道路を北西に行けば、上真砂周辺に至るものと思われる。遺跡内では比較的通行に便利な地点である。

屋敷地Ⅱ　SD51・52・251に区画される屋敷地で、遺跡の中央東側に位置する。一辺50～60mほどの菱形を呈する区画の中に、掘立柱建物12棟・井戸20基が確認できる。掘立柱建物は1間×3間のものが多く、SB003は本遺跡内で最大である。また掘立柱建物の数も多く、23棟中12棟が屋敷地Ⅱに位置する。他の屋敷地より重複が著しいのも特徴である。井戸はSE210のような大型のものも確認でき、掘立柱建物の周辺に分布する。区画となるSD51・52は遺跡内では規模が大きな溝で、SD51が幅1.2～4.5m、SD52が幅2.0～3.8mである。出土遺物は土師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器（青磁・白磁・染付）・越前焼・石製品（錘・硯）・銭貨などがあり、13世紀から16世紀に位置付けられる。遺構（特に井戸）から出土する遺物は土師質土器・珠洲焼・木製品で、珠洲焼はⅢ・Ⅳ期が主体となる。木製品では今年度漆器皿が井戸から出土した。いずれも底面に削痕を残し、やや粗雑な感じを受ける。13世紀後半から14世紀前半の所産である。屋敷地内での遺構の配置は、東半分に多く、北側から西側にかけては空白地が広がる。道路に面するのは北側と東側の２辺であるが、『中頸城郡諏訪村大字米岡更正地図』を参考にすると、SD251・252間も道路ないし通路状の空間の可能性がある。屋敷地Ⅰ同様通行には便利な地点である。

屋敷地Ⅲ　SD51・252に区画される屋敷地で、遺跡の中央南端に位置する。SD51と03SD1278が

第15図　中世の遺構配置図

合流すると仮定した場合の一辺の長さは約50mになる。主な遺構は掘立柱建物１棟・井戸１基・柱穴である。掘立柱建物は１間×３間のもので、周辺に柱穴が位置することから、検出し得なかった建物の存在が想定できる。井戸は径80cm前後、深さ106cmで、土師質土器が出土した。区画となるSD252は幅広の割には、深さは浅い。SD51もSD252との合流以南は幅が狭く、深さも浅くなる。出土遺物には土師質土器・珠洲焼・輸入陶磁器（青磁）で、13世紀後半から15世紀中葉頃の所産である。土師質土器は13世紀後半から14世紀頃の所産で、珠洲焼はⅢからⅣ期頃のものが多い。遺構の配置は南半分が不明のため明確ではないが、9J付近に空白地がある可能性が考えられる。北側と東側で道路に面すると思われる。

屋敷地Ⅳ　SD51・254・282に区画される屋敷地で、遺跡の北東端に位置する。SD51・254間は28m、SD52・282間は44mで、区画は長方形を呈すると思われる。主な遺構は井戸５基・柱穴である。掘立柱建物は確認できなかったが、井戸が５基検出されたことから、井戸の周辺に掘立柱建物が所在すると想定される。出土遺物は珠洲焼・輸入陶磁器（白磁・青白磁）・越前焼・銭貨などである。白磁の器種は水注、青白磁は梅瓶で、いずれも12世紀の所産である。珠洲焼はⅢ期の所産である。北半分が不明のため明確ではないが、8D付近に空白地がある可能性が考えられる。北側で道路に面すると思われる。

屋敷地Ⅴ　SD51・282・03SD1278・1285に区画される屋敷地で、遺跡の中央西側に位置する。03SD1285のみ方向が異なり、区画が方形とはならない可能性がある。区画の規模はSD282・03SD1278間が70m、SD51から03SD1278・1285の合流部までが60mである。主な遺構は掘立柱建物10棟・井戸14基・SX274で、SX274は竪穴建物の可能性がある。遺構は区画東側に集中し、12列以西にはほとんど分布しない。建物は9H・11G・11I・10J・11Kにまとまり、井戸は建物の周辺に位置する。また区画内は幅50cm、深さ10cm程度の溝で区切られる。出土遺物は土師質土器・珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器（青磁・染付）・石製品（硯）・木製品で、13世紀から16世紀の所産である。井戸から出土する遺物は土師質土器・珠洲焼・木製品で、珠洲焼はⅢ・Ⅳ期が主体となる。屋敷地Ⅴの周囲には、明確に道路と判断されるものはないが、SD251・252間、SD253・254間も通行に利用された可能性も考えたい。

屋敷地の全体を把握できるのは屋敷地ⅡとⅤである。そこからは、50～60mの区画の中に掘立柱建物が約10棟、井戸が10～20基、空白地が存在することが判明する。屋敷地Ⅲも、推定できる溝の長さから、同規模の屋敷地であると思われる。屋敷地Ⅳは28m×44mの区画で、屋敷地Ⅱなどの半分の規模である。屋敷地Ⅱの建物は、比較的狭い範囲に集中し重複していることから、頻繁な建て替えが想定される。一方屋敷地Ⅴは、建物数は屋敷地Ⅱと同数であるが、５か所にややまとまり、それぞれの箇所で１～２回の建て替えが想定できる。屋敷地Ⅴ内は03SD1188によって9H・11Gの建物群と10J・11Kの建物群が区切られる。さらに03SD1188と重複して11Iの建物が位置することから、03SD1188が機能した時期と機能しない時期の大きく２時期には分けることが可能であろう。屋敷内の空白地については、畑地や作業場など生産に関連した土地利用を想定したいが、畑跡は確認できなかった。水田についてもその痕跡は確認できなかった。遺跡が飯田川の自然堤防上に立地することから、その後背低地にあたる遺跡西方に位置したと思われる。出土遺物の種別は屋敷地ⅡとⅤでほぼ共通し、中世集落における一組成を示していると考える。遺構出土遺物の年代も13世紀後半から14世紀で両者共通する。

下割遺跡の中世集落は、掘立柱建物約10棟・井戸10～20基・空白地が一辺50～60mの溝で囲まれる屋敷地が数個程度隣接して集落を形成しており、13世紀後半から14世紀の集村化傾向にある集落の一形態を示している。

要　　約

1　下割遺跡は新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する。調査区は飯田川左岸の自然堤防上に立地し、現況は水田であった。標高は上層が13.5～13.8m、中層が12.6～13.5mを測る。

2　発掘調査は上越三和道路の建設に伴い、平成15（2003）年4月7日から11月21日にかけて実施した。調査面積は14,600m^{2}である。

3　古墳時代の遺構は掘立柱建物2棟、井戸1基、溝16条、土坑41基、ピット51基、性格不明遺構26基がある。このほか古墳時代以前の河川が検出された。遺構の時期は古墳時代前期～中期である。

4　古代の遺構と考えられるものは土坑1基、ピット5基、性格不明遺構1基がある。遺構の時期は9世紀頃と思われる。

5　中世の遺構は、掘立柱建物9棟、井戸16基（今年度A地区検出分9基含む）、溝15条（このうち2条は昨年度の溝と同一）、土坑8基（今年度A地区検出分2基含む）、ピット298基（今年度A地区検出分16基含む）、性格不明遺構4基がある。遺構の時期は13世紀後半～14世紀である。なおA地区とB地区を合わせた中世の遺構数は、掘立柱建物23棟、井戸40基、溝39条、土坑59基、ピット705基、性格不明遺構10基となる。

6　遺物は弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世の遺物が確認できる。種別は土器・陶磁器、石製品、木製品、銭貨がある。

7　弥生時代の遺物は後期の土器で、壺・高坏などがわずかに確認できる。

8　古墳時代の遺物は土師器、石製品、木製品である。土師器は古墳時代前期～中期のものが多量に出土している。在地のものに加え、畿内・東海地方の系譜を引く土器が確認できる。特に畿内系外来土器であるタタキ甕が多数確認され、注目される。石製品は滑石製の勾玉や凝灰岩製の管玉が出土している。勾玉は紡錘車を転用したものとみられ、未成品である。木製品は注目すべきものとして古墳時代前期の礎板がある。

9　古代の遺物は須恵器や灰釉陶器である。須恵器は8世紀～9世紀の坏・坏蓋・甕・横瓶などの破片が出土している。灰釉陶器は10世紀の皿である。

10　中世の遺物は土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸美濃、輸入陶磁器、石製品、木製品、銭貨などが少量出土している。土器・陶磁器では珠洲焼の出土量が多い。木製品は漆器皿や曲物などが確認できるが、多くがその種別を明確にできない。石製品としては硯が出土している。

11　近世の遺物は肥前系陶磁器、越中瀬戸などがわずかに出土している。

引用文献

池田嘉一　1967　『中江用水史』　中江土地改良区

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』NO.2　日本貿易陶磁研究会

大居敬子　2002　『新潟県上越市中江北部第１地区ほ場整備事業地区遺跡発掘調査報告書（下割遺跡）』上越市教育委員会

小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』NO.2　日本貿易陶磁研究会

春日真実　2001　「柏崎市鶴巻田遺跡出土漆器の編年的位置」『新潟考古学談話会会報』第23号　新潟考古学談話会

川村浩司　1993　「北陸北東部における古墳出現前後の土器組成」『環日本海地域比較史研究』第２号　新潟大学環日本海地域比較史研究会

川村浩司　2000　「上越市の古墳時代の土器様相－関川右岸下流域を中心に－」『上越市史研究』第５号　新潟県上越市

小島幸雄ほか 1984　『新潟県上越市本長者原廃寺確認調査概要』　上越市教育委員会

小島幸雄　1991　『新潟県上越市中島廻り遺跡発掘調査報告書』　上越市教育委員会

駒形敏朗ほか 1987　『横山遺跡』　長岡市教育委員会

坂井秀弥ほか 1984　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』　新潟県教育委員会

坂井秀弥ほか 1986　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第40集 一之口遺跡西地区』　新潟県教育委員会

笹澤正史ほか 1999　『新潟県上越市上千原地区ほ場整備関連発掘調査報告書 津倉田遺跡』　上越市教育委員会

笹澤正史　2003　「越後における庄内～布留式併行期の土器の動き－頸城郡を中心として－」『庄内式土器研究』ＸＸⅥ　庄内式土器研究会

品田高志ほか 1990　『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第13 吉井遺跡群Ⅱ』　柏崎市教育委員会

品田高志　1992　「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ－前期土器編年の現状と編年試案－」『柏崎市立博物館館報』NO.6　柏崎市立博物館

品田高志　1997　「越後国における土師器の変遷と諸相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

高田平野団体研究グループ　1980　「高田平野の第四系とその形成史・そのＸＸⅣ」『研究紀要』第25号　新潟大学教育学部高田分校

高橋一樹　1999　「越後高田保ノート」『上越市史研究』第４号　新潟県上越市

田嶋明人ほか 1986　『漆町遺跡Ⅰ』　石川県立埋蔵文化財センター

永井久美男　2002　『新版中世出土銭の分類図版』　高志書院

藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

水野和雄　1985　「日本石硯考－出土品を中心として－」『考古学雑誌』第70巻第４号 日本考古学会

三ツ井朋子ほか　1997　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第85集 大洞原Ｃ遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

山崎忠良ほか 2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第120集 下割遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

土器・陶磁器観察表（1）（砂：砂粒・黒：黒色粒子・針：海綿骨針・角：角閃石・石：石英・チ：チャート・雲：雲母）

報告番号	種類	器種	時期	出土地点			法量（㎝）			色調		胎土混入物	炭化物		調整		備考
				グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側		内側	外側	内側	外側	
1	土師器	高坏F	Ⅱ期	2D17	03SB001	覆土１				黄橙色	黄橙色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔３個
2	土師器	甕A	Ⅱ期	9E14	03SD5	覆土３	13.3			灰白色	灰白色	砂・黒・針	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
3	土師器	甕A	Ⅱ期	9E13	03SD5	覆土２	18.3			灰白色	灰白色	黒・角	なし	あり	ナデ	ナデ	
4	土師器	甕F	Ⅱ期	9E14	03SD5	覆土３	16.8	21.6	6.0	淡黄色	淡黄色	砂・黒・角・針	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	山陰系？
5	土師器	高坏G	Ⅱ期	9E14	03SD5	覆土３				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	
6	土師器	壺O？	Ⅱ期？	9E14	03SD5	覆土３			2.6	灰白色	灰白色	黒・針	なし	あり	ナデ	ナデ	
7	土師器	鉢	Ⅱ期	9E14	03SD5	覆土３	15.0			浅黄色	浅黄色	黒・針	なし	なし	ナデ（ハケ?）	ナデ・ミガキ	口縁部穿孔３個一組 外面赤彩
8	土師器	小型甕	Ⅱ期	2D17	03SD44	覆土１	9.9			灰白色	灰白色	石・黒・角・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
9	土師器	壺A	Ⅱ期	2D17	03SD44	覆土１	10.4			淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・角・針	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ	
10	土師器	甕A	Ⅱ期	8H7	03SD71	覆土上層	15.2			灰白色	灰白色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
11	土師器	甕A	Ⅲ期	6G12	03SD105	覆土３	25.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石・角	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
12	土師器	椀	Ⅲ期	6G8	03SD105	覆土３	11.4	6.4		浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角・針	なし	なし	ナデ	ナデ・ケズリ	口縁部穿孔２個一組
13	土師器	甕A	Ⅱ期	11E16	03SK8	覆土３	12.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角・チ・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
14	土師器	甕A	Ⅱ期	11E16	03SK8	覆土３	16.6			にぶい橙色	にぶい橙色	砂・黒・石・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
15	土師器	甕A	Ⅱ期	11E16	03SK8	覆土３	15.4			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
16	土師器	高坏G	Ⅱ期	11E16	03SK8	覆土２	16.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角・針	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
17	土師器	甕A	Ⅱ期	3D14	03SK17	覆土２	16.7			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	
18	土師器	壺H	Ⅱ期	5D17	03SK22	覆土１	16.7			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
19	土師器	高坏	Ⅱ期以降	5D12	03SK22	覆土２				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
20	土師器	鉢E	Ⅱ期	5D12	03SK22	覆土２			3.5	灰白色	灰白色	砂・黒・針	なし	あり	ナデ	ナデ・ミガキ?	
21	土師器	甕A	Ⅱ期	5D19	03SK23	覆土４	12.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ（ハケ?）	
22	土師器	鉢A	Ⅱ期	5D19	03SK23	覆土３				灰白色	灰白色	砂	なし	あり			
23	土師器	器台	Ⅱ期	5D19	03SK23	覆土４				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個　外面赤彩
24	土師器	甕A	Ⅱ期	5D1	03SK27	覆土１	18.4			灰白色	灰白色	砂・黒・チ・石	なし	なし			
25	土師器	甕A	Ⅱ期	5D6	03SK27	覆土３	17.8			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
26	土師器	壺H	Ⅰ期？	5D6	03SK27	覆土３	21.9			灰白色	黄灰色	砂・黒	なし	なし			
27	土師器	器台H	Ⅱ期	5D1	03SK27	覆土３				淡黄色	淡黄色	砂・黒・針	あり	なし			内外面赤彩?
28	土師器	器台H	Ⅱ期	5D6	03SK27	覆土３				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個　内外面赤彩
29	土師器	高坏G	Ⅱ期	5D6	03SK27	覆土１				黄灰色	浅黄橙色	砂・黒・チ・石	なし	なし	ナデ・ケズリ	ナデ	
30	土師器	鉢A	Ⅱ期	5D1	03SK27	覆土１				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり			
31	土師器	鉢A	Ⅱ期	5D7	03SK27	覆土１				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
32	土師器	鉢E	Ⅱ期	5D1	03SK27	覆土上層	12.7			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ?	
33	土師器	鉢G	Ⅱ期	5D1	03SK27	覆土１	4.4	2.9	2.8	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	無調整	ナデ	
34	土師器	高坏G	Ⅲ期	5C17	03SK33	覆土			12.0	にぶい黄橙色	灰白色	砂・黒・チ	なし	なし	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ?	
35	土師器	甕A	Ⅰ期	3D11他	03SK41	覆土２	15.2			にぶい橙色	にぶい橙色	砂・黒・石	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
36	土師器	壺L	Ⅰ期	3D12	03SK41	覆土２				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
37	土師器	高坏C	Ⅰ期	3D12	03SK41	覆土２	19.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
38	土師器	高坏	Ⅰ期	3D11	03SK41	覆土１				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
39	土師器	鉢A	Ⅰ期	3D16	03SK41	覆土１				灰白色	灰白色	黒・針	あり	なし			
40	土師器	高坏G	Ⅱ期	6H2他	03SK67	覆土上層	21.2			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
41	土師器	高坏F	Ⅰ～Ⅱ期	9H15	03SK73	覆土				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
42	土師器	甕A	Ⅰ期	5E1	03SX24	覆土	17.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・針・石	なし	なし	ナデ	ナデ	
43	土師器	甕A	Ⅱ期	5C12	03SX31	覆土１	17.0			灰白色	灰白色	砂・黒・チ	なし	なし			
44	土師器	甕A	Ⅱ期	5C12	03SX31	覆土一括	20.9			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり			
45	土師器	蓋A	Ⅱ期	5C12	03SX31	覆土一括	2.7			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
46	土師器	器台	Ⅱ期	5C11	03SX31	覆土				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔３個
47	土師器	高坏	Ⅰ期？	5C11	03SX31	覆土２			13.3	淡黄色	淡黄色	砂・黒・雲	なし	なし			脚部透孔３個
48	土師器	高坏	Ⅱ期	5C11	03SX31	覆土１				灰白色	灰白色	砂・黒・石	なし	なし			
49	土師器	甕B	Ⅰ期	3D3	03SX50	覆土１	17.8			灰白色	灰白色	砂・角	なし	なし	ナデ	ナデ	
50	土師器	器台	Ⅰ期		03SX50	覆土２				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
51	土師器	壺A	Ⅰ期	3C18	03SX52	覆土２	13.7			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
52	土師器	器台	Ⅰ期	3C19	03SX52	覆土２				浅黄色	浅黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
53	土師器	甕G	Ⅰ期	10I1	03SX75	Ⅸ２	19.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	タタキ
54	土師器	甕G	Ⅰ期	9I7	03SX77	覆土一括	20.2			浅黄橙色	浅黄橙色	砂	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	タタキ
55	土師器	甕H	Ⅱ期	9G24	03SX80	Ⅸ２	17.4			灰白色	灰白色	砂・黒・石	あり	あり	ナデ・ケズリ・ハケ	ナデ・ハケ	
56	土師器	壺H	Ⅱ期	9G24	03SX80	Ⅸ２	19.3			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石・チ・針	なし	あり	ナデ・ミガキ	ナデ	
57	土師器	壺N	Ⅱ期	9G4	03SX87	Ⅸ２	14.6			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石・チ・針	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	外面赤彩
58	土師器	甕A	Ⅲ期以降	5G24	03SX107	覆土５層	16.8			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	ナデ	ナデ	
59	土師器	甕A	Ⅲ期以降	4H9	03SX107	覆土５層	14.7	24.0	2.6	灰白色	灰白色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
60	土師器	高坏F	Ⅲ期以降	4G24	03SX107	覆土５層				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
61	土師器	高坏G	Ⅲ期	4H5	03SX107	覆土５層	16.8	11.8	11.2	灰白色	灰白色	黒・角・針	あり	あり			
62	土師器	甕A	Ⅱ期以降	5G14他	03SX117	Ⅸ１	14.3			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石	あり	あり	ナデ	ナデ	
63	土師器	甕A	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ１	16.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石	なし	なし	ナデ	ナデ	
64	土師器	甕A	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ１	23.4			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・石	なし	あり	ナデ?	ナデ?	
65	土師器	甕A	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ１	16.7			灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
66	土師器	壺	Ⅱ期以降	5G14	03SX117	Ⅸ１				黄橙色	黄橙色	砂・黒	なし	なし			
67	土師器	小型壺	Ⅱ期以降	5G12他	03SX117	Ⅸ１				淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・針	なし	あり	ナデ?	ナデ?	
68	土師器	壺P？	Ⅱ期以降	5G14	03SX117	Ⅸ１			2.8	橙色	橙色	砂・黒・針	なし	なし			
69	土師器	壺P？	Ⅱ期以降	5G15	03SX117	Ⅸ１	11.0	13.6		橙色	橙色	砂・黒・針	なし	あり			
70	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G13	03SX117	Ⅸ１	15.5	12.3	11.2	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	あり	あり			
71	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G18	03SX117	Ⅸ１	15.3	12.0	10.7	橙色	橙色	砂・黒・チ	なし	なし			
72	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G13	03SX117	Ⅸ１	15.6	12.7	11.9	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角・雲・針	なし	なし			
73	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G18	03SX117	Ⅸ１	16.8	12.4	12.9	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・雲・針	なし	なし	ナデ・ミガキ		
74	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G14他	03SX117	Ⅸ１				橙色	橙色	砂・黒	なし	なし			
75	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G18	03SX117	Ⅸ１			12.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・チ	なし	なし			
76	土師器	高坏G	Ⅱ期以降	5G14他	03SX117	Ⅸ１	15.8			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
77	土師器	高坏G	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ１	17.0			浅黄橙色	浅黄橙色	黒	なし	なし			
78	土師器	高坏G	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ１	20.0			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	なし			

土器・陶磁器観察表（2）

報告番号	種類	器種	時期	出土地点			法量（㎝）			色調		胎土混入物	炭化物		調整		備考
				グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側		内側	外側	内側	外側	
79	土師器	高坏G	Ⅱ期以降	5G12他	03SX117	Ⅸ1	20.4			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
80	土師器	高坏G	Ⅲ期	5G14	03SX117	Ⅸ1			11.2	黄橙色	黄橙色	黒・針・チ	なし	なし	ナデ	ナデ	
81	土師器	高坏G	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ1				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし		ナデ・ミガキ	ヘラシボリ
82	土師器	高坏F	Ⅱ期以降	5G18	03SX117	Ⅸ1				黄橙色	黄橙色	砂・黒・チ・針	なし	なし			
83	土師器	高坏	Ⅲ期	5G14他	03SX117	Ⅸ1	23.7			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針・角	なし	あり			84と同一個体
84	土師器	高坏	Ⅲ期	5G14他	03SX117	Ⅸ1			25.4	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針・角	なし	あり			83と同一個体
85	土師器	甕A	Ⅱ期	3E	03SX165	覆土	21.2			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
86	土師器	甕A	Ⅱ期	3E	03SX165	覆土	16.3			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	
87	土師器	高坏	Ⅱ期	3E3	03SX165	覆土				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔３個
88	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	15.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
89	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	15.5			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
90	土師器	甕A	Ⅰ期	11I2	03SX1317	覆土	20.3			灰白色	灰白色	砂	なし	なし			
91	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	17.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	
92	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	14.4			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
93	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	15.7			灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	なし			
94	土師器	甕A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	12.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
95	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	22.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	タタキ
96	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	16.6			灰白色	灰白色	砂・黒・針・角	なし	あり	ナデ	ナデ	タタキ
97	土師器	甕G	Ⅰ期	11I2	03SX1317	覆土	16.8			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	ナデ	ナデ・ハケ	タタキ
98	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	18.2			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	タタキ
99	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	17.8			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	ナデ・ハケ	ナデ	タタキ
100	土師器	甕G？	Ⅰ期	11I2	03SX1317	覆土	18.0			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
101	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	11.4			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ	タタキ
102	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	13.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	タタキ
103	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	13.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ	タタキ
104	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	18.2			灰白色	灰白色	黒・針	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ	タタキ
105	土師器	甕G	Ⅰ期	11I2	03SX1317	覆土	20.4			灰白色	灰白色	砂	なし	なし			タタキ
106	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土	18.0			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	タタキ
107	土師器	甕G	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土			4.0	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ハケ	タタキ？
108	土師器	壺A	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土１	17.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
109	土師器	壺A	Ⅰ期	11I2	03SX1317	覆土	16.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	
110	土師器	器台D	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土１	17.6			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	受部透孔8個？脚部透孔4個
111	土師器	器台H	Ⅰ期	11H22	03SX1317	覆土				淡黄色	淡黄色	黒	なし	なし		ナデ・ミガキ	脚部透孔４個
112	土師器	甕A	Ⅰ期	10I10	03SX1318	Ⅸ2	18.0			黄橙色	黄橙色	砂・黒	あり	なし			
113	土師器	甕A	Ⅰ期	11I11	03SX1318	Ⅸ2	19.9			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
114	土師器	甕G？	Ⅰ期	11I11	03SX1318	Ⅸ2	18.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ	なし	あり	ナデ	ナデ	
115	土師器	甕G	Ⅰ期	11I6	03SX1318	Ⅸ2	16.7			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	タタキ
116	土師器	甕G	Ⅰ期	11I6	03SX1318	Ⅸ2	14.0			灰白色	灰白色	砂・チ・黒	なし	なし	ナデ	ナデ	タタキ
117	土師器	壺H	Ⅰ期	10I5	03SX1318	Ⅸ2	18.0			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・石・チ・針	なし	なし			
118	土師器	蓋A	Ⅰ期	11I11	03SX1318	Ⅸ2	2.4	4.6	9.6	淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・石・針	なし	あり	ナデ	ナデ・ミガキ	
119	土師器	蓋A	Ⅰ期	11I11	03SX1318	Ⅸ2	3.3	5.3	14.2	淡黄色	淡黄色	砂・黒・針	なし	なし	ナデ?	ナデ?	
120	土師器	高坏F	Ⅰ期	11I6	03SX1318	Ⅸ2	23.4	13.5	13.6	淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり			脚部透孔３個
121	土師器	高坏F	Ⅰ期	11I11	03SX1318	Ⅸ2				灰白色	灰白色	砂・黒・針	なし	なし			脚部透孔３個
122	土師器	甕A	Ⅱ期	10J11	03SX1322	覆土２	29.5	6.9	32.2	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ケズリ?	ナデ・ハケ	
123	土師器	甕A	Ⅰ期	5F	03旧河川1	中層	13.8			灰白色	灰白色	砂・黒・チ	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
124	土師器	甕A	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	19.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
125	土師器	甕A	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	20.0			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
126	土師器	甕A	Ⅰ期？	3F	03旧河川1	中層	15.8			灰白色	黒褐色	砂・角・雲・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
127	土師器	甕A	Ⅱ期	3F	03旧河川1	中層	15.4			淡黄色	淡黄色	砂	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
128	土師器	甕A	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	18.0			浅黄橙色	にぶい橙色	砂・黒・角	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ・ケズリ	
129	土師器	甕E	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	14.6			淡黄色	黄灰色	黒・雲	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	搬入品？
130	土師器	甕F	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	18.9			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	
131	土師器	甕B	Ⅰ期	6G	03旧河川1	中層	15.8			灰白色	灰白色	黒	あり	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	
132	土師器	甕B	Ⅰ期	5G	03旧河川1	中層	13.4			灰白色	黄灰色	黒・角	なし	あり	ナデ・ケズリ？	ナデ	山陰系？
133	土師器	甕H	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	13.4			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・雲	あり	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	搬入品？
134	土師器	甕H	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	17.0			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	黒・雲	あり	あり	ナデ	ナデ	搬入品？
135	土師器	甕H	Ⅱ期	3F	03旧河川1	中層	13.2			灰白色	灰白色	黒・雲	なし	あり	ナデ・ハケ・ケズリ	ナデ・ハケ	搬入品？
136	土師器	甕H	Ⅱ期	5F	03旧河川1	中層	15.8			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
137	土師器	甕H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	16.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	
138	土師器	甕H	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	21.3			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	
139	土師器	甕G	Ⅰ期	5F	03旧河川1	中層	15.7			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ	タタキ
140	土師器	甕G	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	14.4			灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	タタキ
141	土師器	甕G	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	18.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ	タタキ
142	土師器	甕G	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	16.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	タタキ
143	土師器	甕A	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	15.7			淡赤橙色	淡赤橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	
144	土師器	甕A	Ⅱ期	3F	03旧河川1	中層	15.2	23.5	2.5	淡黄色	褐色	砂・石・黒・角	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
145	土師器	甕A	Ⅱ期？	3F	03旧河川1	中層	19.4	24.1	36.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	あり	あり	ハケ	ナデ・ハケ	
146	土師器	甕A	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	15.6			灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ	ナデ・ケズリ・ハケ	
147	土師器	甕A	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	18.4			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
148	土師器	壺H	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	14.0			灰白色	灰白色	砂・黒・石・針・角	あり	なし	ナデ・ハケ	ナデ	
149	土師器	壺H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	17.5			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・チ・角	なし	なし	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ	
150	土師器	壺H	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層	14.0			淡黄色	淡黄色	砂・角・石・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
151	土師器	壺H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	17.0			淡黄色	淡黄色	砂・石・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ	口縁部に円形刺突
152	土師器	壺H	Ⅱ期	4G	03旧河川1	中層	16.7			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ	
153	土師器	壺A	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	18.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
154	土師器	壺A	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	14.6			淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ	
155	土師器	壺A	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	15.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・針	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
156	土師器	壺A	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	14.0			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	
157	土師器	壺B	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	12.5			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	

土器・陶磁器観察表（3）

報告番号	種類	器種	時期	出土地点			法量（㎝）			色調		胎土混入物	炭化物		調整		備考
				グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側		内側	外側	内側	外側	
158	土師器	壺	弥生後期?	7F	03旧河川1	中層	11.6			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ	ナデ	
159	土師器	壺N	Ⅰ期	7F	03旧河川1	中層	22.0			灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	二重口縁壺・円形刺突
160	土師器	壺N	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	18.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
161	土師器	壺N？	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	22.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
162	土師器	壺N	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	19.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
163	土師器	壺N	Ⅱ期	3F	03旧河川1	中層	9.9			黄灰色	灰白色	砂・黒・チ	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
164	土師器	壺M	Ⅰ期	5F	03旧河川1	中層	20.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ハケ・ミガキ	棒状浮文・刻み
165	土師器	壺M	Ⅰ期	3F	03旧河川1	中層	23.5			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ	棒状浮文・RL？木目沈線？
166	土師器	壺M	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	11.5			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	突帯に刻み・円形刺突
167	土師器	壺M	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	27.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	棒状浮文
168	土師器	壺P？	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層			4.2	灰白色	灰白色	砂・黒・石・角	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
169	土師器	壺P	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層	8.2	17.1	3.2	灰白色	灰白色	砂・黒・チ・針	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
170	土師器	壺P	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	8.2			灰白色	灰白色	黒・針	なし	あり	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内面口縁部・外面赤彩
171	土師器	壺P	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層			5.8	灰白色	灰白色	砂・黒・角	なし	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
172	土師器	壺P	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層	11.0			灰黄色	灰黄色	針・黒	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ	胎土非在地？外面赤彩
173	土師器	壺P	Ⅰ期？	3F	03旧河川1	中層	8.0	13.0	3.3	淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・針・石	なし	なし	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ミガキ	外面赤彩
174	土師器	高坏	弥生後期	3F	03旧河川1	中層				浅黄橙色	浅黄橙色	黒	なし	なし		ナデ・ミガキ	口縁部内面にスタンプ文
175	土師器	高坏F	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	12.5			灰白色	灰白色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	
176	土師器	高坏F	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	11.4			灰白色	灰白色	砂	あり	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
177	土師器	高坏F	Ⅰ期	3F	03旧河川1	中層				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
178	土師器	高坏F	Ⅱ期	4G	03旧河川1	中層			11.8	淡黄色	淡黄色	砂・黒・石・角・針	あり	なし	ナデ・ミガキ・ハケ・ケズリ	ナデ・ミガキ	
179	土師器	高坏F	Ⅰ期	7G	03旧河川1	中層			19.0	灰白色	灰白色	砂・黒・角・針	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個　外面赤彩
180	土師器	高坏F	Ⅰ期	6G	03旧河川1	中層			12.0	灰白色	灰白色	黒・角・針	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	脚部透孔６個
181	土師器	高坏F	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層			17.2	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
182	土師器	高坏F	Ⅰ期	7G	03旧河川1	中層	19.3	15.8	15.2	浅黄橙色	浅黄橙色	黒・チ・角・針	なし	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
183	土師器	高坏F	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	18.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
184	土師器	高坏B	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	19.7			淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・角	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
185	土師器	高坏G	Ⅲ期	4F	03旧河川1	８層	16.5	9.8	11.4	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・チ・針	あり	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ	
186	土師器	高坏G	Ⅱ期	7G	03旧河川1	中層	17.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒	あり	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
187	土師器	高坏G	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	20.1			黄灰色	黄灰色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
188	土師器	高坏	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層				灰白色	灰白色	黒	なし	なし	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個　内外面赤彩
189	土師器	高坏？	古墳前期	3F	03旧河川1	中層	6.4			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
190	土師器	高坏	Ⅰ期	7F	03旧河川1	中層			11.4	淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ	
191	土師器	高坏	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層			19.4	灰白色	灰白色	砂・黒・角・雲・針	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
192	土師器	高坏？	弥生後期	4F	03旧河川1	中層			8.3	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角	なし	あり	ナデ	ナデ	台付甕？
193	土師器	高坏？	Ⅱ期？	6G	03旧河川1	中層			8.8	淡黄色	脚部赤彩	黒・角・針	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	台付鉢？内外面赤彩
194	土師器	器台H	Ⅱ期？	3F	03旧河川1	中層	9.0			淡黄色	淡黄色	砂・石・針・黒	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
195	土師器	器台H	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	8.0	7.6	12.0	淡黄色	淡黄色	砂・黒・チ・角	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個
196	土師器	器台H	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	9.8	7.8	13.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角・チ	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
197	土師器	器台H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	8.8			浅黄橙色	浅黄橙色	黒	なし	なし			
198	土師器	器台H	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	9.8	8.8	14.2	黄橙色	黄橙色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔６個
199	土師器	器台H	Ⅰ期？	4F	03旧河川1	中層	8.8	8.6	11.6	灰白色	灰白色	黒・針・砂	なし	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔６個?
200	土師器	器台H	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	8.4	8.2	13.4	淡黄色	淡黄色	黒・角・針	なし	なし	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個
201	土師器	器台H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	8.6	9.9	13.6	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ・ケズリ	脚部透孔４個
202	土師器	器台G	Ⅱ期	3F	03旧河川1	中層	8.2			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
203	土師器	器台G	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層			11.5	淡黄色	淡黄色	砂・黒	あり	あり	ナデ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
204	土師器	器台D	Ⅰ期	7F	03旧河川1	中層				灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
205	土師器	器台F	Ⅰ期	4G	03旧河川1	中層	8.6	9.4	13.4	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
206	土師器	器台F	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	9.4	9.1	13.8	灰白色	灰白色	黒・角・針	あり	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ	脚部透孔３個
207	土師器	器台C	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層				淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	受部透孔７個　内外面赤彩
208	土師器	器台C	Ⅰ期	4F	03旧河川1	中層	10.4		12.0	淡黄色	淡黄色	砂・石・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	受部透孔３個以上
209	土師器	器台C	Ⅰ期	3F	03旧河川1	中層				灰白色	黄灰色	砂・黒・針	なし	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	
210	土師器	小型甕	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	9.8	11.2	4.6	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・石・黒・チ	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
211	土師器	壺O	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	12.8			灰白色	灰白色	黒・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
212	土師器	壺L？	Ⅱ期？	7F	03旧河川1	中層				浅黄色	浅黄色	黒・石・角・針	なし	あり	ナデ	ナデ	
213	土師器	壺L？	古墳前期	4F	03旧河川1	中層	3.7	7.6		灰白色	灰白色	砂・黒・チ	あり	なし	無調整	ナデ・ケズリ	粗製
214	土師器	壺P？	Ⅱ期	6G	03旧河川1	中層	8.5	8.4	2.5	淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
215	土師器	小型壺	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	9.8			褐灰色	浅黄橙色	黒・針	なし	あり	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ	
216	土師器	小型壺	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	10.2			淡黄色	淡黄色	砂・黒	あり	あり	ナデ	ナデ・ミガキ	
217	土師器	小型壺	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	12.4	14.5	2.4	灰白色	灰白色	黒・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	外面赤彩
218	土師器	鉢E	Ⅰ期？	3F	03旧河川1	中層	17.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ	内外面赤彩
219	土師器	鉢E	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	13.8			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ミガキ	
220	土師器	鉢G	Ⅱ期	4・5G	03旧河川1	中層	11.2			灰白色	灰白色	黒・石	あり	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
221	土師器	鉢H	Ⅱ期		03旧河川1	中層	8.7	6.6	3.5	灰白色	灰白色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ	
222	土師器	鉢H	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	11.7	11.8	4.15	黄灰色	黄灰色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ・ミガキ	
223	土師器	鉢H	Ⅱ期	5F	03旧河川1	中層	12.3			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	台坏鉢
224	土師器	鉢	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	13.0	8.5	3.0	灰白色	灰白色	砂・黒	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ	搬入品？
225	土師器	鉢	古墳前期	4F	03旧河川1	中層	8.0	6.5		淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	口縁部破損　故意？
226	土師器	鉢	Ⅰ期	3F	03旧河川1	中層	8.6			にぶい橙色	にぶい橙色	黒	なし	なし	ナデ	ナデ	東海系？突帯に刻み
227	土師器	鉢	Ⅱ期	7F	03旧河川1	中層	19.7			灰白色	灰白色	砂・黒・石・角	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
228	土師器	鉢	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	15.5			灰白色	灰白色	砂・黒・針	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
229	土師器	鉢	Ⅱ期	4F	03旧河川1	中層	17.8			灰白色	灰白色	砂・黒・針・石	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
230	土師器	長頸壺	弥生後期	4・6G	03旧河川1	中・下層	16.2			灰白色	灰白色	砂	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ?	口縁部に疑凹線文
231	土師器	壺	Ⅰ期	7G	03旧河川1	下層				灰白色	灰白色	砂	なし	なし	ハケ	ナデ・ミガキ	パレス系 刺突・波状文
232	土師器	壺	弥生後期	4G	03旧河川1	下層	16.7			灰白色	灰白色スス付着	砂・黒	あり	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	頸部に豆粒状押捺？刻み？
233	土師器	壺	弥生後期	7F	03旧河川1	下層	20.0			灰白色	黄灰色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	口縁部に疑凹線文
234	土師器	壺P	Ⅱ期	3F	03旧河川1	下層	10.8	18.0		浅黄橙色	浅黄橙色	黒	なし	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
235	土師器	蓋A	Ⅰ期？		03旧河川1	下層	2.4	4.7	12.2	浅黄橙色	浅黄橙色	砂	なし	なし	ミガキ?	ミガキ?	
236	土師器	高坏B	Ⅰ期	7F	03旧河川1	下層	11.6	8.0	9.8	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
237	土師器	鉢A	Ⅰ期？	3F	03旧河川1	下層			3.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ	

土器・陶磁器観察表（4）

報告番号	種類	器種	時期	出土地点			法量（㎝）			色調		胎土混入物	炭化物		調整		備考
				グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側		内側	外側	内側	外側	
238	土師器	鉢H	Ⅱ期	4G	03旧河川1	下層	10.6	7.5	1.8	灰白色	灰白色	黒・角・針・雲	なし	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	内外面赤彩
239	土師器	蓋A	Ⅰ期？		03旧河川1		3.2	5.2	12.6	淡黄色	淡黄色	砂・チ・石	あり	あり	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
240	土師器	高坏F	Ⅰ期	3F	03旧河川1		10.0			灰白色	灰白色	砂・黒	あり	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔４個
241	土師器	壺O	Ⅱ期	4F	03旧河川1		6.8	4.5	1.6	淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ	
242	土師器	壺O	Ⅱ期		03旧河川1		9.8	6.5		淡黄色	淡黄色	黒・角・針	なし	なし	ナデ	ナデ	底部穿孔の可能性あり
243	土師器	壺O	Ⅱ期		03旧河川1		8.8	5.7		淡黄色	淡黄色	砂・針	あり	あり	ナデ	ナデ・ケズリ	
244	土師器	鉢G	Ⅰ期？		03旧河川1		7.3	6.6	3.0	灰白色	淡黄色	砂・黒・角・針	あり	あり	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ	
245	土師器	鉢？	Ⅰ期？	3F	03旧河川1		11.8	11.2	2.0	灰白色～黄灰色	灰白色～黄灰色	砂・石・針・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	体部側面穿孔？粗製
272	土師器	甕A	Ⅱ期	4G17		Ⅸ1	14.1			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
273	土師器	甕A	Ⅱ期	5D3		Ⅸ1	19.0			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・石	なし	なし	ナデ	ナデ	
274	土師器	甕A	Ⅱ期	3C15		Ⅸ1	22.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石	なし	なし	ナデ	ナデ	
275	土師器	甕A	Ⅱ期	5H20		Ⅸ1	24.1			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
276	土師器	甕A	Ⅱ期	4C18		Ⅸ1	15.6			にぶい橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ		
277	土師器	甕A	Ⅱ期	2C24		Ⅸ1	14.1			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし			
278	土師器	甕A	Ⅱ期	2D10		Ⅸ1	13.0			黄灰色	黄灰色	砂・黒	あり	あり			
279	土師器	甕A	Ⅱ期	3C16		Ⅸ1	15.0			黄灰色	黄灰色	砂・黒・針・角	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
280	土師器	壺H	Ⅱ期	1F5		Ⅸ1	15.6			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
281	土師器	壺H	Ⅱ期	1D10		Ⅸ1	17.2			黄橙色	黄橙色	砂・黒・針	なし	なし			
282	土師器	壺K？	Ⅱ期	3D1		Ⅸ1				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ	ナデ・ミガキ	
283	土師器	壺M	Ⅰ期	8G23		Ⅸ1	22.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒	あり	なし	ナデ	ナデ	ボタン状貼付文
284	土師器	高坏G	Ⅱ期	6G19		Ⅸ1				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	なし			
285	土師器	器台H	Ⅰ期	1D10		Ⅸ1	9.6	8.4	15.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・角・針	なし	なし			脚部透孔３個
286	土師器	器台G	Ⅰ期	7G14		Ⅸ1				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個・波状文・沈線（７条一単位）
287	土師器	器台H	Ⅰ期	3C20		Ⅸ1			10.9	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり			脚部透孔１個以上
288	土師器	器台H	Ⅱ期	2C19		Ⅸ1				浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔１個以上
289	土師器	器台H	Ⅰ期？	2C24		Ⅸ1			12.9	灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔４個
290	土師器	器台	Ⅰ期？	2C9		Ⅸ1				淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
291	土師器	鉢A	古墳前期	4C21		Ⅸ1			3.8	灰白色	灰白色	砂・黒・針	なし	なし	ナデ	ナデ	
292	土師器	甕A	Ⅰ期	3C11		Ⅸ2	19.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
293	土師器	甕A	Ⅱ期	4C12		Ⅸ2	19.6			にぶい橙色	にぶい橙色	砂・黒・石	なし	なし	ナデ	ナデ・ハケ	
294	土師器	甕A	Ⅱ期	9I18		Ⅸ2	17.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	あり	ナデ・ケズリ？	ナデ	
295	土師器	甕A	Ⅱ期	2C14		Ⅸ2	18.9			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	なし			
296	土師器	甕A	Ⅰ期	3C11		Ⅸ2	17.2			にぶい橙色	にぶい橙色	砂・黒	あり	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
297	土師器	甕A	Ⅱ期	9I18		Ⅸ2	15.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	あり	ナデ	ナデ・ハケ	
298	土師器	甕B	Ⅰ期	3C12		Ⅸ2	15.9			黄灰色	黄灰色	砂・黒・針	なし	あり	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
299	土師器	壺H	Ⅰ期	2C15		Ⅸ2	16.7			淡黄色	淡黄色	砂・黒・角	あり	あり	ナデ	ナデ	
300	土師器	壺H	Ⅰ期	9E1		Ⅸ2	19.0			にぶい橙色	にぶい橙色	砂・黒	なし	なし			
301	土師器	壺H	Ⅰ期	3C12		Ⅸ2	19.8			淡黄色	淡黄色	砂・黒・石	なし	なし	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	
302	土師器	壺H	Ⅰ期	4D8		Ⅸ2	19.9			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
303	土師器	壺H	Ⅱ期	3C20		Ⅸ2	18.4			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
304	土師器	壺H	Ⅱ期	5D12		Ⅸ2	24.6			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			
305	土師器	壺H	Ⅱ期	3C19		Ⅸ2	20.8			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
306	土師器	壺M	Ⅰ期	3C22		Ⅸ2	15.7			黄橙色	黄橙色	砂・黒	なし	なし			棒状浮文 ２個一組
307	土師器	壺	Ⅰ期	4G18		Ⅸ2	14.7			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒・針	なし	なし			山陰系 弥生後期？
308	土師器	蓋A	Ⅰ期	3C11		Ⅸ2	2.3			灰白色	灰白色	黒・針・角	あり	なし	ミガキ?	ミガキ?	
309	土師器	高坏G	Ⅱ期	3D12		Ⅸ2	13.6			浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			
310	土師器	高坏G	Ⅱ期	10G17		Ⅸ2			13.6	灰白色	灰白色	砂・黒・チ	なし	なし			
311	土師器	器台H	Ⅱ期	3C11		Ⅸ2	10.8			灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個? 内外面赤彩
312	土師器	器台H	Ⅱ期	4C10		Ⅸ2	9.0			淡黄色	淡黄色	砂・黒	なし	なし	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	脚部透孔３個
313	土師器	器台	Ⅱ期	9I11		Ⅸ2			11.0	浅黄橙色	浅黄橙色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔４個?
314	土師器	器台	Ⅱ期	4C8		Ⅸ2				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	なし			脚部透孔３個
315	土師器	器台	Ⅰ期？	3C11		Ⅸ2				灰白色	灰白色	砂・黒	なし	あり			脚部透孔３個　内外面赤彩
318	土師質	皿	13C後半	10K9	03SE1117	覆土	12.0	2.5	5.0	にぶい橙色	にぶい橙色	雲・石	なし	なし			
319	珠洲焼	壺R種		10K9	03SE1117	覆土６				青灰色	青灰色	石・針	あり	あり			
320	珠洲焼	片口鉢	珠洲Ⅲ期	10K9	03SE1117	覆土２				青灰色	青灰色	石・針・角	あり	なし			
321	珠洲焼	片口鉢	珠洲Ⅲ期	10K9	03SE1117	覆土				青灰色	青灰色	石・針・角	なし	なし			
322	珠洲焼	片口鉢	珠洲Ⅳ期	11J2	03SE1193	覆土１				青灰色	青灰色	石・針・砂	あり	なし			
323	珠洲焼	片口鉢		11J2	03SE1193	覆土１				青灰色	青灰色	石・針・角・砂	なし	なし			
324	灰釉	皿	10C中葉	13L19	03SD1278	覆土２				灰白色	灰白色	石	なし	なし			貼付高台
325	土師質	皿	14C	10I18	03SK1204	覆土１	10.2	2.6	4.0	にぶい橙色	にぶい橙色	石・角	なし	なし			
326	土師質	皿	14C	11G15	03P1018	覆土１	8.6	1.9	3.3	にぶい橙色	にぶい橙色	雲・石	なし	なし			
343	珠洲焼	片口鉢	珠洲Ⅲ期	13K7		Ⅲ2				灰色	灰色	石・針	なし	なし			
344	珠洲焼	片口鉢	珠洲Ⅳ期	13J1		Ⅲ2				青灰色	青灰色	石・針	なし	なし			
345	越前焼	擂鉢	16C前半	13H23		Ⅲ2				灰白色	灰白色	石	なし	なし			
346	陶器	稜皿	16C	13J13		Ⅲ2	9.8	2.2	5.4	灰白色	灰白色		なし	なし			瀬戸美濃、被熱
347	陶器	卸皿	大窯１～２	15H25		Ⅲ2	13.4	3.0	5.6	灰白色	灰白色	雲	なし	なし			瀬戸美濃、糸切
348	青磁	碗D類	14C～15C前半	13J13		Ⅲ2				灰色	灰色		なし	なし			被熱？
349	中国染付	皿B群Ⅶ類	15C後半～16C前半	11J5		Ⅲ2	11.8	2.8	6.0	灰白色	灰白色		なし	なし			

石製品観察表

報告番号	器種	出土地点		法量（㎝・g）				石材	遺存状況	使用痕	備考
		グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量				
316	管玉	8H15	Ⅸ1	2.52	0.92		2.76	凝灰岩	完形		孔径0.37～0.40㎝
317	勾玉未成品	10G6	Ⅸ1	4.46	1.81	1.18	16.95	滑石	完形、未成品		下割Ⅲ期？紡錘車を勾玉に転用
350	硯	12I杭	Ⅲ2	12.20	5.35	1.40	150.62	鳴滝産	上部破損	内面に墨痕	側面に製作痕

木製品観察表

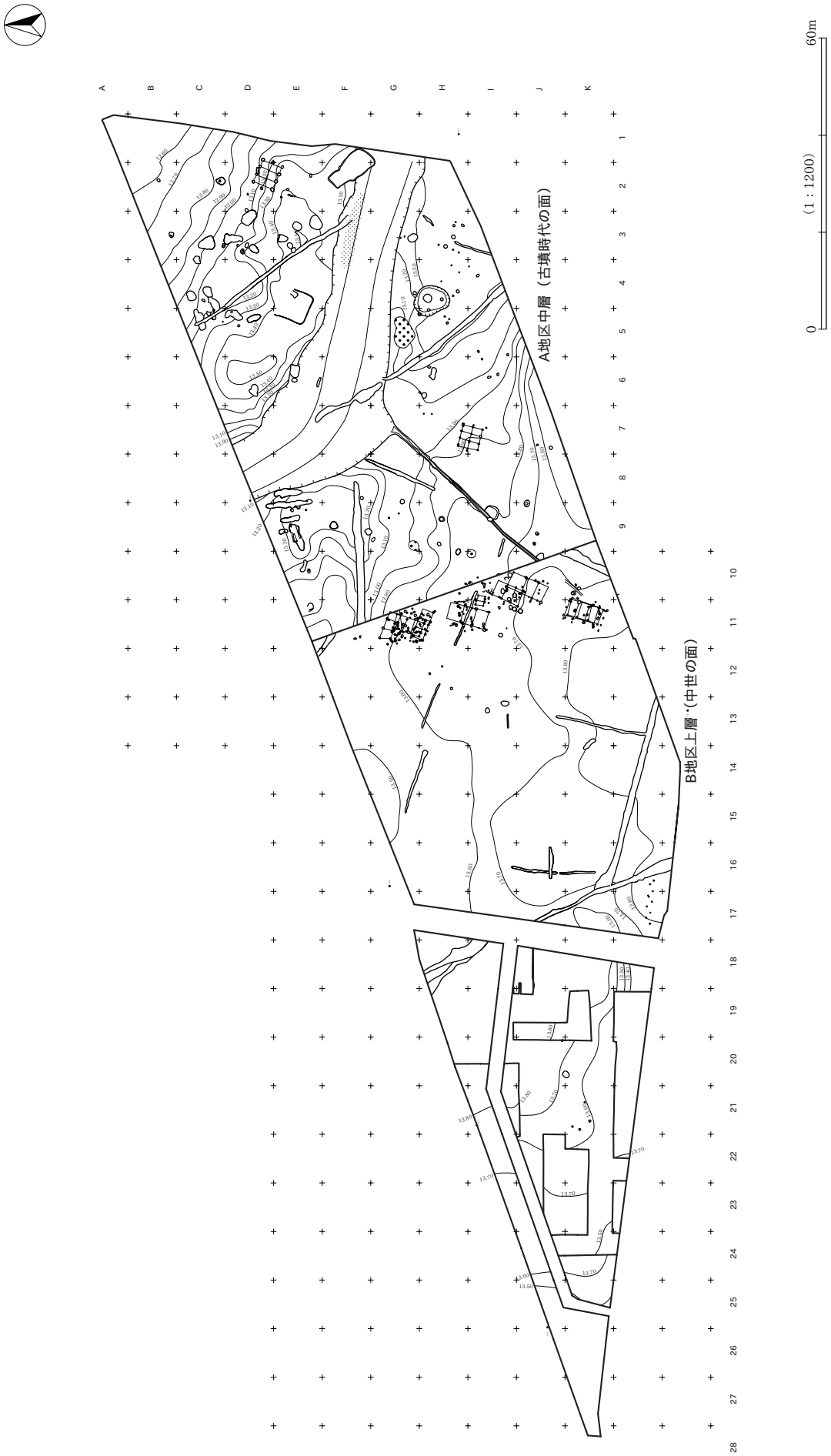
報告番号	器種	出土地点			法量（㎝）			遺存状況	木取り	樹種	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	暑さ				
246	礎板	2D16	03SB001		33.8	24.2	4.6	完形	柾目	オニグルミ	当たり15.7㎝×16.3㎝、転用材？03P49
247	礎板	2D17	03SB001		36.2	23.8	4.2	完形	板目	オニグルミ	当たり16.1㎝×14.4㎝、03SK45
248	柱根	10J7	03P1323		37.9	16.2		上端欠	丸材	オニグルミ	
249	底板？	6G	03旧河川1	中層			1.6	完形	柾目	スギ	径7.2㎝、中央に円形のくぼみ・線条痕あり
250	部材	5F	03旧河川1	中層	14.5	14.3	1.2	上端欠	柾目	スギ	4条の溝あり
251	不明	4F	03旧河川1	中層	24.8	1.0	0.9	完形	板目	スギ	
252	部材	6G	03旧河川1	中層	23.5	2.0	1.0	上下端欠	柾目	スギ	正面と裏面に2個ずつ孔あり
253	不明	3F	03旧河川1	中層	27.5	11.0	1.7	1/2欠	板目	スギ	円周に沿って溝あり
254	不明	5F	03旧河川1	中層	19.7	4.3	1.1	上下端欠	板目	スギ	
255	不明	4F	03旧河川1	中層	14.0	11.8	2.7	下端欠	板目	カエデ属	裏面わずかに反る
256	杭	7F	03旧河川1	中層	20.1	4.6	4.5	上下端欠	柾目	トネリコ属	面取り10面
257	不明	5G	03旧河川1	中層	29.7	2.8	1.7	上端欠	柾目	スギ	上端はV字状に削りだし
258	弓？柄？	5F	03旧河川1	中～下層	46.7	2.5	1.5	下端欠	丸材？	イヌガヤ	自然木の先端を加工
259	不明	3F	03旧河川1	中層	48.3	4.0	1.5	完形	板目	スギ	上下端に抉りあり
260	部材	7F	03旧河川1	中層	33.4	1.9	1.9	下端欠	丸材	イヌガヤ	上端をほぞ状に加工
261	容器（槽）	6F	03旧河川1	中層	25.2	18.6		3/4欠	板目	スギ	裏面に脚を削りだす
262	箱状木製品	7G	03旧河川1	中層	6.1	16.3	0.8	下端欠	柾目	スギ	左右端面取り、穿孔
263	箱状木製品	5G	03旧河川1	中層	13.7	24.6	0.9	完形	柾目	スギ	左右端面取り、穿孔
264	部材	6F	03旧河川1	中層	27.7	14.8	2.0	上左端欠	板目	スギ	
265	部材	7F	03旧河川1	中層	32.5	10.4	1.0	上端欠	柾目	スギ	線条痕あり
266	不明	4G	03旧河川1	下層	47.4	3.8	2.0	完形	丸材	スギ	下端を球状に削りだす
267	部材	6G	03旧河川1	下層	27.2	3.1	0.9	完形	板目	スギ	3か所穿孔
268	不明	7F	03旧河川1	下層	23.0	3.3	0.8	上端欠	柾目	スギ	
269	不明		03旧河川1		22.3	5.2	1.4	上下端欠	柾目	スギ	下端穿孔
270	箱状木製品		03旧河川1		5.9	15.9	0.8	下端欠	柾目	スギ	左右端面取り、穿孔
271	田下駄？		03旧河川1		40.3	34.8	1.5	左端欠	板目	スギ	
327	匙	4H14・15	SK209	覆土上層	11.7	5.0		柄部欠	板目	モクレン属	
328	匙	4H14・15	SK209	覆土1	34.5	6.2		完形	板目	ニシキギ属	
329	曲物	9H12	03SE72	覆土5	9.7	11.0		底板欠	柾目	スギ	柄杓？
330	漆器皿	4H24	03SE94	覆土下層	口径9.8、高さ1.4、底径7.2			1/3欠	柾目	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	内外面黒漆、外底面削痕
331	漆器皿	4G24	03SE110	覆土3・4	口径10.0、高さ1.0、底径8.0			1/3欠	柾目		内面赤漆、外面黒漆、外底面削痕
332	漆器皿	4G24	03SE110	覆土3・4	口径9.8、高さ1.2、底径7.8			1/3欠	柾目		内外面黒漆、外底面削痕、×形の線条痕と刻痕
333	曲物	4H4・5	03SE113	覆土下層	11.9	16.6		完形	柾目	スギ	径15.5～17.5㎝、柄杓
334	容器？	10I19	03SE1245	覆土	2.4	13.1		左右端欠	柾目	ヒノキ	
335	箸	10I19	03SE1245	覆土5	19.9	0.8		下端欠	板目	スギ	
336	箸	10I19	03SE1245	覆土	20.1	0.7		上端欠	柾目	スギ	
337	箸	10I25	03SE1263	覆土5	20.5	0.6		上端欠	板目	スギ	
338	箸	10I25	03SE1263	覆土7	21.9	0.8		上端欠	柾目	スギ	
339	箱物？	7J20	03SK150	覆土1・2	28.8	0.8		上下端欠	柾目	スギ	線条痕あり
340	杭	7J20	03SK150	覆土1・2	42.5	8.5		上端欠？	丸材	ブナ属	径7.6～7.9㎝
341	柱根	11H3	03P1040		41.1	8.9		上端欠	丸材	クリ	径約8.2㎝、03SB006
342	柱根	11H5	03P1077		54.4	7.2		上端欠	丸材	クリ	径7.8～8.6㎝、03SB005
351	上屋部材	11H5		Ⅲ2	31.7	8.8		上端欠	板目	スギ	ほぞ穴あり

銭貨観察表

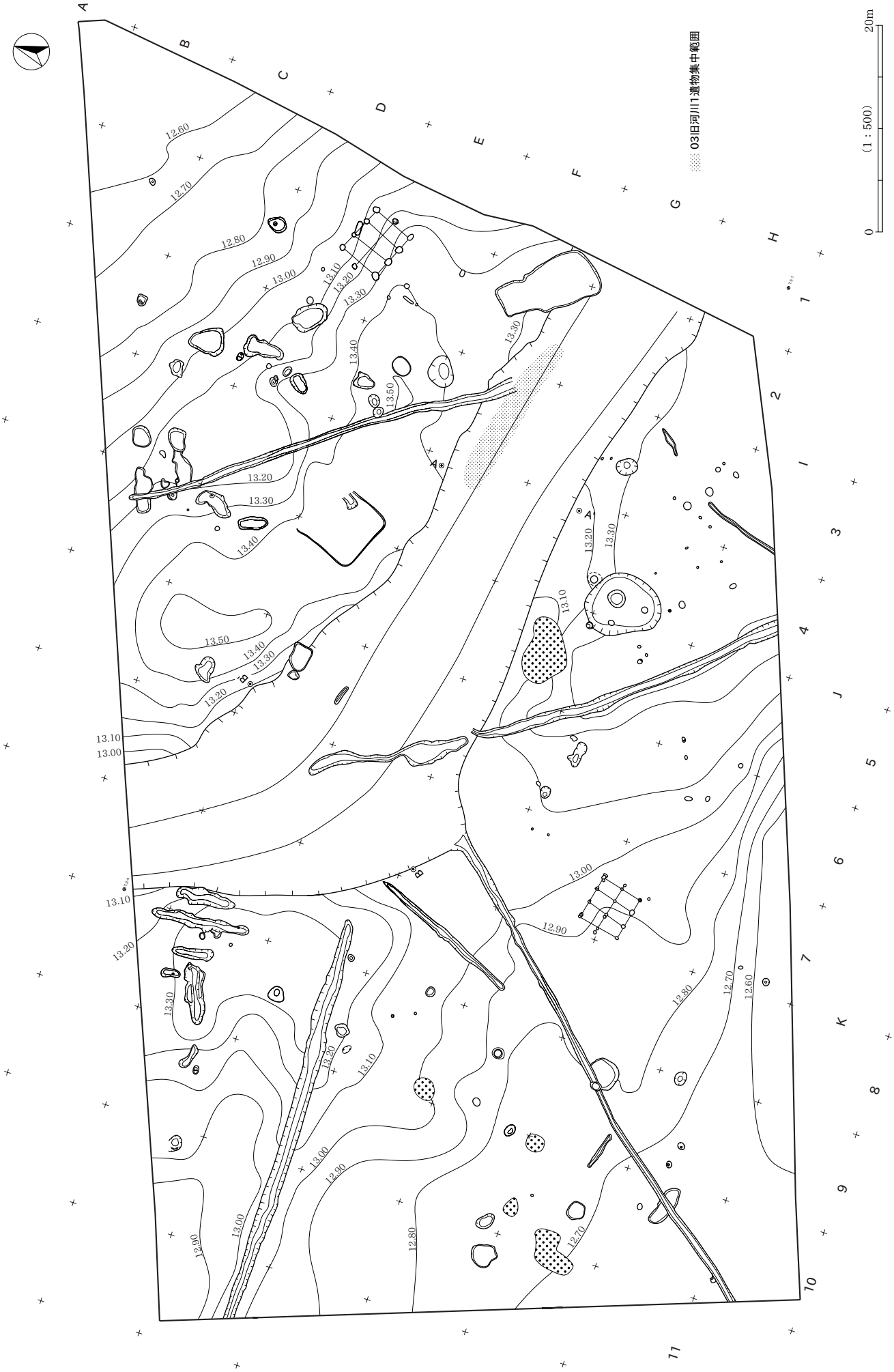
報告番号	銭貨名	出土地点		法量（㎜・g）						初鋳年	王朝名	備考
		グリッド	層位	外径縦	外径横	内径縦	内径横	銭厚	重量			
352	開元通寶	11K	Ⅲ2	24.10	24.15	6.45	6.50	1.30	3.17	621年	唐	背上月
353	宋通元寶	11K	Ⅲ2	24.35	24.50	6.45	6.20	1.15	3.05	960年	北宋	
354	淳化元寶	11K	Ⅲ2	25.05	25.05	5.70	5.60	1.05	3.13	990年	北宋	
355	咸平元寶	11K	Ⅲ2	24.15	24.10	6.75	6.90	1.00	2.20	998年	北宋	
356	天禧通寶	11K	Ⅲ2	25.35	25.40	6.45	6.30	1.10	3.06	1017年	北宋	
357	天禧通寶	11K	Ⅲ2	24.75	25.00	5.50	5.45	1.10	3.42	1017年	北宋	孔ずれる
358	天聖元寶	11K	Ⅲ2	25.00	24.95	6.45	6.60	1.35	3.21	1023年	北宋	
359	皇宋通寶	11K	Ⅲ2	24.15	24.40	7.30	7.75	1.05	3.11	1038年	北宋	
360	嘉祐元寶	11K	Ⅲ2	23.35	23.85	5.80	5.95	1.25	3.15	1056年	北宋	
361	元豊通寶	11K	Ⅲ2	22.15	22.00	6.20	6.05	1.20	2.21	1078年	北宋	
362	元祐通寶	11K	Ⅲ2	23.25	24.25	6.25	6.20	1.10	2.43	1086年	北宋	
363	紹聖元寶	11K	Ⅲ2	23.95	24.00	5.80	5.85	1.15	2.54	1094年	北宋	
364	聖宋元寶	11K	Ⅲ2	23.10	23.00	6.80	6.85	1.20	2.03	1101年	北宋	
365	天聖元寶	16L10	Ⅲ2	24.20	24.05	7.50	7.45	1.15	2.06	1023年	北宋	破損あり
366	元祐通寶	16L9	Ⅲ2	24.60	24.25	5.95	6.35	1.00	2.41	1086年	北宋	
367	景徳元寶	10J9	Ⅲ2	22.70	22.95	6.25	6.35	0.85	0.81	1004年	北宋	輪郭と文字部のみ残る
368	元豊通寶	15L20	Ⅲ2	24.35	24.35	6.85	6.90	1.10	3.07	1078年	北宋	
	無文銭	14G杭	Ⅲ2	20.55	21.05	7.75	7.40	0.70	1.22			写真のみ掲載

図　　版

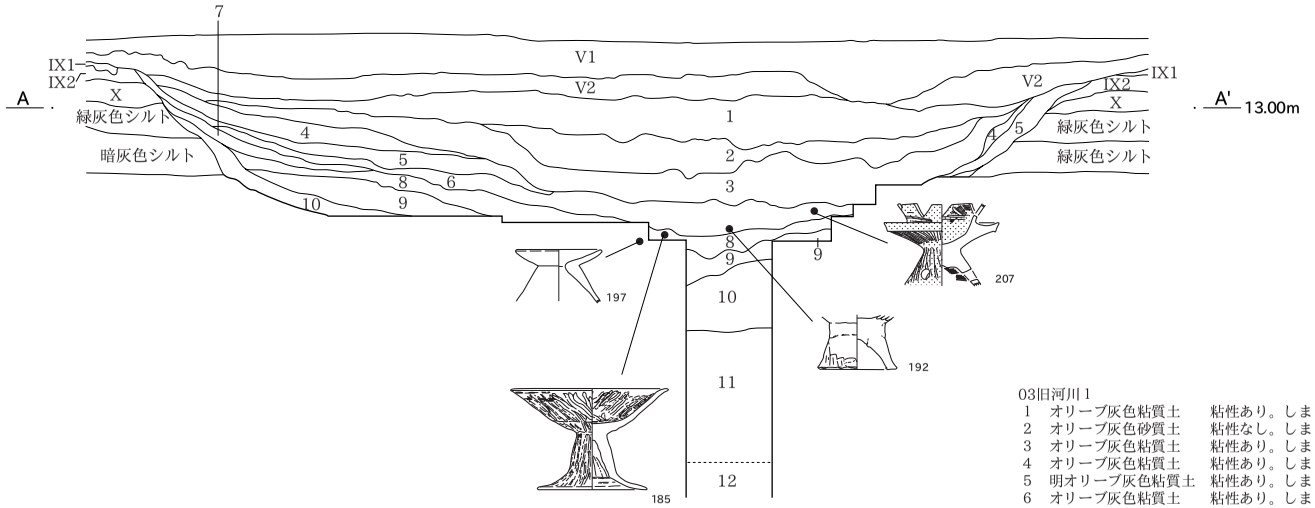
1　礎板・柱根は　のスクリーントーンで示した。
2　土師器の赤彩範囲は　のスクリーントーンで示した。
3　土器・陶磁器の断面は、灰釉は点描、その他は白抜きとした。
4　漆の塗布範囲と腐着物は　のスクリーントーンで示した。
5　木製品の木目は、木取部位表示を目的としているため、年輪幅は実際を示していない。
6　遺物の写真図版の縮尺は、図面図版と同じである。


A地区中層（古墳時代の面）
B地区上層（中世の面）
0
（1：1200）
60m

古墳時代遺構全体図



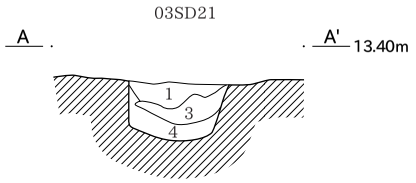
4
3
2
C
D
E
F
G
03SX31
03SK23
03SK33
03SX29
03SX52
03SX50
03SK27
03SK22
03SK17
03SK41
03SD44
03SB001
03SD21
03SK14
03SX24
03SX165
03SX164
03旧河川1
12.80
12.90
13.00
13.10
13.20
13.30
13.40
13.50
A
A'
B
B'
0
(1：200)
10m

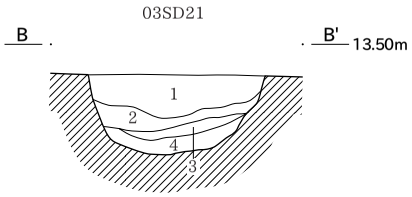


03旧河川1

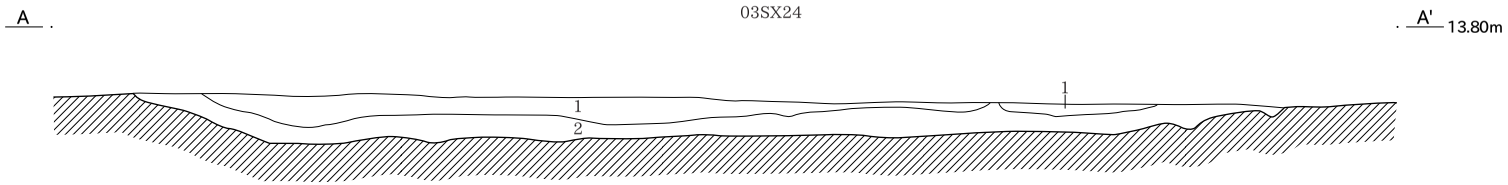
1	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2	オリーブ灰色砂質土	粘性なし。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
3	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。シルトをブロック状に含む。
4	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。シルトをブロック状に含む。
5	明オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
6	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色火山灰粒子を少量含む。古墳時代前期～中期の遺物を包含する。
7	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトをブロック状に含む。灰色火山灰粒子をごく少量含む。
8	暗緑灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色火山灰粒子をごく少量含む。古墳時代前期～中期の遺物を包含する。
9	オリーブ黄色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。酸化鉄を少量含む。
10	灰オリーブ色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。酸化鉄を少量含む。層厚の薄い砂層が幾筋も入る互層となる。石灰質の凝固した層も確認できる。下位には流木片が堆積する。古墳時代前期～中期初頭の遺物を多く包含する。
11	青灰色砂	
12	礫層	

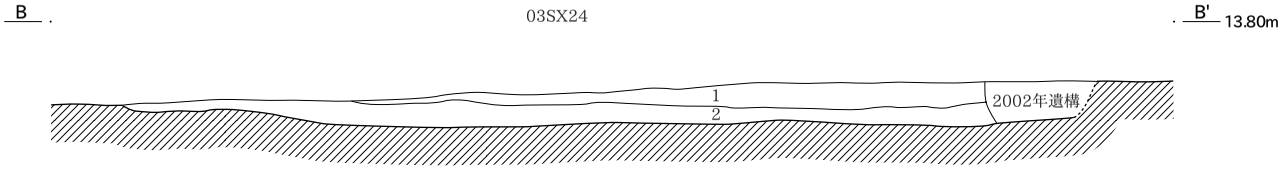
0 (1：100) 5m





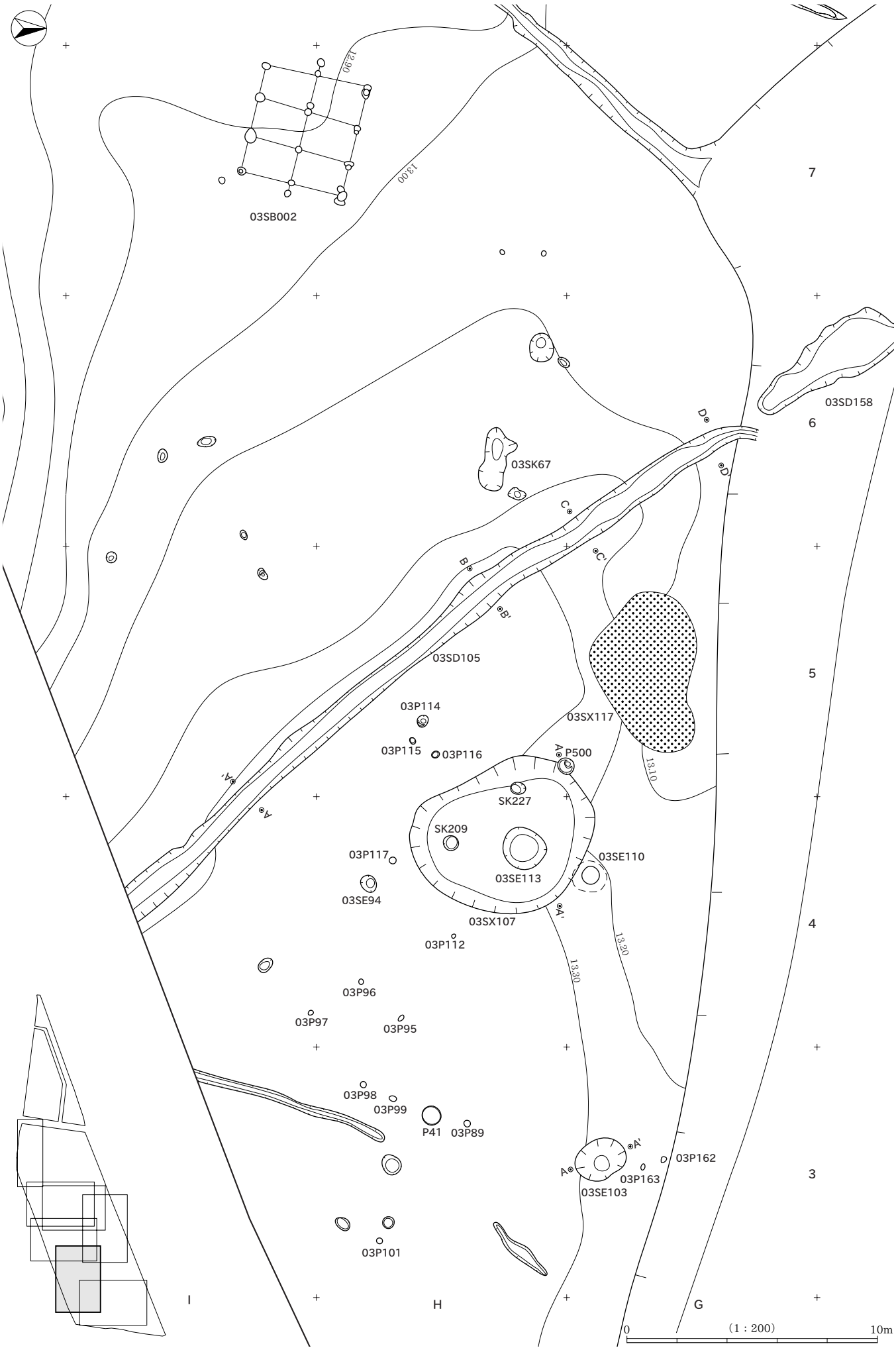
03SD21
1　明黄褐色砂質土　　粘性なし。しまりややあり。
2　明黄褐色砂質土　　粘性なし。しまりややあり。
3　黄褐色砂質土　　粘性ややあり。しまりなし。
4　灰褐色砂質土　　粘性なし。しまりなし。



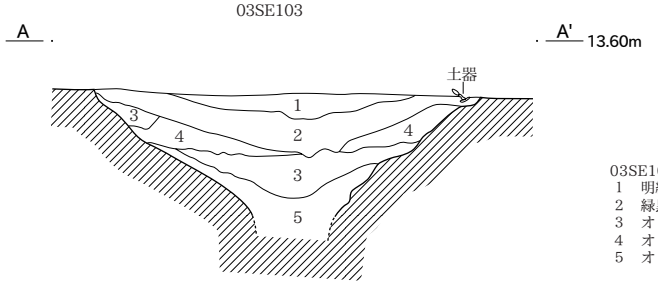


03SX24
1　褐灰色粘質土　　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰白色粘質土を含む。
2　褐灰色粘質土　　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰白色粘質土を含む。

0　（1：40）　2m

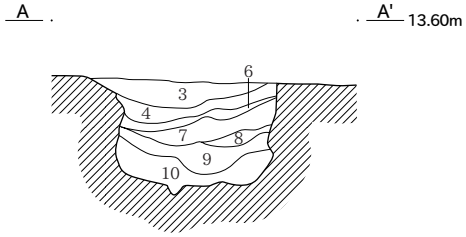

03SB002
12.90
13.00
7
6
5
4
3
03SD158
03SK67
D
D'
C
C'
B
B'
A
A'
03SD105
03P114
03P115
03P116
03SX117
P500
13.10
SK227
SK209
03SE113
03SE110
03P117
03SE94
03SX107
03P112
13.20
13.30
03P96
03P97
03P95
03P98
03P99
P41
03P89
03P162
03P163
03SE103
03P101
I
H
G
0
(1：200)
10m

03SE103

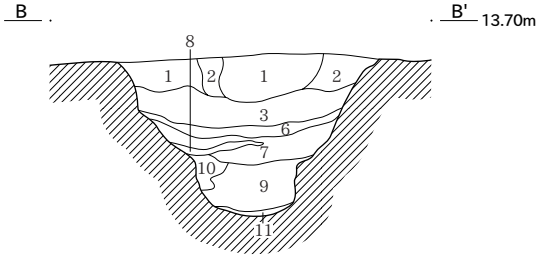


03SE103
1　明緑灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。Ⅸ２層を多く含む。
2　緑黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
3　オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を縞状に含む。
4　オリーブ黄色粘質土　粘性あり。しまりあり。酸化鉄を含む。
5　オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。

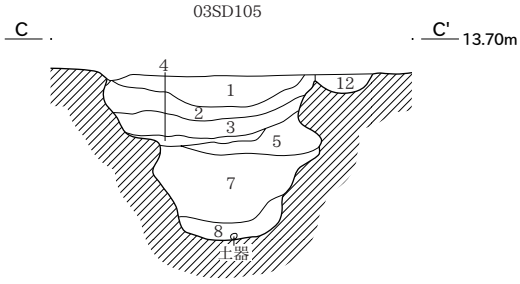
03SD105



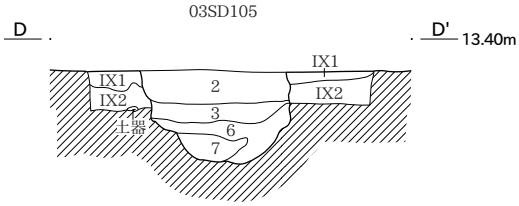
03SD105



03SD105

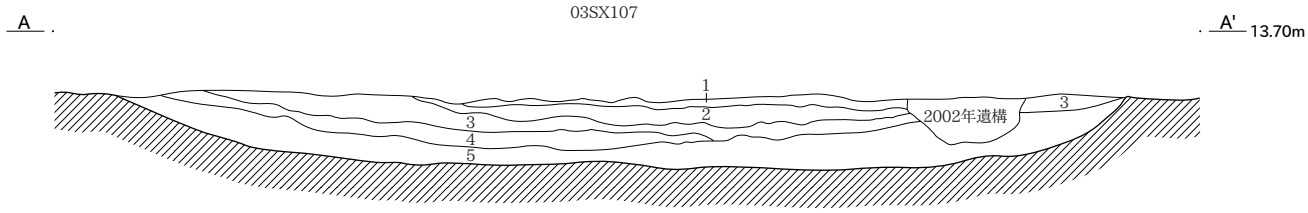


03SD105



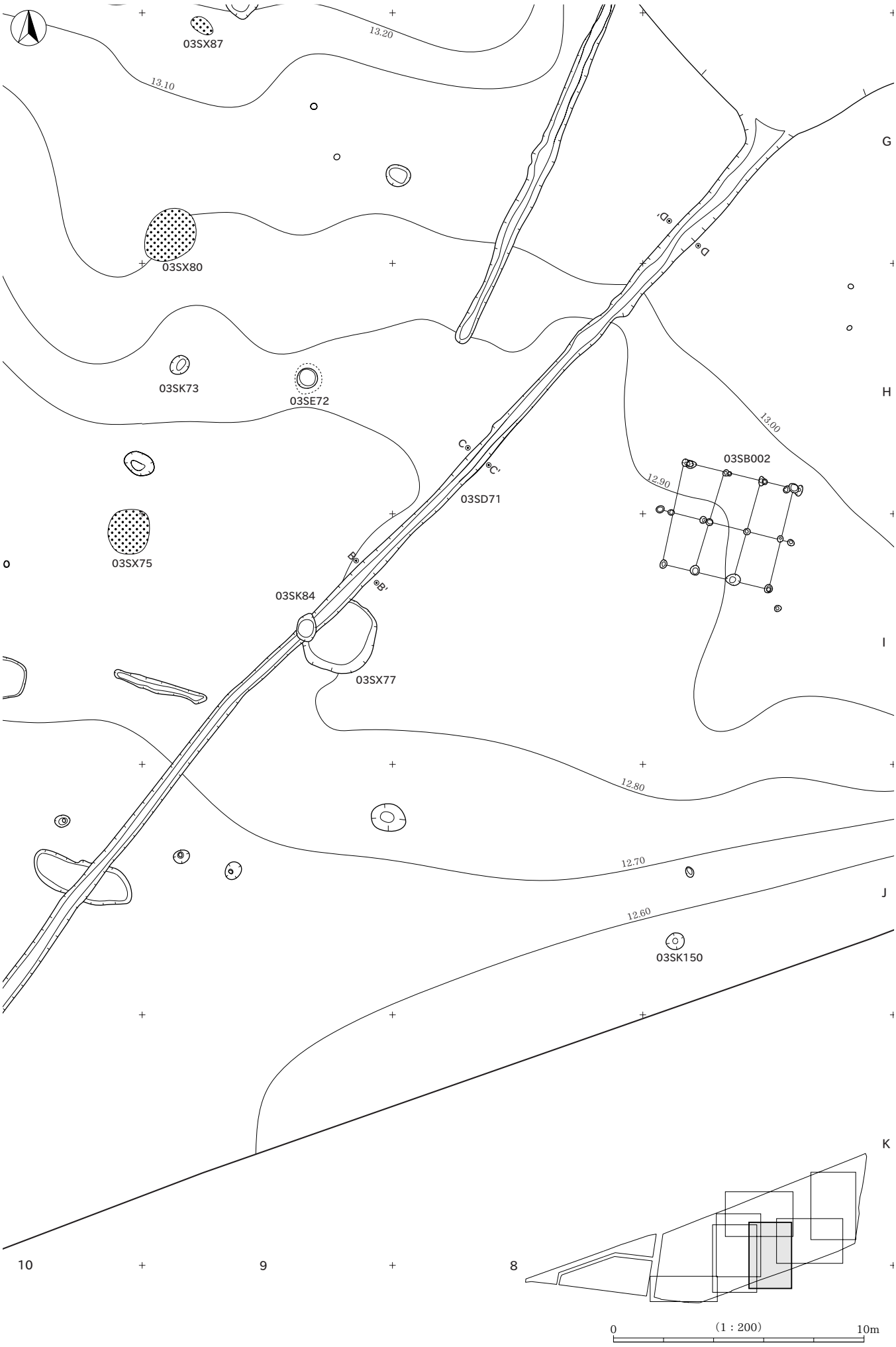
03SD105
1　明青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。暗青灰色粘質土をブロック状に含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。暗青灰色粘質土を多く含む。
3　明青灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。
4　緑灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。
5　明緑灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。
6　灰色砂　粘性なし。しまりなし。
7　灰色シルト　粘性ややあり。しまりなし。
8　灰色砂質土　粘性なし。しまりなし。
9　灰色シルト　粘性ややあり。しまりなし。
10　灰白色シルト　粘性ややあり。しまりなし。
11　暗灰色砂　粘性なし。しまりなし。
12　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。

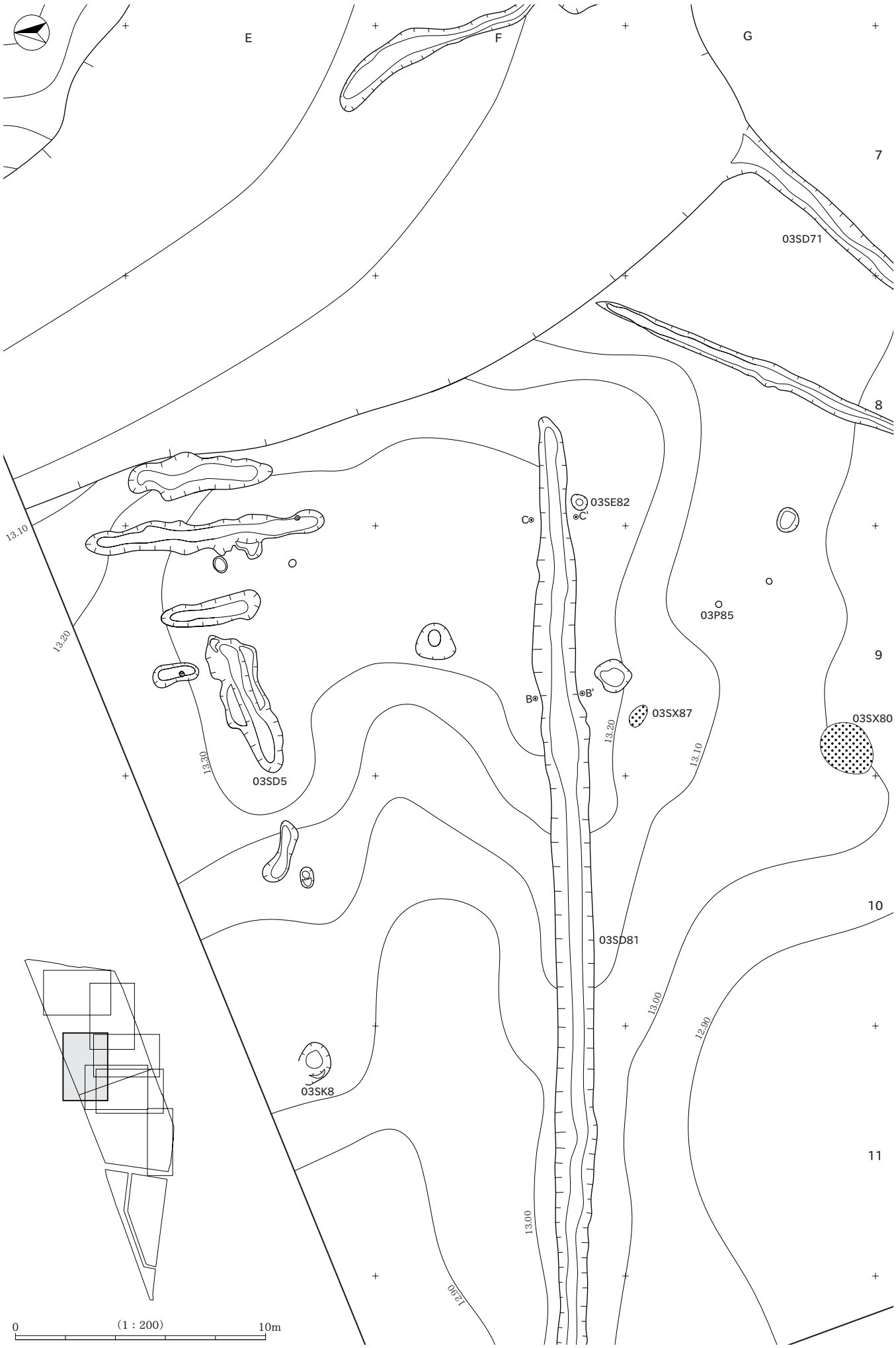
03SX107

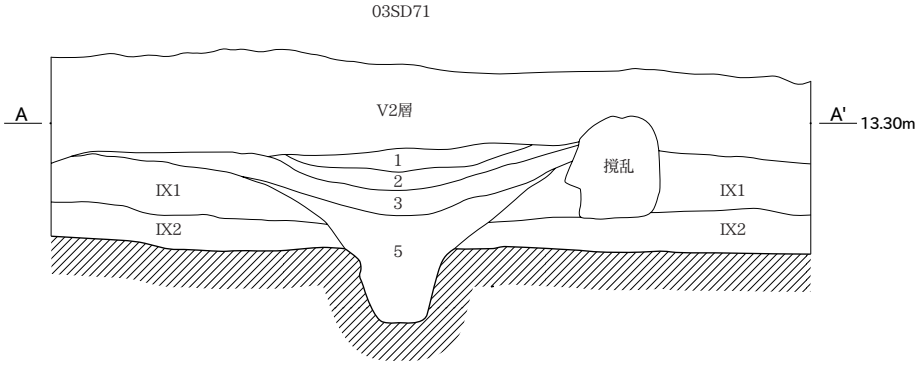


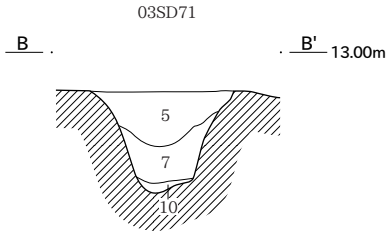
03SX107
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土を少量含む。
3　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土をやや多く含む。
4　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
5　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。酸化鉄を多く含む。

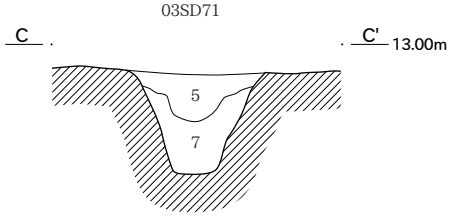
0　（1：40）　2m

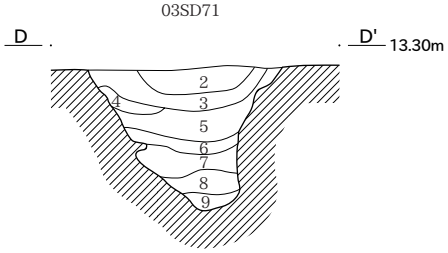

03SX87
13.20
13.10
03SX80
03SK73
03SE72
03SX75
03SK84
03SX77
03SD71
03SB002
12.90
13.00
12.80
12.70
12.60
03SK150
G
H
I
J
K
10
9
8
0
(1：200)
10m


E
F
G
7
8
9
10
11
03SD71
03SE82
C
C'
B
B'
03P85
03SX87
03SX80
03SD5
03SD81
03SK8
13.10
13.20
13.30
13.00
12.90
0
(1：200)
10m



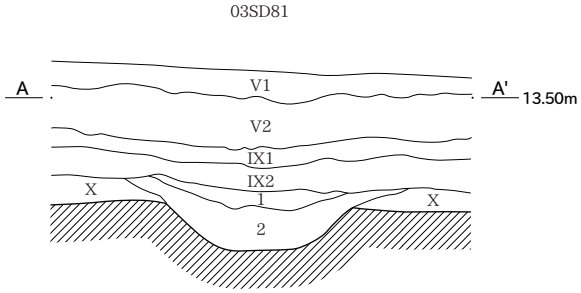


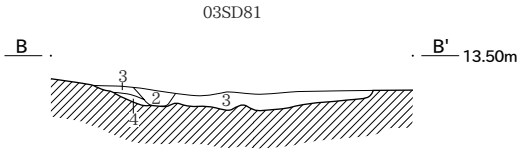


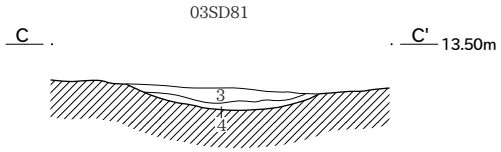


03SD71

1	オリーブ褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。灰色粘質土の酸化した土。
2	オリーブ褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。１層よりも酸化の度合いが若干弱い。
3	オリーブ褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を縞状に含む。
4	明青灰色土	粘性なし。しまりなし。
5	暗青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。IX１層に類似する。
6	灰色土	粘性ややあり。しまりややあり。
7	灰色土	粘性ややあり。しまりややあり。炭化物。腐植物を多く含む。
8	明青灰色土	粘性ややあり。しまりややあり。
9	明青灰色土	粘性ややあり。しまりややあり。灰色土をブロック状に含む。
10	灰オリーブ色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。



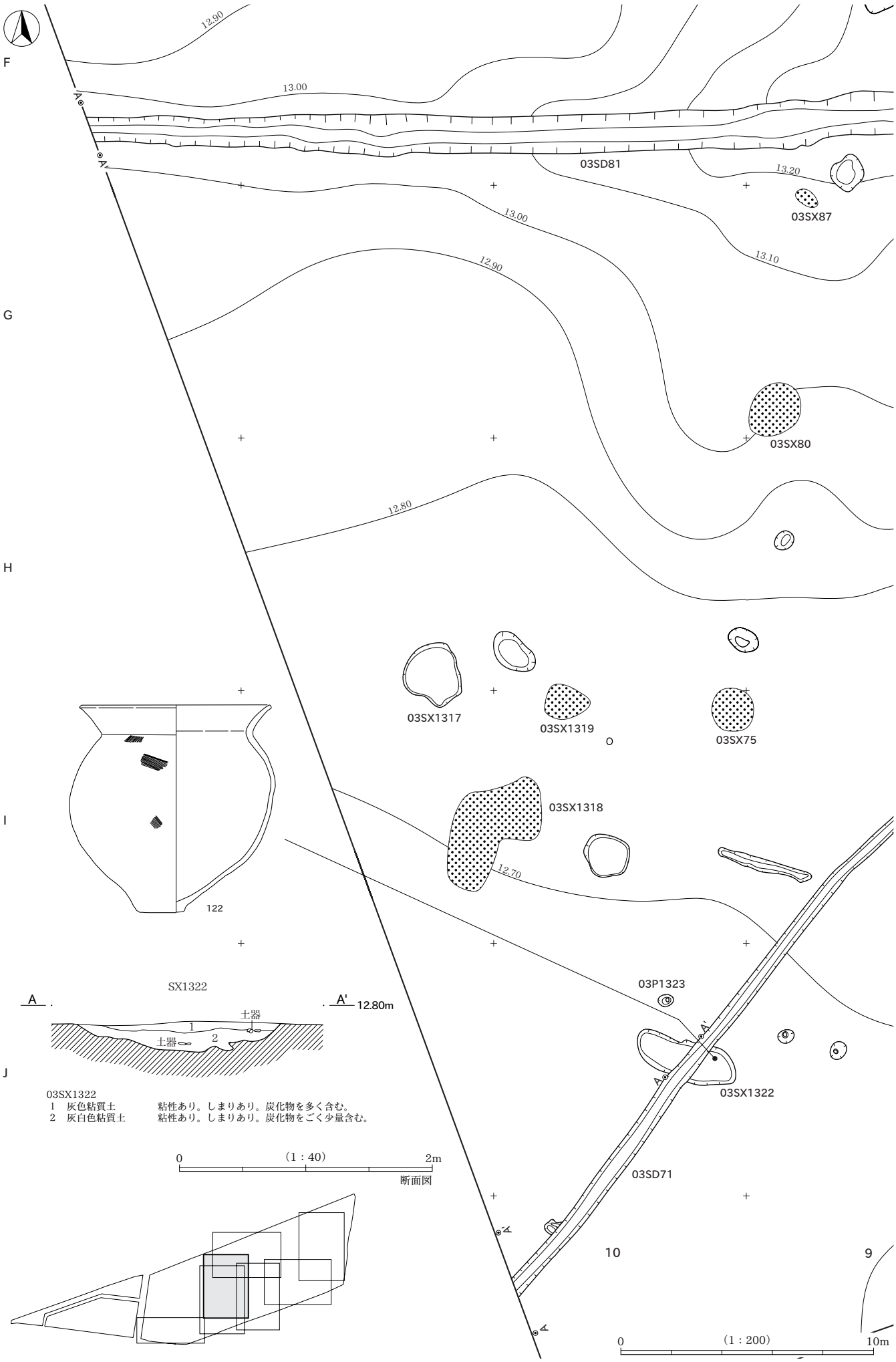




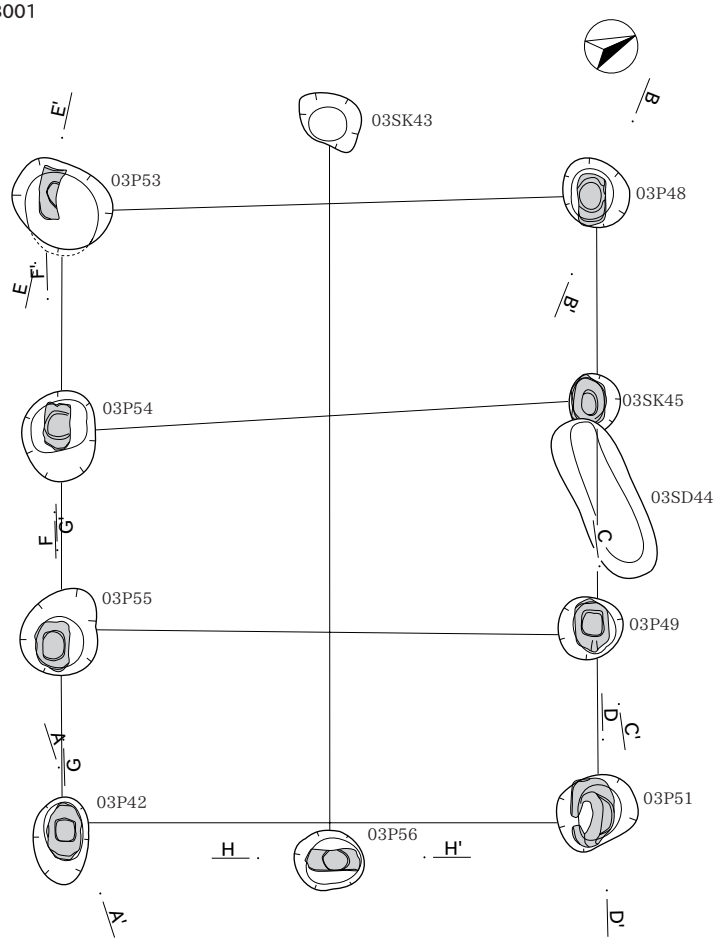
03SD81

1	明オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。X層に類似する。
2	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
3	褐灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色粘質土をごく少量含む。
4	にぶい褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。灰色粘質土を多く含む。

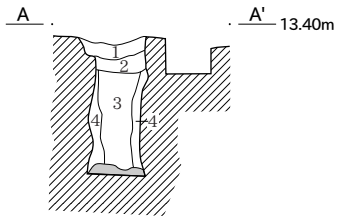
0　（1：40）　2m


F
G
H
I
J
12.90
13.00
13.20
13.10
12.80
12.70
03SD81
03SX87
03SX80
03SX1317
03SX1319
03SX75
03SX1318
03P1323
03SX1322
03SD71
122
SX1322
A
A'
12.80m
土器
1
2
03SX1322
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
2　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
0
(1：40)
2m
断面図
10
9
0
(1：200)
10m

03SB001



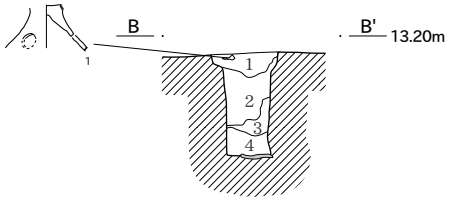
03P42



03Pit42

1	青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。明赤褐色粘質土を帯状に含む。
3	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
4	オリーブ灰色粘質土	粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

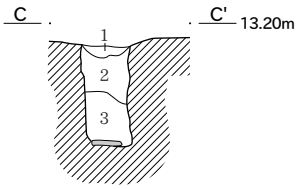
03P48



03Pit48

1	黒褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2	灰オリーブ色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
3	灰オリーブ色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
4	灰色粘質土	粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

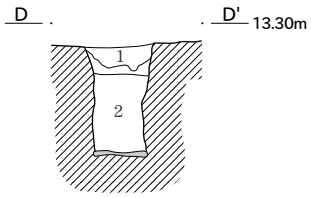
03P49



03Pit49

1	にぶい黄褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。酸化鉄を多く含む。
2	灰褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
3	灰褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。

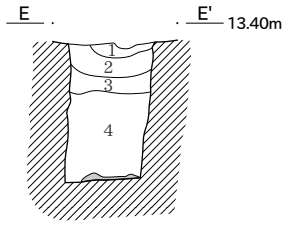
03P51



03Pit51

1	灰褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。

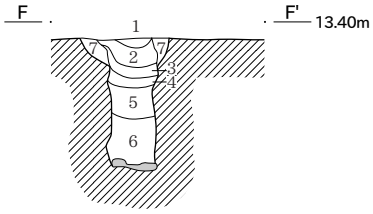
03P53



03Pit53

1	青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。明赤褐色粘質土をブロック状に含む。
3	明赤褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。
4	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。

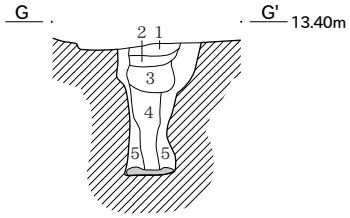
03P54



03Pit54

1	青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。明赤褐色粘質土をブロック状に含む。
3	赤褐色粘質土	粘性ややあり。しまりややあり。
4	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。
5	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
6	灰色粘質土	粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
7	青灰色粘質土	粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。赤褐色粘質土をブロック状に含む。

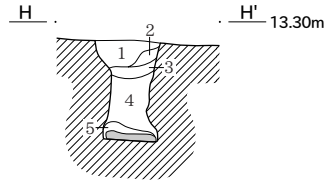
03P55



03Pit55

1	青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2	明赤褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。
3	灰色粘質土	粘性ややあり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
4	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
5	オリーブ灰色粘質土	粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

03P56

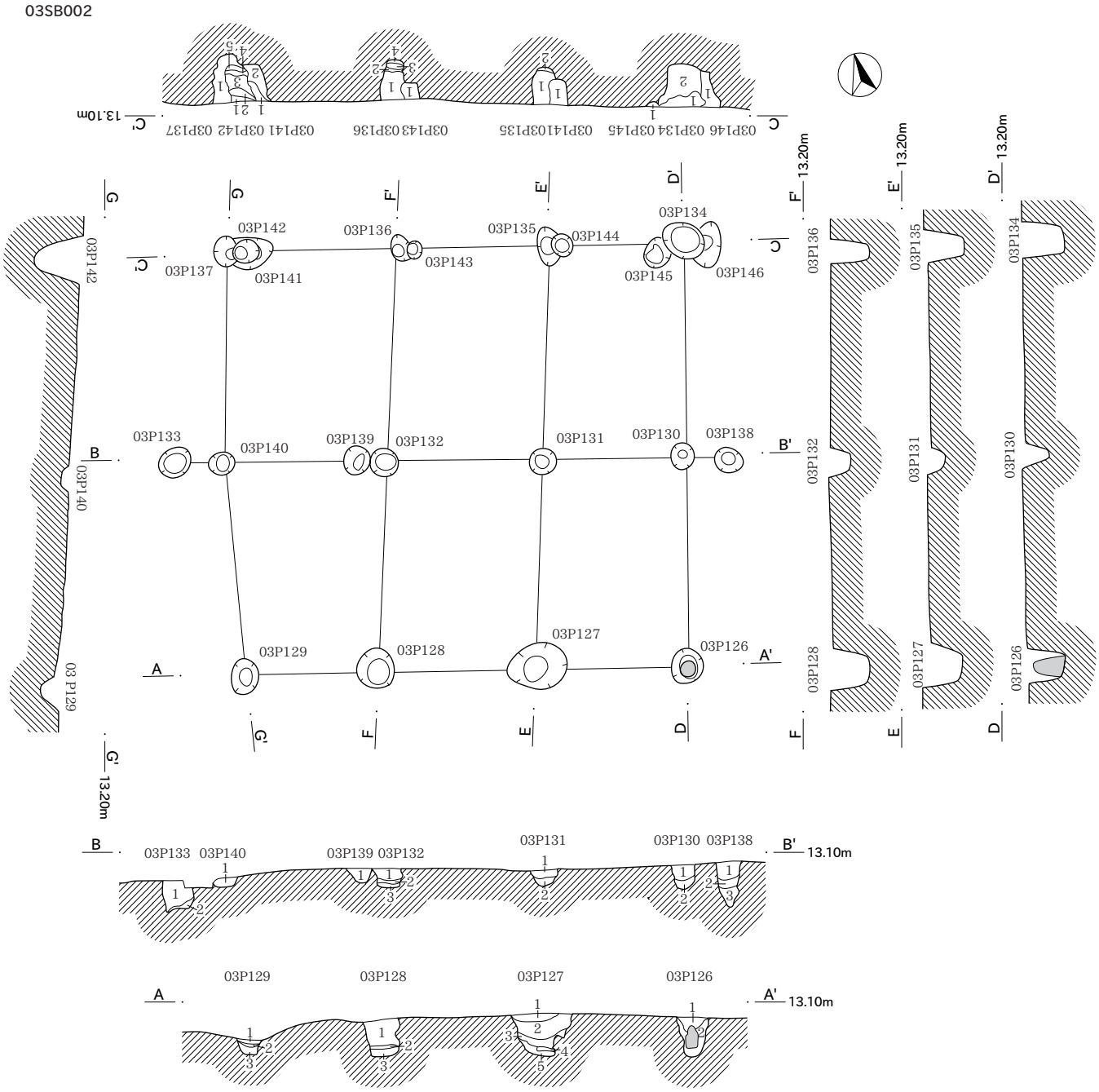


03Pit56

1	青灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2	オリーブ灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。明赤褐色粘質土をブロック状に含む。
3	明赤褐色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。青灰色粘質土を多く含む。
4	灰色粘質土	粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
5	オリーブ灰色粘質土	粘性ややあり。しまりややあり。

0　（1：60）　3m

03SB002



03Pit126
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。

03Pit127
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
3　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。砂をごく少量含む。
4　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。腐植物を含む。
5　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。

03Pit128
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。腐植物を含む。
3　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰色粘質土をブロック状に含む。

03Pit129
1　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
3　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。

03Pit130
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

03Pit131
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

03Pit132
1　暗青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。腐植物をごく少量含む。

03Pit133
1　暗青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。

03Pit134
1　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。明青灰色粘質土をブロック状に含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。明青灰色粘質土をまばらに含む。

03Pit135
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

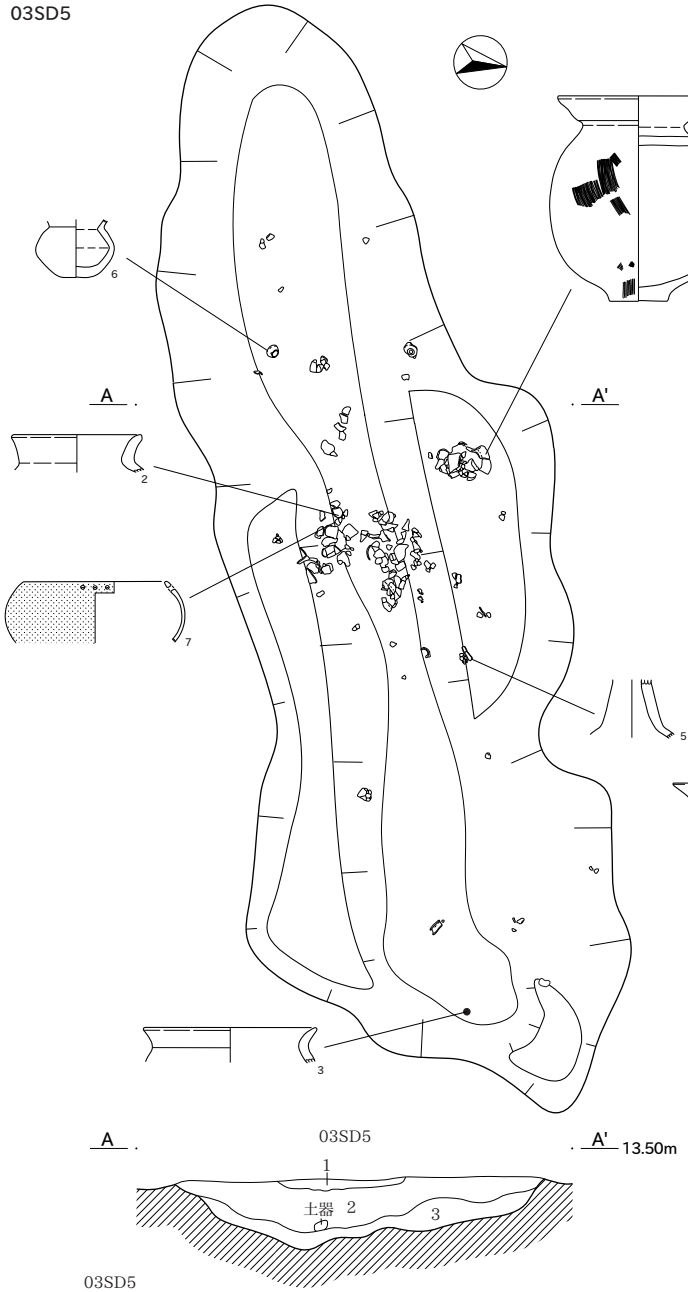
03Pit136
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。
3　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
4　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。

03Pit137
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

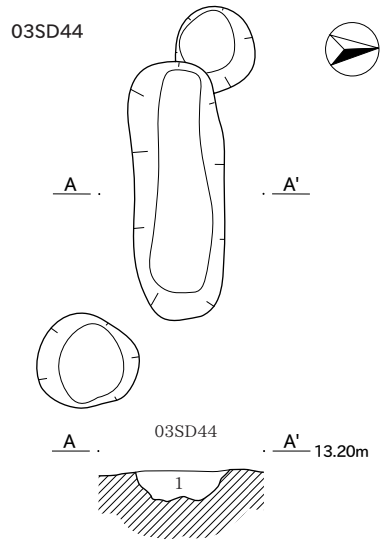
03Pit138
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。暗灰色粘質土をブロック状に含む。
3　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。暗灰色粘質土をブロック状に含む。

03Pit140
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。明青灰色粘質土をブロック状に含む。

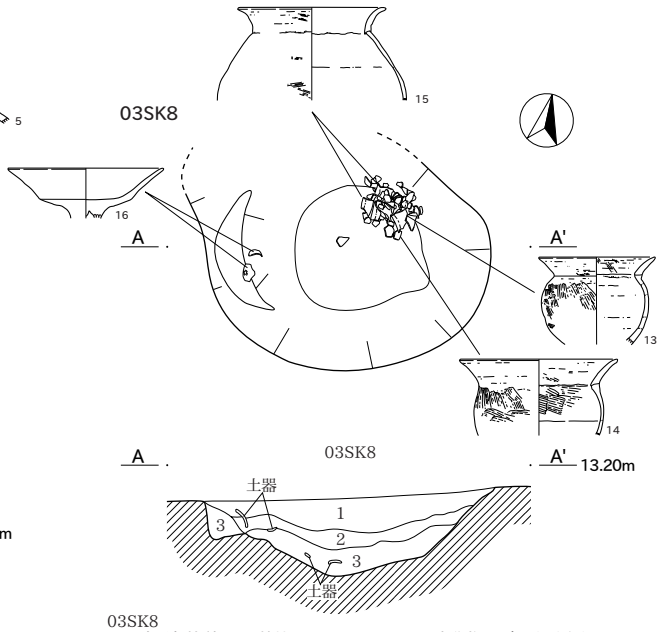
0　（1：60）　3m



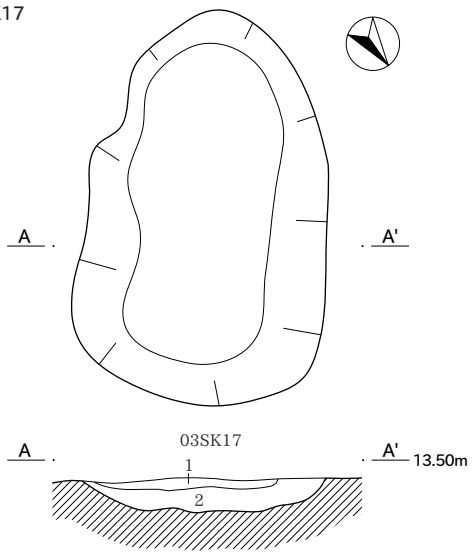
03SD5
1　黒色粘質土　　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
2　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
3　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。



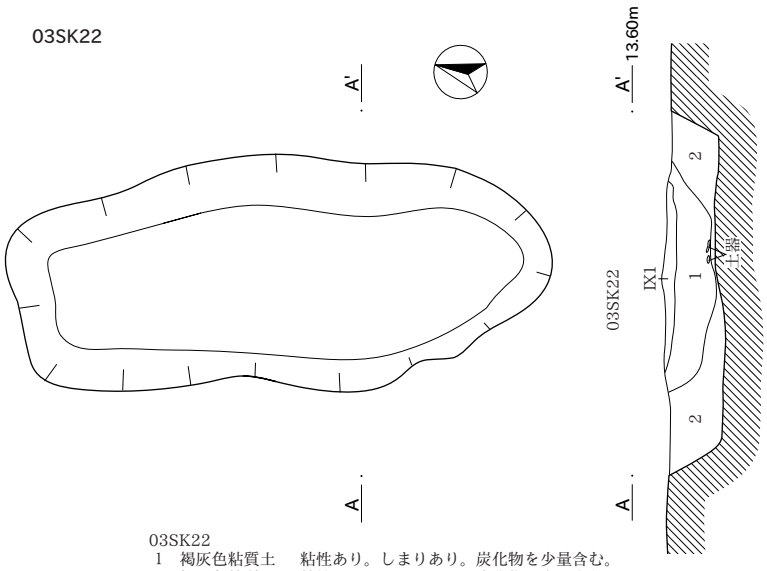
03SD44
1　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。



03SK8
1　暗灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
　　灰白色粘質土をごく少量含む。
3　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。



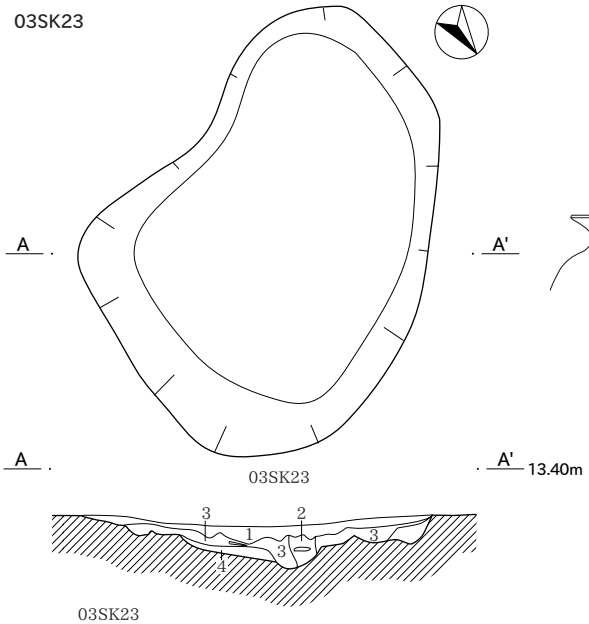
03SK17
1　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。



03SK22
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。

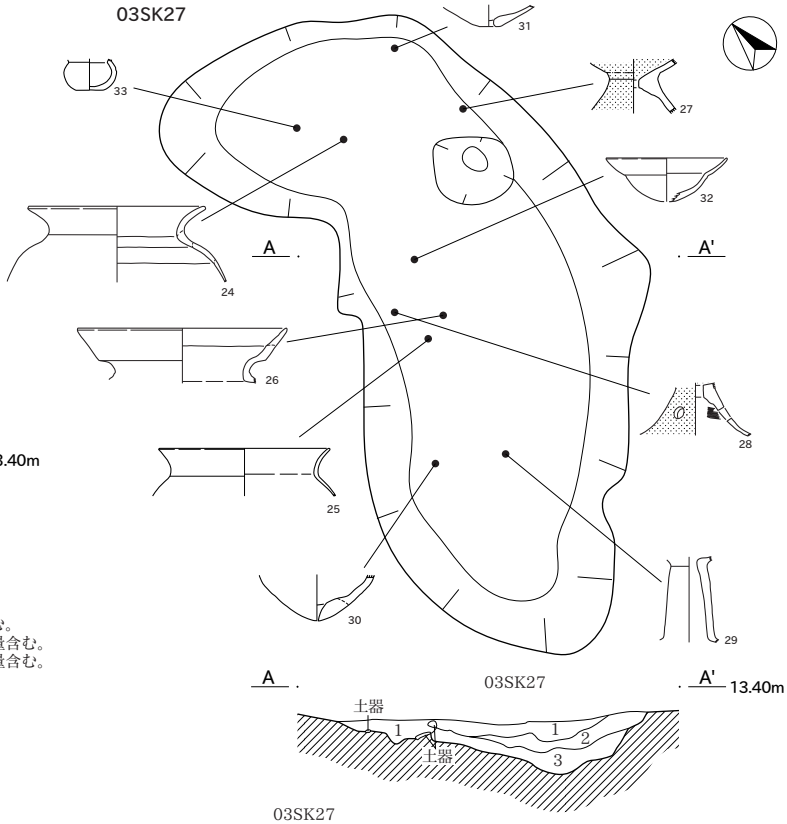
0　（1：40）　2m

03SK23



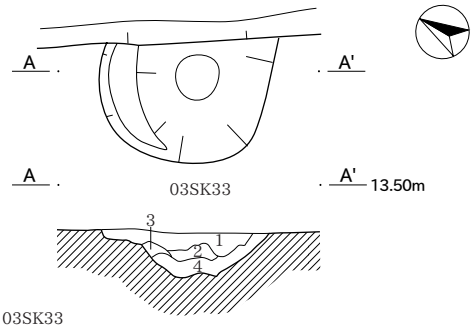
03SK23
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
3　褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
4　にぶい褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。

03SK27



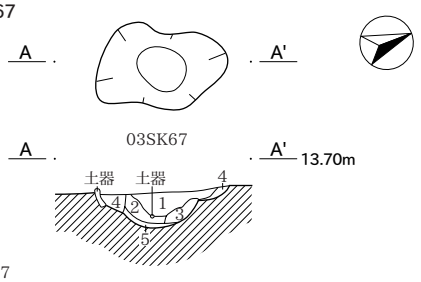
03SK27
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。
3　褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。

03SK33



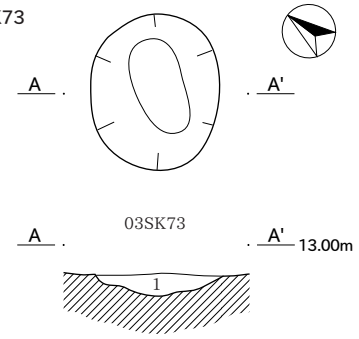
03SK33
1　暗褐色粘質土　粘性なし。しまりあり。炭化物を多く含む。
2　暗褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
3　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。灰色粘質土を含む。
4　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を少量含む。灰色粘質土を含む。

03SK67



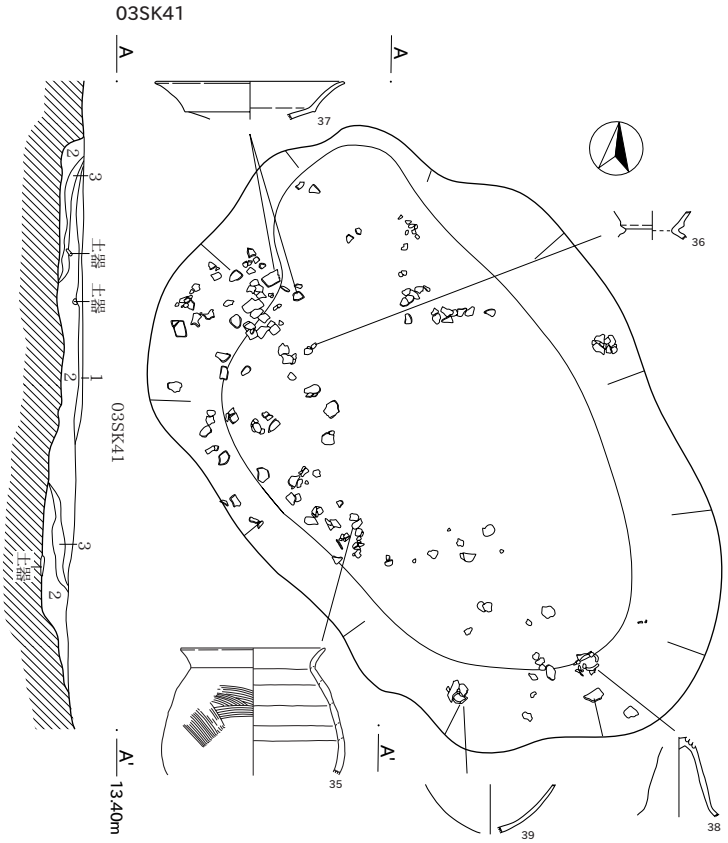
03SK67
1　暗青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。黄橙色土をブロック状に含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
3　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。黄橙色土をブロック状に含む。
4　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。

03SK73



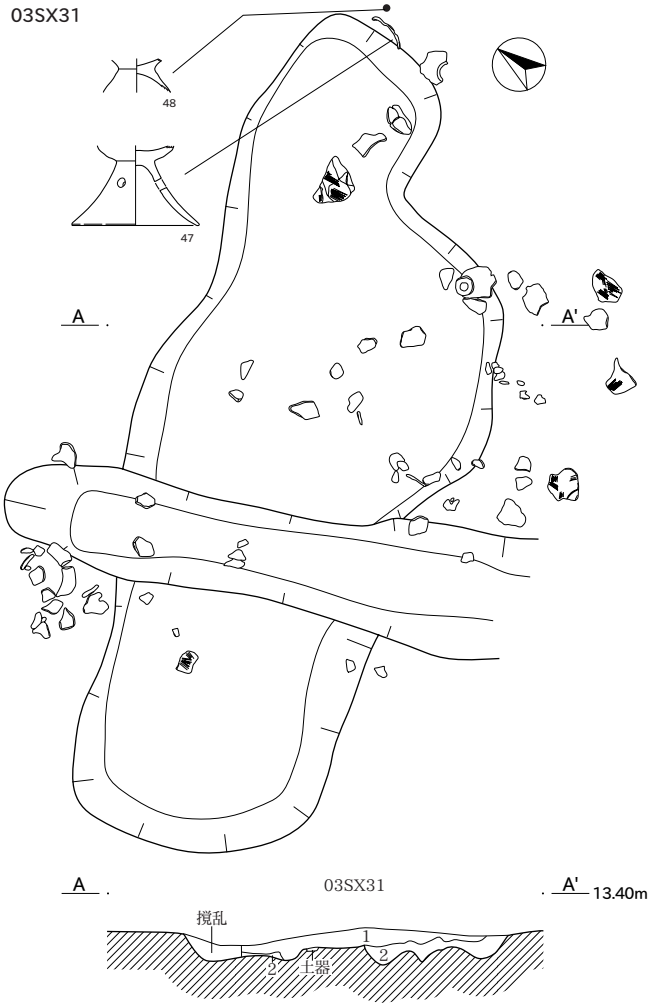
03SK73
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物をやや多く含む。

03SK41

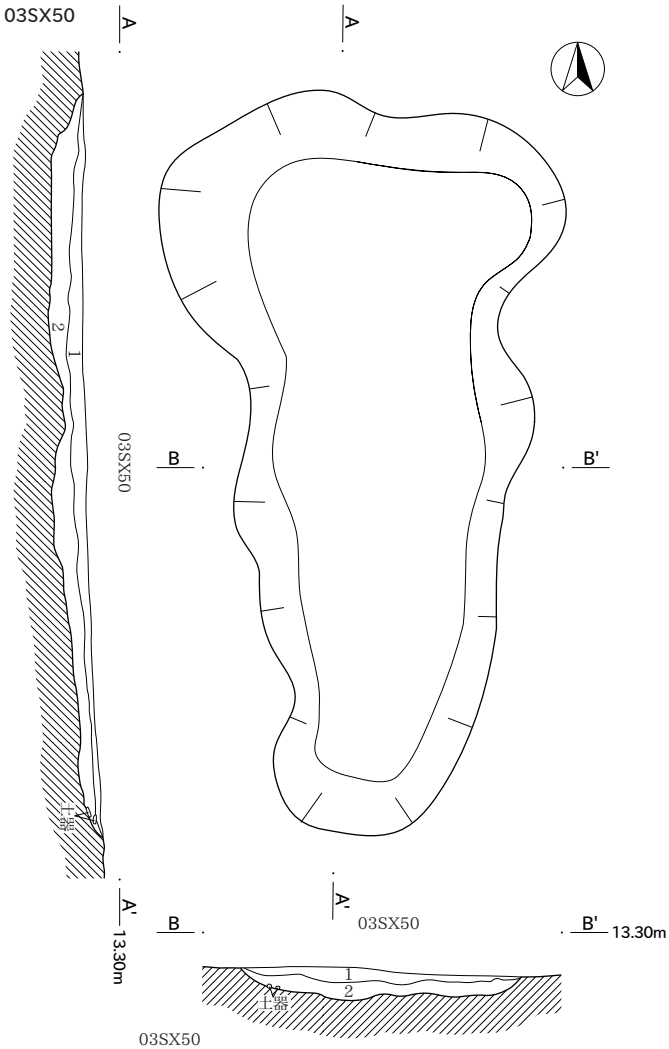


03SK41
1　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。赤褐色土をブロック状に含む。
3　暗灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。

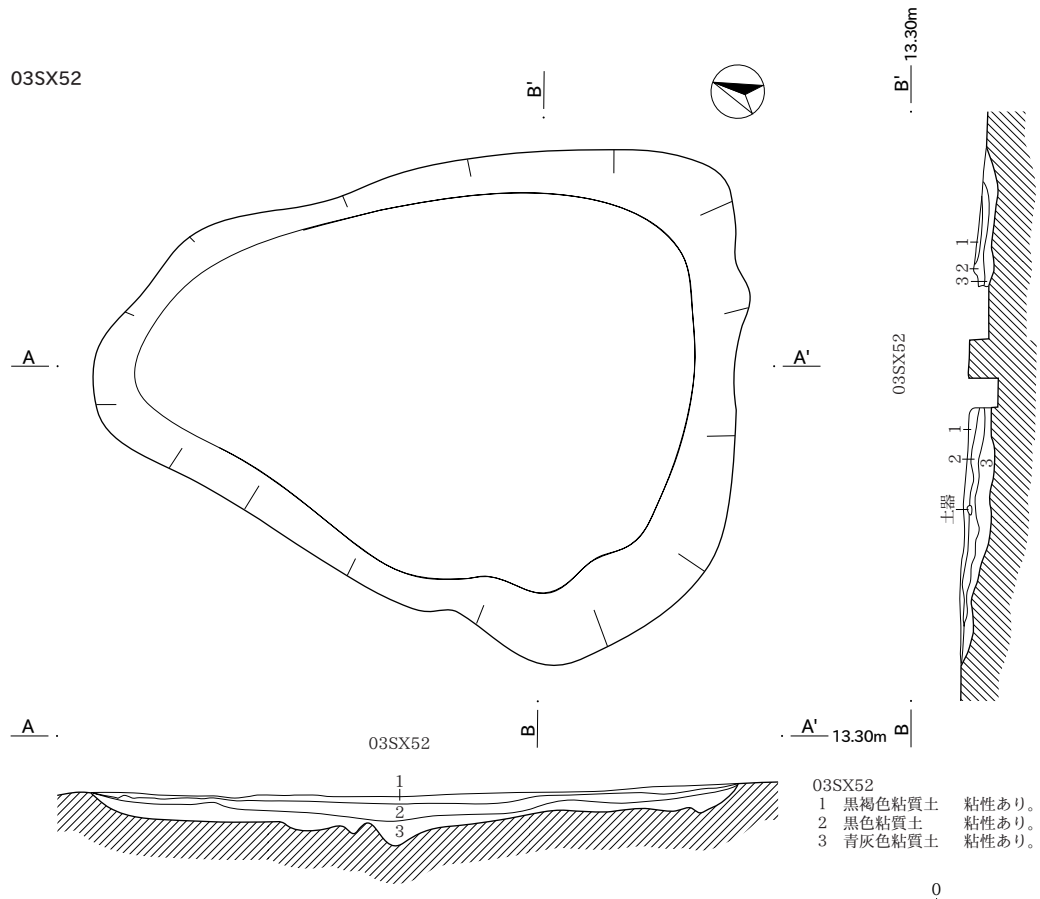
0　(1：40)　2m



03SX31
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色粘質土を含む。
2　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰色粘質土を含む。



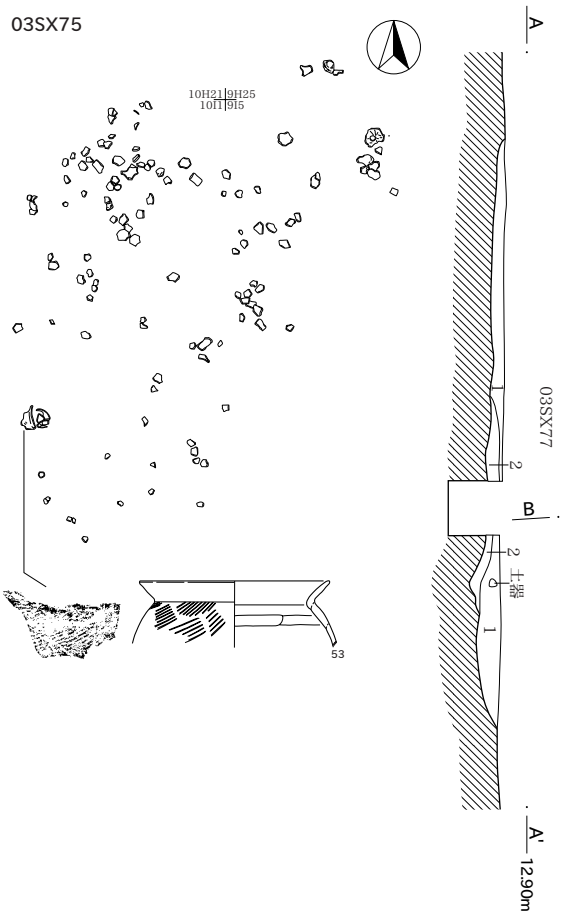
03SX50
1　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。
2　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。



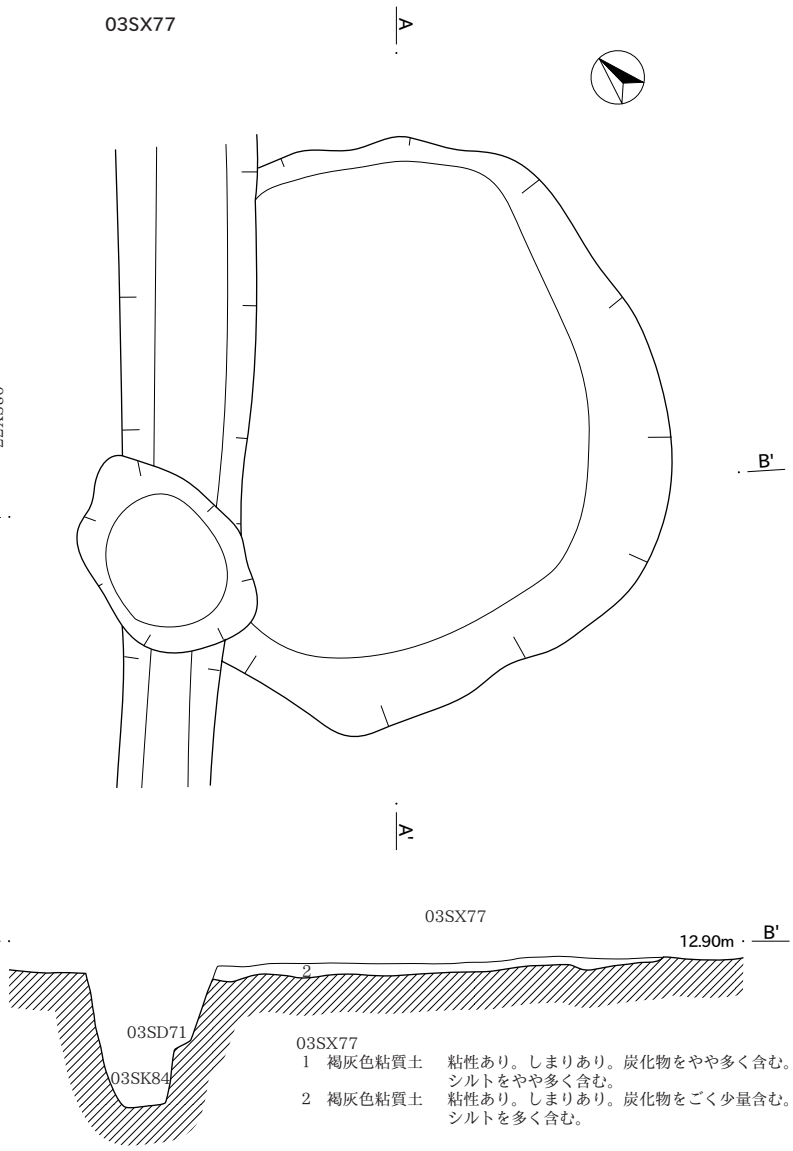
03SX52
1　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
3　青灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。

0　(1：40)　2m

03SX75

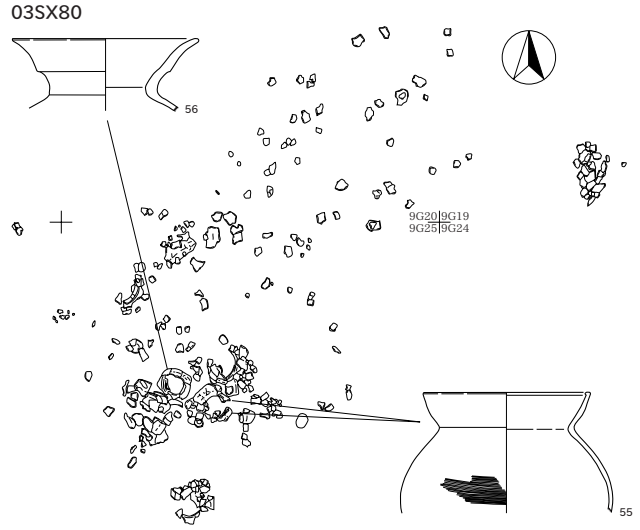


03SX77

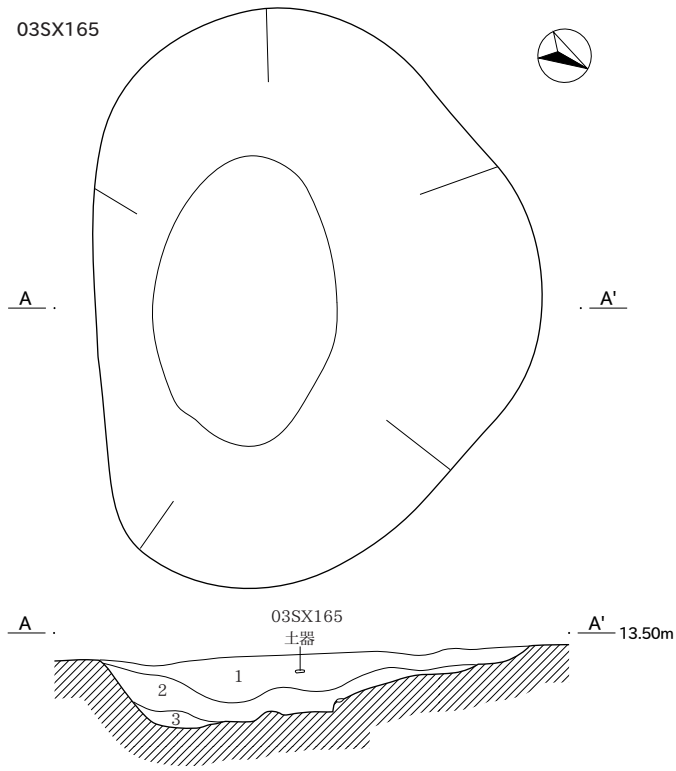


03SX77
1　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。シルトをやや多く含む。
2　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトを多く含む。

03SX80

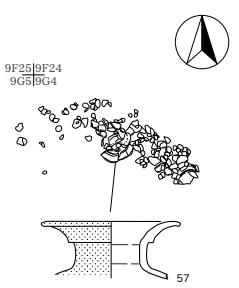


03SX165



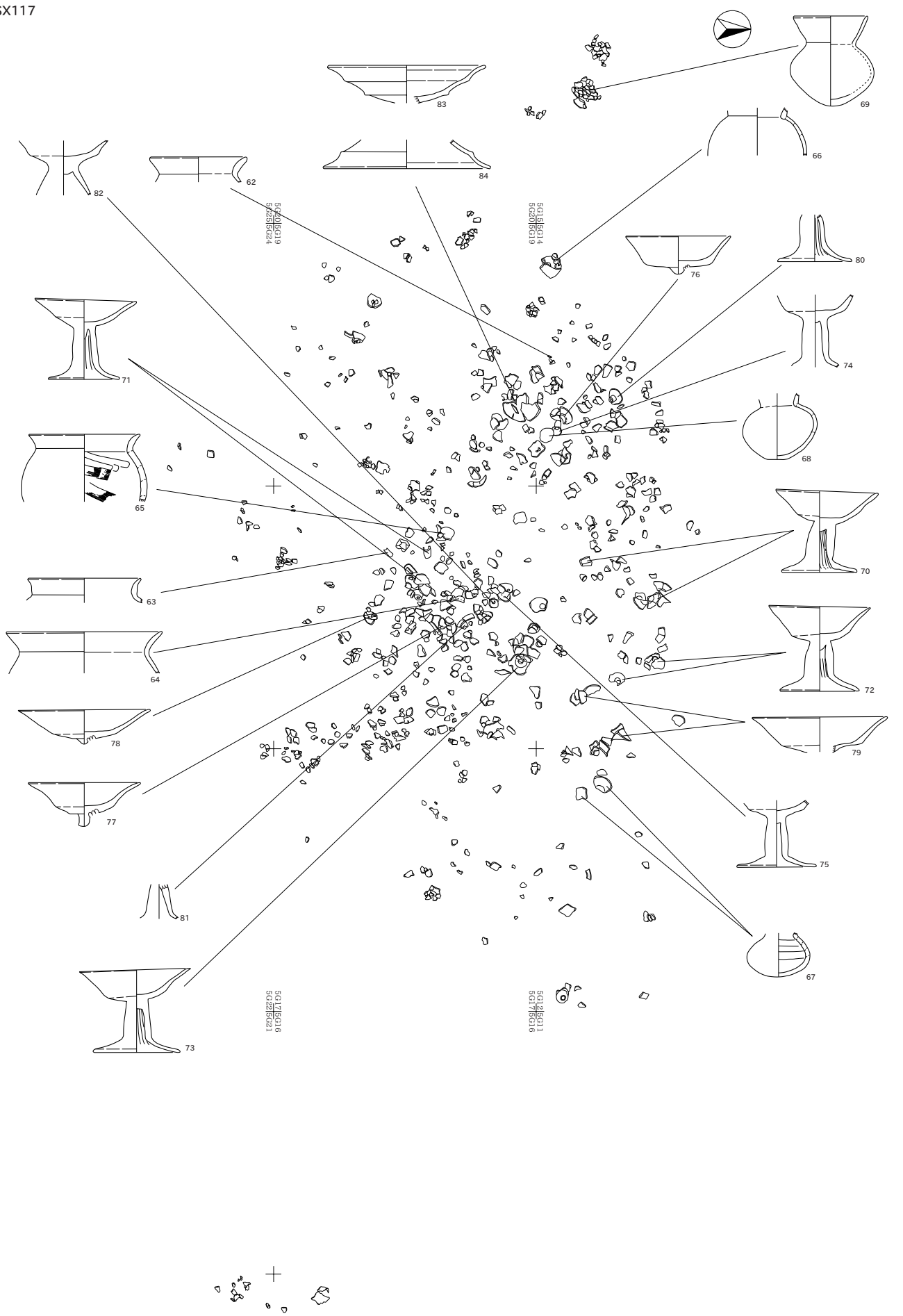
03SX165
1　明黄褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。
2　明黄褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
3　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。

03SX87



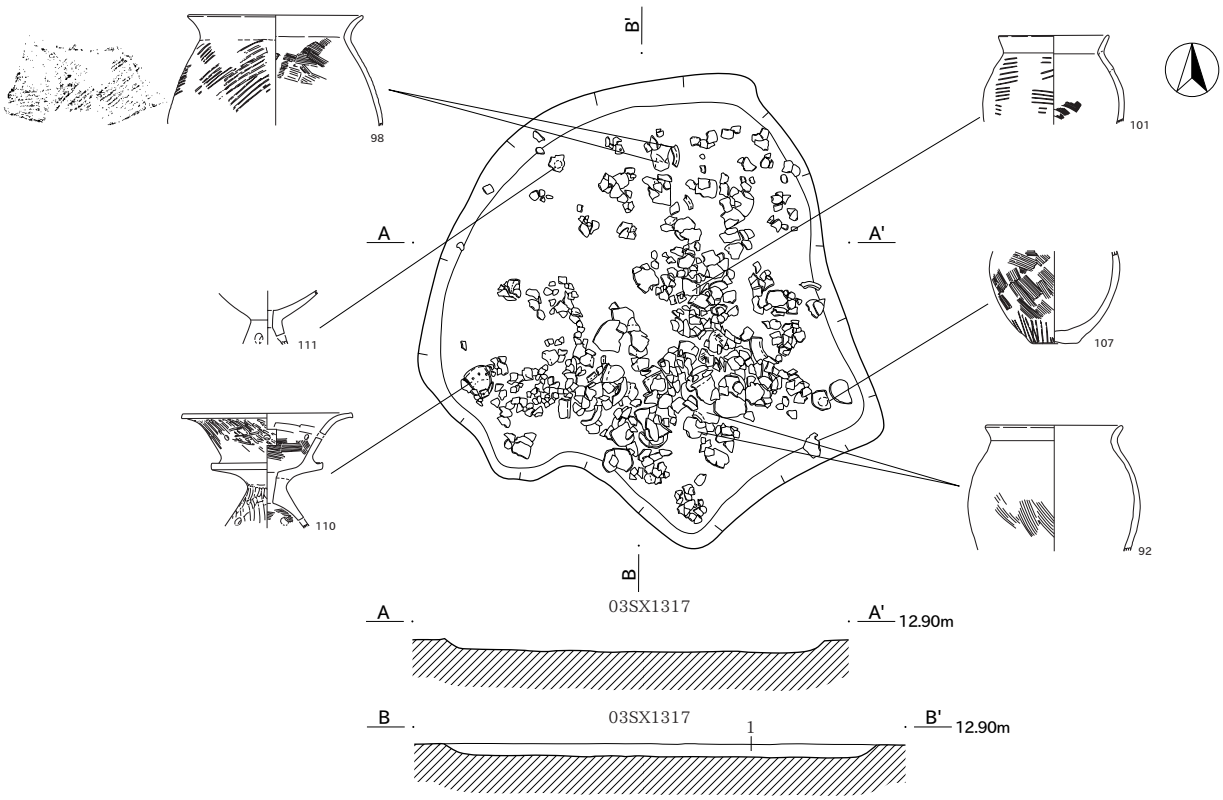
0　（1：40）　2m

03SX117



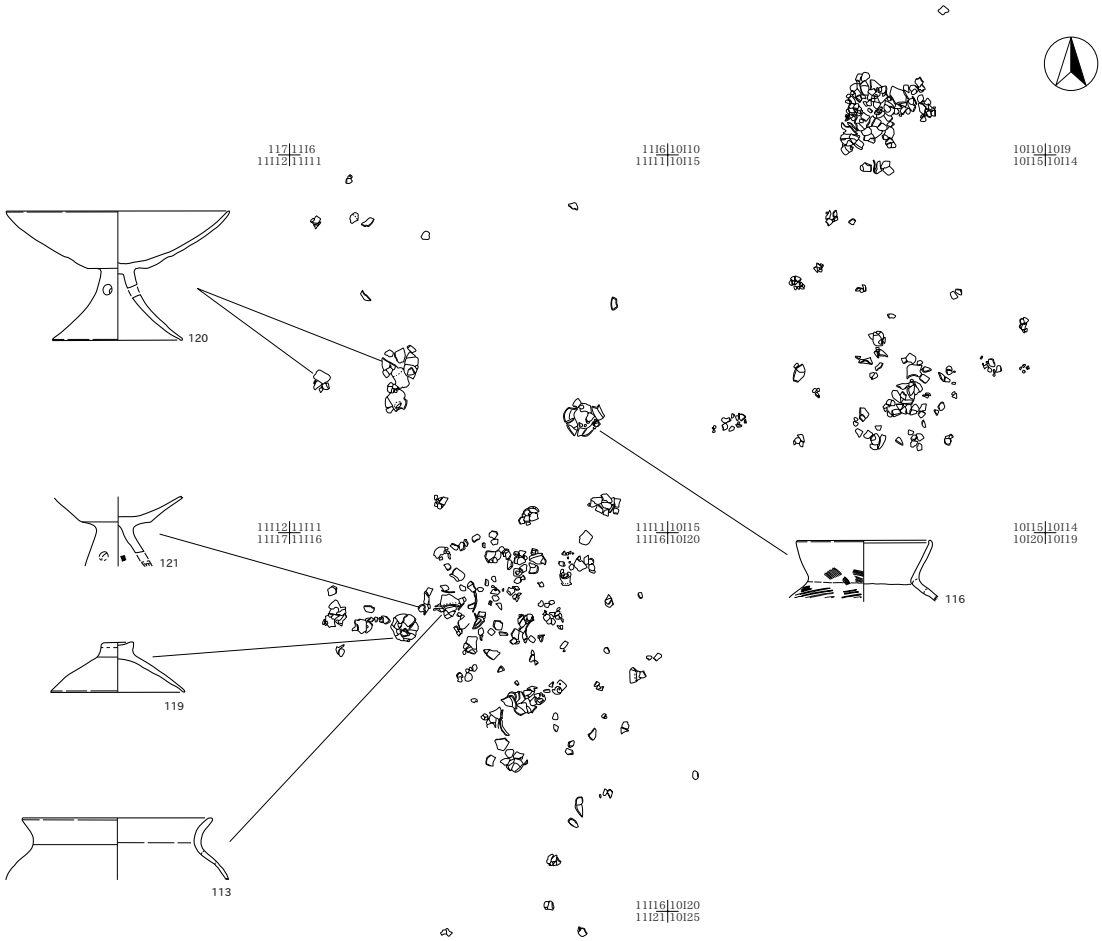
0　(1：40)　20m

03SX1317



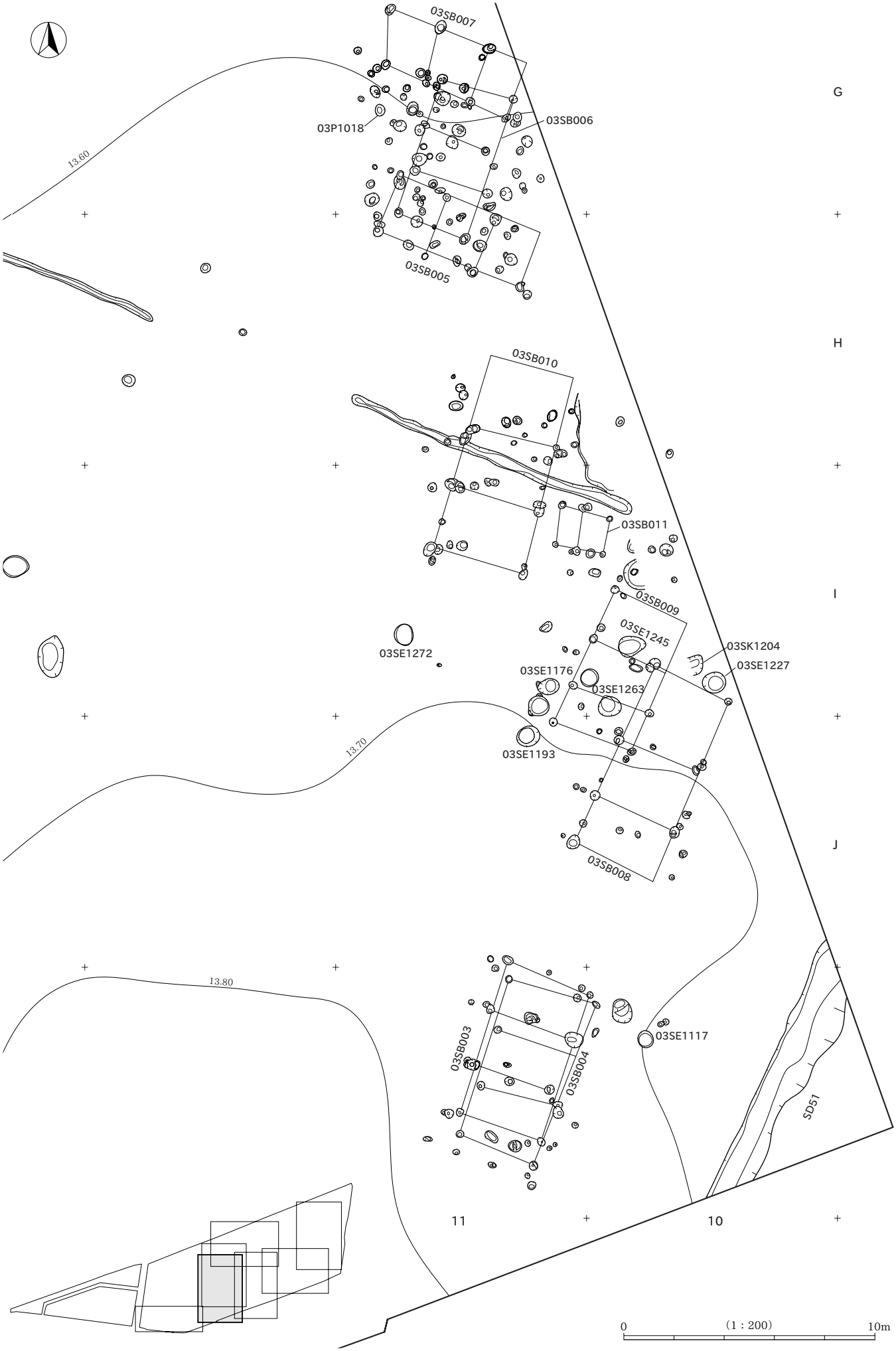
03SX1317
1　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。

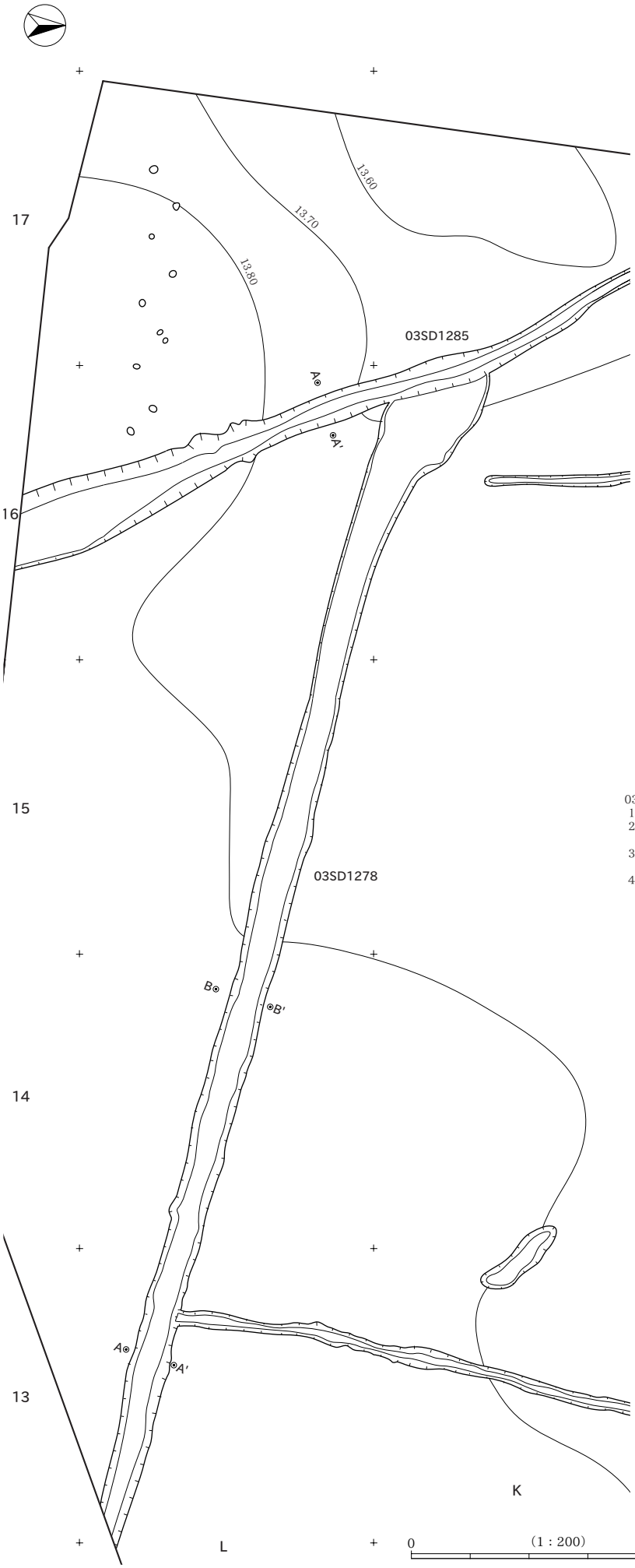
03SX1318

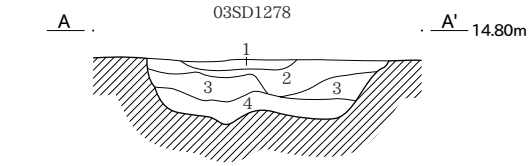


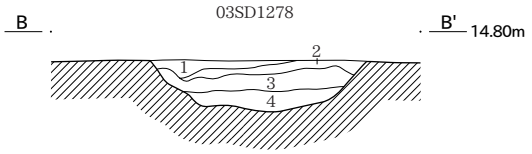
中世遺構全体図

03SK1315
03SD1308
SD51
SD282
13.60
13.70
13.80
13.50
13.40
13.60
13.70
13.60
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
L
K
J
I
H
G
F
E
0
(1 : 500)
20m

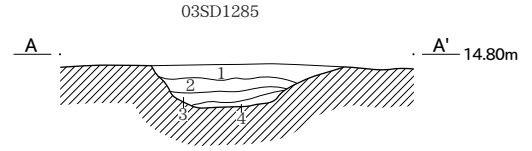

03SB007
03SB006
03P1018
03SB005
13.60
G
H
03SB010
03SB011
03SB009
I
03SE1245
03SK1204
03SE1227
03SE1272
03SE1176
03SE1263
03SE1193
13.70
J
03SB008
13.80
03SB003
03SB004
03SE1117
SD51
11
10
0
(1：200)
10m





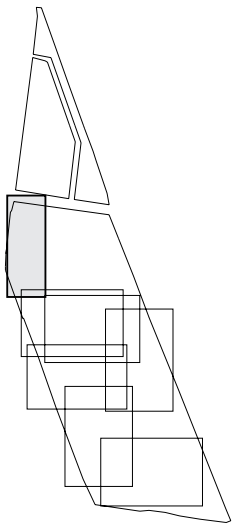


03SD1278
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
3　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄をごく少量含む。
4　黒色粘質土　粘性なし。しまりなし。炭化物をやや多く含む。酸化鉄を多く含む。砂礫を多く含む。V２層をまばらに含む。

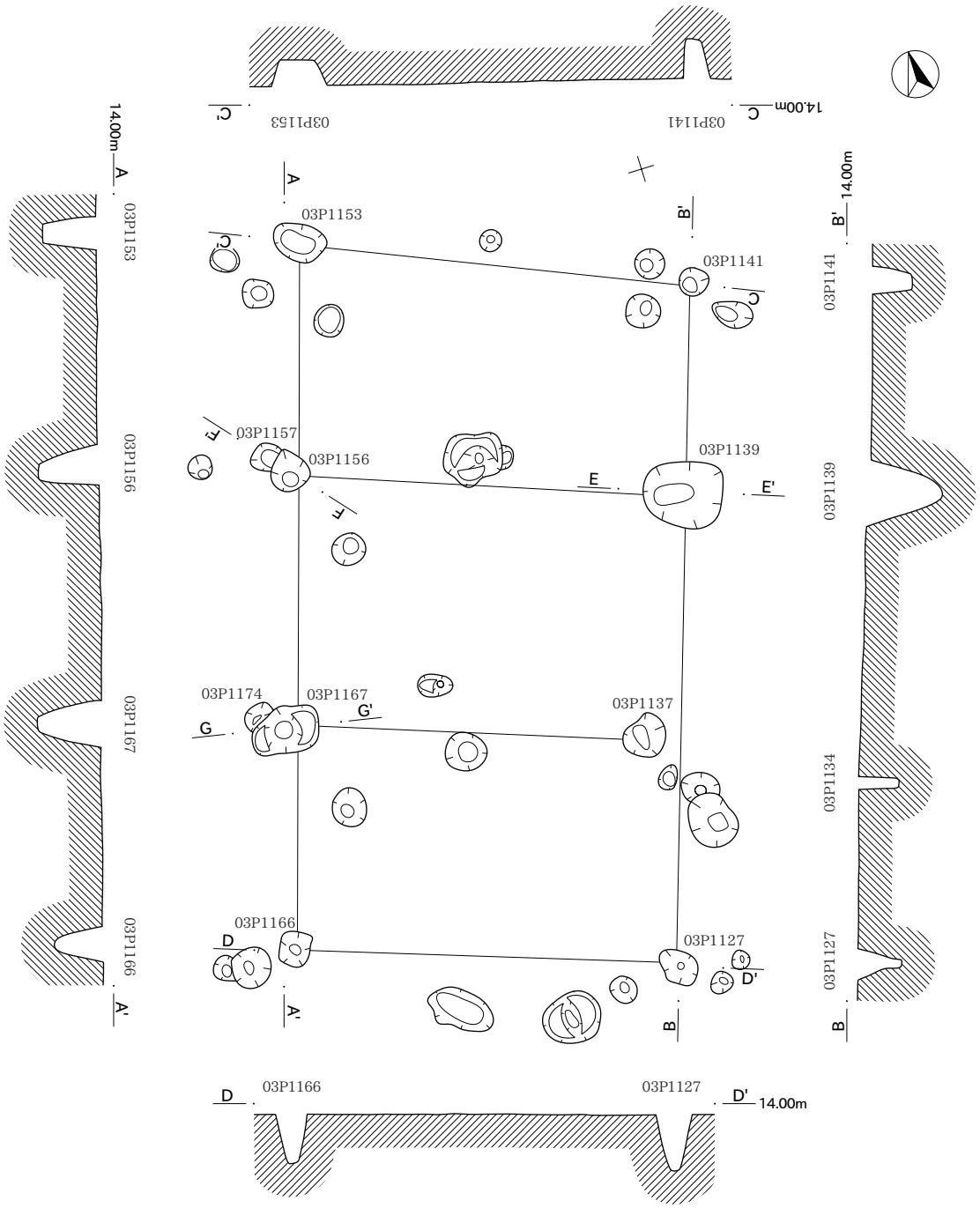


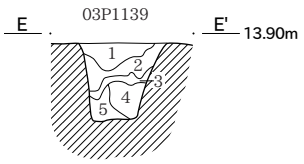
03SD1285
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
2　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。V２層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。V２層をまばらに含む。
4　灰色粘質土　粘性なし。しまりややあり。

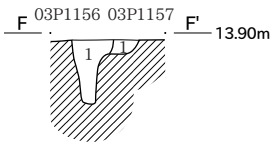
0　(1：40)　2m
断面図

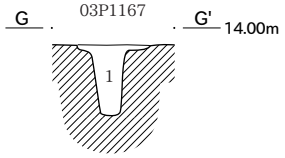


03SB003









03Pit1139
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
3　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を多く含む。
4　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。
5　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。

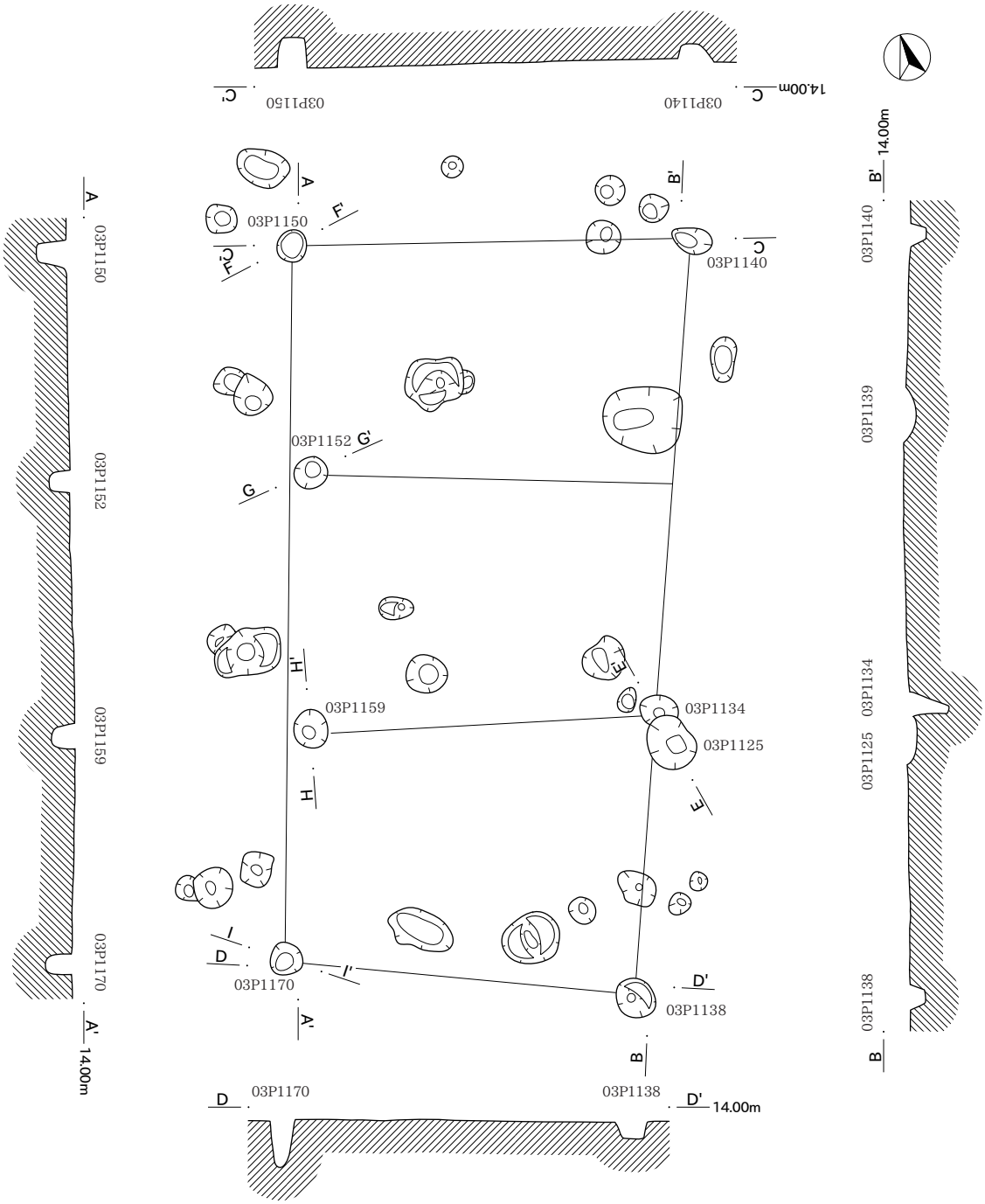
03Pit1156
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

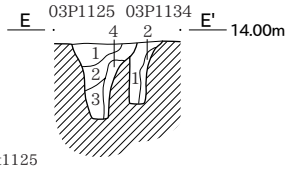
03Pit1157
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。

03Pit1167
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。

0　（1：60）　3m

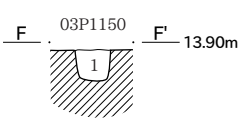
03SB004



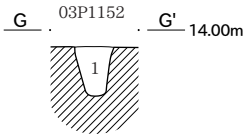


03Pit1125
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。
2　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
4　灰色粘質土　粘性ややあり。

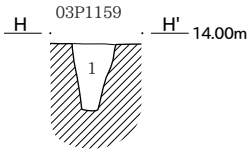
03Pit1134
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。



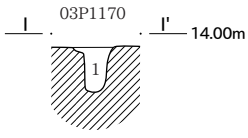
03Pit1150
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。



03Pit1152
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。Ⅴ2層をまばらに含む。



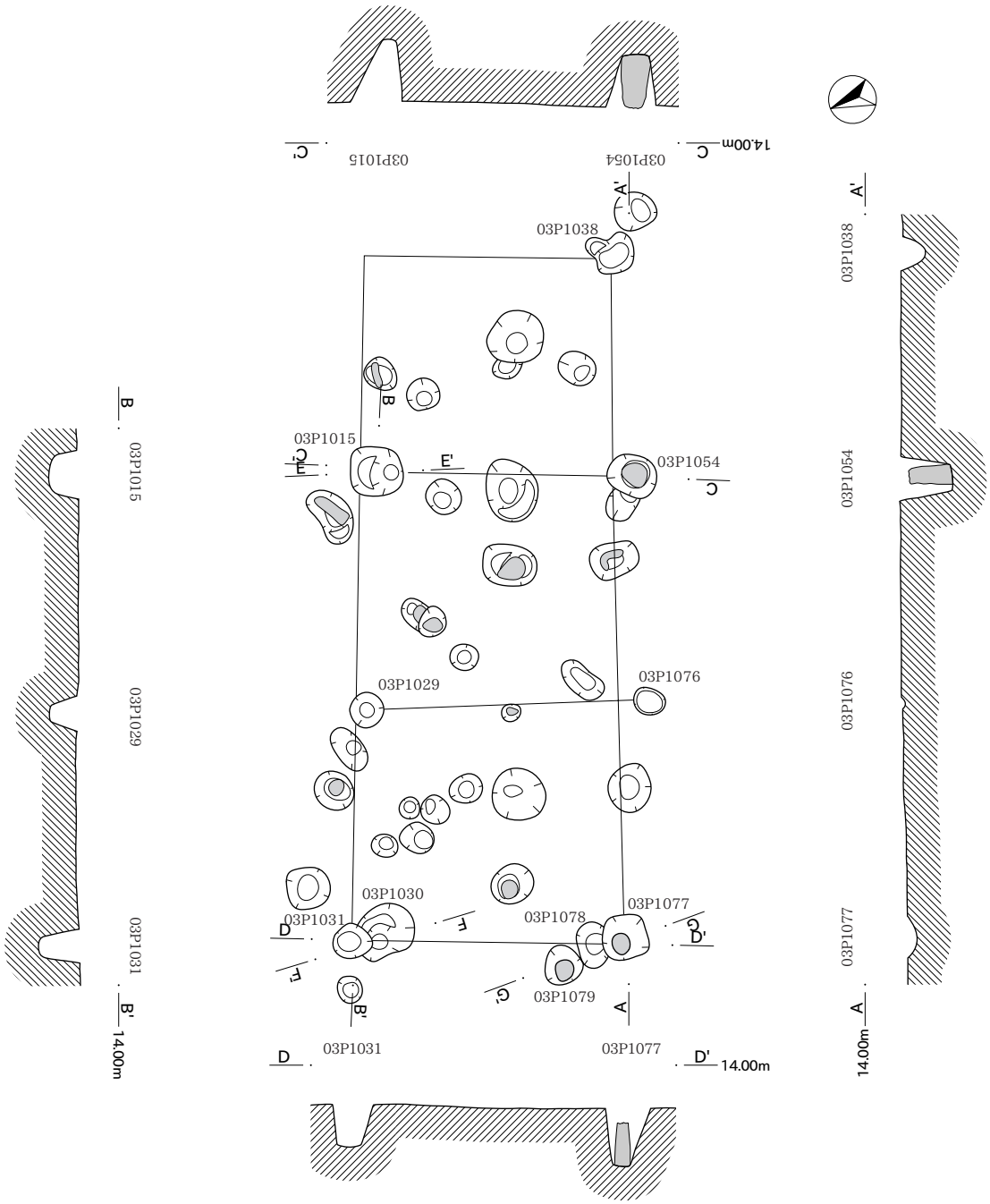
03Pit1159
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅴ2層をブロック状に含む。

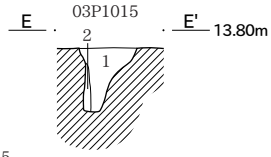


03Pit1170
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。

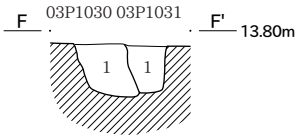
0　(1：60)　3m

03SB005



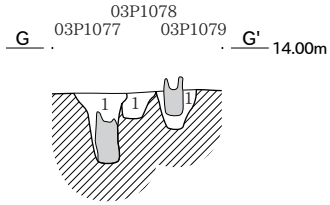


03Pit1015
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　灰色粘質土　　粘性ややあり。しまりややあり。



03Pit1030
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりややあり。V２層をブロック状に含む。

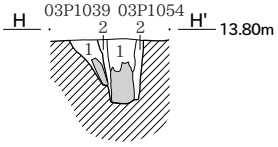
03Pit1031
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
V２層をブロック状に含む。



03Pit1077
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりあり。

03Pit1078
1　灰色粘質土　　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

03Pit1079
1　灰色粘質土　　粘性ややあり。しまりややあり。

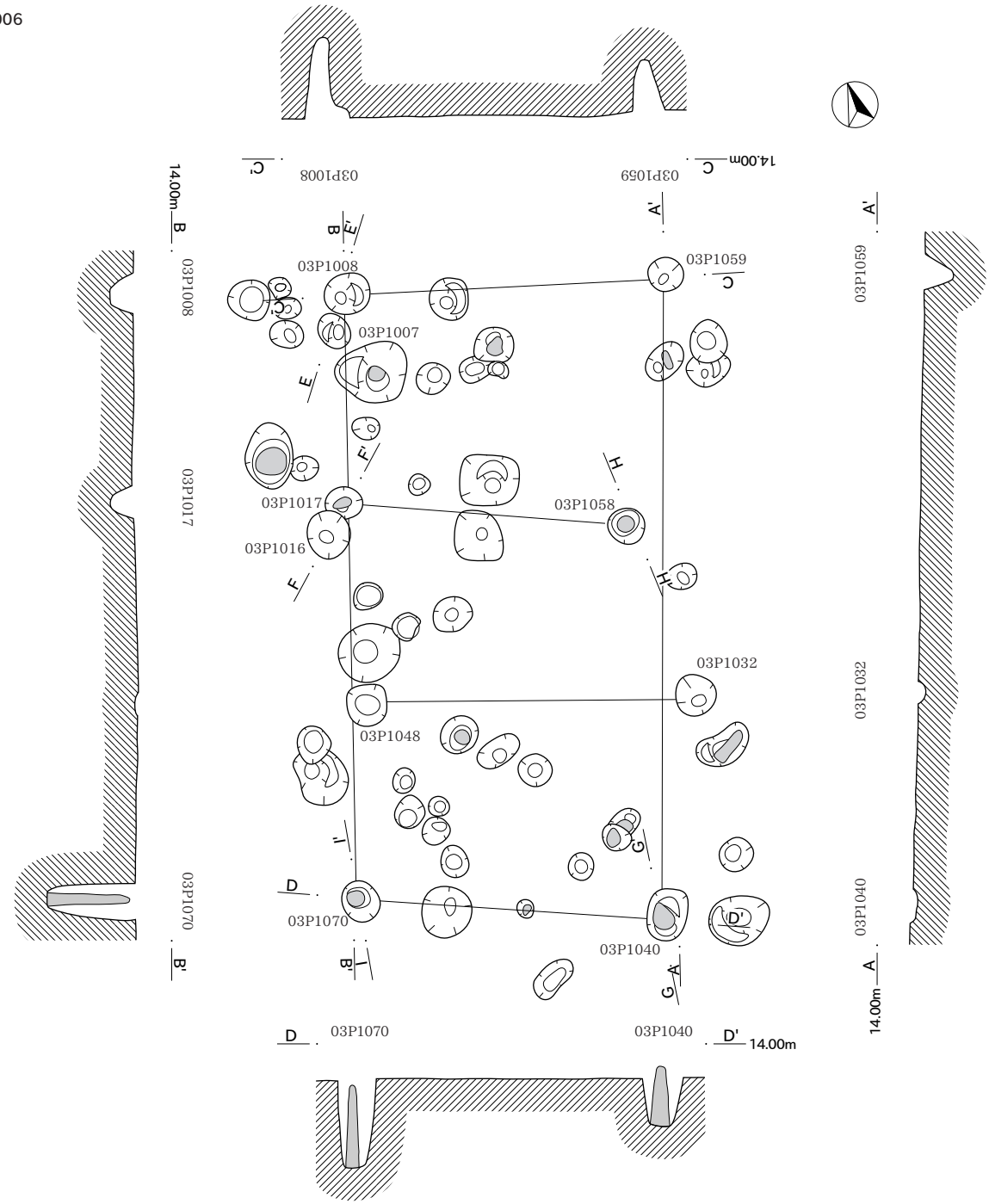


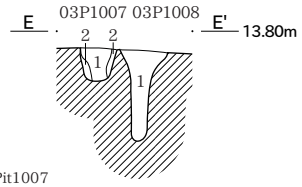
03Pit1039
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりあり。

03Pit1054
1　黒色粘質土　　粘性あり。しまりややあり。
2　黒色粘質土　　粘性あり。しまりややあり。V２層をブロック状に含む。

0　（1：60）　3m

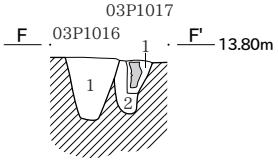
03SB006





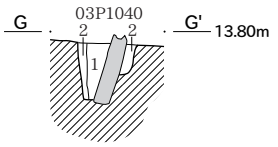
03Pit1007
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。

03Pit1008
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

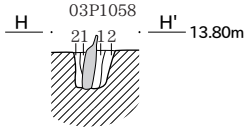


03Pit1016
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。

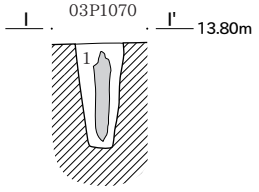
03Pit1017
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。



03Pit1040
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V2層をまばらに含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。



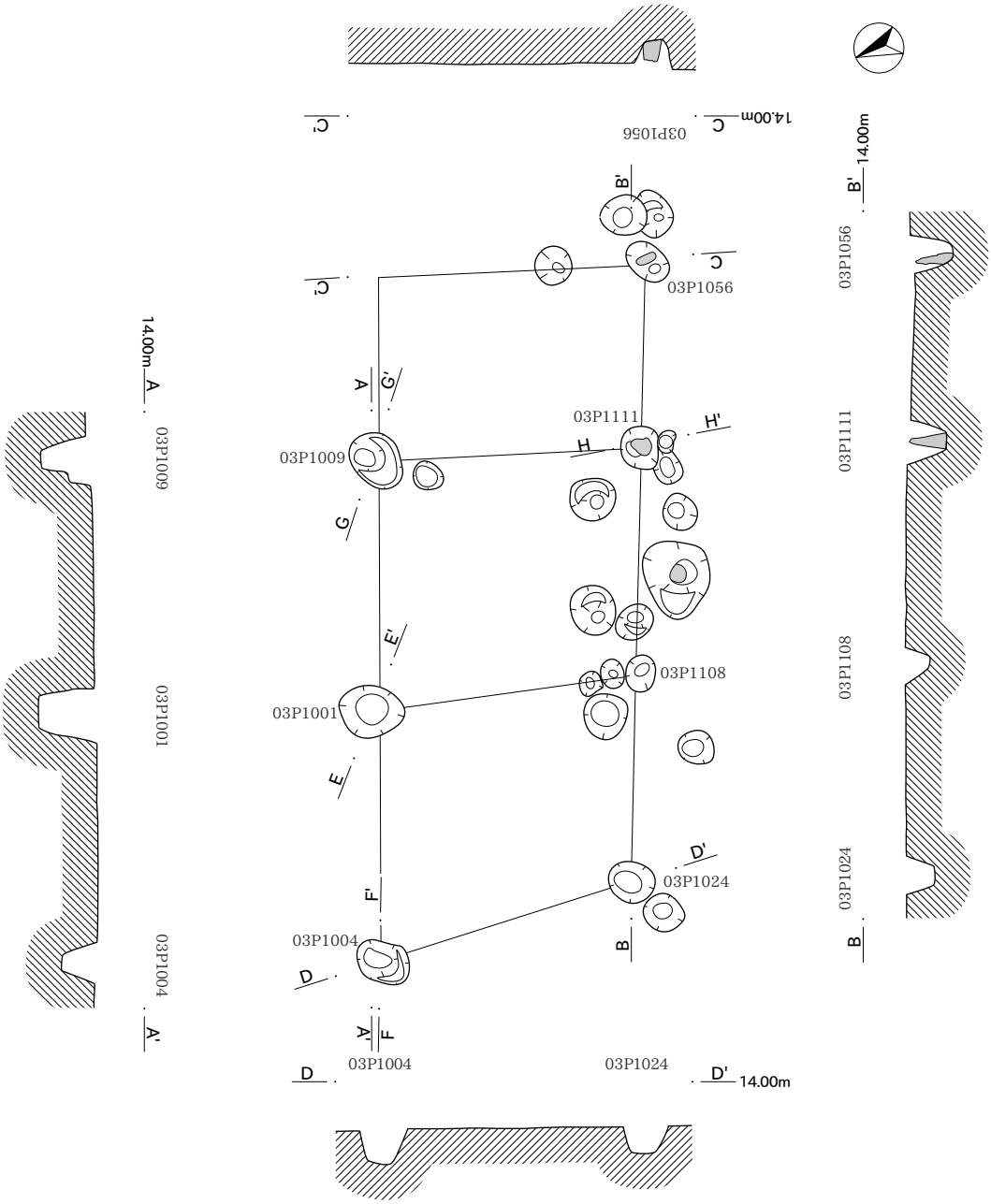
03Pit1058
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。

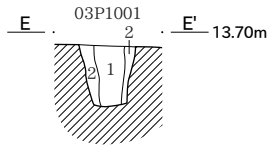


03Pit1070
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。

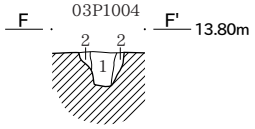
0　(1：60)　3m

03SB007

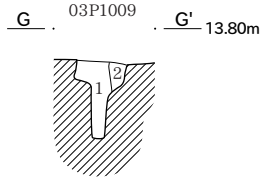




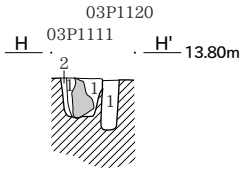
03Pit1001
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。V２層をブロック状に含む。



03Pit1004
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V２層を少量含む。



03Pit1009
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。

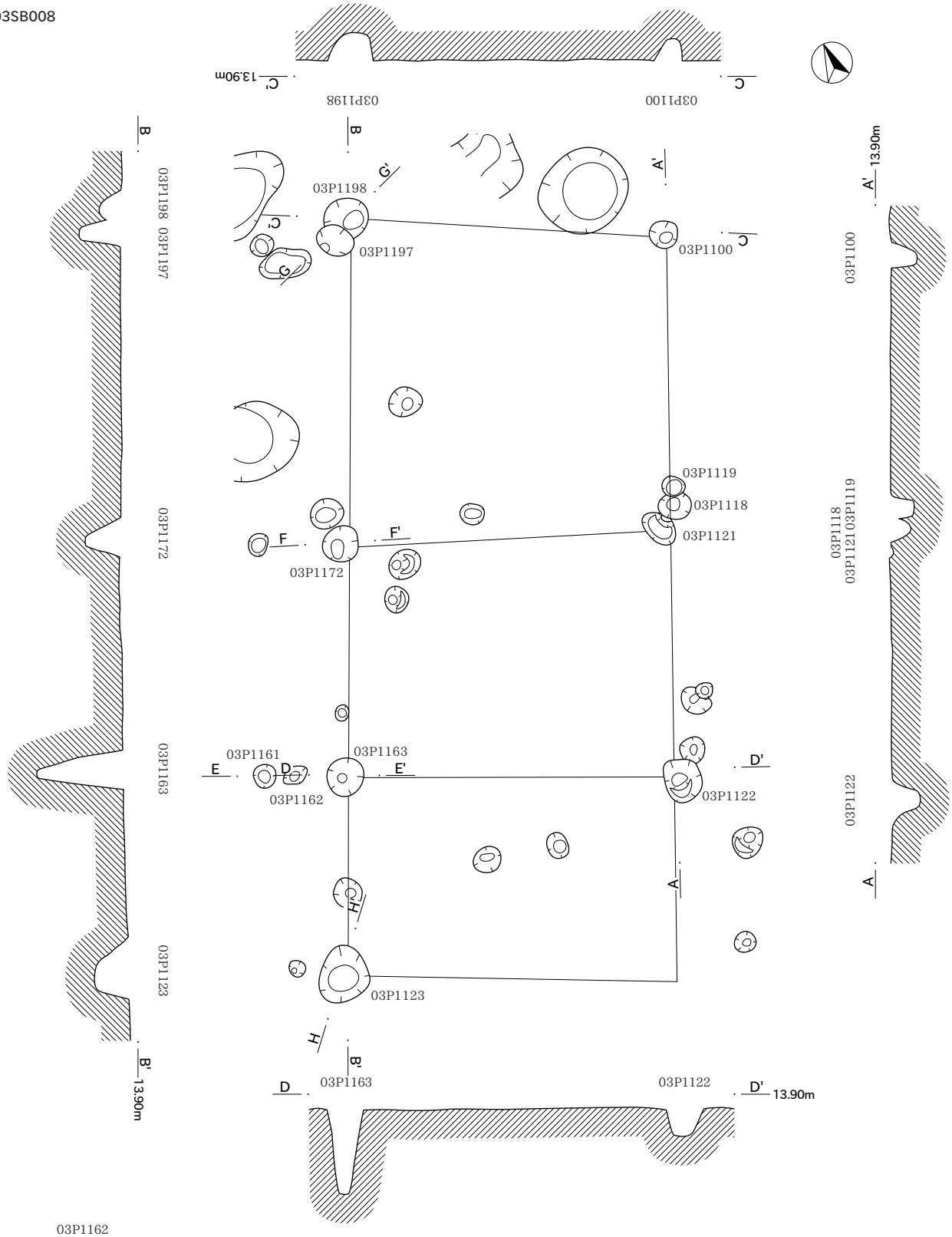


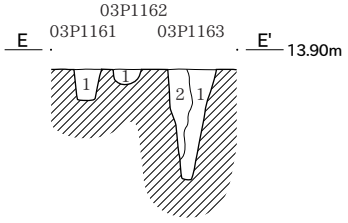
03Pit1111
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。

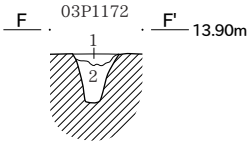
03Pit1120
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。

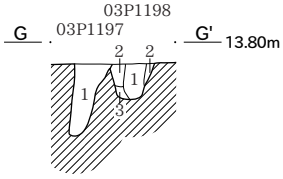
0　（1：60）　3m

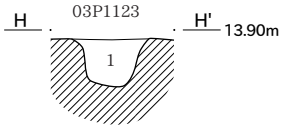
03SB008











03Pit1161
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。

03Pit1162
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。

03Pit1163
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ｖ２層をブロック状に含む。
2　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。炭化物を少量含む。

03Pit1172
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　灰色粘質土　粘性なし。しまりなし。

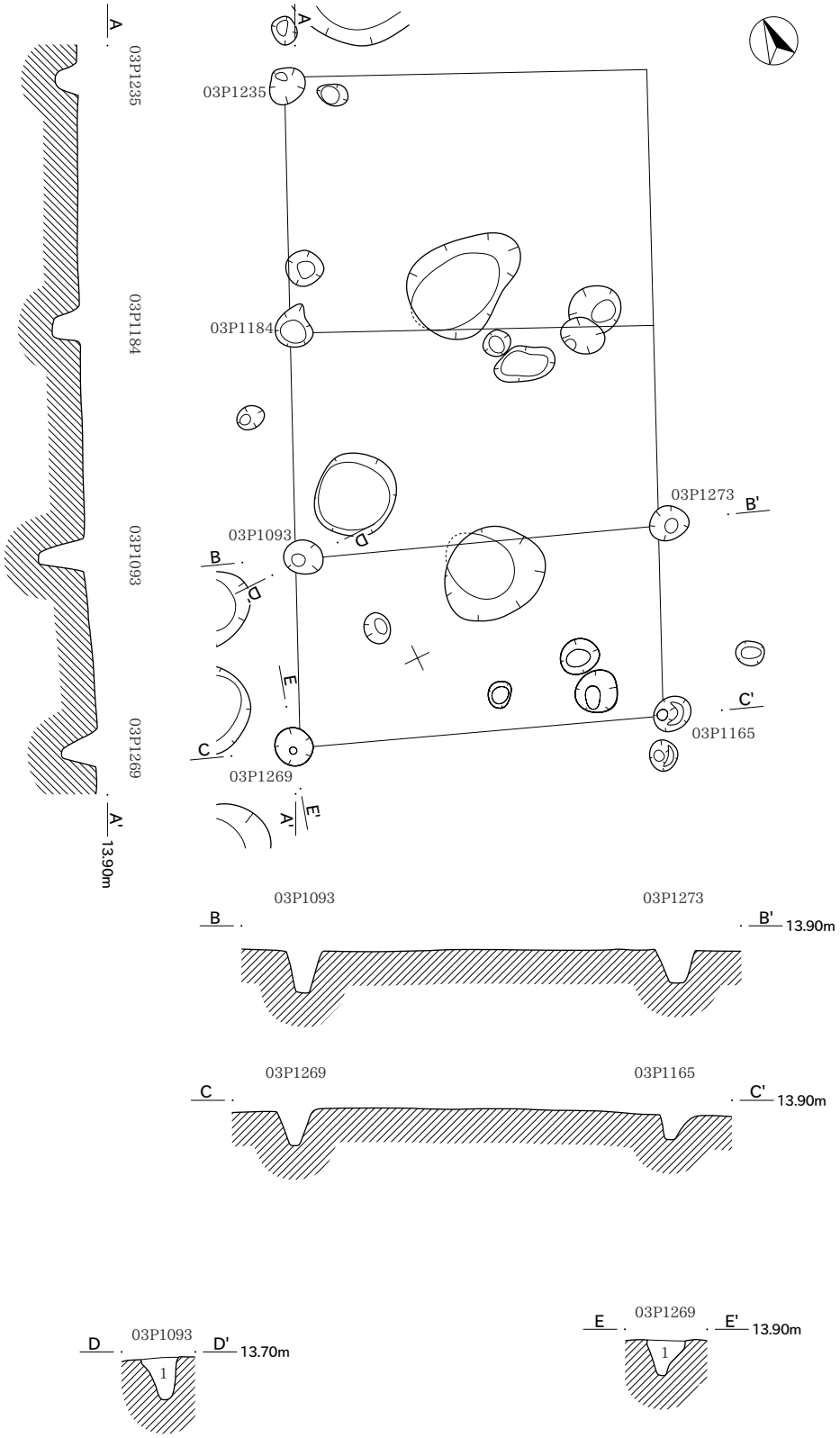
03Pit1197
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ｖ２層をブロック状に含む。

03Pit1198
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。

03Pit1123
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

0　（1：60）　3m

03SB009

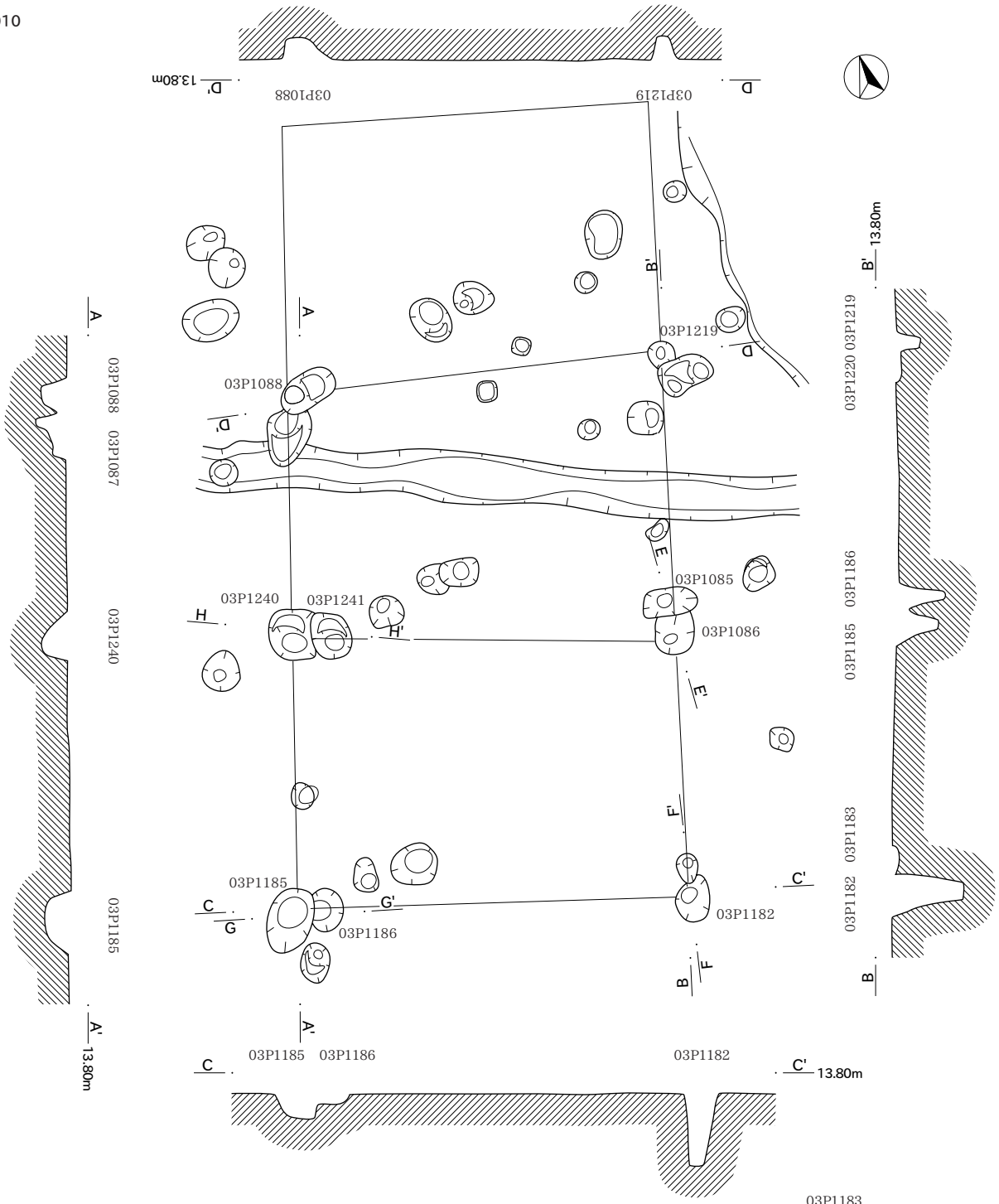


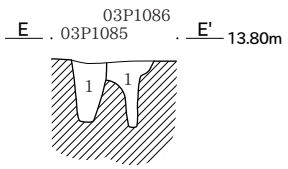
03Pit1093
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。

03Pit1269
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。

0　(1：60)　3m

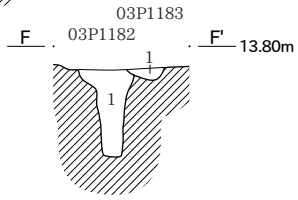
03SB010





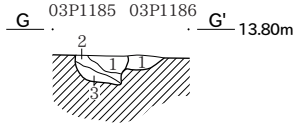
03Pit1085
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅴ2層をまばらに含む。

03Pit1086
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。Ⅴ2層をまばらに含む。



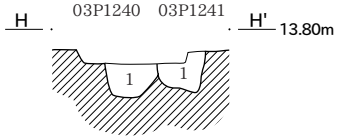
03Pit1182
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。

03Pit1183
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。



03Pit1185
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。
3　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。

03Pit1186
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。

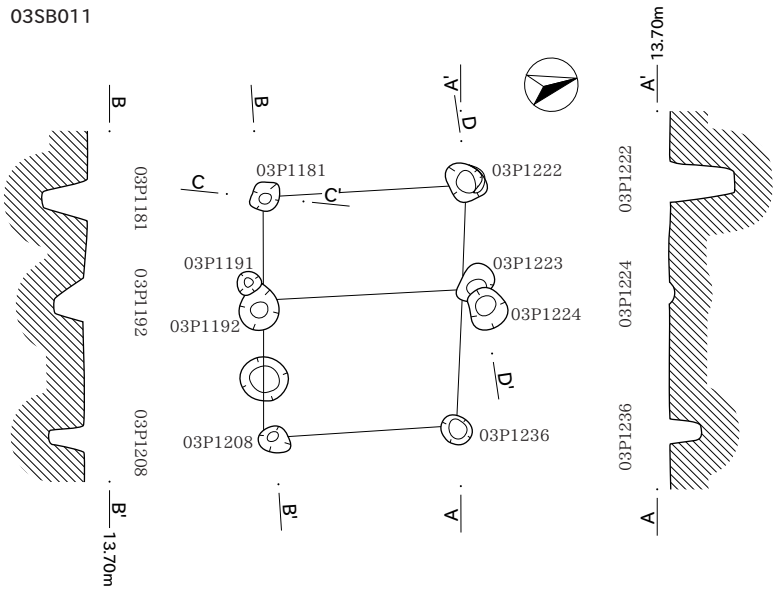


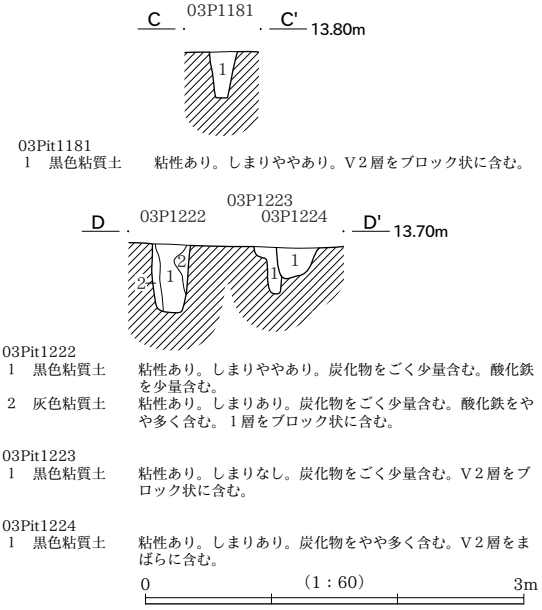
03Pit1240
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。Ⅴ2層をブロック状に含む。

03Pit1241
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。Ⅴ2層をブロック状に含む。

0　（1：60）　3m

03SB011





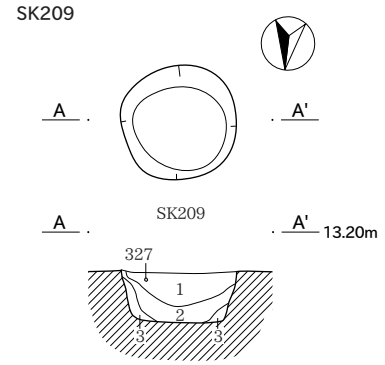
03Pit1181
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。V２層をブロック状に含む。

03Pit1222
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄を少量含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄をやや多く含む。１層をブロック状に含む。

03Pit1223
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物をごく少量含む。V２層をブロック状に含む。

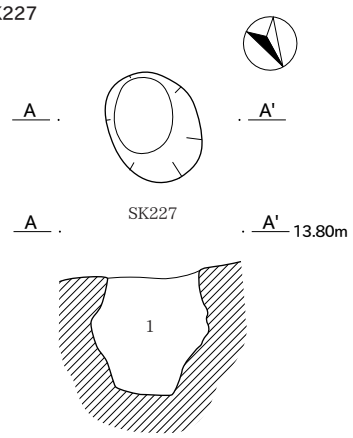
03Pit1224
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。V２層をまばらに含む。

SK209



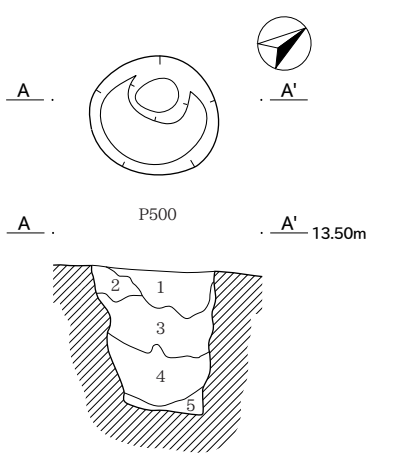
SK209
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰白色粘質土をまばらに含む。
2　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。１層より灰白色粘質土を少量含む。
3　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。X層に類似する。

SK227



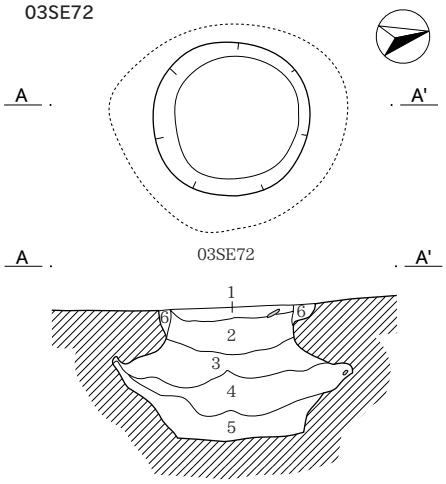
SK227
1　暗オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりなし。灰白色粘質土を少量含む。

P500



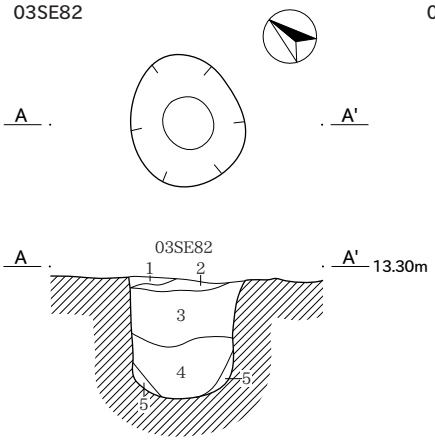
P500
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。灰白色粘質土をまばらに含む。
2　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰色粘質土を少量含む。
3　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰色粘質土をやや多く含む。
4　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。灰白色粘質土をやや多く含む。
5　灰白色粘質土　粘性あり。しまりややあり。灰色粘質土をごく少量含む。

03SE72



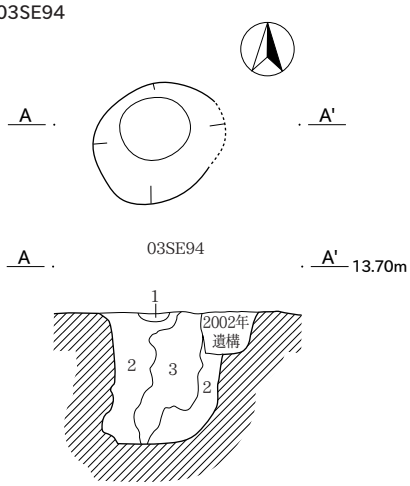
03SE72
1　暗褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰白色粘質土と黄褐色粘質土を含む。
2　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰褐色粘質土と褐色粘質土を含む。
3　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。２層より褐色粘質土を多く含む。
4　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。３層より褐色粘質土を多く含む。
5　灰褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。４層より褐色粘質土を多く含む。
6　暗灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。X層に相当する。

03SE82



03SE82
1　にぶい褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。Ⅸ２層をブロック状に含む。
2　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。シルトをブロック状に含む。
3　黒褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトをブロック状に含む。
4　褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトをやや多く含む。
5　褐色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。シルトを多く含む。

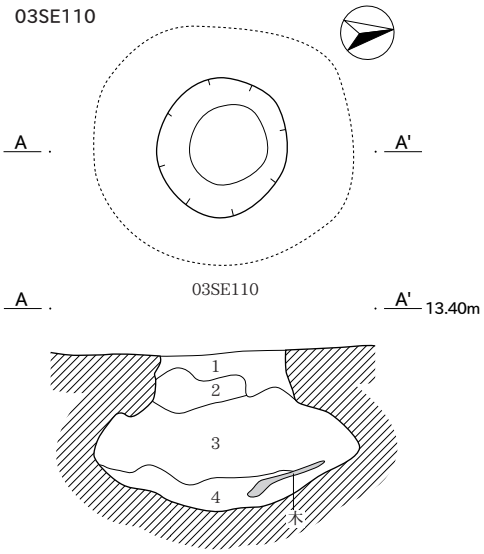
03SE94



03SE94
1　オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりなし。
2　暗オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。灰色粘質土をブロック状に含む。
3　オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりなし。径２～４cmの円礫を多く含む。

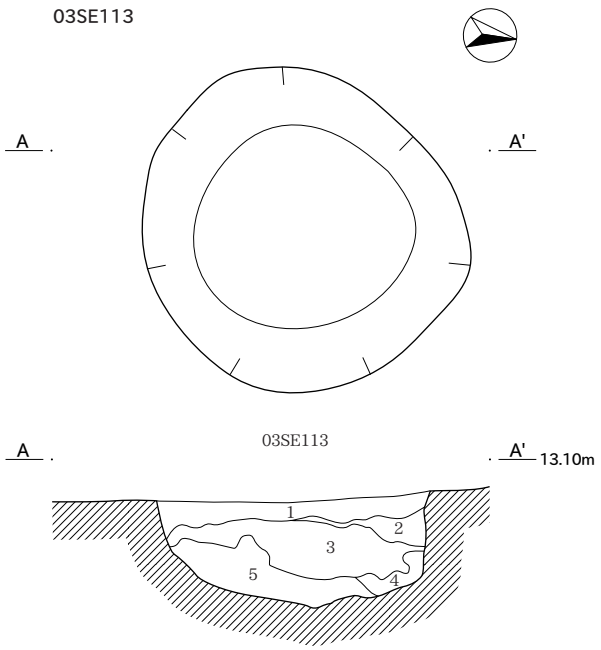
0　(1：40)　2m

03SE110



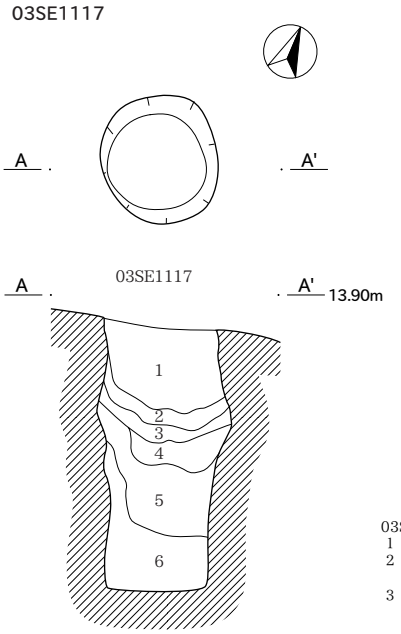
03SE110
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰白色粘質土をブロック状に含む。
2　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。灰色粘質土を少量含む。
3　灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰白色粘質土をブロック状に含む。
4　灰オリーブ色粘質土　粘性あり。しまりあり。

03SE113



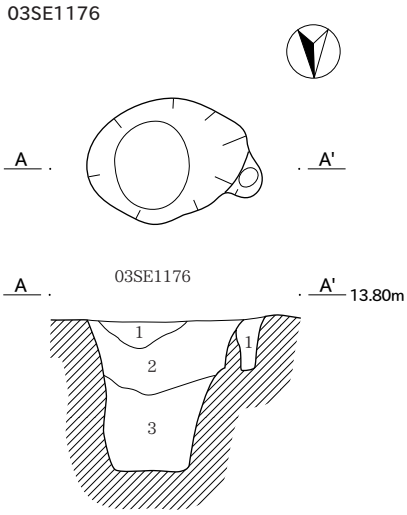
03SE113
1　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を多く含む。灰白色粘質土を少量含む。
2　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
3　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。X層に類似する。
4　褐灰色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。灰白色粘質土を少量含む。
5　灰白色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。褐灰色粘質土を少量含む。

03SE1117



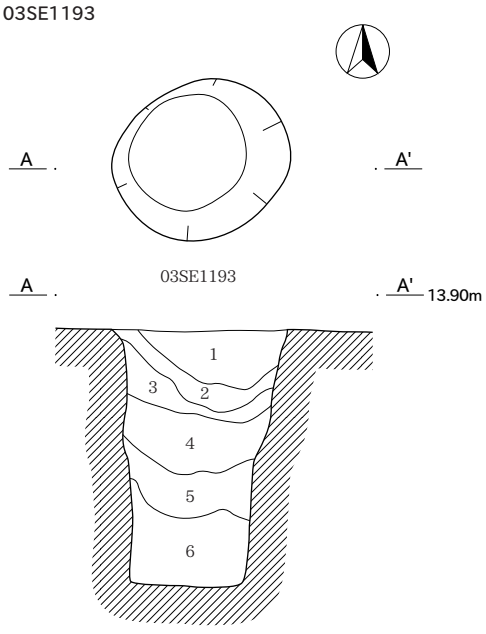
03SE1117
1　暗緑灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。炭化物をまばらに含む。
2　黒色粘質土　粘性なし。しまりなし。炭化物を多く含む。
3　オリーブ黒色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。炭化物をまばらに含む。
4　黒色粘質土　粘性なし。しまりなし。炭化物を多く含む。
5　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。V２層をブロック状に含む。
6　オリーブ黒色粘質土　粘性なし。しまりなし。腐植物を多く含む。松葉を多く含む。

03SE1176



03SE1176
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物をまばらに含む。V２層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。V２層をまばらに含む。

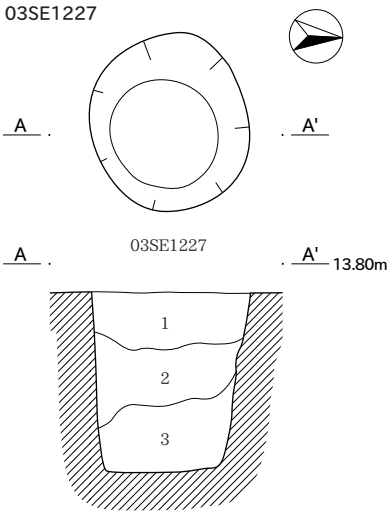
03SE1193



03SE1193
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。V２層をまばらに含む。
3　灰色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。炭化物を少量含む。
4　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。V２層をブロック状に含む。
5　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
6　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりなし。炭化物をごく少量含む。

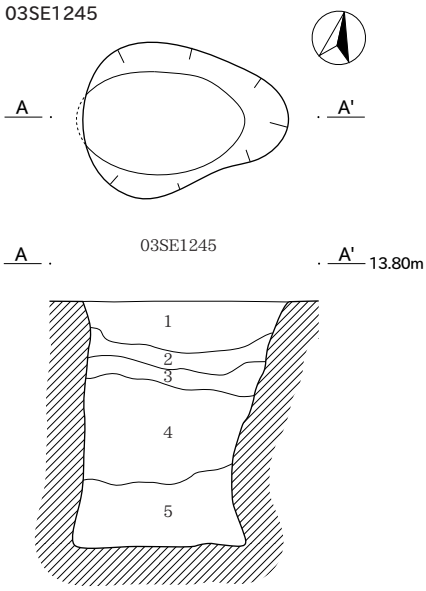
0　（1：40）　2m

03SE1227



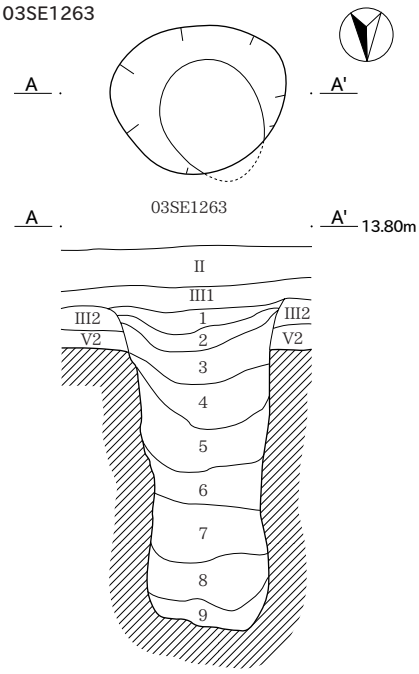
03SE1227
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。酸化鉄を少量含む。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。V２層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。V２層をごく少量含む。

03SE1245



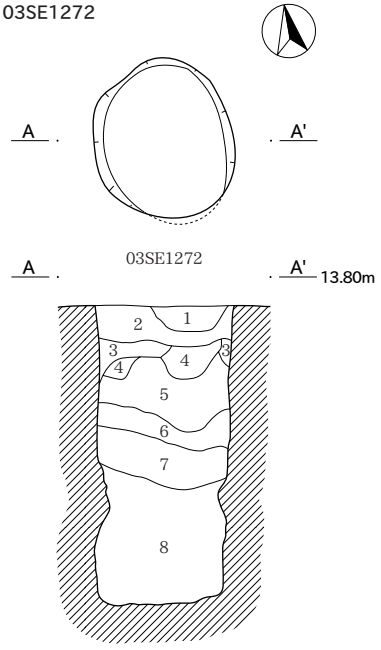
03SE1245
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をやや多く含む。V２層をブロック状に含む。
4　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
5　黒色粘質土　粘性なし。しまりなし。炭化物を多く含む。

03SE1263



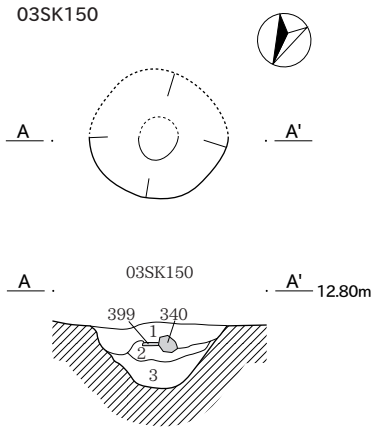
03SE1263
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を多く含む。
3　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
4　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。V２層をブロック状に含む。
5　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を少量含む。V２層をブロック状に含む。
6　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。礫をごく少量含む。炭化物をごく少量含む。
7　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。礫を少量含む。炭化物を少量含む。
8　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。暗オリーブ灰色粘質土を含む。
9　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。礫を少量含む。炭化物を少量含む。暗オリーブ灰色粘質土をブロック状に含む。

03SE1272



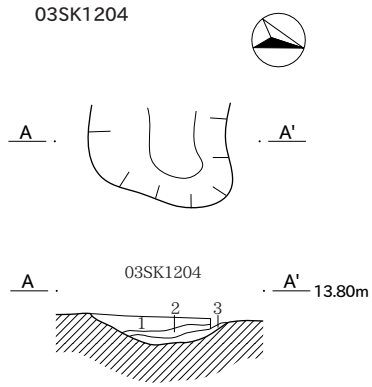
03SE1272
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。V２層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。酸化鉄を少量含む。V２層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。酸化鉄を多く含む。
4　灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
5　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。V２層をブロック状に含む。
6　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。
7　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を少量含む。
8　黒色粘質土　粘性あり。しまりなし。炭化物を少量含む。白色粒子を少量含む。

03SK150



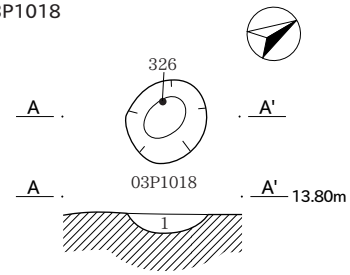
03SK150
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　灰オリーブ色粘質土　粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
3　暗オリーブ灰色粘質土　粘性あり。しまりややあり。腐植物をごく少量含む。

03SK1204



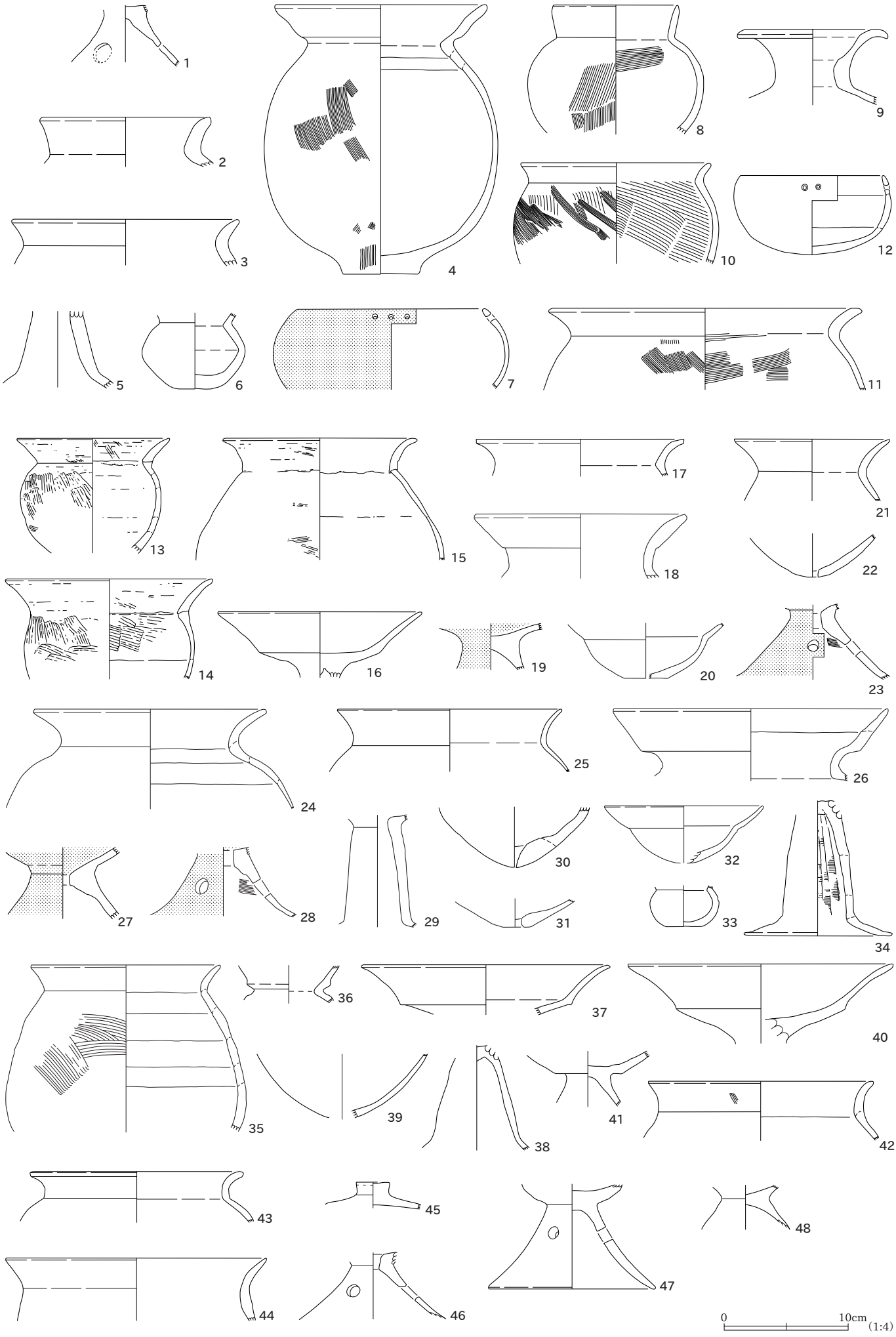
03SK1204
1　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。
2　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。炭化物をやや多く含む。
3　黒色粘質土　粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。

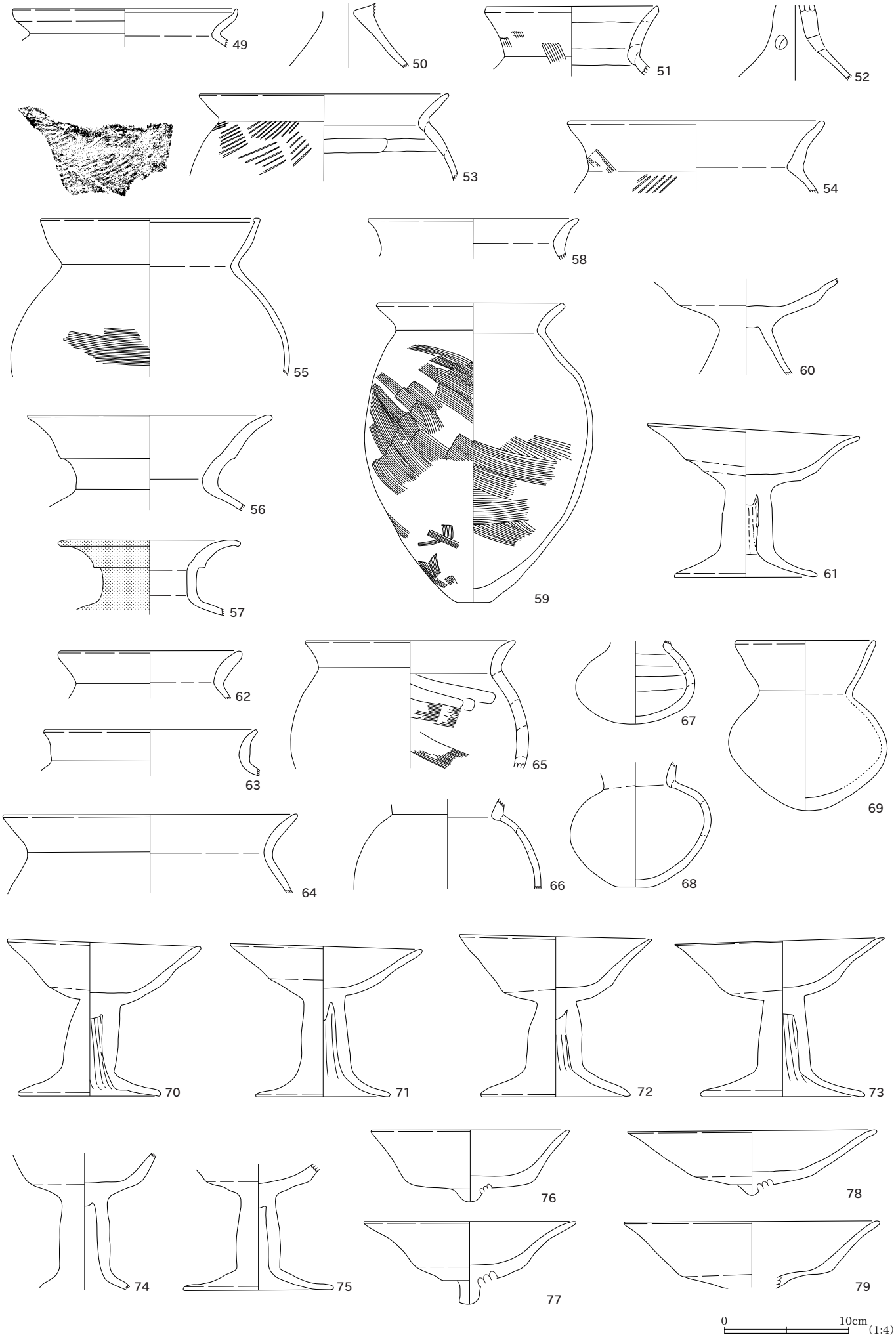
03P1018

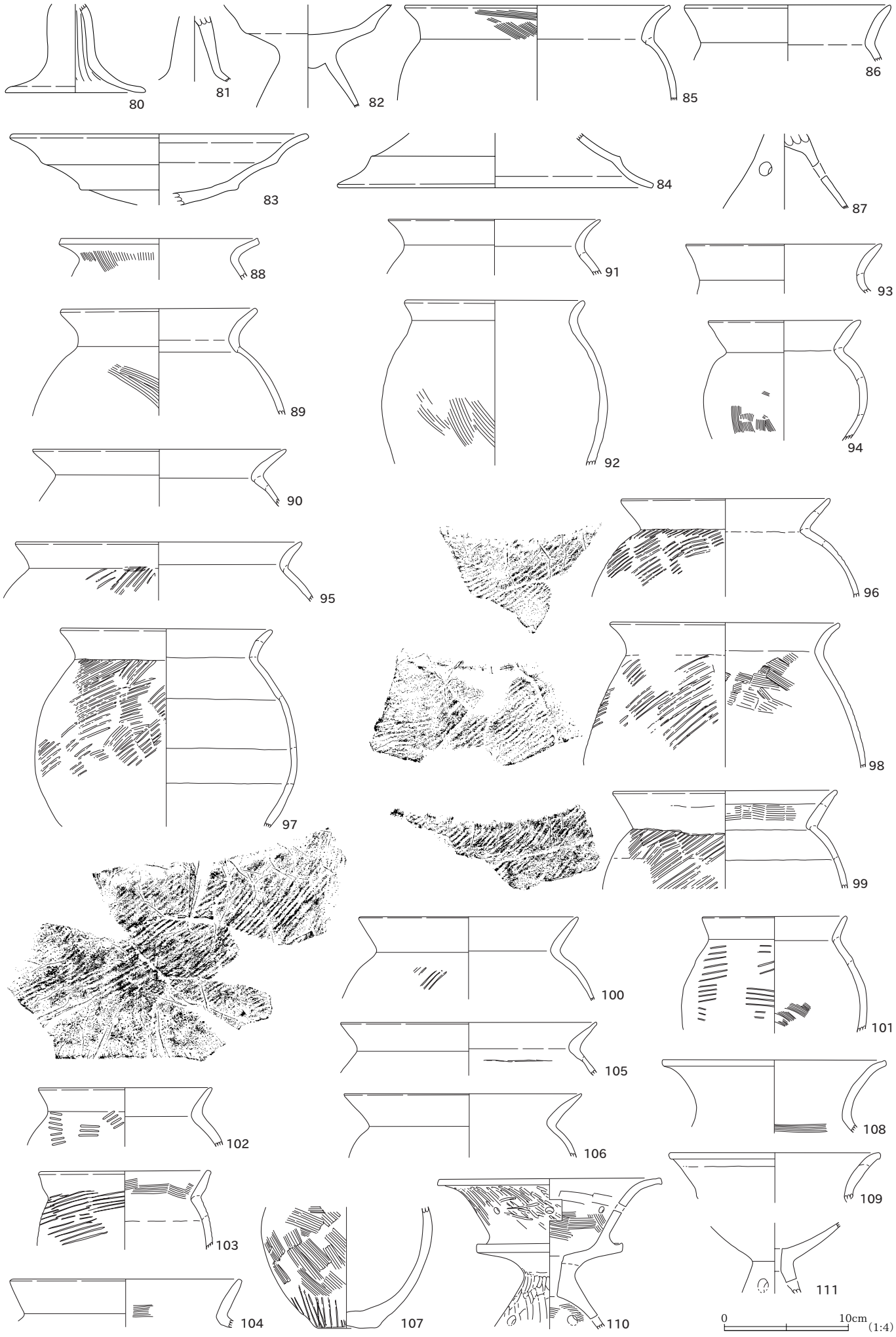


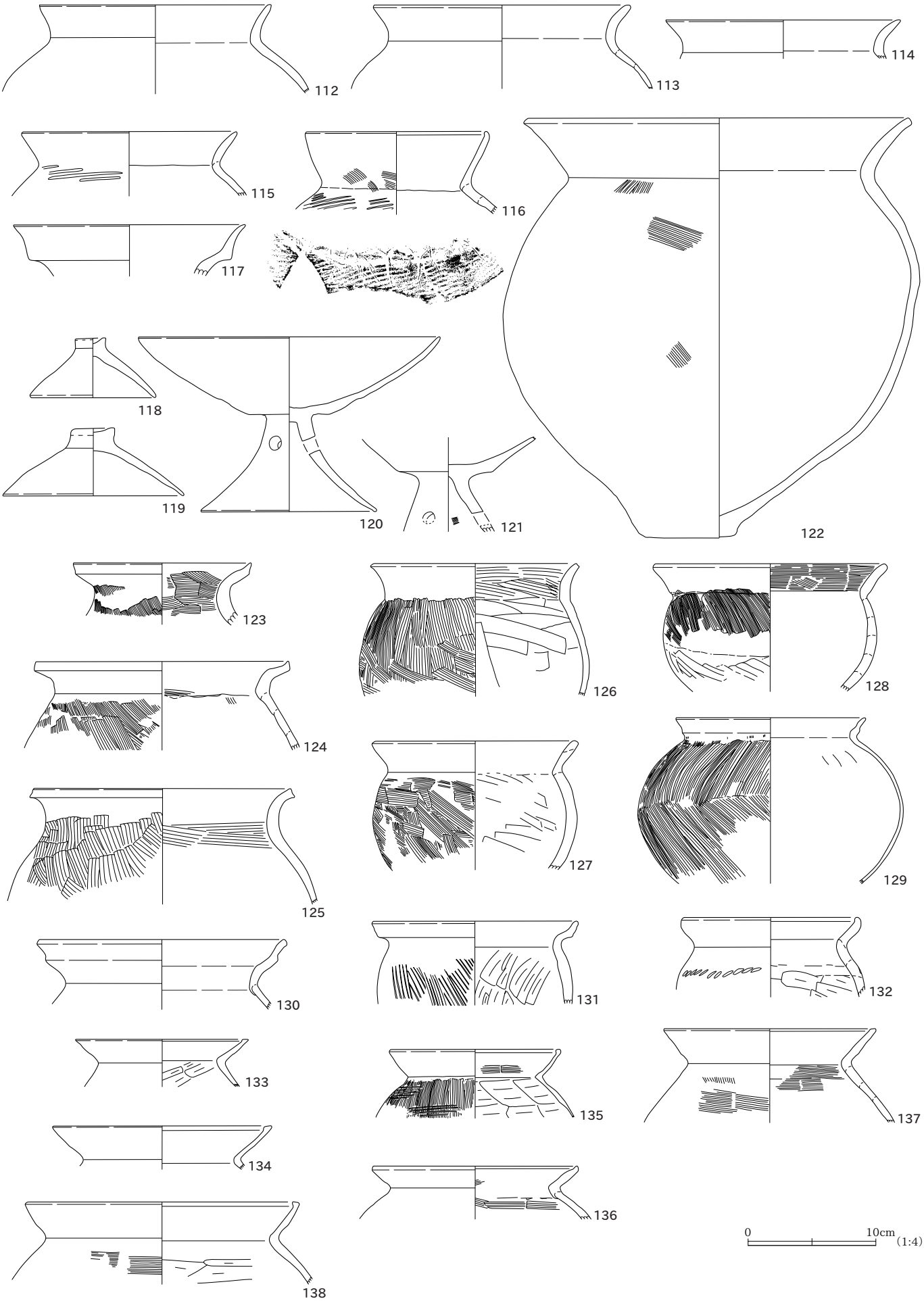
03Pit1018
1　黒色粘質土　粘性あり。しまりあり。

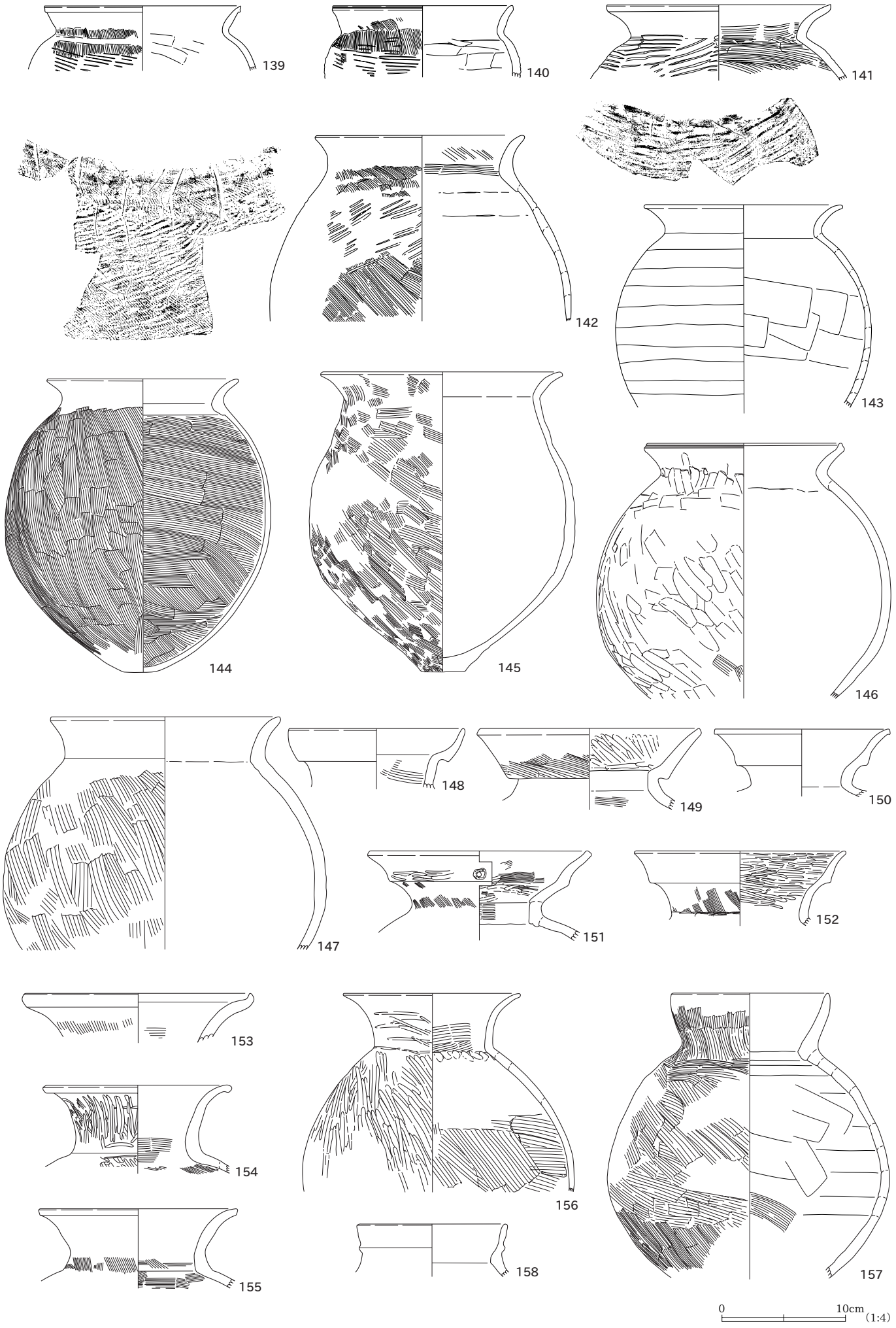
0　（1：40）　2m

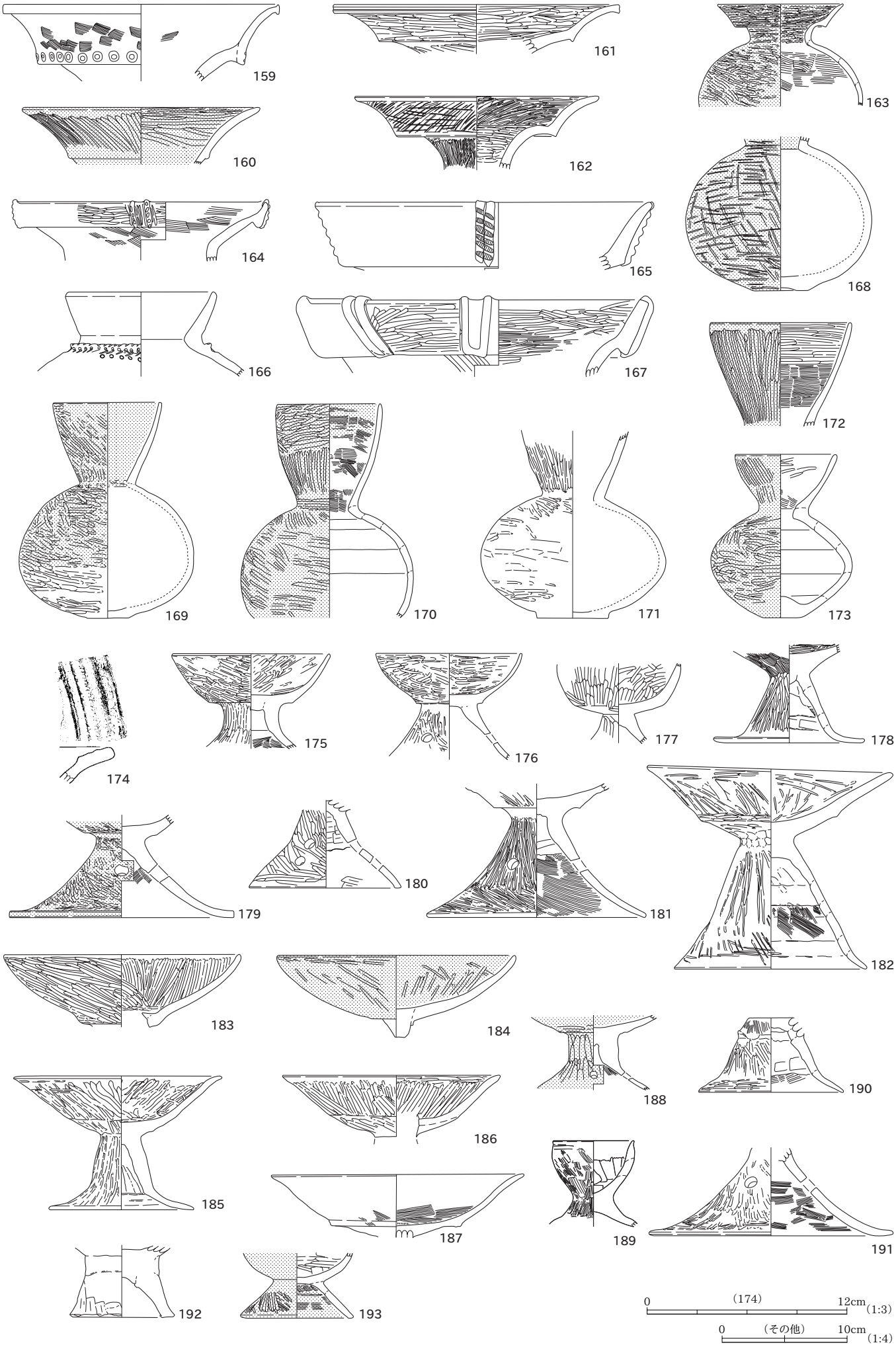

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
0
10cm
(1:4)

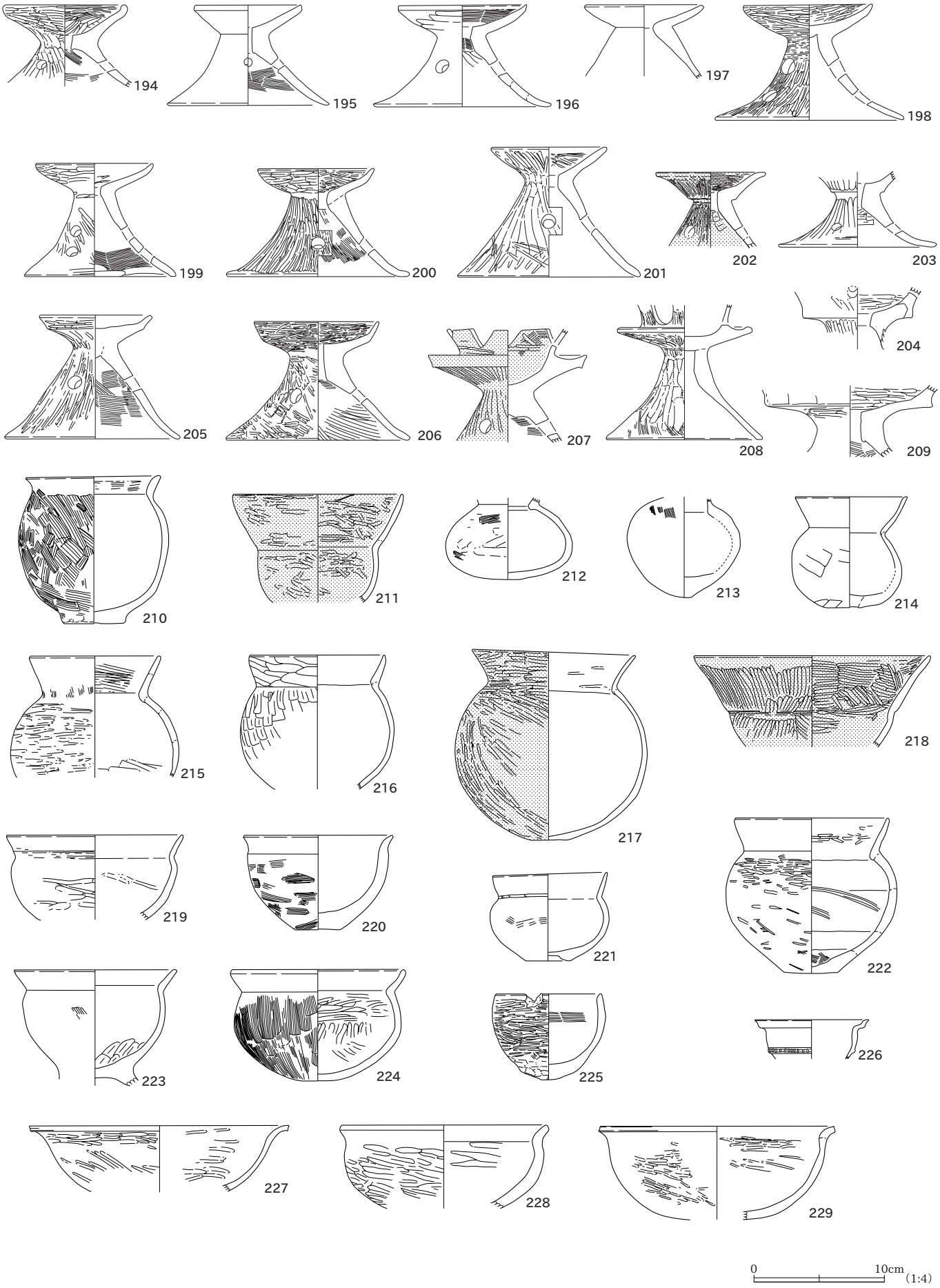

49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
0
10cm
(1:4)

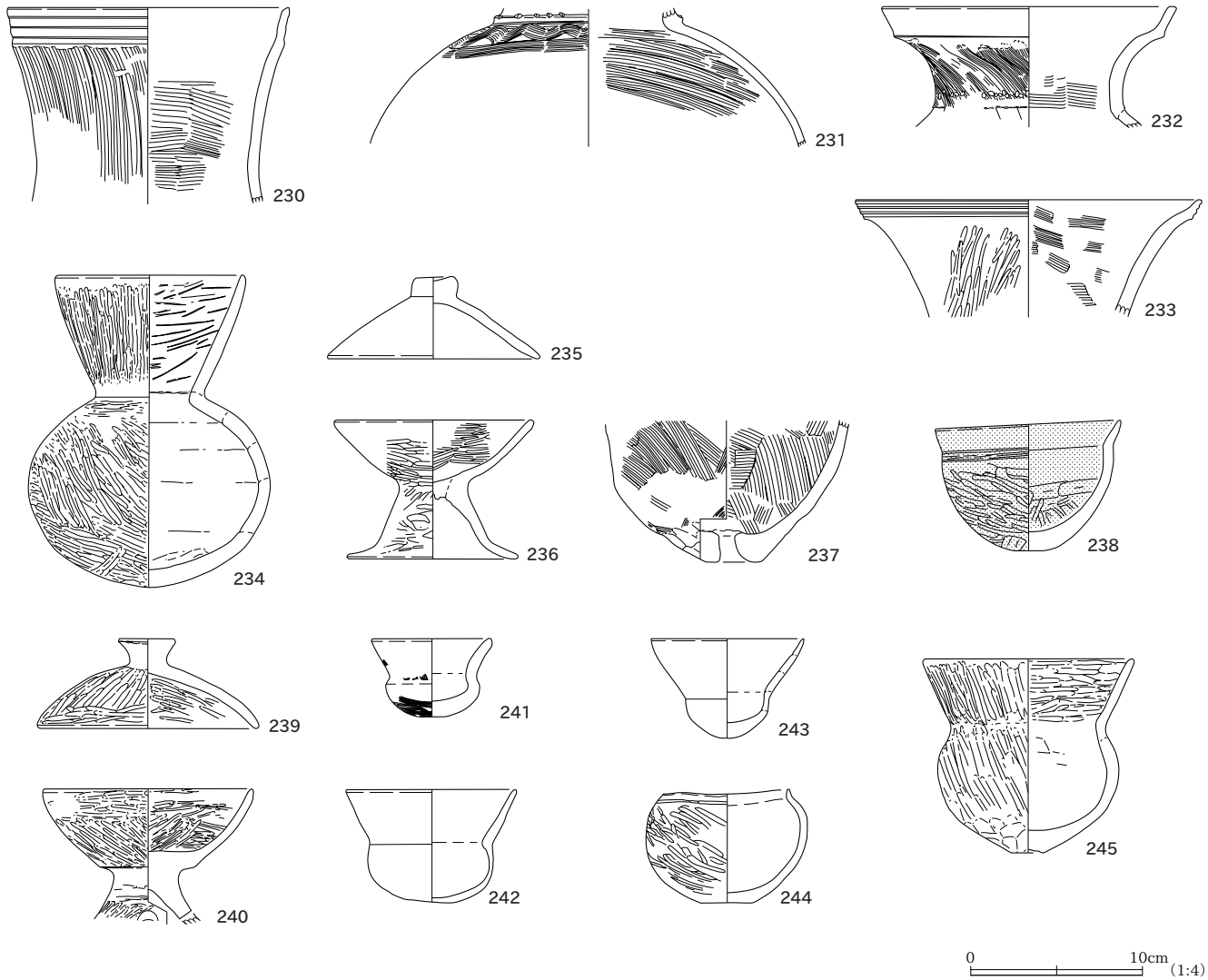

80
81
82
85
86
83
84
87
88
91
93
89
92
94
90
95
96
97
98
99
100
101
105
102
106
108
103
109
104
107
110
111
0
10cm
(1:4)

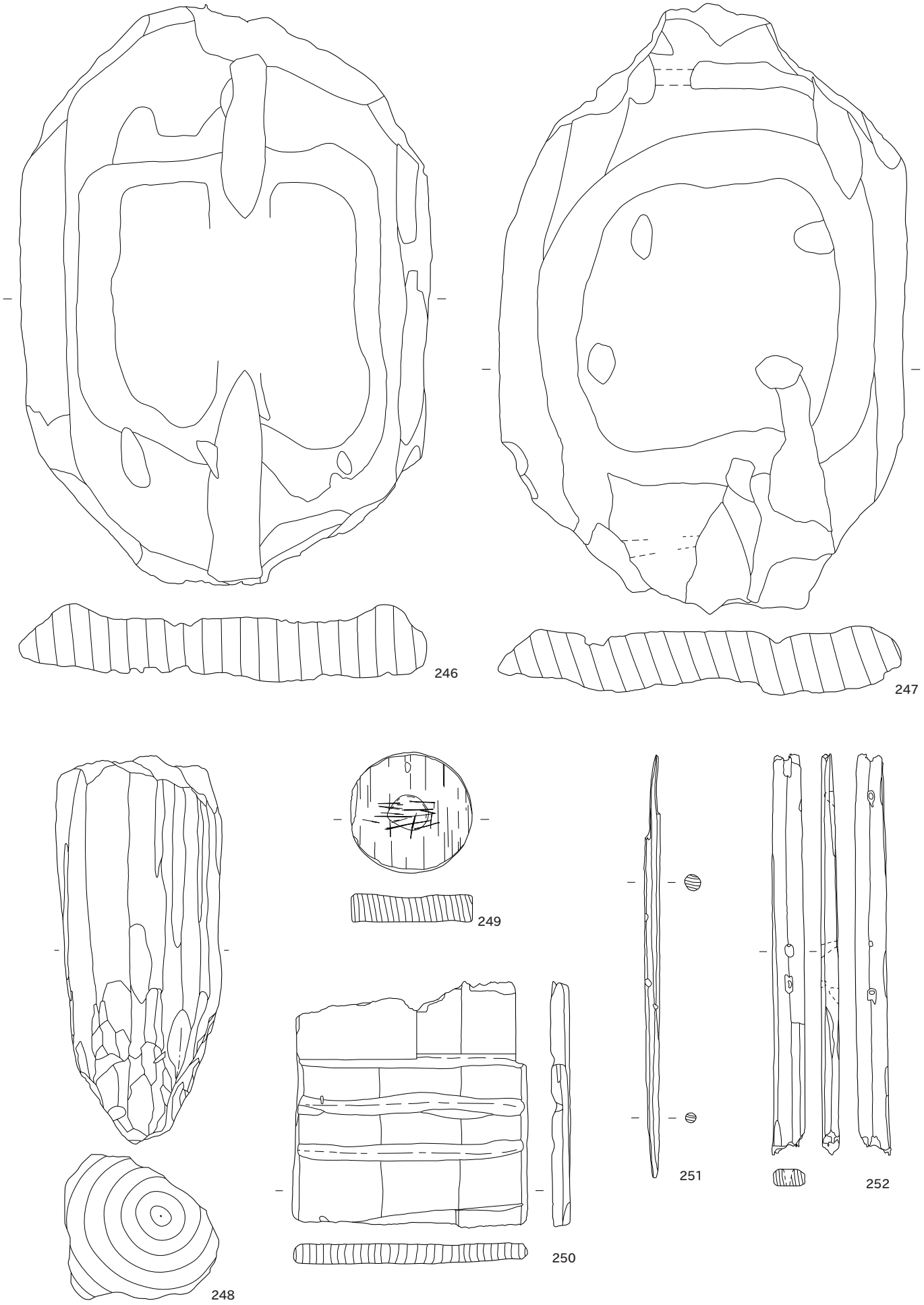

112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
0
10cm
(1:4)

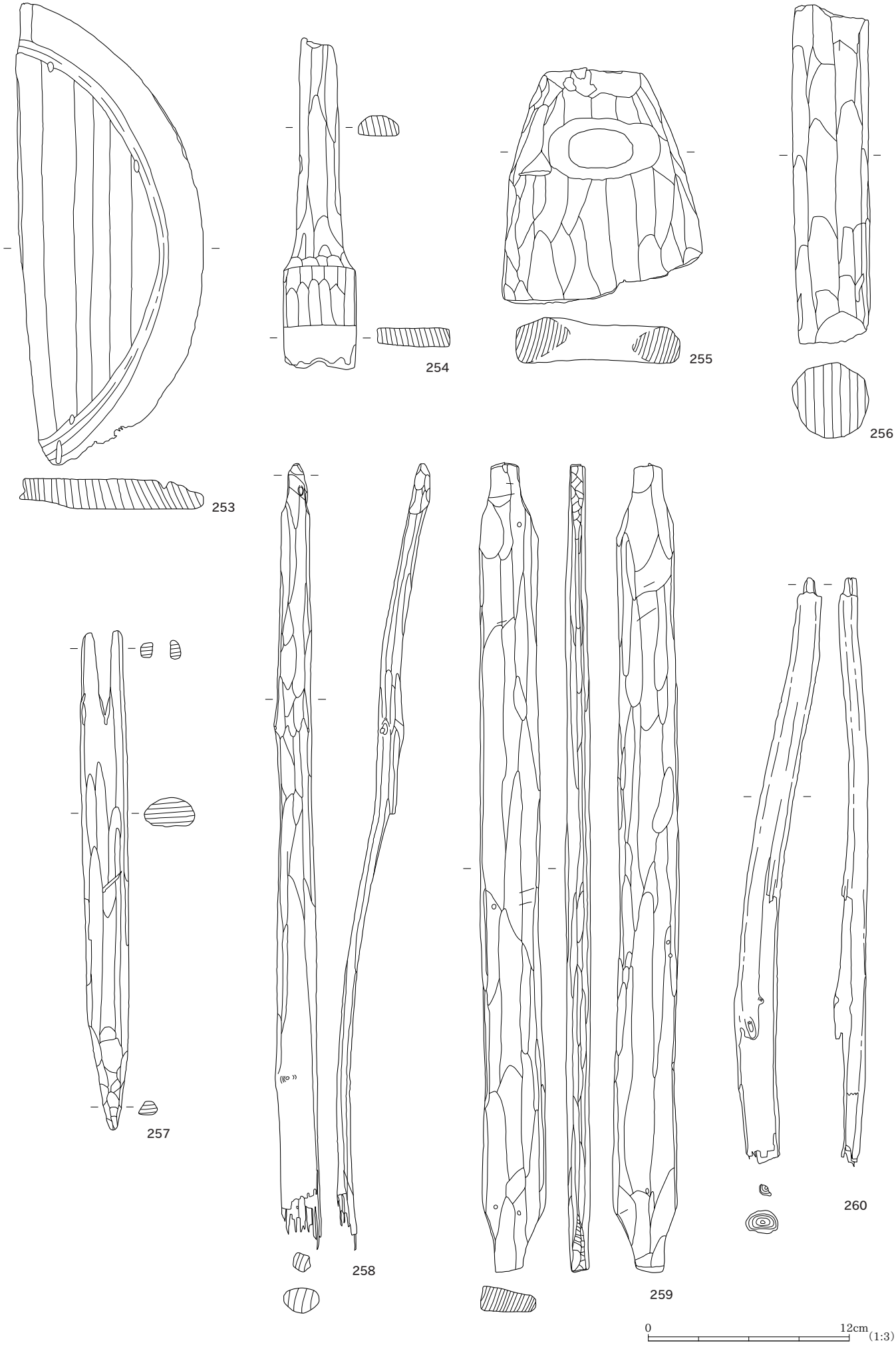

139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
0
10cm
(1:4)

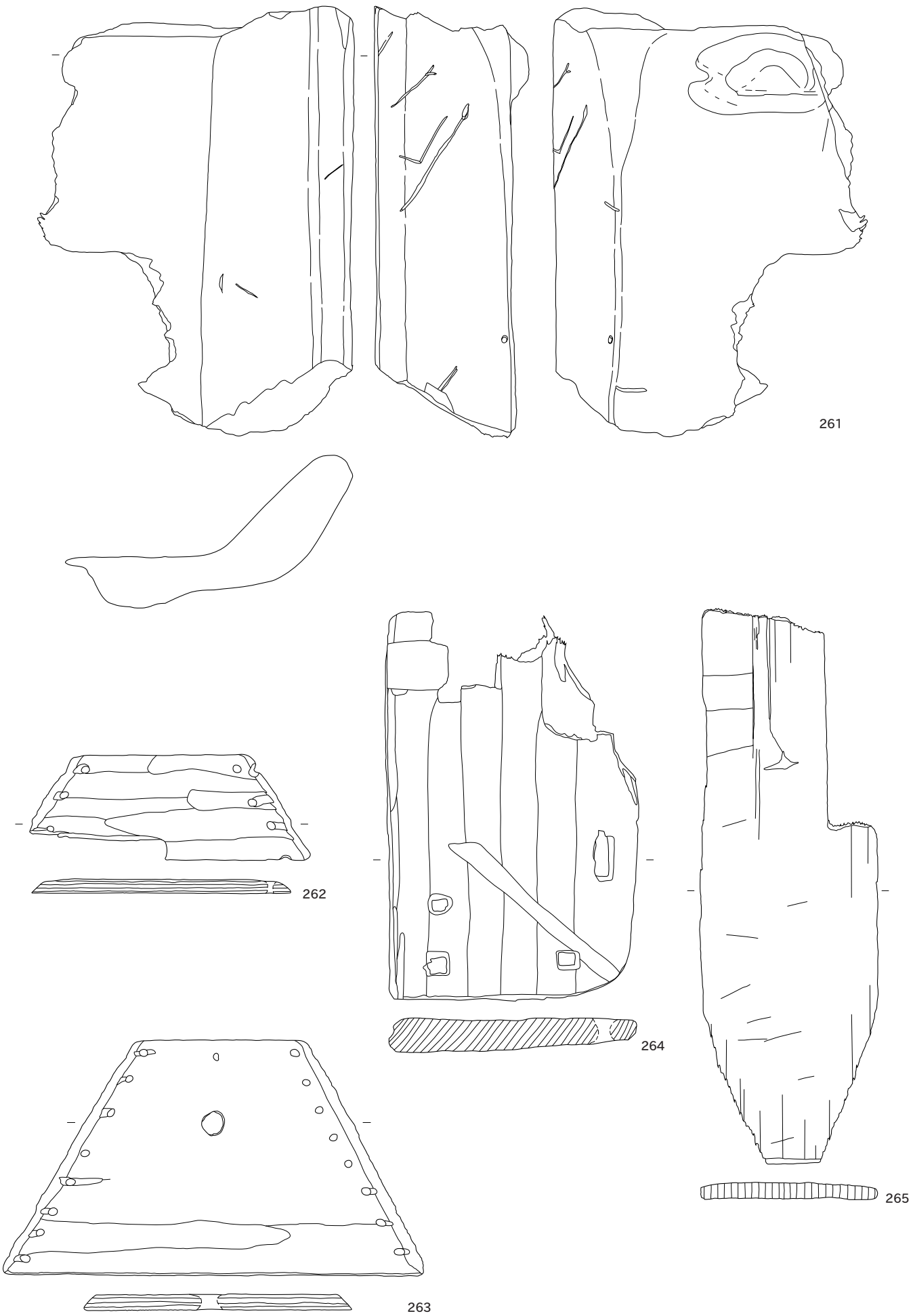

159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
0 (174) 12cm (1:3)
0 (その他) 10cm (1:4)

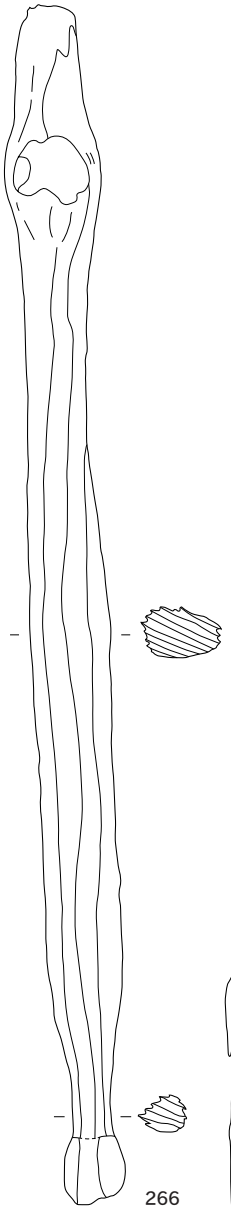

194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
0
10cm
(1:4)

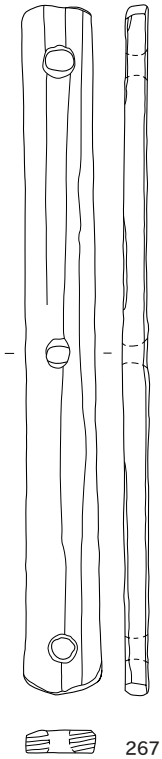

230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
0
10cm
(1:4)

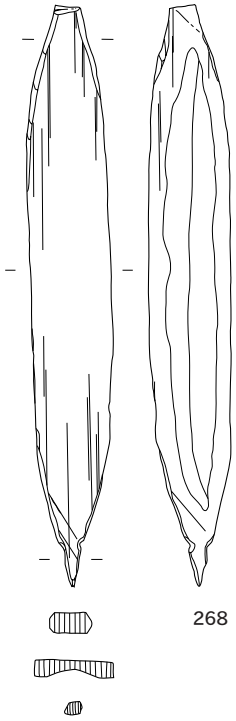

246
247
249
250
251
252
248
0
(248)
20cm
(1:5)
0
(その他)
12cm
(1:3)

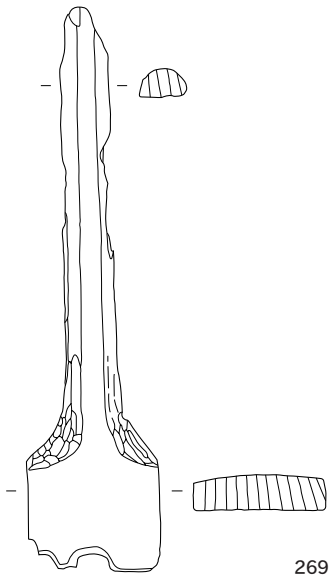

253
254
255
256
257
258
259
260
0
12cm
(1:3)

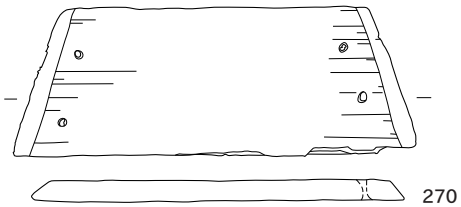

261
262
263
264
265
0
12cm
(1:3)

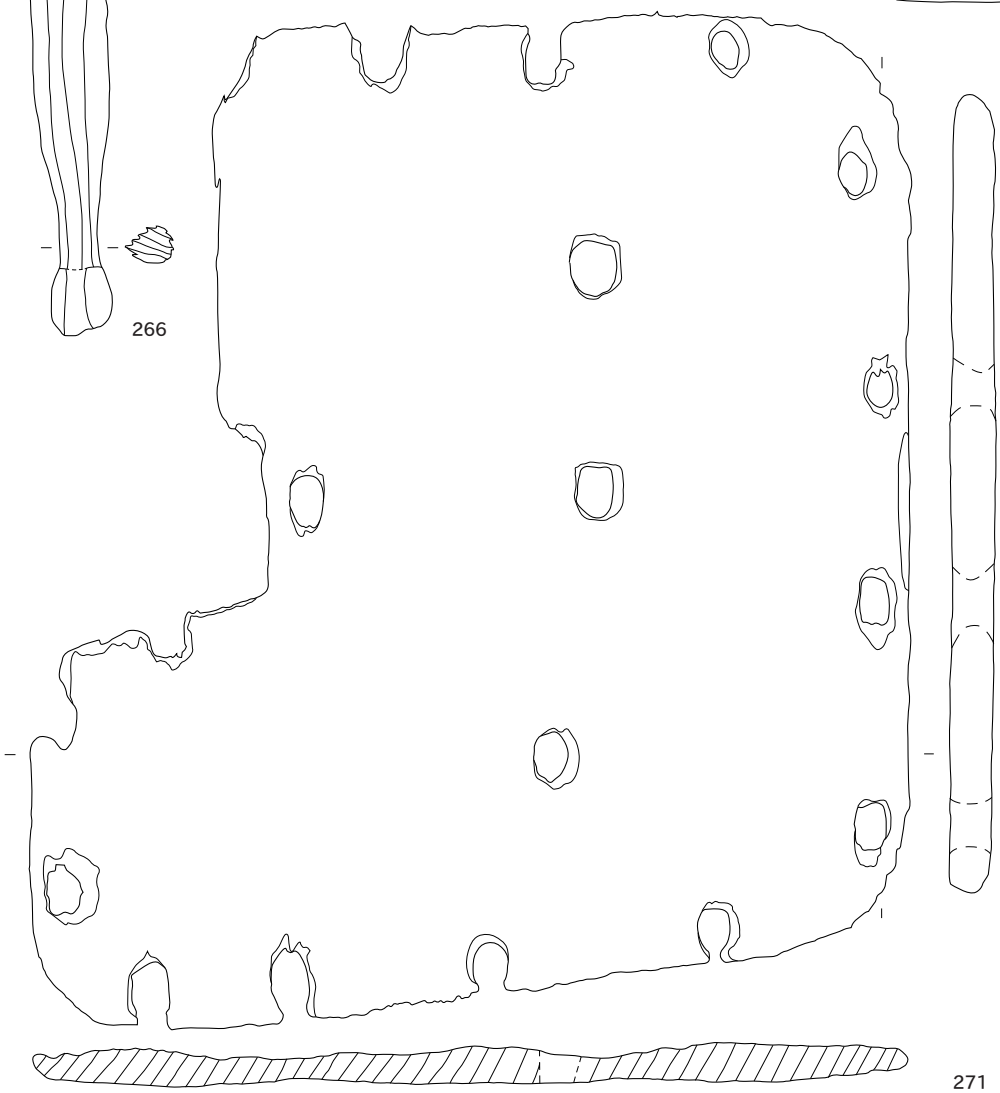




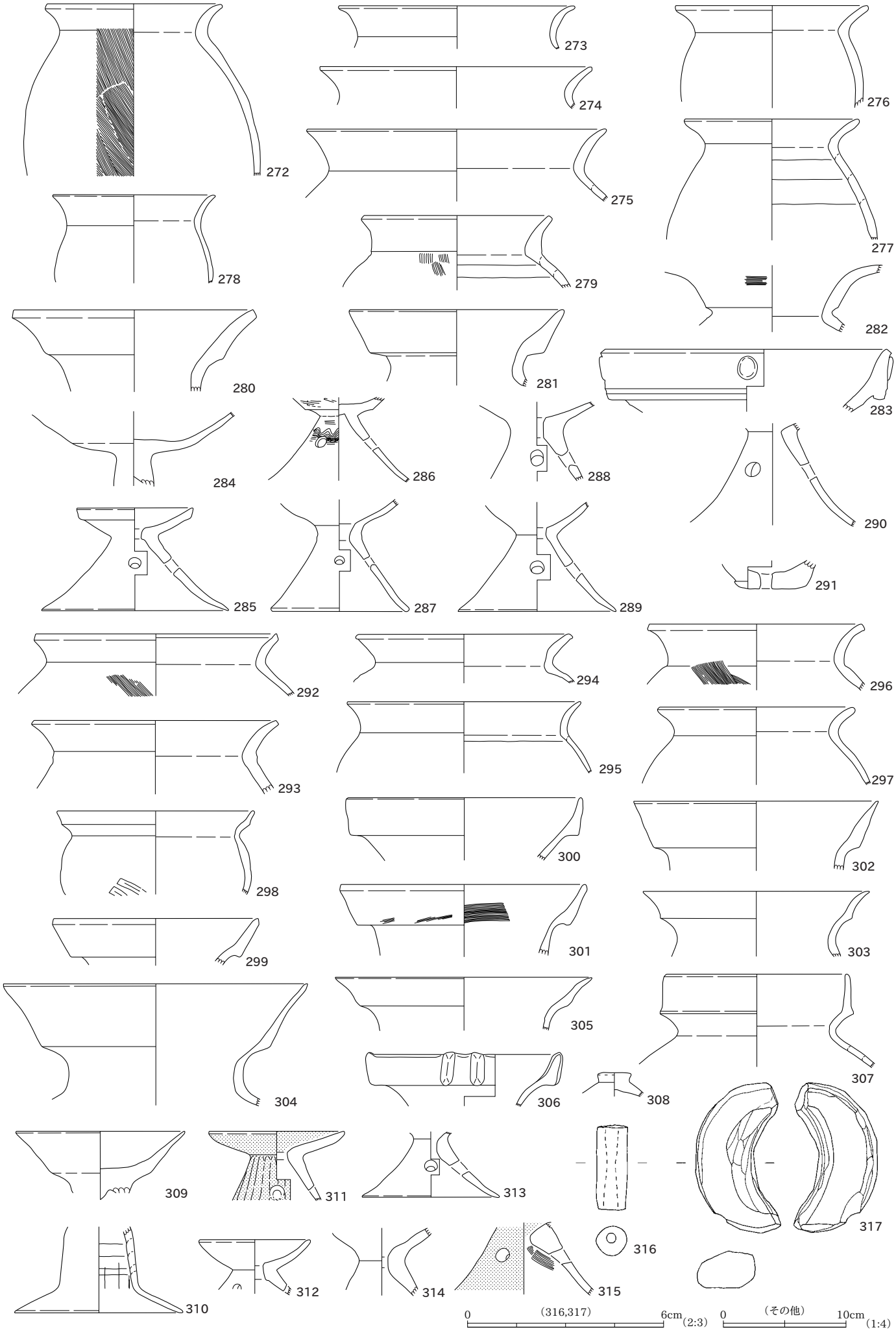


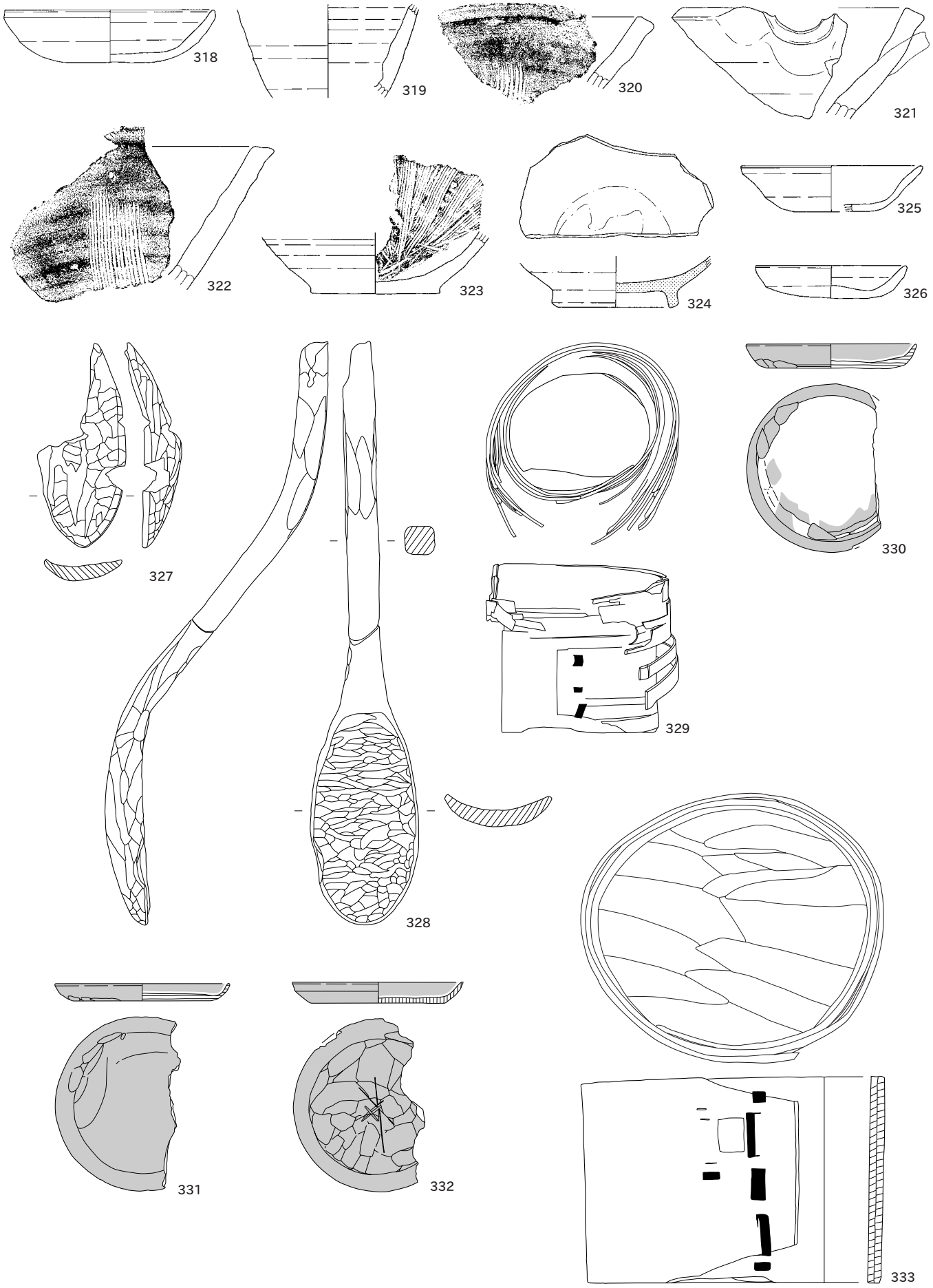






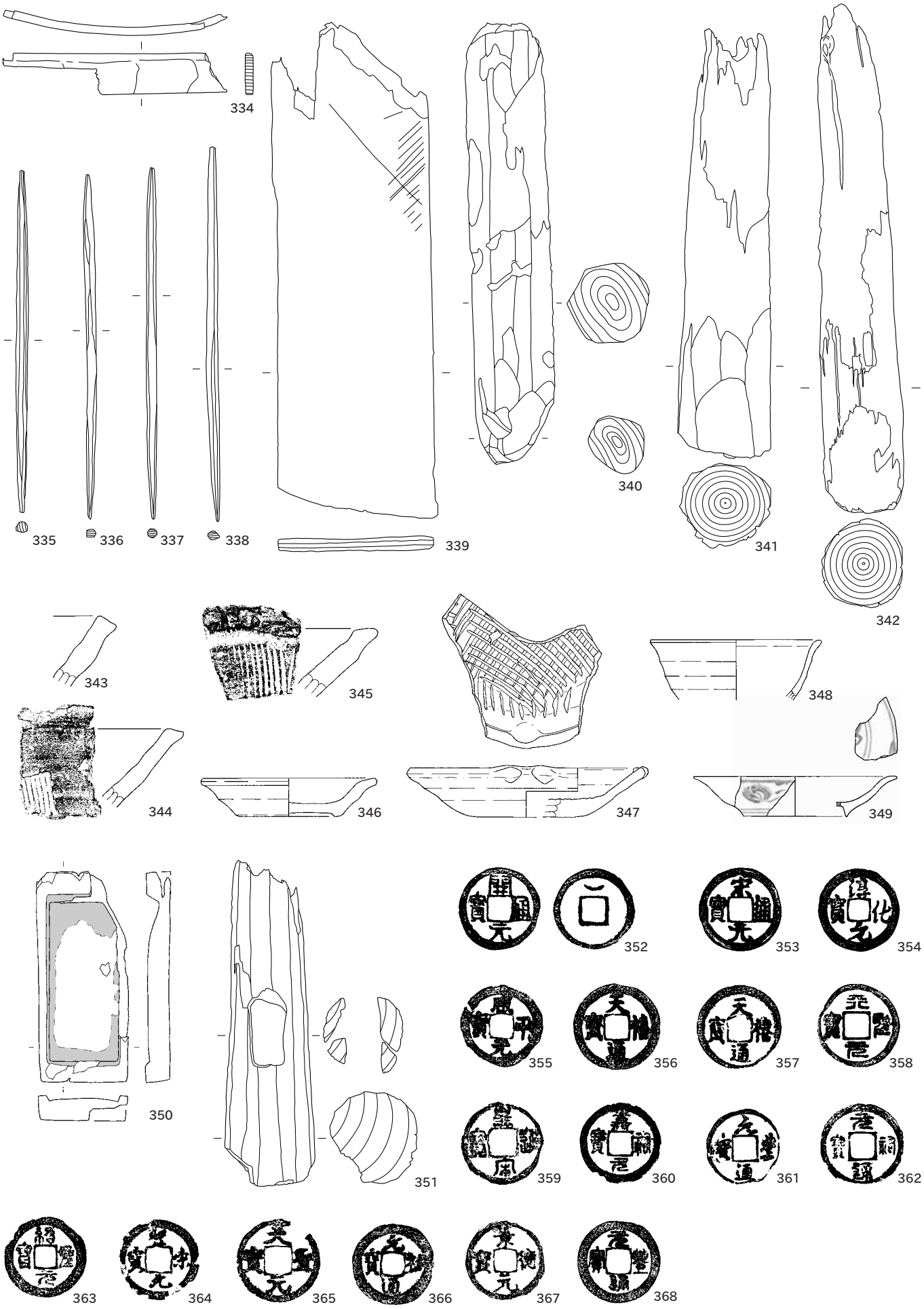
0　12cm（1:3）


272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
0 (316,317) 6cm (2:3)
0 (その他) 10cm (1:4)



0 (319,323) 20cm (1:5)

0 (その他) 12cm (1:3)


334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
0 (340) 20cm (1:5)
0 (341,342,351) 40cm (1:10)
0 (352～368) 6cm (2:3)
0 (その他) 12cm (1:3)

調査区近景（東から）

調査区近景（西から）

A地区・BⅠ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区（上空から）

B地区　古墳面（上空から）

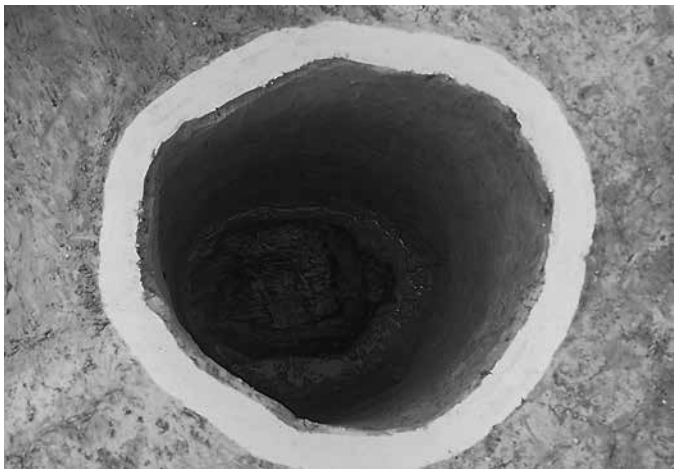
AⅡ・Ⅲ・Ⅴ～Ⅷ区（上空から）

AⅠ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区（上空から）

A地区基本層序（①・東から）

B地区基本層序（⑨・東から）

03SB001　完掘（東から）

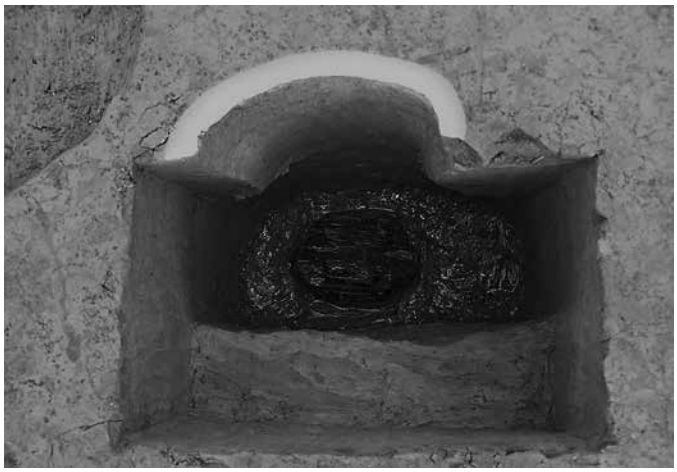


03SK45　完掘（北から）

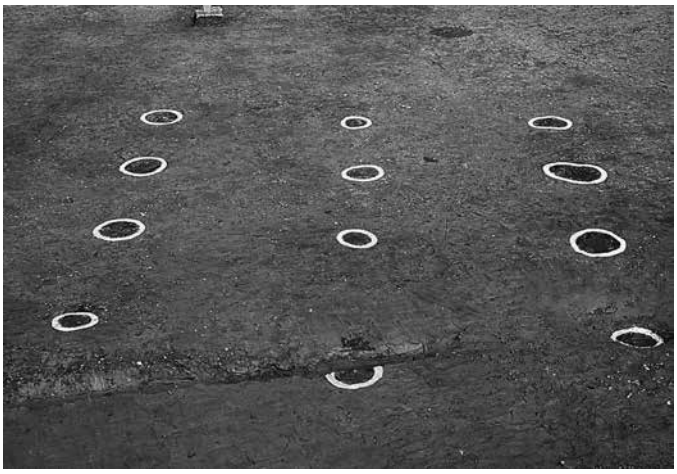
03P48　断面（南から）

03P48　完掘（南から）

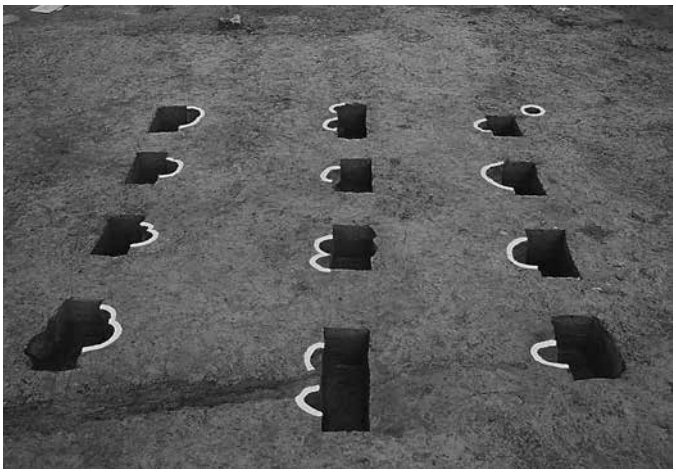
03P49　断面（南から）



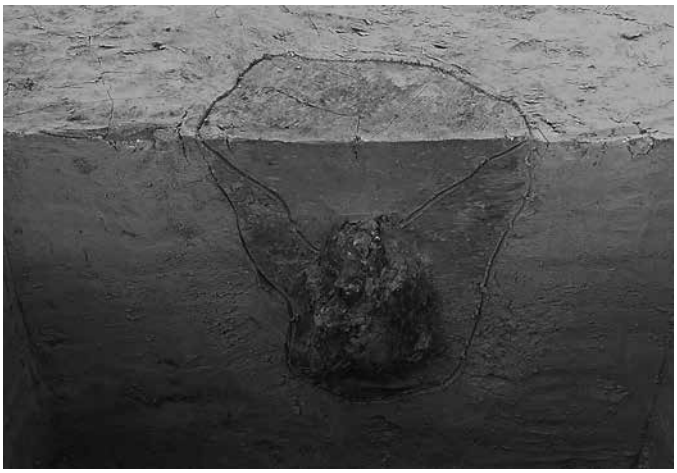
03P49　完掘（南から）



03SB002　検出（西から）

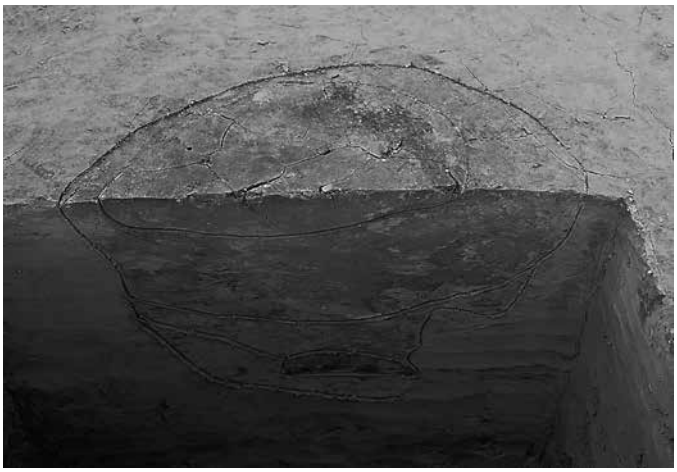


03SB002　完掘（西から）

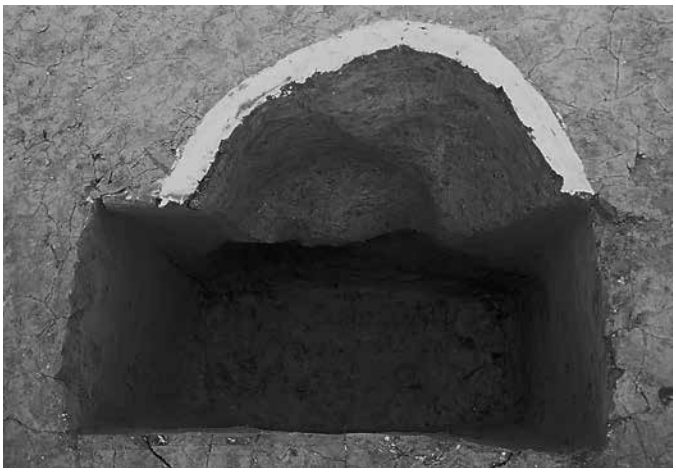


03P126　断面（南から）

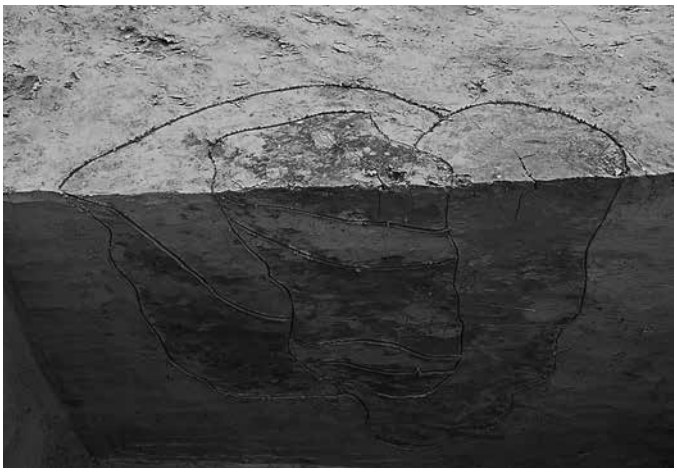
03P126　完掘（南から）



03P127　断面（南から）



03P127　完掘（南から）

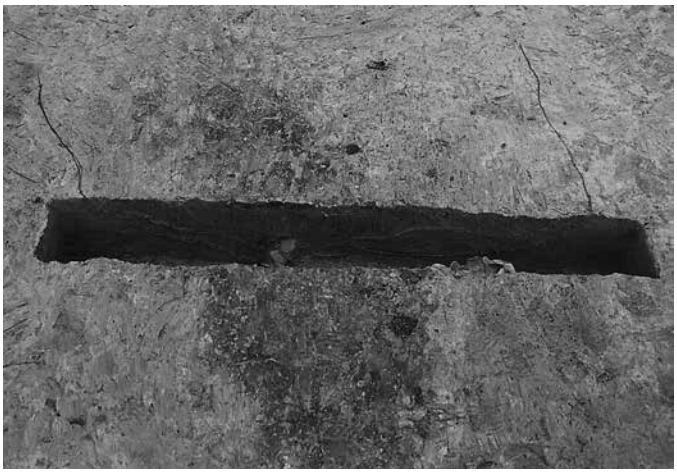


03P137・141・142　断面（北から）

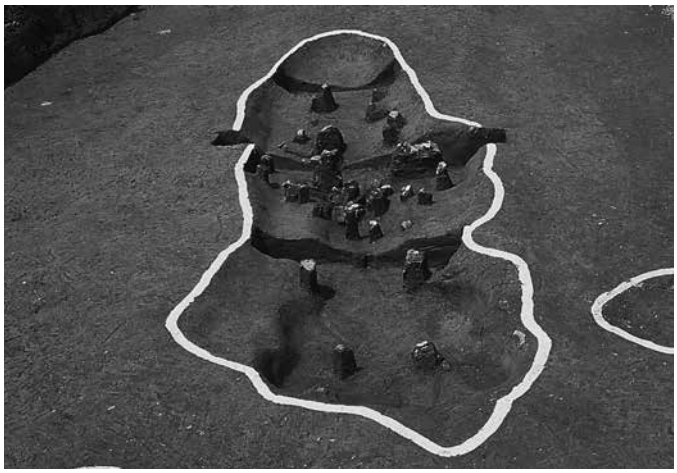
03P137・141・142　完掘（北から）

03SE103　断面（東から）

03SE103　完掘（西から）



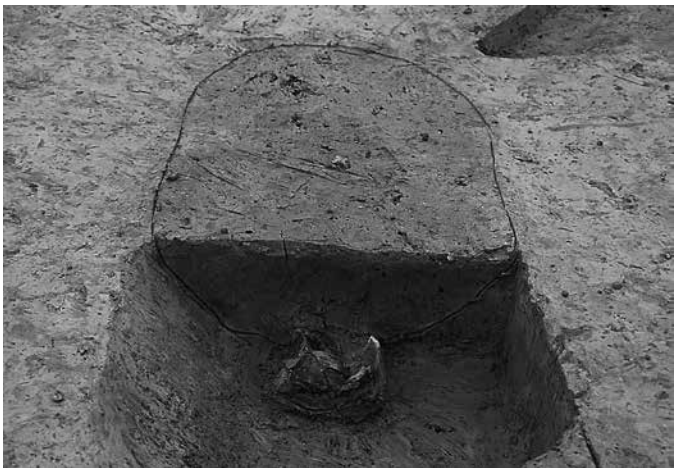
03SD5　断面（東から）



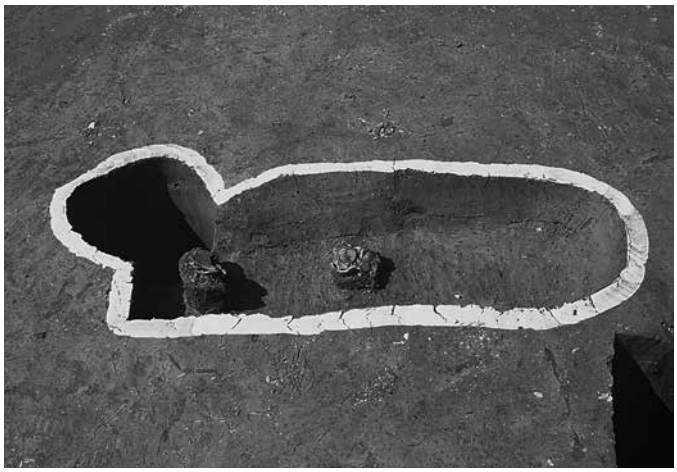
03SD5　完掘（東から）

03SD21　断面A-A'（南東から）

03SD21　断面B-B'（北西から）



03SD44　断面（西から）



03SD44・03SK45　完掘（南から）

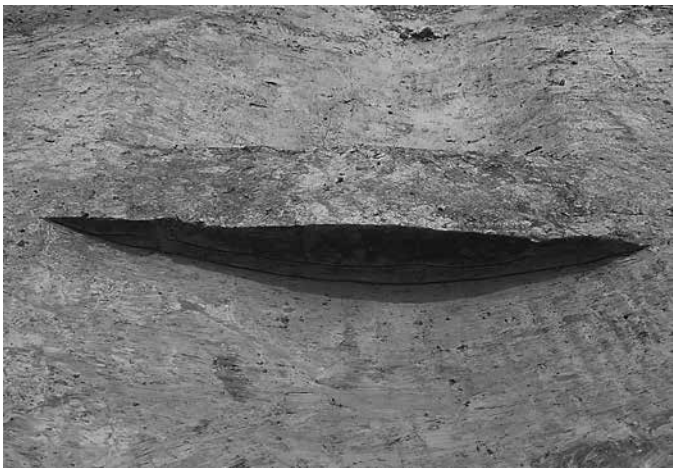
03SD71　断面A-A'（北東から）

03SD71　断面B-B'（南西から）

03SD71　断面C-C'（南西から）

03SD71　断面D-D'（北東から）

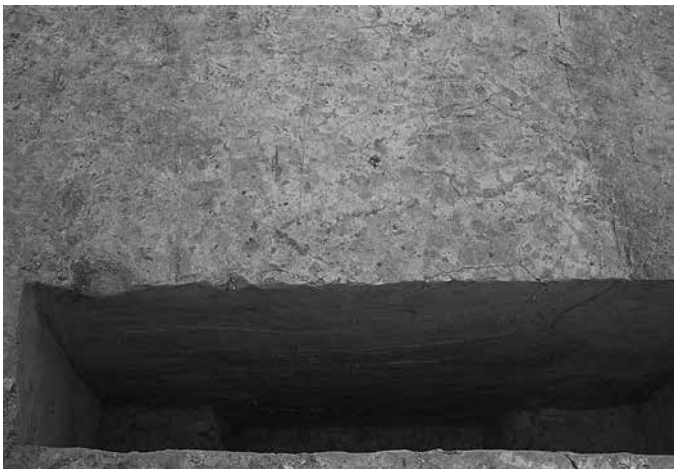
03SD81　断面A-A'（東から）



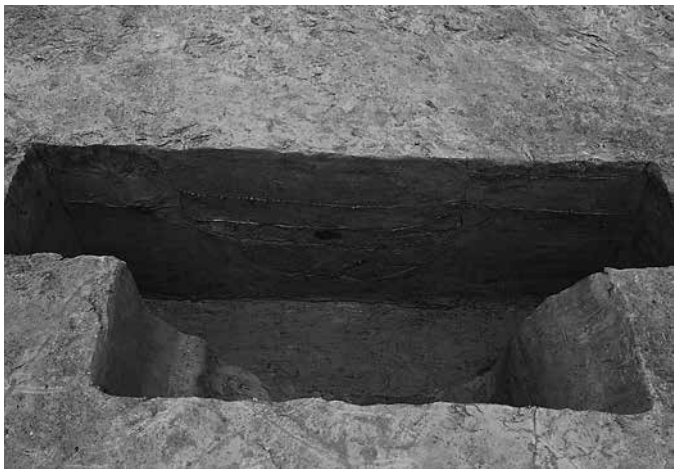
03SD81　断面C-C'（西から）

03SD105　断面A-A'（北西から）

03SD105　断面B-B'（南東から）



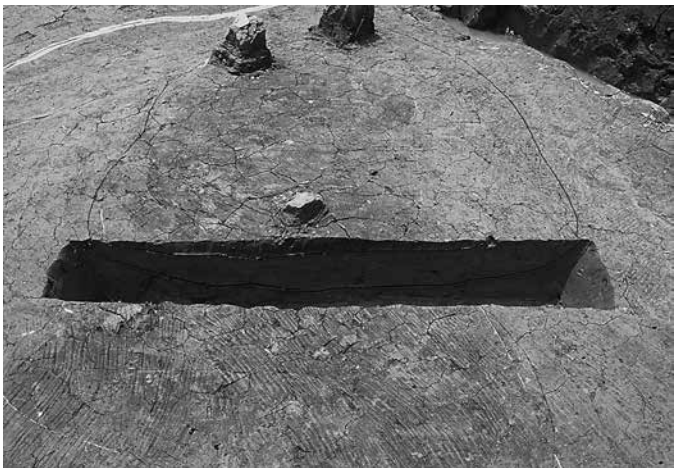
03SD105　断面C-C'（南東から）



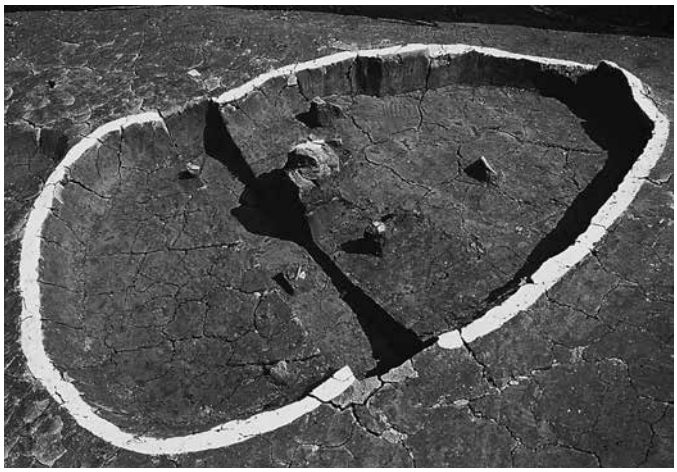
03SD105　断面D-D'（南東から）

03SK8　断面（南から）

03SK8　完掘（南西から）

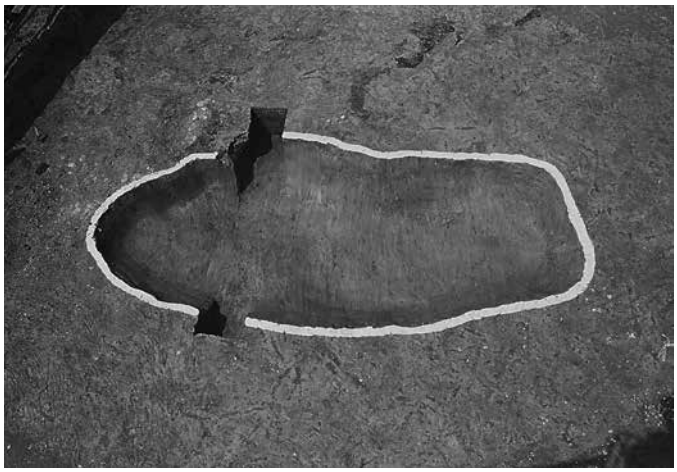


03SK17　断面（北から）

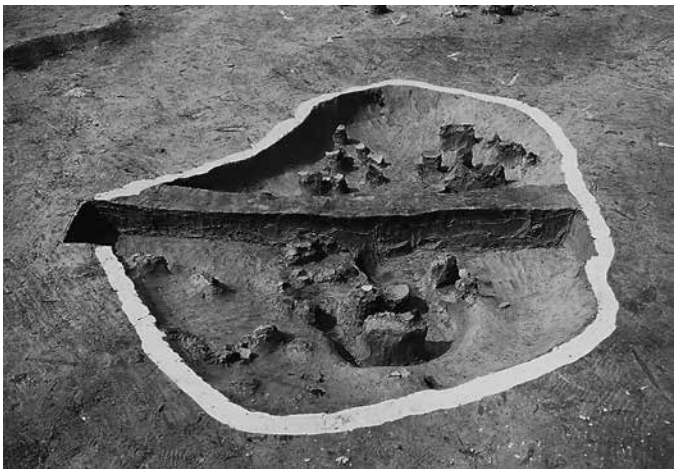


03SK17　完掘（西から）

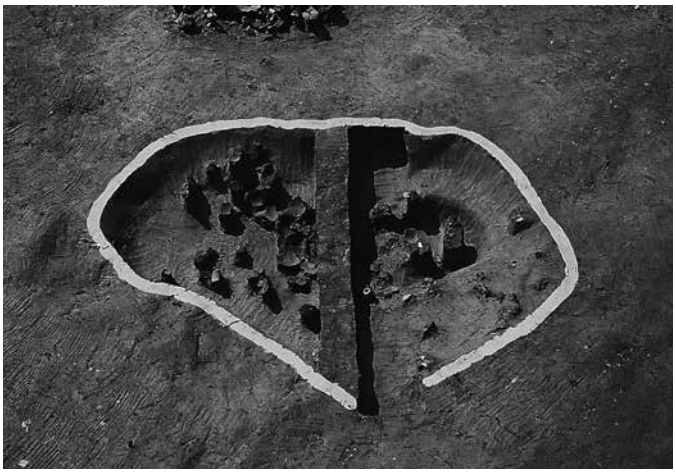
03SK22　断面（南から）



03SK22　完掘（北東から）



03SK23　断面（北東から）

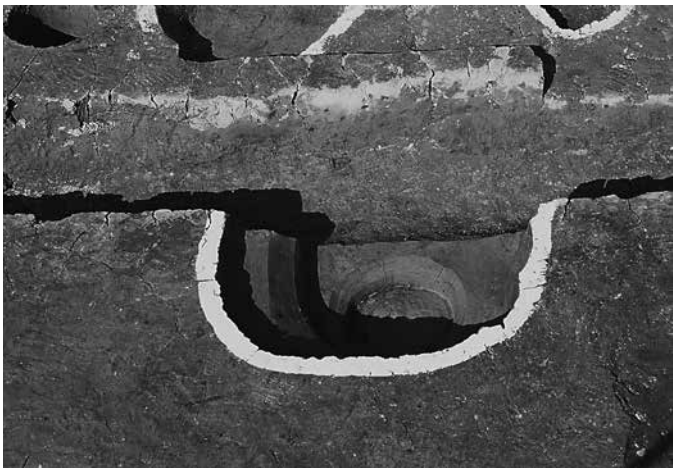


03SK23　完掘（東から）

03SK27　断面（南西から）

03SK27　完掘（東から）

03SK33　断面（西から）

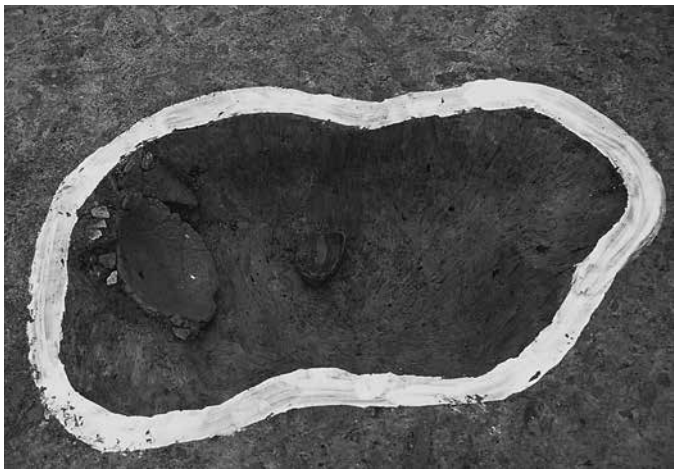


03SK33　完掘（西から）

03SK41　断面（西から）

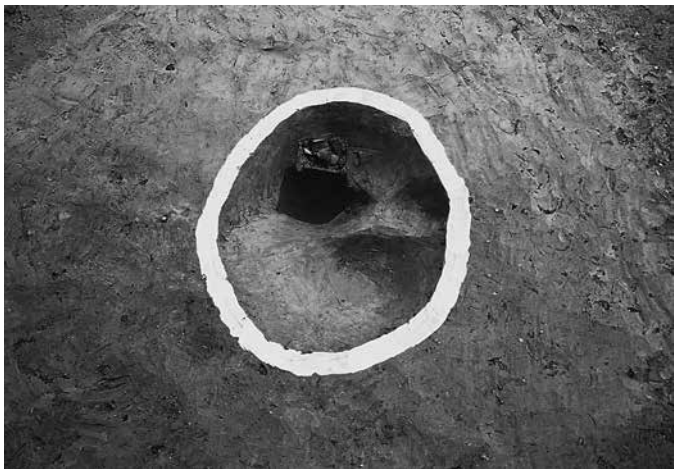
03SK41　完掘（南西から）

03SK67　断面（東から）

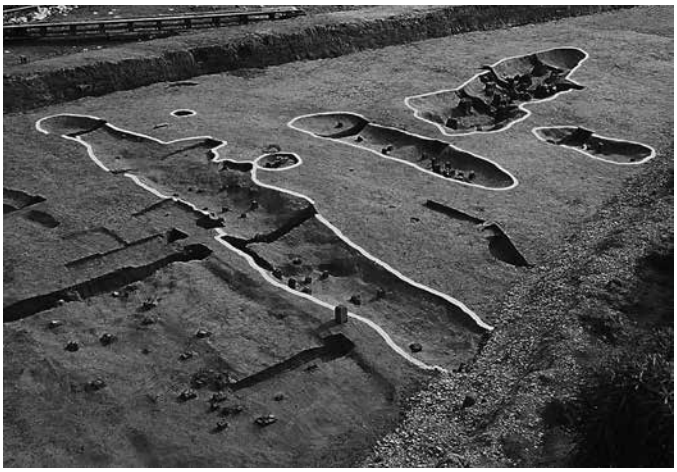


03SK67　完掘（東から）

03SK73　断面（南西から）



03SK73　完掘（南西から）



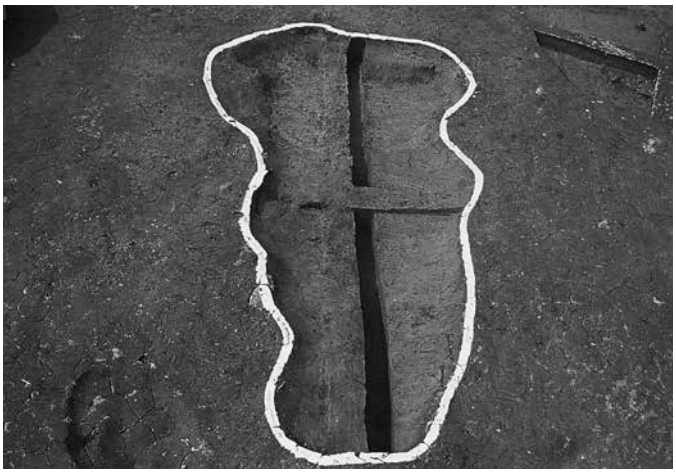
AⅢ区　完掘（北東から）

03SX24　完掘（北から）

03SX31　断面（北西から）

03SX31　完掘（北から）

03SX50　断面A-A'（西から）



03SX50　完掘（南から）

03SX52　断面A-A'（南西から）

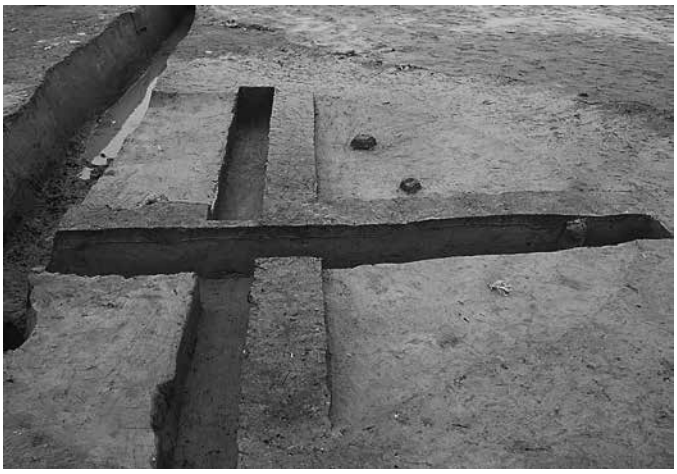
03SX52　完掘（南から）

03SX75　検出（東から）

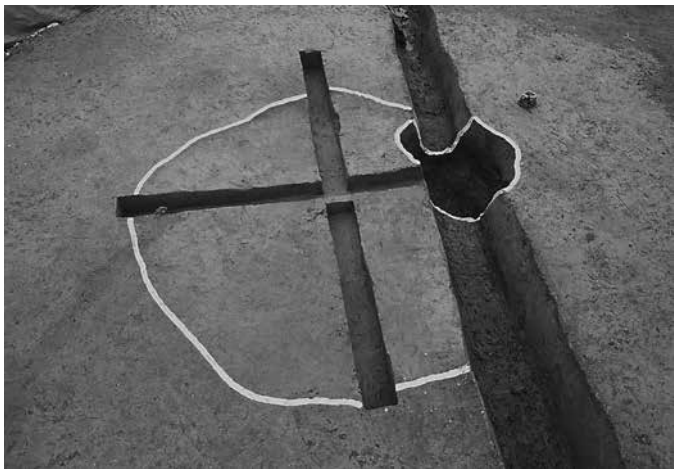
03SX80　検出（南から）

03SX77　検出（東から）

03SX77　断面A-A'（西から）



03SX77　断面B-B'（南から）

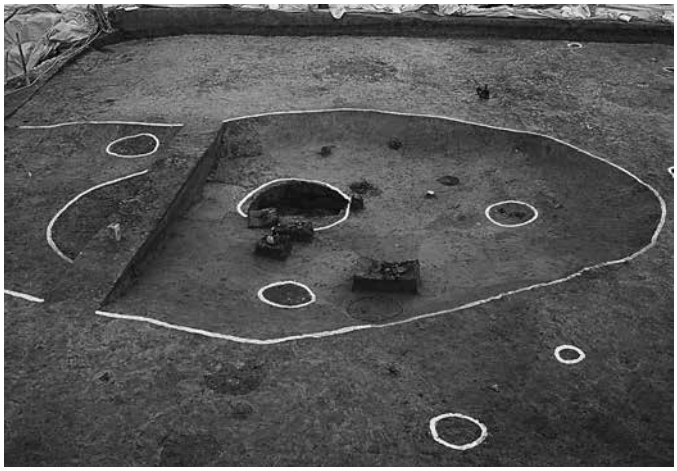


03SX77　完掘（北から）

03SX87　検出（南から）

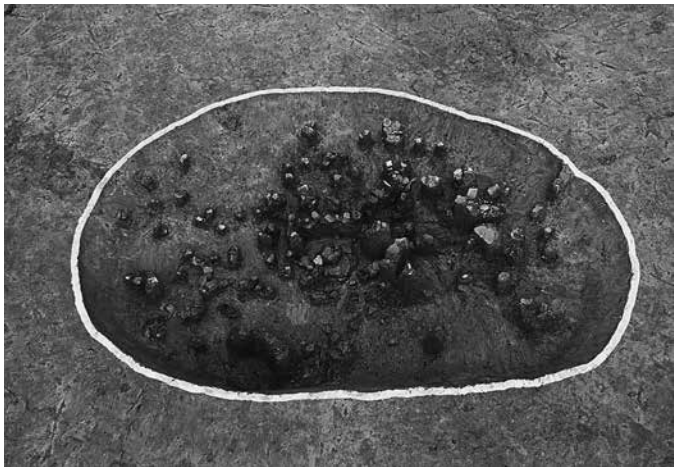
03SX117　検出（北から）

03SX107　断面（南から）



03SX107　完掘（西から）

03SX165　断面（東から）



03SX165　完掘（南から）

03SX1317　完掘（南から）

03SX1318　検出（南から）

03SX1322　完掘（東から）

03 旧河川 1　断面（南西から）

03 旧河川 1　出土状況（4F）

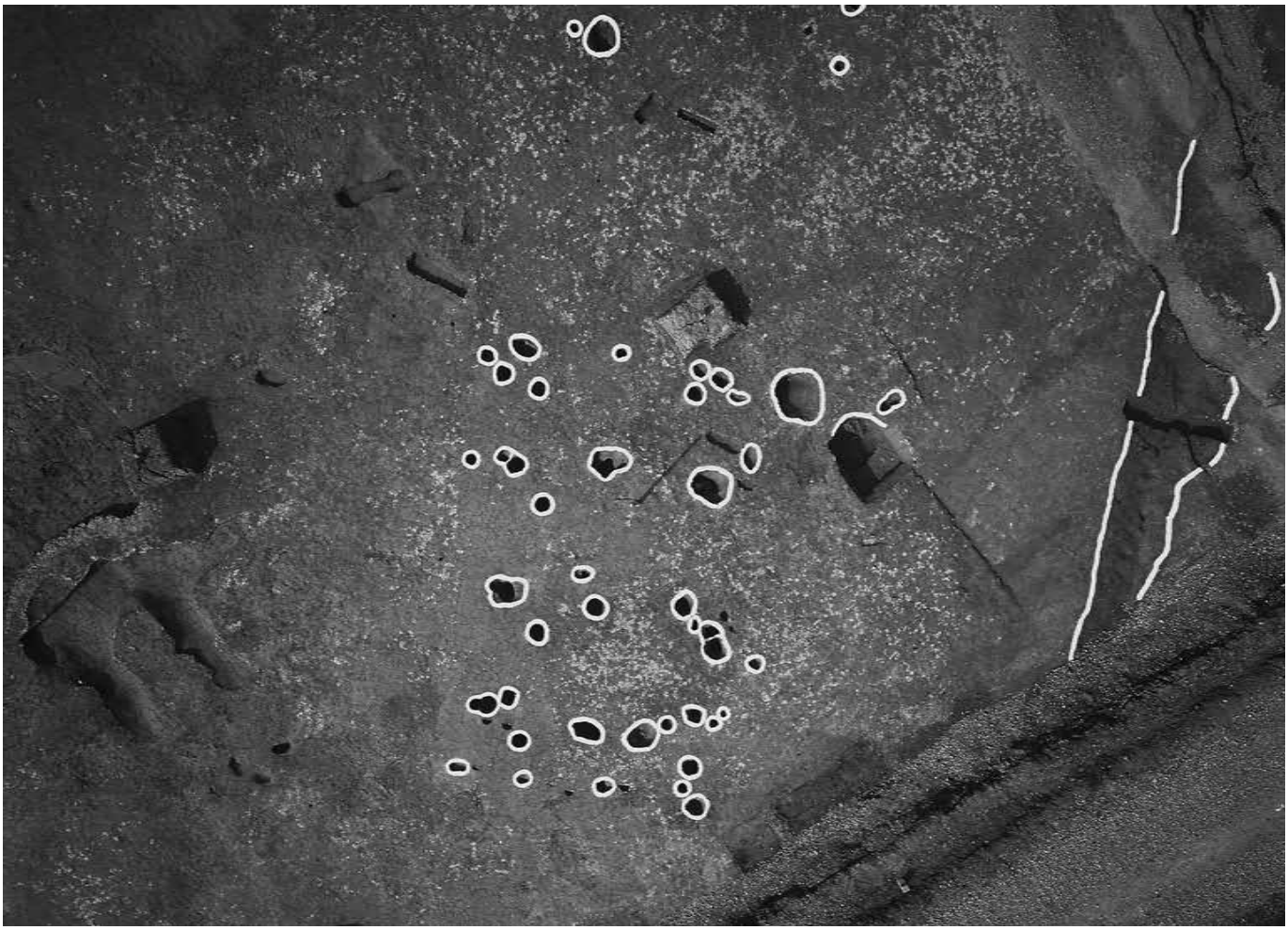
03 旧河川 1　出土状況（4F）

03 旧河川 1　出土状況（4F）

03 旧河川 1　作業風景（東から）

ＢⅠ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区（上空から）

ＢⅢ・Ⅳ・Ⅶ～Ⅸ区（上空から）

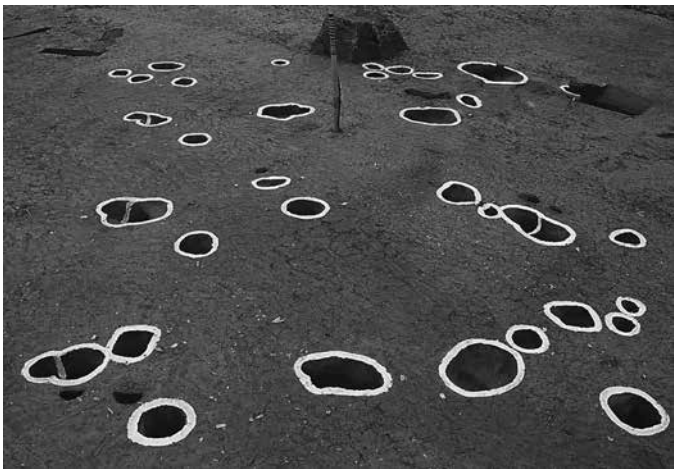


ＢＶ区（上空から）

ＢＩ・Ｖ区（上空から）

ＢⅠ・Ⅱ区（上空から）

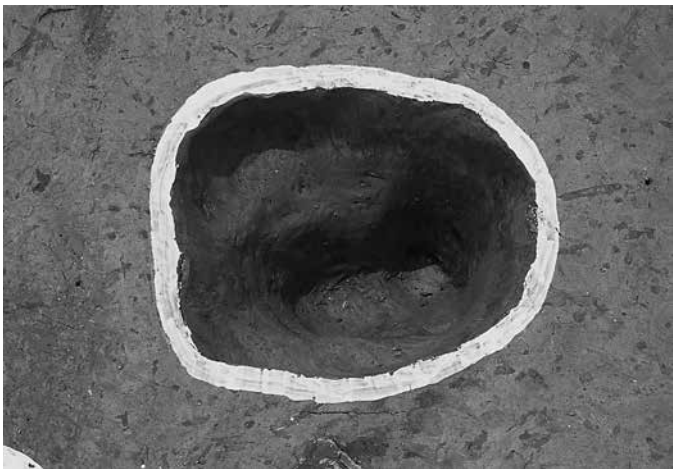
ＢⅢ区（南東から）



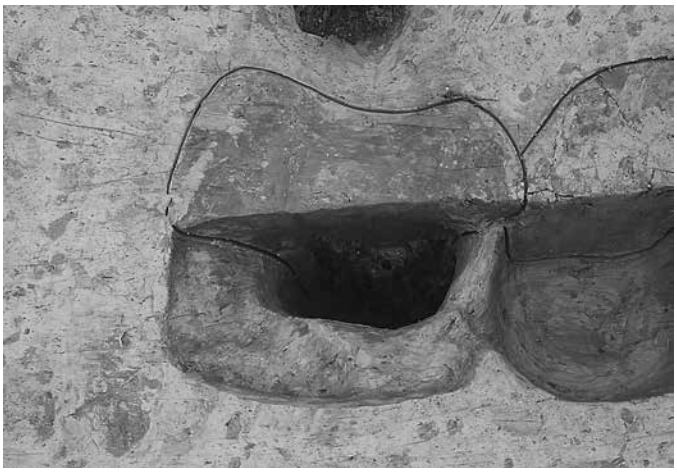
03SB003・004　完掘（南西）

柱穴　検出状況（北西から）

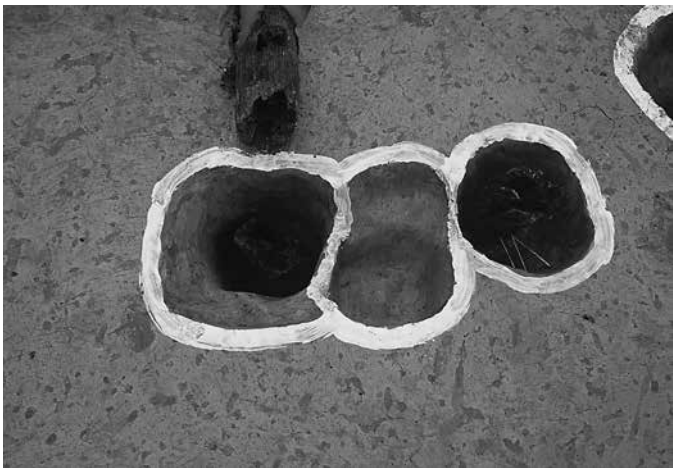
03P1139　断面（南から）



03P1139　完掘（北から）

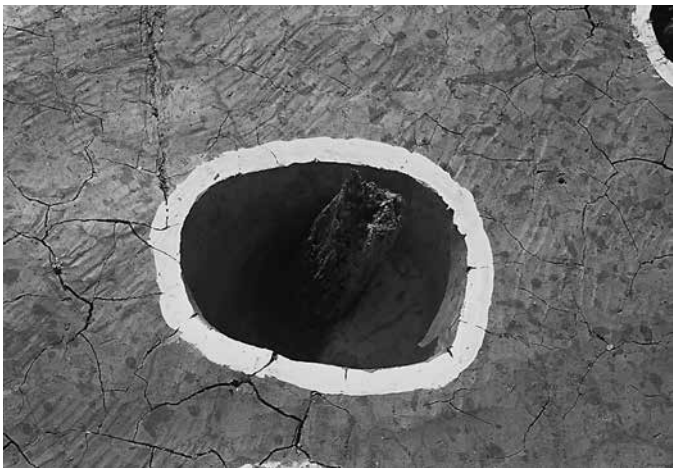


03P1077　断面（東から）

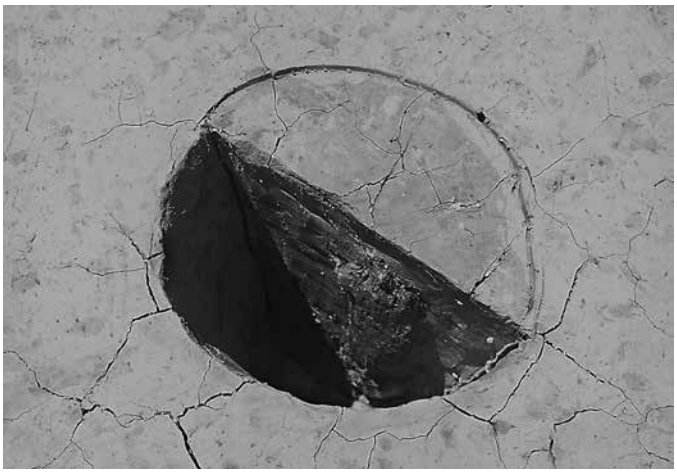


03P1077・1078・1079　完掘（東から）

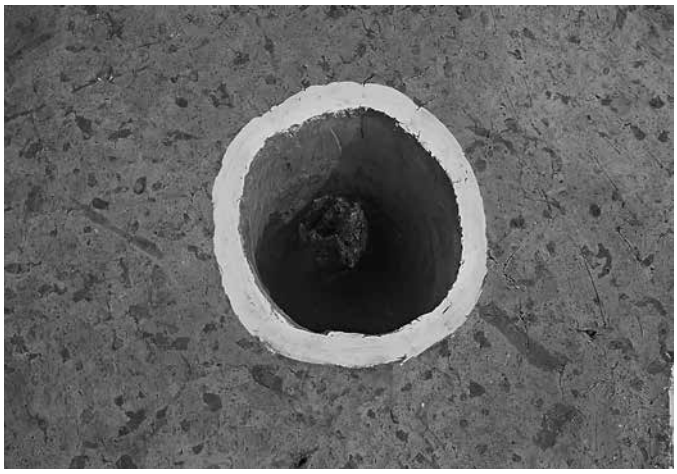
03P1040　断面（南東から）



03P1040　完掘（南東から）



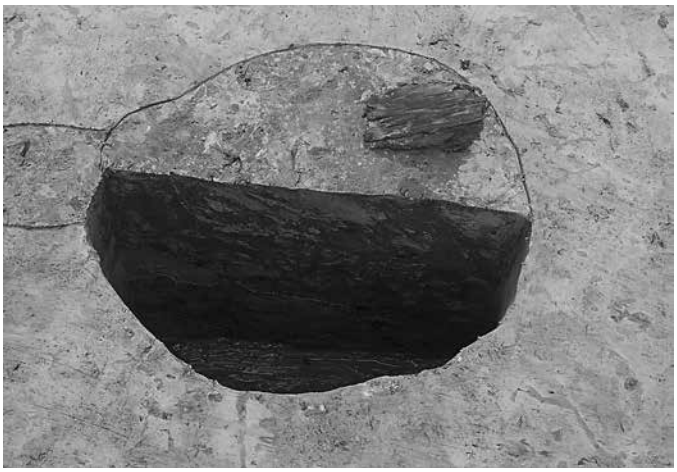
03P1070　断面（北東から）



03P1070　完掘（南から）

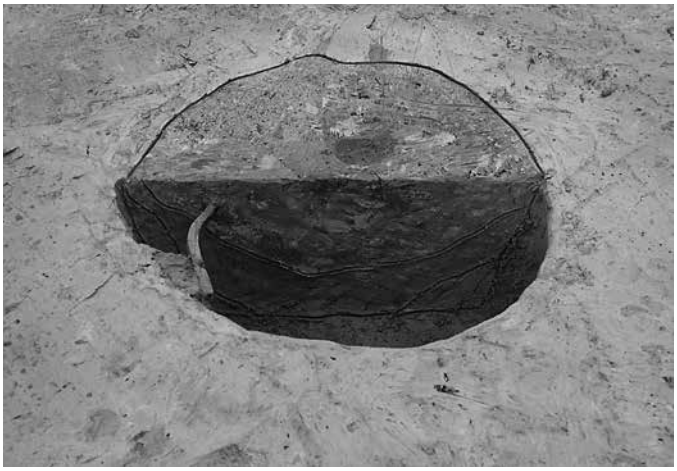
03P1111・1120　断面（西から）

03P1111・1120　完掘（西から）

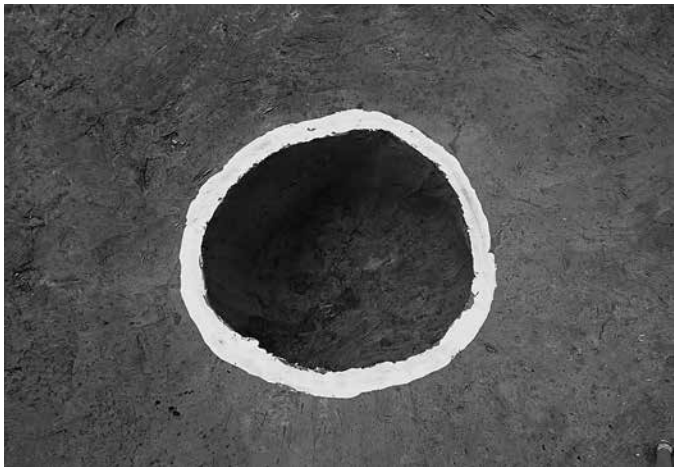


P41　断面（南東から）

P41　完掘（南東から）



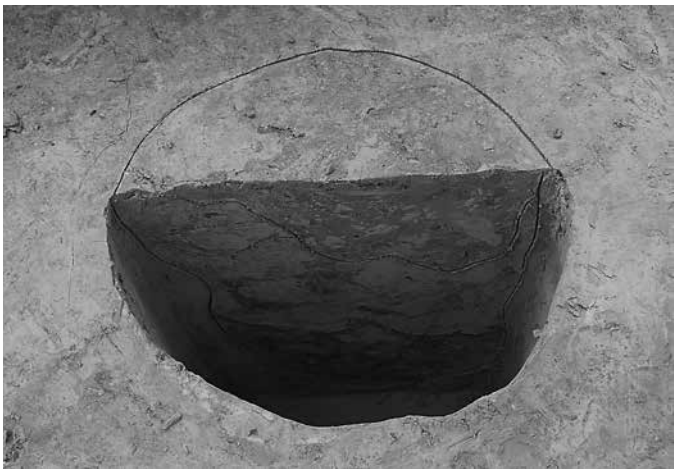
SK209　断面（北から）



SK209　完掘（北から）

SK227　断面（北から）

SK227　完掘（東から）

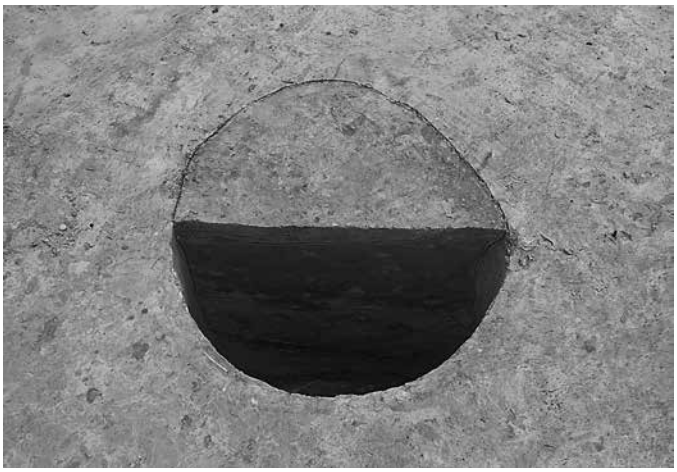


P500　断面（南東から）

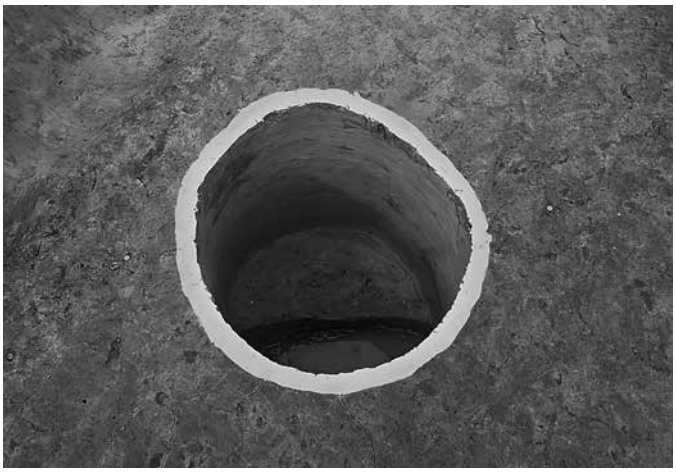
P500　完掘（南東から）

03SE72　断面（東から）

03SE72　完掘（東から）

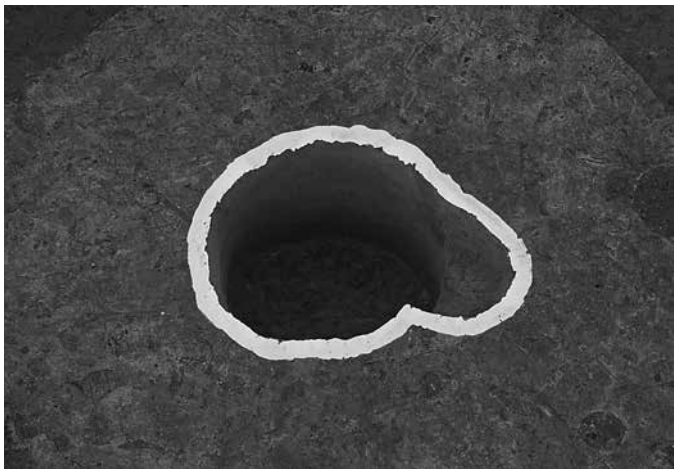


03SE82　断面（西から）



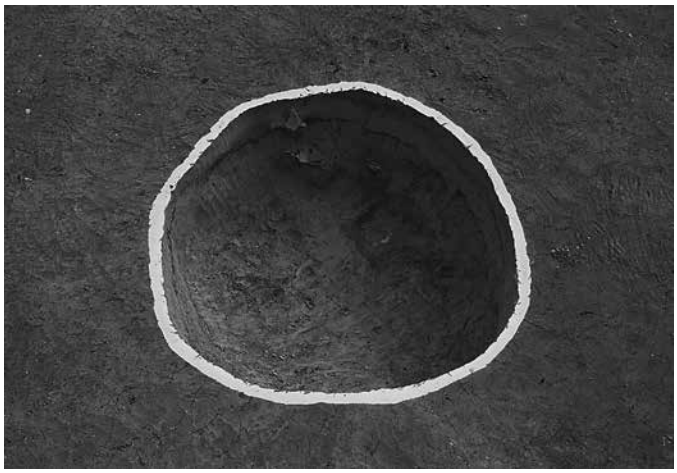
03SE82　完掘（西から）

03SE94　断面（南東から）



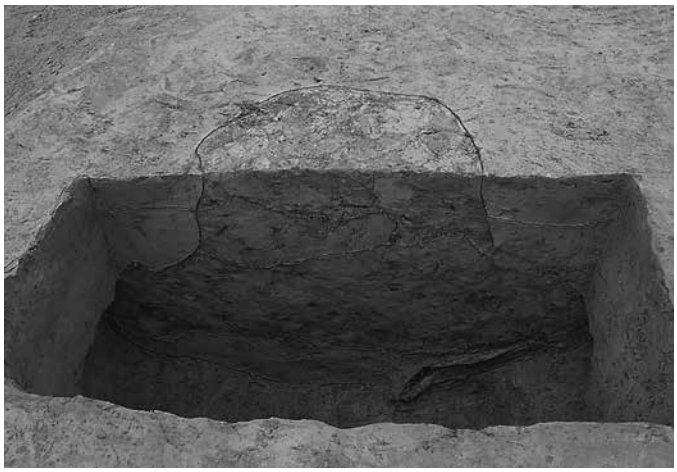
03SE94　完掘（北西から）

03SE113　断面（東から）

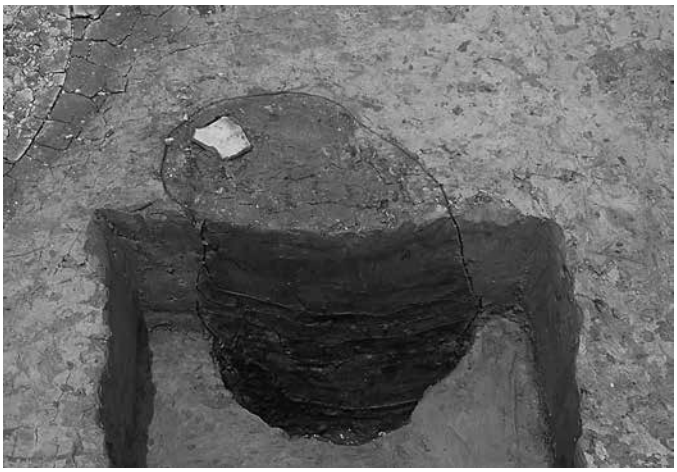


03SE113　完掘（東から）

03SE113　出土状況（東から）



03SE110　断面（東から）



03SE1117　断面（南から）

03SE1117　完掘（南から）

03SE1176・03P1177　断面（北から）

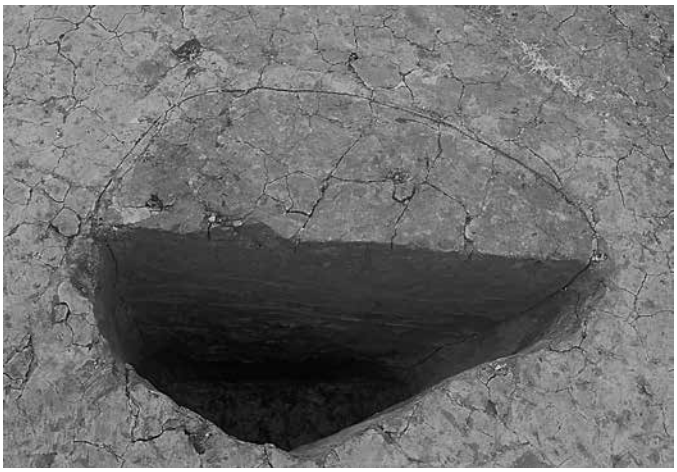
03SE1176・03P1177　完掘（南から）

03SE1193　断面（南から）

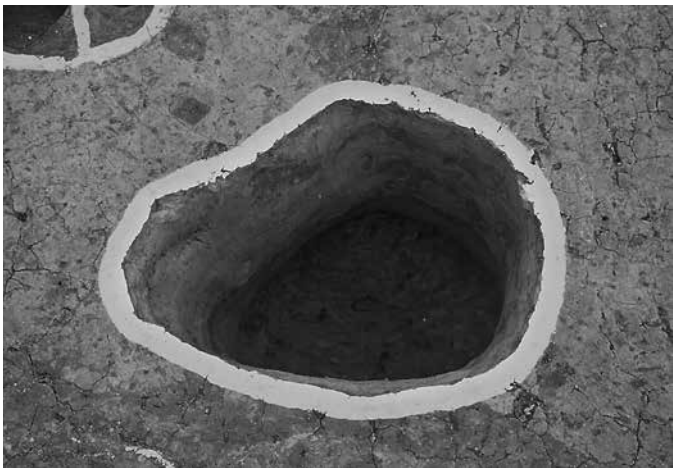
03SE1193　完掘（南から）

03SE1227　断面（東から）

03SE1227　完掘（南から）



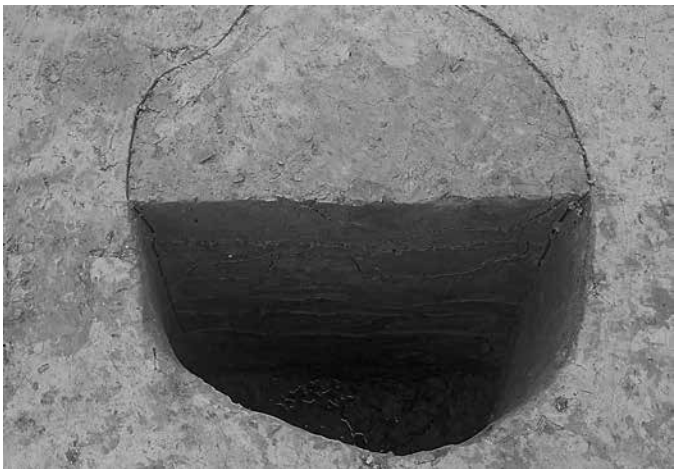
03SE1245　断面（南から）



03SE1245　完掘（北から）

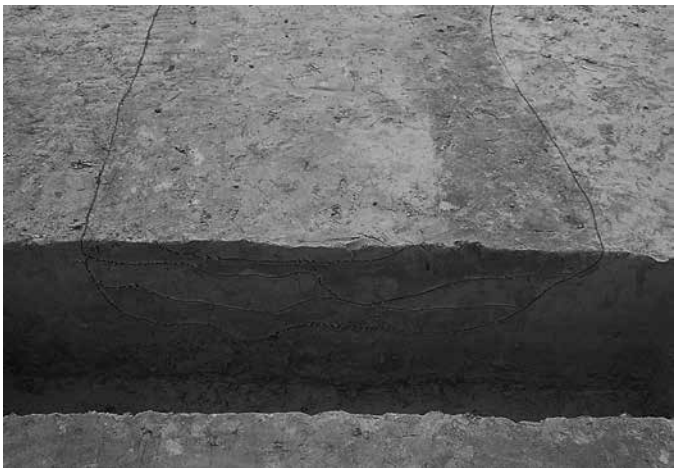
03SE1263　断面（北から）

03SE1263　完掘（北から）



03SE1272　断面（南から）

03SE1272　完掘（南から）



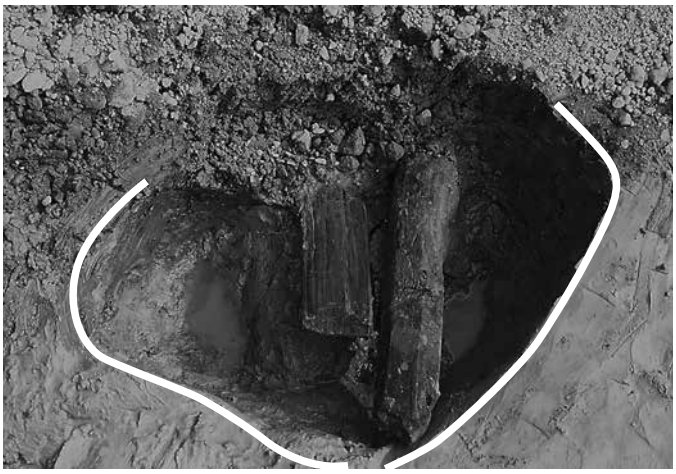
03SD1278　断面A-A'（南東から）

03SD1278　断面B-B'（南東から）

03SD1285　断面（南東から）

03SD1285　完掘（南から）

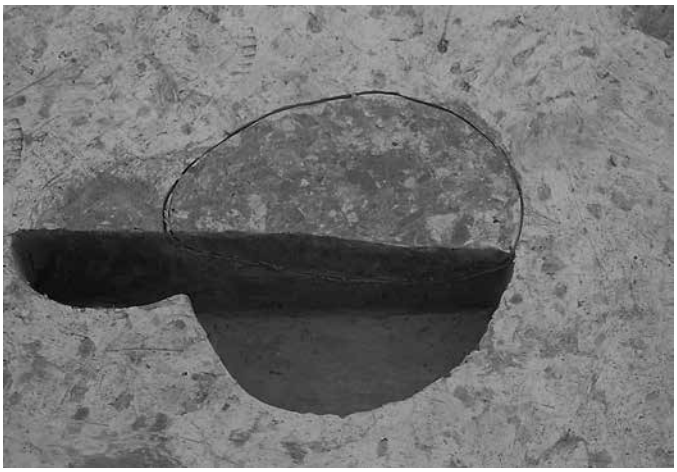
03SK150　断面（西から）



03SK150　完掘（北から）

03SK1204　断面（東から）

03SK1204　完掘（東から）

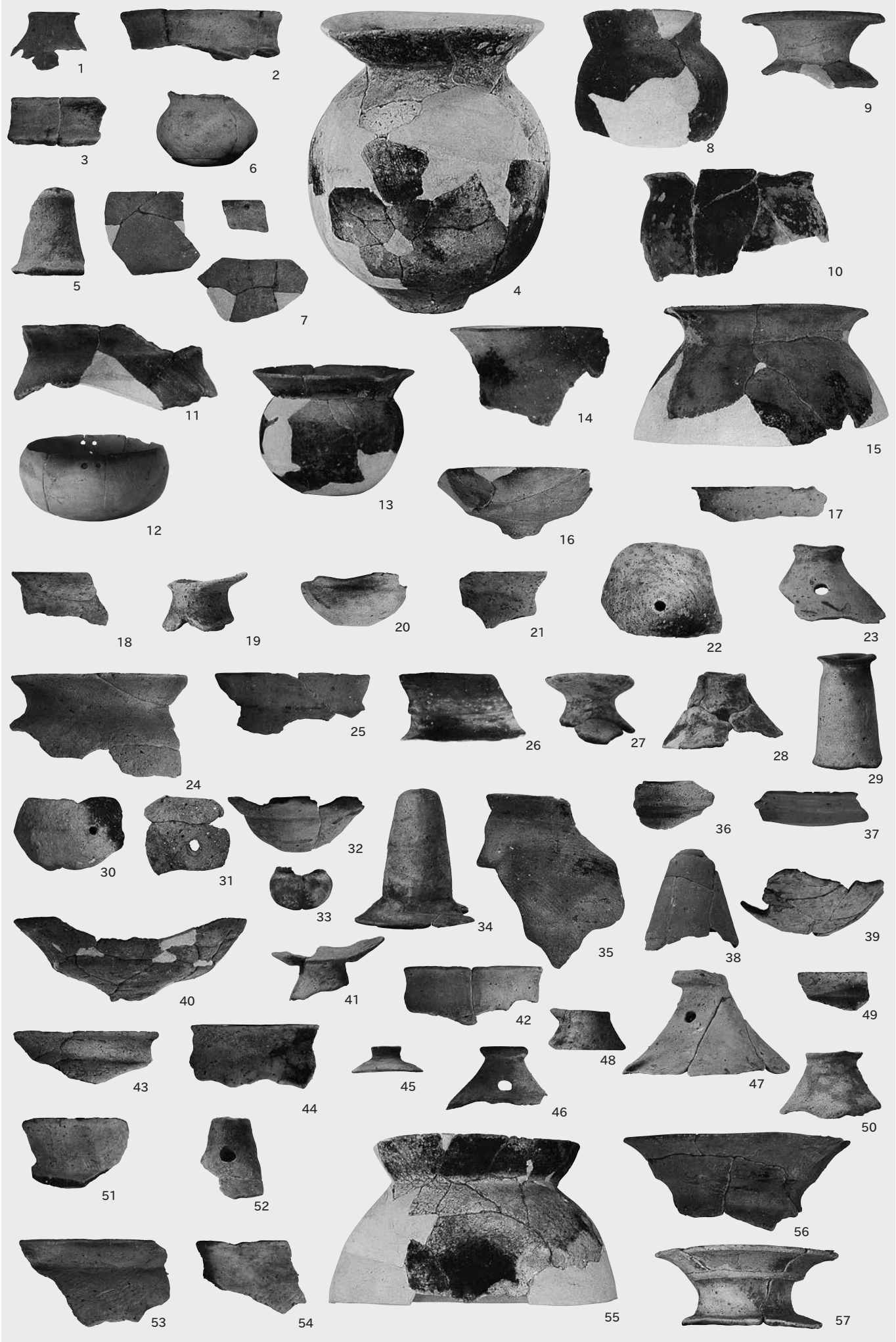


03P1018　断面（南東から）

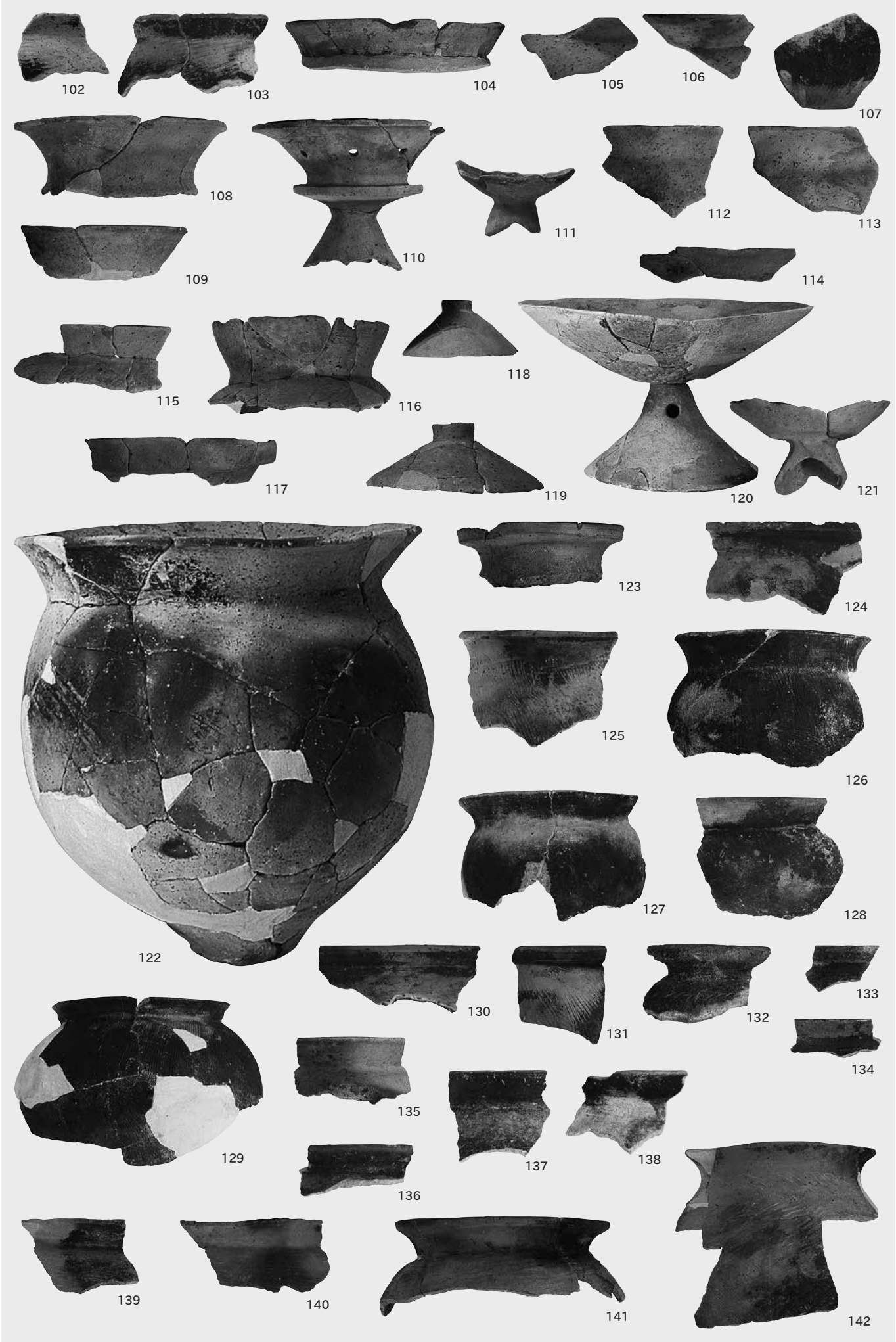
03P1018　完掘（南東から）

A地区　作業風景

B地区　作業風景


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57

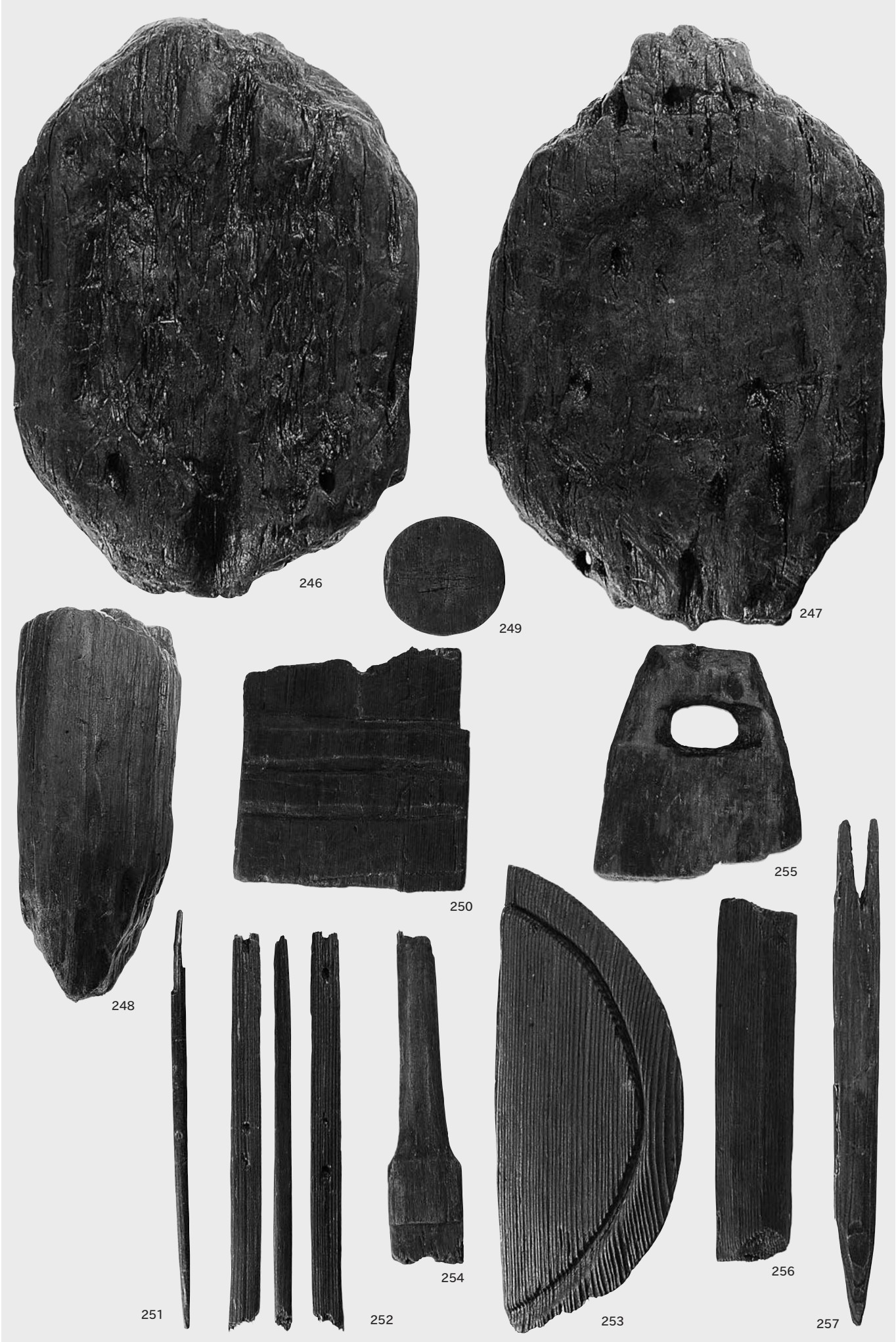
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101

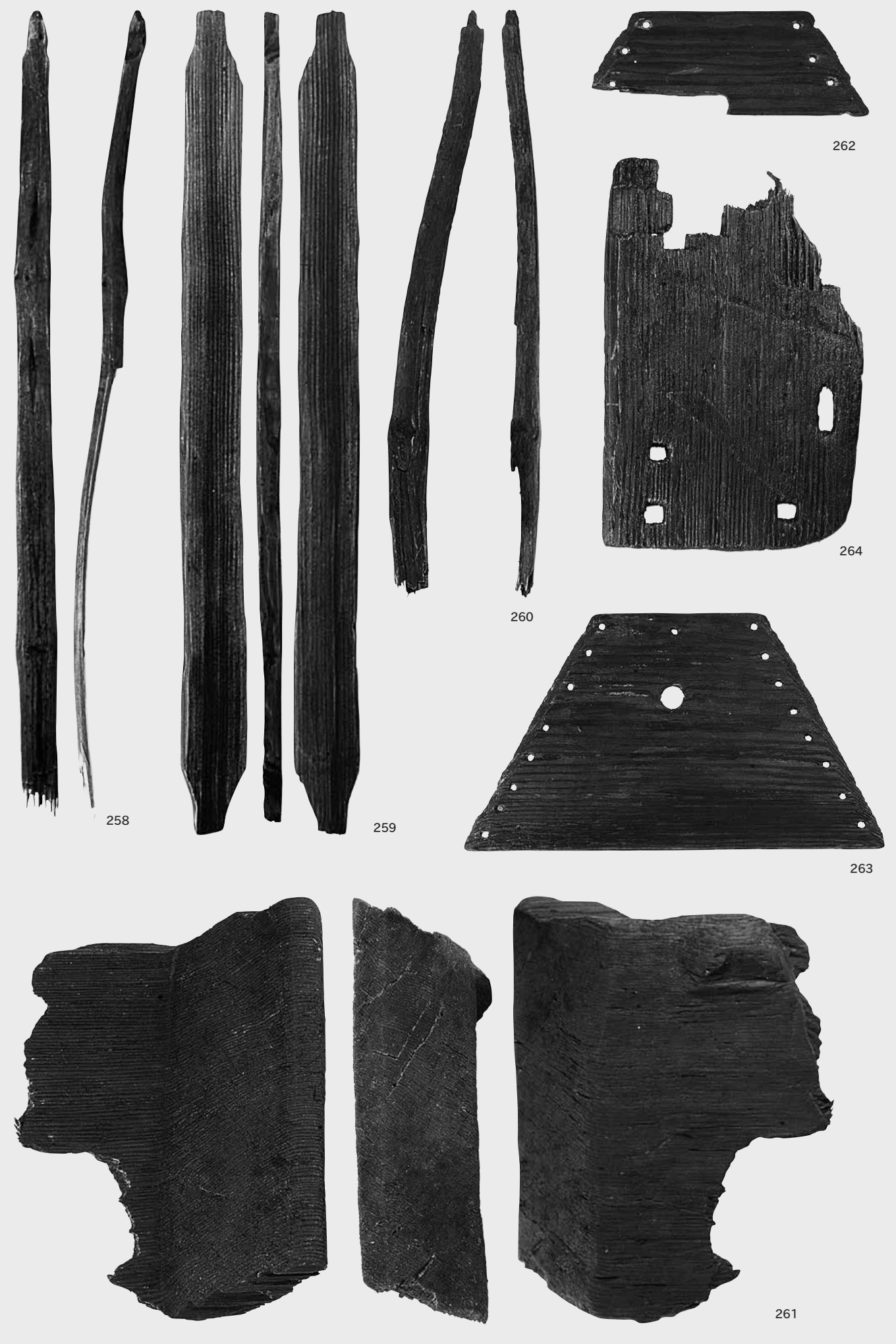

102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142

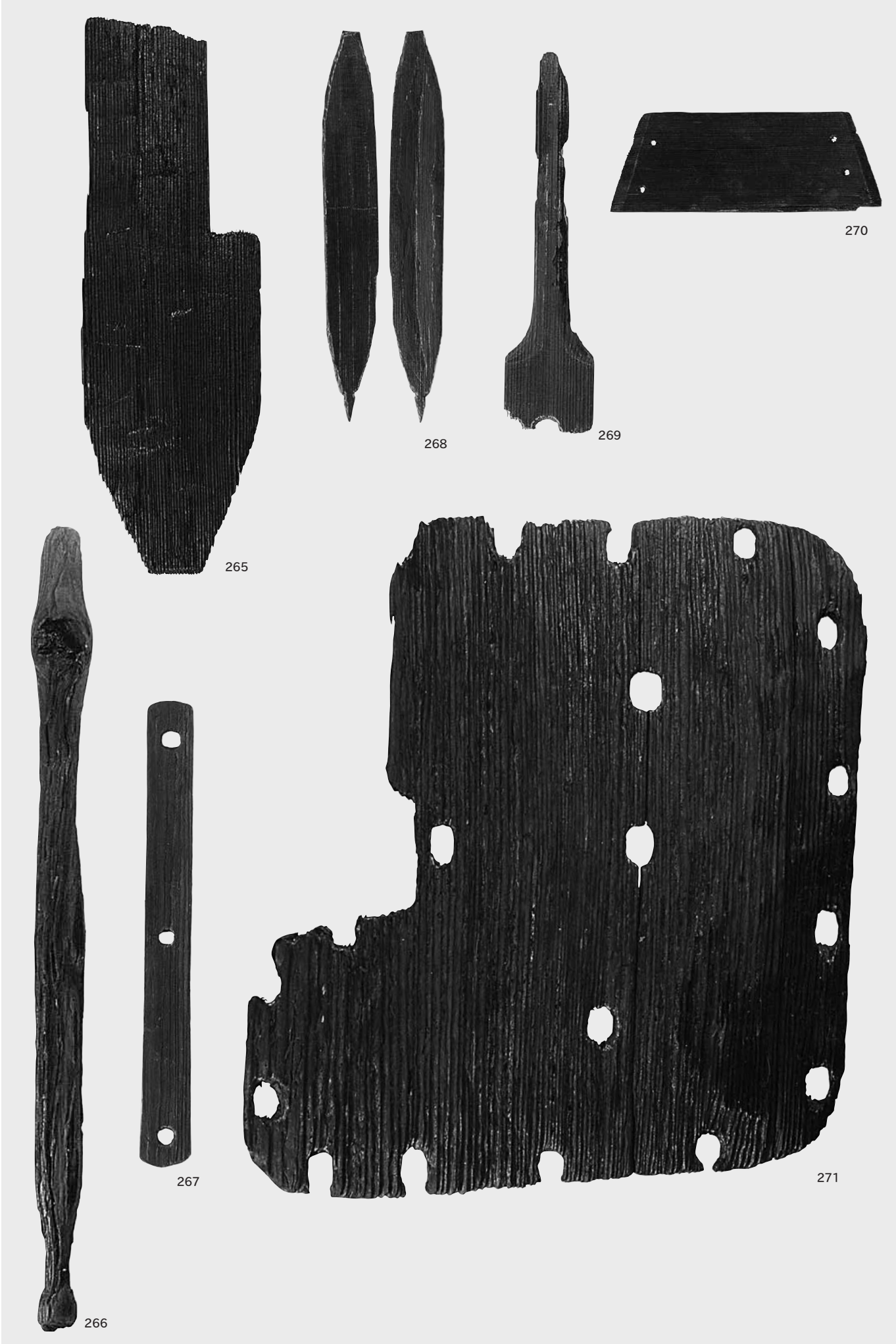
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167

168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209

210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245

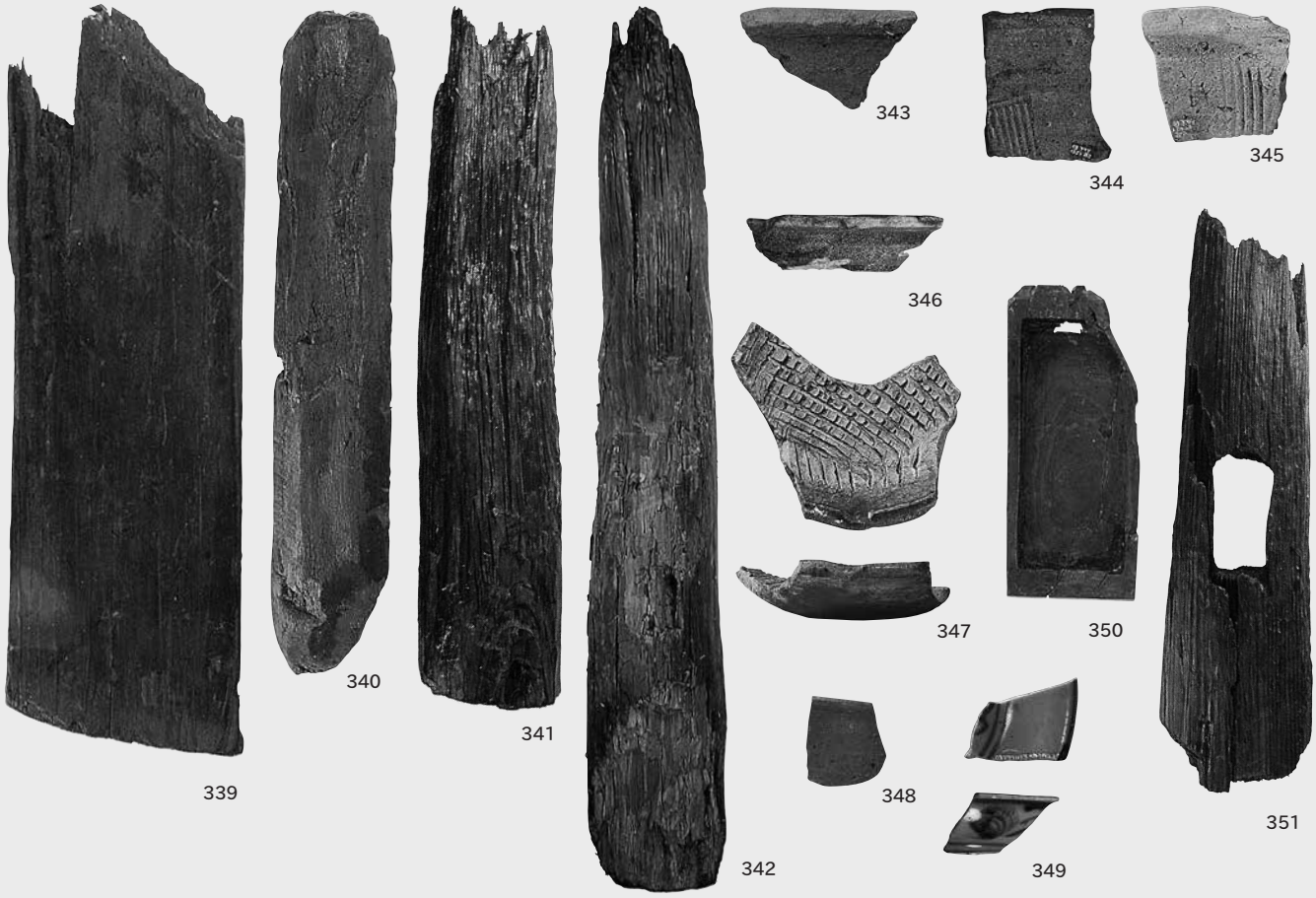

246
247
249
248
250
255
251
252
254
253
256
257

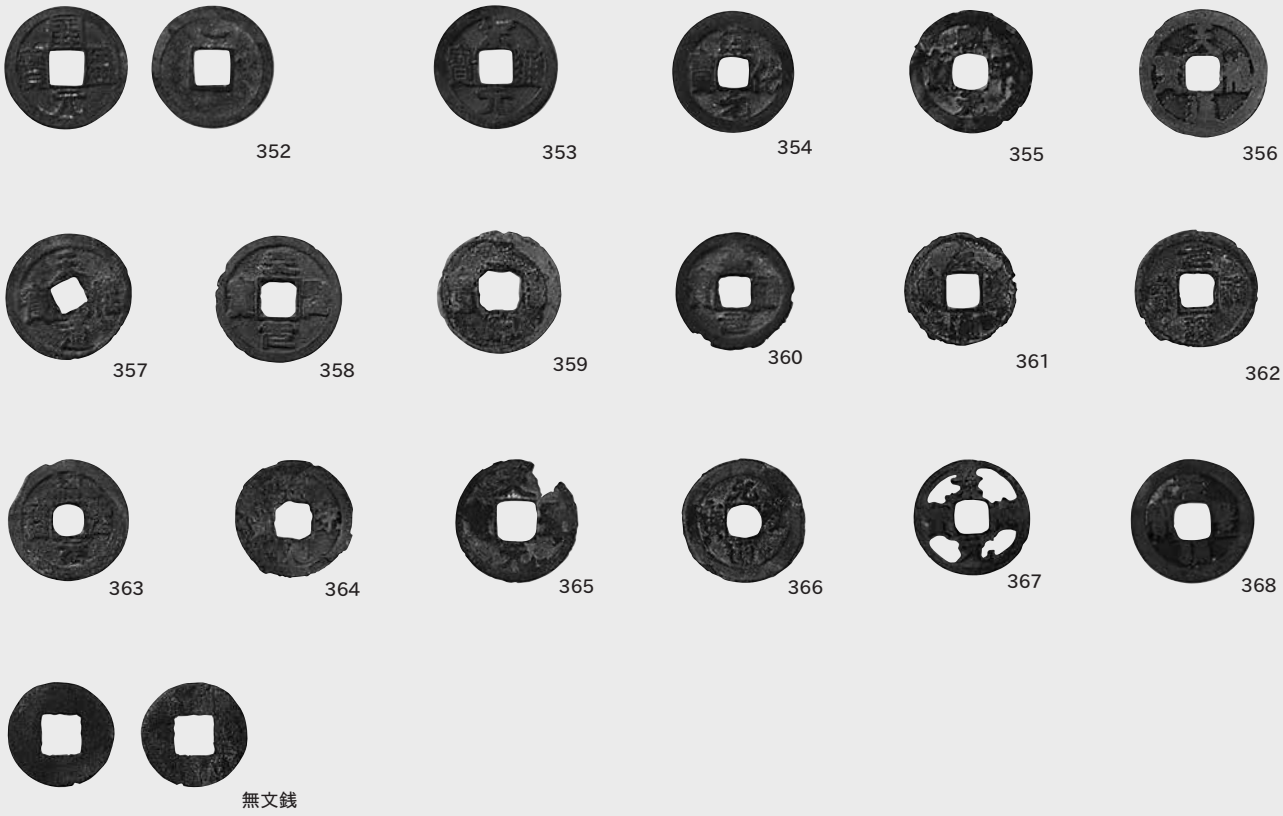

258
259
260
261
262
263
264


265
268
269
270
266
267
271

272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317

318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338


339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351


352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
無文銭

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しもわりいせき　に
書　　名	下割遺跡Ⅱ
副　書　名	一般国道253号　上越三和道路関係発掘調査報告書
巻　　次	Ⅱ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第134集
編 著 者 名	山崎忠良　金子正宏　椿　一之　継　　実
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所　在　地	〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発行年月日	西暦2004（平成16）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下割遺跡（しもわりいせき）	新潟県上越市大字米岡字下割（にいがたけんじょうえつしおおあざよねおかあざしもわり） 1,205ほか	15222	266	37度 8分 1秒	138度 18分 57秒	20030407 ～20031121	14,600m²	道路（上越三和道路）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下割遺跡	集落	古墳時代	掘立柱建物（2棟） 井戸（1基） 溝（16条） 土坑（41基） 旧河川（1条）	土器（土師器） 木製品（礎板、柱根） 石製品（管玉、勾玉未成品）	自然堤防上に、礎板をもつ掘立柱建物と総柱の掘立柱建物を検出
	散布地	古代（奈良・平安時代）	土坑（1基） ピット（5基）	土器（須恵器、灰釉陶器）	
	集落	中世（鎌倉・室町時代）	掘立柱建物（9棟） 井戸（16基） 溝（15条） 土坑（8基） ピット（298基）	土器・陶磁器（土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸美濃、青磁、中国染付） 木製品（漆器、曲物、箸） 石製品（硯） 金属製品（銭貨）	溝に区画された屋敷地が集まり集落を形成

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第134集

一般国道253号　上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ

下割遺跡Ⅱ

平成16年3月30日印刷
平成16年3月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新津市大字金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 第一印刷所
〒950-8724　新潟県新潟市和合町2丁目4番18
電話　025（285）7161